

元総社蒼海遺跡群(26)

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う

埋蔵文化財発掘調査報告書

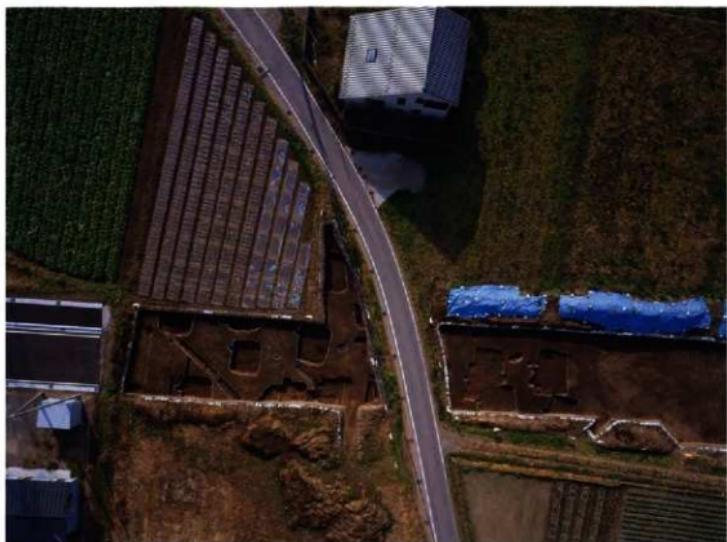


1区 H-2号住居跡出土墨書き土器

前橋市埋蔵文化財発掘調査団



2～4区 調査区遠景 南から国分尼寺方向を見る



2区 調査区全景（北から）



3区 中央部全景（北から）



3区 西側全景（南から）



6区 W-2号溝跡全景（北から）



1区 H-2号住居跡出土墨書土器「大館」



1区 H-2号住居跡出土墨書土器「少」

はじめに

前橋市は、関東平野の北西部に位置し、名山赤城山を背に利根川や広瀬川が市街地を貫流する、四季折々の風情に溢れる県都です。市域は豊かな自然環境に恵まれ、2万年前から人々が生活を始めました。そのため市内のいたる所に人々の息吹を感じられる歴史遺産が存在します。

古代において前橋台地には、広大に分布する穀倉地帯を控え、前橋天神山古墳などの初期古墳をはじめ玉山古墳・天川二子山古墳といった首長墓が連続と築かれ、上野毛の国の中心地として栄えました。また、続く律令時代になってからは總社・元總社地区に山王廃寺、国分僧寺、國分尼寺、國府など上野国の中枢をなす施設が次々に造されました。

中世になると、戦国武将の長尾氏、上杉氏、武田氏、北条氏が領をけずった地として知られ、近世においては、譜代大名の酒井氏、松平氏が居城した関東三名城の一つに数えられる鶴橋城が築かれました。

やがて近代になると、生糸の一大生産地であり、横浜港から前橋シルクの名前で遠く海外に輸出され、日本の発展の一翼を担いました。

今回、報告書を上梓する元總社蒼海遺跡群(26)は古代上野国の中枢地域の調査であります。上野国府推定区域に隣接することから、調査成果に多くの注目を集めております。今回の調査では、国府そのものに関連する遺構の検出はかないませんでしたが、古墳時代から平安時代にいたる多くの竪穴式住居跡を検出しました。今は一本の糸に過ぎない調査成果も織り上げて行けば、国府や国府のまちの姿を再現できるものと考えております。残念ながら、現状のままでの保存が無理なため、記録保存という形になりましたが、今後、地域の歴史・前橋の歴史を解明する上で、貴重な資料を得ることができました。

最後になりましたが、この調査事業を円滑に進められたのは、関係機関や各方面のご配慮の結果といえます。また、寒風の中、直接調査に携わってくださった担当者・作業員のみなさんに厚くお礼申しあげます。

本報告書が斯学の発展に少しでも寄与できれば幸いに存じます。

平成22年3月

前橋市埋蔵文化財発掘調査団
団長 戸塚 良明

例 言

1. 本報告書は、前橋市計画事業元社跡地地区整理事業に伴う元社跡地遺跡群(26)発掘調査報告書である。

2. 調査主体は、前橋市埋蔵文化財発掘調査団である。

3. 発掘調査の要項は次のとおりである。

調査場所 群馬県前橋市元社町1802番地1 ほか

発掘調査期間 平成21年5月18日～平成21年12月25日

整理・報告書作成期間 平成21年12月22日～平成22年3月13日

発掘・整理担当者 山下敬信・阿久澤真一・並木勝洋・福田貴之・清水亮介(発掘調査係員)

4. 本書の原稿執筆・編集は山下・阿久澤・並木・福田・清水が行った。

5. 発掘調査・整理作業にかかわった方々は次のとおりである。

阿部シゲ子・石倉稔夫・岩木操・大木伸二・小畠憲治・神山早苗・佐藤修・佐藤佳子・品川祐二・杉浦富雄・須田博治・須藤豊・関根の子・高澤京子・高野繁・瀧上政信・多田啓子・千葉伍郎・角田鶴子・角田昌幸・渡木秋子・中澤光江・中林美智子・奈良啓子・庭山皓正・橋本ちづる・平林しのぶ・星野和子・堀込よ江・町田妙子・町田敏彦・真庭武志・峰岸あや子・赤郡啓吾・矢島忠・湯浅たま江・湯浅道子

6. 発掘調査で出土した遺物は、当発掘調査団より前橋市教育委員会に保管を依頼し、前橋市教育委員会文化財保護課で保管されている。

凡 例

1. 挿図中に使用した北は、座標北である。

2. 挿図に国土交通省国土地理院発行の1:200,000地形図(宇都宮、長野)、1:25,000地形図(前橋)、1:6000前橋市現形図を使用した。

3. 遺跡の略称は、21A130-26である。

4. 造構及び造構施設の略称は、次のとおりである。

H…古墳・奈良・平安時代の堅穴住居跡 T…堅穴状造構 W…溝跡 A…道路状造構 D…土坑
D B…土壙墓 P…ピット・貯藏穴(住居内P 5 を貯藏穴とした) X…性格不明造構 O…風倒木跡

5. 造構・遺物の実測図の縮尺は、原則的に次のとおりである。その他、各図スケールを参照されたい。

造構 全体図…1/200・住居跡・堅穴状造構・溝跡・土坑・ピット…1/60 竜・炉断面図…1/30

遺物 土器・鉄製品…1/3, 1/4 石器・石製品・土製品…2/3, 1/3 鉄器・鉄製品…1/2 瓦…1/6

6. 計測値については、()は現存値、〔 〕は復元値を表す。

7. セクション注記の記号は、縦まり・粘性あり、○縦まり・粘性あり、△縦まり・粘性ややあり、×縦まり・粘性なし

なお、セクション注記と遺物觀察表の色調について新版標準土色帳(小山・竹原1967)を基準とした。

8. 造構平面図の——は推定線を表す。

9. スクリーントーンの使用は、次のとおりである。

造構平面図 燃・土… ■ 粘土… ■

造構断面図 構築面… ■

遺物実測図 須恵器断面… ■ 灰釉陶器断面… ■ 灰釉陶器表面… ■

綠釉陶器断面… ■ 内墨… ■ 粘土、たたき… ■

いぶし焼成… ■ 煤、炭化物付着… ■ 石: 煤、被然痕… ■

10. 主な火山降下物等の略称と年代は次のとおりである。

As-B (浅間B輕石:供給火山・浅間山、1108年)

Hr-PP (榛名ニッ岳伊香保テフラ:供給火山・榛名山、6世紀中葉)

Hr-FA (榛名ニッ岳荒川テフラ:供給火山・榛名山、6世紀初頭)

As-C (浅間C輕石:供給火山・浅間山、4世紀前半~中葉)

目 次

序.....	i
I 調査に至る経緯.....	1
II 遺跡の位置と環境	
1 遺跡の立地.....	1
2 歴史的環境.....	1
III 調査の方針と経過	
1 調査方針.....	7
2 調査経過.....	7
IV 基本層序.....	18
V 遺構と遺物.....	19
VI まとめ.....	59

図 版

- 口絵1 2~4区 調査区遺景
 2 2区 調査区全景
 3 3区 中央部全景
 4 3区 西側全景
 5 6区 W-2号溝跡全景
 6 1区 H-2号住居跡出土墨書土器「大蛇」
 7 1区 H-2号住居跡出土墨書土器「少」

- PL. 1 1区全般、H-1~3号住居跡
 2 1区H-4~6号住居跡
 3 1区H-8~12号住居跡
 4 2区H-1~4号住居跡
 5 2区H-5~6号住居跡、T-1号竪穴状遺構、3区H-1~2号住居跡
 6 3区H-3~5~7号住居跡
 7 3区H-8~11号住居跡
 8 3区H-12~15号住居跡、DB-2号土坑墓
 9 3区T-3号竪穴状遺構、W-1~2号溝跡、
 調査区中央部全景
 10 3区W-5号溝跡、I-1号井戸跡全景、O-
 1号落ち込み、調査区西側全景
 11 3区H-16~17号住居跡
 12 3区H-18~24号住居跡、T-4~5号竪穴状
 遺構、D-4~5号土坑
 13 3区D-6~8号土坑、DB-3号土坑墓、4
 区調査区全景
 14 4区H-1~3号住居跡、D-1~6号土坑、
 5区H-1号住居跡
 15 5区調査区全景、H-2~5号住居跡、W-5
 号溝跡、D-1号土坑
 16 6区調査区全景、H-1~4号住居跡、T-1~
 2号竪穴状遺構
 17 6区地下式土坑、W-1~3号溝跡
 18 7区調査区全景、H-1~2~6~8号住居跡
 19 7区H-3~7~9~11号住居跡
 20 7区H-12号住居跡、W-1号溝跡、D-1号
 土坑、I-1号井戸跡
 21 8区調査区全景、H-2~3号住居跡
 22 8区H-4~7~10号住居跡、P-1号ビット、
 O-1号落ち込み
 23 9区調査区全景、H-1~3号住居跡、W-1
 号溝跡、A-1号道路状遺構
 24 10A・B区調査区全景、10B区H-1~2号住居跡
 25 10B区H-2~6~8~10号住居跡
 26 10B区H-7~9号住居跡、DB-1号土坑墓、
 11区H-1~2号住居跡
 27 11区調査区全景、H-2~4号住居跡
 28 11区H-4~7号住居跡、D-1~2号土坑、
 I-1号井戸跡
 29 13区調査区全景、H-1号住居跡、著海城の土
 壁として考えられていた盛り土

- 30 1区出土遺物
 31 1区出土遺物
 32 2区出土遺物
 33 2~3区出土遺物
 34 3区出土遺物
 35 3区出土遺物
 36 3区出土遺物
 37 4~5区出土遺物
 38 6~7区出土遺物
 39 7~8区出土遺物
 40 8~9~10区出土遺物
 41 10区出土遺物
 42 10~11区出土遺物
 43 瓦(1)
 44 瓦(2)
 45 瓦(3)
 46 瓦(4)
 47 瓦(5)
 48 瓦(6)
 49 瓦(7)
 50 陶文土器、石製品(1)
 51 石製品(2)、土製品、鉄製品

挿 図

- Fig. 1 元総社著海遺跡群位置図
 2 周辺遺跡図
 3 元総社著海遺跡群位置図とグリッド設定図
 4 元総社著海遺跡群(26)調査区位置図
 5 元総社著海遺跡群(26)1~2~3区東側全体図
 6 元総社著海遺跡群(26)3区西側~4区全体図
 7 元総社著海遺跡群(26)5~6区全体図
 8 元総社著海遺跡群(26)7~8区全体図
 9 元総社著海遺跡群(26)9区全体図
 10 元総社著海遺跡群(26)10~11区全体図
 11 元総社著海遺跡群(26)12~13区全体図
 12 基本順序
 13 1区H-1~3号住居跡
 14 1区H-4~5号住居跡
 15 1区H-6号住居跡
 16 1区H-7~8~12号住居跡
 17 1区H-9~10号住居跡
 18 1区H-11~13号住居跡
 19 1区W-1号溝跡、D-1号土坑、P-1号ビット、2区H-1号住居跡
 20 2区H-2~3号住居跡
 21 2区H-4~5号住居跡、D-6号土坑
 22 2区H-6~8号住居跡
 23 2区H-9号住居跡、T-1号竪穴状遺構、D-2~5号土坑
 24 2区W-1~2号溝跡、P-1~2号ビット、
 3区I-1号井戸跡
 25 3区H-1~2~15号住居跡

- 26 3区H-3・5・6号住居跡
 27 3区H-7・8・11号住居跡
 28 3区H-9・10号住居跡
 29 3区H-12・14号住居跡
 30 3区H-13・16号住居跡
 31 3区H-17・19・23号住居跡
 32 3区H-18・20・23号住居跡
 33 3区T-1～5号堅穴状遺構、D-7号土坑
 34 3区W-1～3号溝跡
 35 3区W-3～5号溝跡、D-1～3号土坑
 36 3区D-4～8号土坑、P-1～10号ピット、
 DB-1号土坑墓
 37 3区O-1号落ち込み
 38 4区H-1・2号住居跡、D-2・3号土坑
 39 4区H-3号住居跡、D-1・4～7号土坑
 40 5区H-1号住居跡
 41 5区H-2・4・5号住居跡、W-3号溝跡
 42 5区H-3号住居跡、D-1号土坑、W-2・
 4号溝跡
 43 6区H-1・4号住居跡
 44 6区T-1・2号堅穴状遺構
 45 6区W-2号溝跡、地下式土坑
 46 7区H-1号住居跡
 47 7区H-2・4・6・8号住居跡
 48 7区H-5・10・12～14・16号住居跡、D-3・
 4号土坑、P-1・3～5号ピット
 49 7区H-3・7・9・11・15号住居跡、D-4・
 5号土坑
 50 7区W-1号溝跡、JD-1・2号土坑、D-
 1～7号土坑
 51 7区P-1～15号ピット、8区H-2号住居跡、
 P-5・6号ピット
 52 8区H-3・4号住居跡、D-1号土坑、O-
 1号落ち込み、P-1～3号ピット
 53 8区H-5・6・10号住居跡、D-2号土坑
 54 8区H-7号住居跡、T-1号堅穴状遺構
 55 9区H-1・2号住居跡
 56 9区H-3号住居跡、D-1・2号土坑
 57 10B区H-1・4・6号住居跡
 58 10B区H-2・7号住居跡、DB-1号土坑墓
 59 10B区H-3・5・8・10号住居跡
 60 10B区P-1・2号ピット、11区H-1・2・7
 号住居跡
 61 11区H-3～5号住居跡、D-1・2号土坑、
 I-1号井戸跡
 62 13区H-1号住居跡
 63 舟海城の土器として考えられていた盛り土
 64 1区H-2・4号住居跡出土遺物
 65 1区H-6～8号住居跡出土遺物
 66 1区H-9～11号住居跡出土遺物
 67 2区H-2・4号住居跡出土遺物
 68 2区H-4～9号住居跡出土遺物
 69 2区D-2号土坑、表探、グリッド、3区H-
 1～3号住居跡出土遺物
 70 3区H-2・3号住居跡出土遺物
 71 3区H-3・5・7～10号出土遺物
 72 3区H-11～14・16号住居跡出土遺物
 73 3区H-15・17・20・23号住居跡、T-1～3
 号、堅穴状遺構出土遺物
 74 3区T-4号堅穴状遺構、W-3・4号溝跡、
 D-1・3号土坑、T-1号井戸跡出土遺物
 75 3区O-1号落ち込み出土遺物
 76 3区O-1号落ち込み、4区H-1号住居跡出
 土遺物
 77 4区H-1・2号住居跡、グリッド、5区H-
 1・5区、W-3号溝跡出土遺物
 78 5区D-1号土坑、6区P-1号ピット、地下
 式土坑出土遺物
 79 7区H-1～5・7区出土遺物
 80 7区H-6～11区出土遺物
 81 7区H-12区、P-4号ピット出土遺物
 82 8区H-2・4・5・7区、T-1号堅穴状遺構、
 P-6号ピット、グリッド出土遺物
 83 9区H-1号住居跡、W-1号溝跡、10B区H
 -2・3号住居跡出土遺物
 84 10B区H-2・4・5・7・8区出土遺物
 85 10B区H-5・6・8・10区、DB-1号土坑墓、
 11区H-2～4・7区出土遺物
 86 11区H-4・5・7・11・12区、グリッド出土遺物
 87 繩文土器
 88 石製品(1)
 89 石製品(2)
 90 銀製品(1)
 91 銀製品(2)・土製品・弥生土器・錢
 92 瓦(1)
 93 瓦(2)
 94 瓦(3)
 95 瓦(4)
 96 瓦(5)
 97 瓦(6)
 98 瓦(7)

表

- Tab. 1 元総社舟海遺跡群周辺遺跡概要一覧表
- 2 住居跡等一覧表
 - 3 溝跡・道路跡計測表
 - 4 土坑・ピット・井戸跡・落ち込み計測表
 - 5 繩文土器觀察表
 - 6 古墳・奈良。平安時代出土土器觀察表
 - 7 石器・石製品觀察表
 - 8 鉄器・鉄製品觀察表
 - 9 上製品觀察表
 - 10 銅錢觀察表
 - 11 瓦觀察表

I 調査に至る経緯

本発掘調査は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴い実施され、10年目にあたる。本調査地は、周辺で埋蔵文化財調査が長年に渡って行われていることから、遺跡地であることが確認されている。

平成21年4月16日付けで、前橋市長 高木政夫より前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の依頼が前橋市教育委員会に提出された。前橋市教育委員会ではこれを受けて、内部組織である前橋市埋蔵文化財発掘調査団 団長 戸塚良明に対し、調査実施について協議を行い、調査団はこれを受諾した。平成21年5月8日、調査依頼者である前橋市長 高木政夫と前橋市埋蔵文化財発掘調査団 团長 戸塚良明との間で、本発掘調査の委託契約を締結し、5月18日に現地での発掘調査を開始するに至った。

なお、遺跡名称「元総社蒼海遺跡群(26)」(遺跡コード:21A130-26)の「元総社蒼海遺跡群」は区画整理事業名を採用し、数字の「(26)」は過年度に発掘調査を実施した遺跡と区別するために付したものである。

II 遺跡の位置と環境

1 遺跡の立地

前橋市は、利根川が赤城・榛名の両火山の裾を経て関東平野を望むところに位置し、地形・地質の特徴から、北東部の赤城火山斜面、南西部の前橋台地利根川右岸、南部から南西部にかけての前橋台地の利根川左岸、東部の広瀬川低地帯という4つの地域に分けられる。

本遺跡の立地する前橋台地は、約24,000年前の浅間山噴火によって引き起こされた火山泥流堆積物とそれを被覆するローム層(水成)から成り立っている。台地の東部は、広瀬川低地帯と直線的な崖で区切られていて、台地の中央には現利根川が貫流している。現在の利根川の流路は中世以降のもので、旧利根川は現在の広瀬川流域と推定される。台地の西部には榛名山麓の相馬ヶ原扇状地が広がり、榛名山を源とする中小河川が利根川に向かって流下し、台地面を刻んで細長い微高地を作り上げている。総社・元総社付近の染谷川や牛池川は、微高地との比高3m~5mを測り、段丘崖上は高燥な台地で、桑畑を主とした畠地として利用されてきた。

本遺跡は、前橋市街地から利根川を隔て、西へ約3kmの地点、前橋市元総社町地内に所在している。南東へ約1kmの所に上野国總社神社があり、すぐ西には関越自動車道が南北に走っている。さらに、遺跡地の南側には国道17号線、主要地方道前橋・群馬・高崎線が東西に走り、東側には市道大友・石倉線が南北に走り、これらの幹線道路を中心にオフィスビルや大規模小売店が進出している。本遺跡はこれらの幹線道路から奥に入ったところに位置し、周囲には田畠が多い住宅地という静かで落ち着いた環境である。

2 歴史的環境

本遺跡地周辺には、古墳時代後期から終末までの上野地域と中央政権との関連をうかがわせる総社古墳群と山王廟守、古代の中心地であった上野国府、さらに、中世には長尾氏により国府の掘削を利用して盛られたとされる蒼海城があり、歴史的環境に優れている。周辺の埋蔵文化財発掘調査によって、これまで連続と続いてきた歴史を物語る多くの新しい知見が集積されている。

绳文時代の遺跡としては、前期・中期の集落跡が後出された商業道路東・西遺跡や上野国分僧寺・尼寺中間地

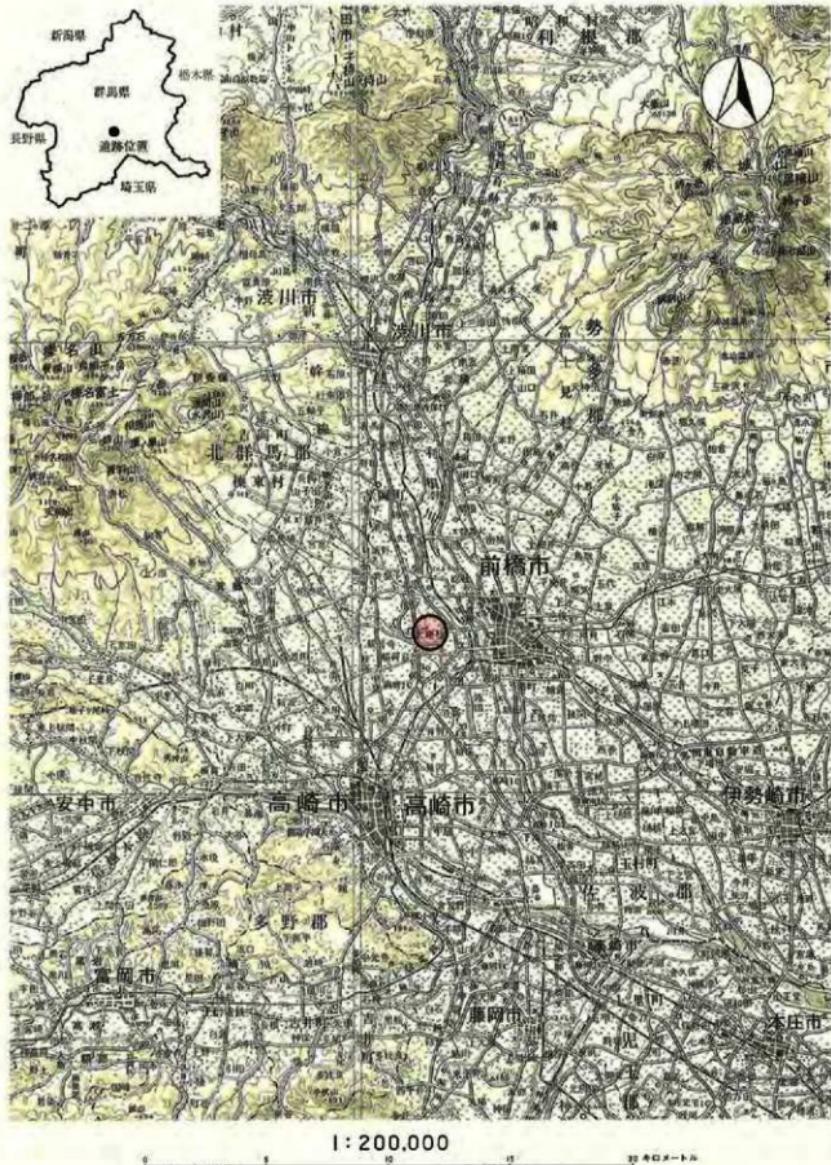


Fig. 1 元総社蓄海選跡群位置図

城が筆頭に挙げられ、純文化を考える上で重要な資料といえる。

弥生時代の調査例は少ない。当時の畠作の様子を示す水田・集落跡等が検出された日高遺跡、後期住居跡が検出された上野国分僧寺・尼寺中間地域や桜ヶ丘遺跡、下東西遺跡等に散見するだけである。

古墳時代の遺跡としては、まず本遺跡の北東に広がる總社古墳群が挙げられる。總社古墳群を代表するものは、前方後円墳である遠見山古墳、川原石を用いた積石塚である王山古墳、前方部と後円部にそれぞれ横穴式両袖型の石室が築造された前方後円墳の總社二子山古墳、両袖型横穴式石室をもつ方墳の愛宕山古墳、県内古墳最終末期と考えられ仏教文化の影響を強く受けた方墳の宝塔山古墳があり、この地域と中央との関係を考えるうえで重要な意味をもつ古墳群といえる。また、宝塔山古墳の南西500mには白鳳期の建立と考えられる山王庵寺跡(放光寺)がある。さらにこの寺の塔心礎や石製脇尾、根巻石等の石造物群は、宝塔山古墳の石棺や蛇穴山古墳の石室と同系統の石造技術を駆使して加工されている。これらのことから、この寺は上野地域を治めていた「上毛野氏」の氏寺であり、この古墳群には「上毛野氏」一族が葬られているとも考えられている。これらから、この地が「車評」の中心地として、仏教文化が古墳文化と併存しながら機能していた様子が窺える。なお、平成18年度から5カ年計画で「山王庵寺跡周辺内容確認調査」が実施され、平成18年度では「講堂」の版築基壇や「回廊」の北東視石、平成19年度では「金堂」の版築基壇や「回廊」の西側視石が、平成20年度では「塔」の基壇とその周辺部が確認された。平成21年度では「推定中門」と「西側南側回廊」の周辺部が確認された。

奈良・平安時代になると、上野国府、国分僧寺、國分尼寺の建設と相まって、本地域は古代の政治的・経済的・文化的な中心地としての様相を呈てくる。律令期における国司の政治活動拠点で地方を統治する機能をもつ国府は、元總社地区に置かれたとされる。

国府に隣接する遺跡には、県下最大級の掘立柱建物跡が検出された元總社小学校校庭遺跡や「國府」「曹司」「國」「邑厨」等と書かれた墨書き器や人形が出土した元總社寺田遺跡などがある。また、国府城の推定を可能にした大規模な東西方向の溝跡が検出された隅田橋遺跡や元總社蒼海遺跡群(7)(9)(10)と南北方向の溝跡が検出された元總社明神遺跡の調査成果により、国府城の東北外郭線が想定されるに至った。さらに、周辺遺跡からは、官人が用いたと考えられる円面鏡、温方(腰帶具)、綠釉陶器も出土し、国府について考えるうえで貴重な資料となっている。

国分僧寺は大正15年に国指定史跡となり、昭和40年代から部分的ながら調査が進められるようになった。本格的な発掘調査は昭和55年12月から始まり、主要伽藍の礎石、築垣、礎等が確認されている。さらに、國分尼寺の調査では、昭和44・45年に推定中軸線上のトレンチ調査が行われ伽藍配置が推定できるようになった。さらに平成12年に前橋市郷土文化財発掘調査班で南辺の寺域確認調査を行い、東南隅と西南隅の築垣、それと平行する溝跡や道路状遺構が確認された。国分僧寺、國分尼寺周辺では、関越自動車道建設に伴う発掘調査が行われ、上野国分僧寺、尼寺中間地域では、当時の大規模な集落跡や掘立柱建物群が検出されている。

また、群馬町(現高崎市)の調査等により、本遺跡から約1.5km南の地点にN-64°E方向の東山道(国府ルート)があることが推定されている。推定日高道は、日高遺跡で検出された幅約4.5mの道路状遺構を国府方面へ延長したものである。これらは、当時の交通網を物語る重要な遺構である。

中世に至り、永享元年(1429)、上野国守代の長尾氏によって古代国府跡に築かれた蒼海城は城郭としての機能を有し県内でも最古級に位置づけられる。しかも、県下最初の城下町を形成したと考えられている。蒼海城の縄張りは国府と関係が深く、現在の本地域の主要道路はこの縄張りに沿って造られていると推測される。

このように歴史的に重要な役割を果たしてきた總社・元總社地区であるが、その中でも上野国府が所在したと推定される元總社地区は注目される地域の一つである。元總社蒼海土地区画整理事業に伴い、平成11年より継続的に本地域の発掘調査が行われている。これにより、手付かず状態であった本地域の全容が明らかになっていくであろう。今後、この調査の進捗によって、上野国府や蒼海城が解明されていくことを期待する。

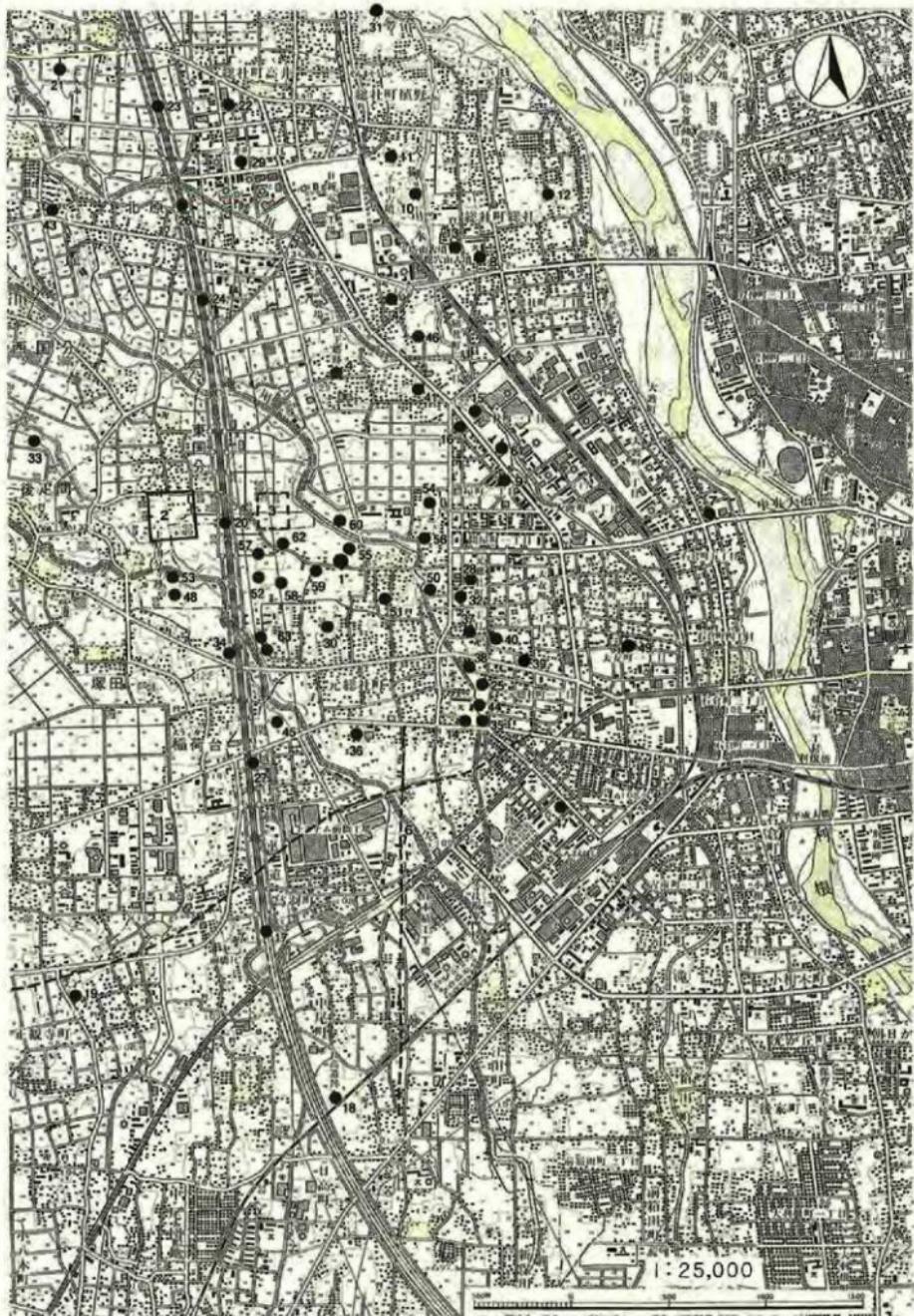


Fig. 2 周辺遺跡図

Tab. 1 元総社看海遺跡群周辺遺跡概要一覧表

番号	遺跡名	調査年度	時代：主な遺構・出土遺物
1	元総社看海遺跡群（26）	2009	本遺跡
2	上野国分寺跡（県教委）	1980～88	奈良：金堂基壇・塔基壇
3	上野国分尼寺跡	(1999)	奈良：西南隅・東南隅基壇
4	山王庵寺跡	(1974)	古墳：塔心礎・模巻石
5	東山道（推定）		
6	日高道（推定）		
7	王山古墳	1972	古墳：前方後円墳（6C中）
8	蛇穴山古墳	1975	古墳：方墳（8C初）
9	櫛荷山古墳	1988	古墳：円墳（6C後半）
10	愛宕山古墳	1996	古墳：円墳（7C初）
11	總社二子山古墳	未調査	古墳：前方後円墳（6C末～7C初）
12	速見山古墳	未調査	古墳：前方後円墳（5C後半）
13	宝塔山古墳	未調査	古墳：方墳（7C末）
14	元総社小学校施設遺跡	1962	平安：掘立柱建物跡・柱穴群・周濠跡
15	産業道路東西遺跡	1966	縄文：住居跡
16	産業道路西遺跡		縄文：住居跡
17	中尾遺跡（事業団）	1976	奈良・平安：住居跡
18	日高遺跡（事業団）	1977	弥生：水田跡・方形周溝墓・住居跡・木製農耕具・平安：条里制水田跡
19	正觀寺遺跡Ⅰ～Ⅳ（高崎市）	1979～81	弥生：住居跡・古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・中世：溝跡
20	上野国分寺・尼寺中間地域 （事業団）	1980～83	縄文：住居跡・配石遺構・弥生：住居跡・方形周溝墓・古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・中世：掘立柱建物跡・溝状遺構・道路状遺構
21	清里南部遺跡群・Ⅲ	1980	縄文：ビット・奈良・平安：住居跡・溝跡
22	中島遺跡	1980	奈良・平安：住居跡
23	下東西遺跡（事業団）	1980～84	縄文：屋外埋糞・弥生：住居跡・古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・横列・中世：住居跡・溝跡
24	園分塙遺跡（事業団）	1990	古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡
25	園分塙Ⅱ遺跡	1991	古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡
	園分塙Ⅲ遺跡（群馬町）	1991	古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・扇形・中世：土塼墓
26	元総社明神遺跡Ⅰ～XⅢ	1982～96	古墳：住居跡・水田跡・掘跡・奈良・平安：住居跡・溝跡・大形人形・中世：住居跡・溝跡・天日茶碗
27	北原遺跡（群馬町）	1982	縄文：土坑・集石構造・古墳：水田跡・奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡
28	鳥羽遺跡（事業団）	1978～83	古墳：住居跡・鍛冶場跡・奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡（神殿跡）
29	開泉宿遺跡	1983	奈良・平安：溝跡（上幅6.5～7m、下幅3.24m、深さ2m）
30	林木遺跡・Ⅱ遺跡	1983, 88	奈良・平安：住居跡・溝跡
31	草作遺跡	1984	古墳：住居跡・平安：住居跡・中世：井戸跡
32	桜丘遺跡		弥生：住居跡
33	總社桜丘遺跡・Ⅱ遺跡	1985, 87	奈良・平安：住居跡
34	閑泉宿南遺跡	1985	古墳：住居跡・奈良・平安：溝跡
35	後荒間遺跡Ⅰ～Ⅲ（群馬町）	1985～87	古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・中世：道路状遺構
36	坂田村東遺跡（群馬町）	1985	平安：住居跡
37	寺田遺跡	1986	平安：溝跡・木製品
38	天神遺跡・Ⅱ遺跡	1986, 88	奈良・平安：住居跡
39	厘敷遺跡・Ⅱ遺跡	1986, 95	古墳：住居跡・平安：住居跡・中世：掘跡・石敷遺構
40	大友屋敷Ⅱ・Ⅲ遺跡	1987	古墳：住居跡・平安：住居跡・溝跡・地下式土坑
41	堀越遺跡	1987	奈良・平安：住居跡・溝跡
42	堀越Ⅱ遺跡	1988	平安：住居跡
43	昌楽寺廻向遺跡・Ⅱ遺跡	1988	奈良・平安：住居跡
	村東遺跡	1988	古墳：住居跡・溝跡・奈良・平安：住居跡・中世：堀跡
	熊野谷遺跡	1988	縄文：住居跡・平安：住居跡・溝跡
	熊野谷Ⅱ・Ⅲ遺跡	1989	平安：住居跡

番号	遺跡名	調査年度	時代：主な遺構・出土遺物
44	元總社寺田遺跡I～III (事業団)	1988～91	古墳：水田跡、溝跡、奈良、平安：住居跡、溝跡、人形、壺串、墨書き土器、中世：溝跡
45	勢勝遺跡・II遺跡	1989、95	古墳：住居跡、平安：住居跡
46	大崩敷遺跡I～VI	1992～ 2000	純文：住居跡、古墳：住居跡、奈良、平安：住居跡、中世：掘立柱建物跡、地中式土坑、溝跡
47	元總社稻葉遺跡	1993	純文：土坑、平安：住居跡、瓦塔
48	上野國分寺參道遺跡	1996	古墳：住居跡、平安：住居跡
49	大友宅地添遺跡	1998	平安：水田跡
	總社開泉明神北遺跡	1999	古墳：溝跡、水田跡、溝跡、中世：溝跡
	總社開泉明神北II遺跡	2001	古墳：住居跡、溝跡、平安：住居跡、溝跡
50	總社開泉明神北V遺跡	2004	古墳：水田跡、奈良、平安：住居跡
	元總社蒼海遺跡群(7)	2005	奈良、平安：住居跡、溝跡
	元總社蒼海遺跡群(9)、(9)	2006	古墳：住居跡、奈良、平安：住居跡、掘立柱建物跡、溝跡
51	元總社宅地遺跡I～23トレンチ	2000	古墳：住居跡、平安：住居跡、掘立柱建物跡、鐵冶場跡、溝跡、道路状遺構、中世：溝跡、近世：住居跡、五輪塔、焼類
52	元總社小見遺跡	2000	純文：住居跡、古墳：住居跡、奈良、平安：住居跡、掘立柱建物跡、溝跡、道路状遺構
53	元總社西川遺跡(事業団)	2000	古墳：住居跡、墓跡、奈良、平安：住居跡、溝跡
54	總社甲稻荷塚大道西遺跡	2001	奈良、平安：住居跡、溝跡、中世：亀跡、近世：溝跡
	總社甲稻荷塚大道西II遺跡	2001	古墳：住居跡、奈良、平安：住居跡、溝跡、近世：溝跡
	元總社小見内Ⅲ遺跡	2001	古墳：住居跡、溝跡、奈良、平安：住居跡、掘立柱建物跡、溝跡、中世：掘立柱建物跡、溝跡
55	元總社小見内Ⅴ遺跡	2003	奈良、平安：住居跡、溝跡、中世：井戸跡
	元總社蒼海遺跡群(2)	2006	古墳：住居跡、奈良、平安：住居跡、中世：井戸跡
	總社甲稻荷塚大道西Ⅳ遺跡	2002	古墳：住居跡、奈良、平安：住居跡、溝跡、溝跡
	總社開泉明神北Ⅲ遺跡	2002	純文：住居跡、奈良、平安：住居跡、奈良、平安：住居跡
	總社甲稻荷塚大道西Ⅳ遺跡	2003	古墳：亀跡、中世：亀跡
	元總社小見Ⅱ遺跡	2002	純文：住居跡、古墳：住居跡、奈良、平安：住居跡、掘立柱建物跡、中世：溝跡、道路状遺構
57	元總社小見Ⅳ・V遺跡	2003	純文：住居跡、古墳：住居跡、奈良、平安：住居跡、中世：掘立柱建物跡
	元總社小見VI・VII遺跡	2004	純文：住居跡、古墳：住居跡、奈良、平安：住居跡
	元總社蒼海遺跡群(4)	2005	純文：住居跡、古墳：住居跡、奈良、平安：住居跡
58	元總社小見Ⅲ遺跡	2002	純文：住居跡、古墳：住居跡、奈良、平安：住居跡、溝跡、中世：溝跡、道路状遺構
	元總社草作V遺跡	2002	古墳：住居跡、奈良、平安：住居跡、中世：溝跡
	元總社小見内Ⅳ遺跡	2002	奈良、平安：住居跡、掘立柱建物跡、溝跡、中世：土壤墓、掘立柱建物跡、溝跡
	元總社小見内Ⅴ・X遺跡	2003	奈良、平安：住居跡、溝跡、中世：堅穴状遺構
59	元總社小見内Ⅸ・X遺跡	2004	古墳：住居跡、奈良、平安：住居跡、工房跡、粘土探査坑、金片、金片、中世：溝跡、土壤墓
	元總社蒼海遺跡群(2)、(6)	2005	古墳：住居跡、奈良、平安：住居跡、井戸跡、中世：溝跡
	元總社蒼海遺跡群(10)	2006	古墳：住居跡、奈良、平安：住居跡、中世：溝跡
60	元總社北川遺跡(事業団)	2002～04	古墳：水田跡、奈良、平安：住居跡、亀跡、中・近世：掘立柱建物跡、水田跡、火葬墓
61	種種塚遺跡(事業団)	2003	古墳：住居跡、奈良、平安：住居跡、溝跡、龜壳築材探査痕、井戸跡
62	元總社小見内Ⅴ遺跡	2003	純文：住居跡、奈良、平安：住居跡、掘立柱建物跡、中世：亀跡、溝跡
	元總社蒼海遺跡群(1)、(5)	2005	奈良、平安：住居跡、溝跡、中世：溝跡、土壤墓
63	元總社蒼海遺跡群(8)	2006	奈良、平安：住居跡、綠釉陶器

* 調査年度の欄の()は調査開始年度を表す。

* 遺跡名の欄の(事業団)は(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団を表す。

III 調査の方針と経過

1 調査方針

委託された調査箇所は、前橋都市計画事業元総社舊海土地区画整理事業に伴い築造予定の道路用地であるため、幅6mの極めて狭長なトレーンチ状の調査区が中心となっている。総調査面積は約4,058m²である。現地での調査では、遺構の付番等における混乱をさけるため、調査区全体を1~13区に区分した。遺構番号は、各区ごとに個別に付番することとし、1区H-1号住居跡、2区H-1号住居跡のように遺構の前に必ず地区名を付すこととした。

グリッド座標については国家座標(日本測地系)X = +44000・Y = -72200を基点(X 0・Y 0)とする4mピッチのものを使用し、2区においては、西から東へX51、52、53…、北から南へY84、85、86…と付番し、グリッド呼称は北西杭の名称を使用した。

本道路のX52・Y85の公共座標は以下のとおりである。

日本測地系	X = +43,660.000	Y = -71,992.000
緯度	36° 23' 27" 3193	経度 139° 01' 53" 5311
子午線収差角	28° 32' .6	増大率 0.999964

調査方法については、表土掘削・遺構確認・方眼杭等設置・遺構掘下・遺構精査・測量・全景写真の手順で行うこととした。このうちの遺構確認については、基本的にAs-C・Hr-FP軽石とAs-B軽石が混入する土層を手がかりにした。

図面作成は、平板・簡易造り方測量を用い、遺構平面図は原則として1/20、住居跡は1/10の縮尺で作成した。遺物については平面分布図を作成し、台帳に各種記録を記載しながら収納した。包含層の遺物はグリッド単位で収納し、重要遺物については分布図・遺物台帳の記載を行い収納した。

2 調査経過

現地調査は平成21年5月18日から12月25日まで行った。調査経過は下記一覧表のとおりである。

元総社舊海遺跡群(26)の調査地は13ヵ所に分かれており、調査着手順で1区、2区…とした。

1区…国分尼寺のすぐ西側に位置する調査区。5月19日から重機による表土掘削から調査を開始した。5月22日に杭打ち測量を行い、遺構掘り下げを進めていった。精査の結果、土師住居跡13軒、溝跡1条、土坑1基を検出した。6月26日に調査区全景写真を行い、7月7日に埋め戻しを行った。

2区…国分尼寺南西部に位置する調査区。8月18、19日に重機による表土掘削を行い、調査区西側にある3、4区の重機による表土掘削とプラン確認後、遺構掘り下げを進めていった。精査の結果、土師住居跡9軒、竪穴状遺構1軒、土坑5基等を検出した。

3区…国分尼寺南西隅から関越自動車道側道へ向かう東西の調査区。8月19日から2、4区と合わせて重機による表土掘削を行った。2区の調査終了の9月15日から遺構の掘り下げ、精査を進めていった。調査区中央部分から西は、乾けば非常に堅く、雨が降れば水が溜まりやすい粘質土で調査後半は苦労した。精査の結果、住居跡23軒、溝跡6条、土坑8基、落ち込み状遺構1基を検出した。また9月30日~10月2日までと12月2日~4日には中学生の職場体験を行った。

4区…3区と交差し南へ向かう調査区。8月26・27日に3区と合わせて重機による表土掘削を行った。9月1

～3日に3区と合わせてプラン確認後、杭打ち測量を行った。精査の結果、土師住居跡3軒、土坑6基等を検出した。12月9日に2・3区と合わせてラジコンヘリによる空中撮影を行い、12月14日～21日に2・3区と合わせて埋め戻しを行った。

5区…6月5日に重機で表土掘削を行い、調査を開始した。プラン確認、遺構掘り下げと平行して6月10日に杭打ち測量を行った。土師住居跡5軒、溝跡3条、土坑2基を検出した。8月20日に遺構精査、調査区全景写真撮影を行い、8月27日に埋め戻しを行った。

6区…6月4、5日に重機による表土掘削を行い、調査を開始した。また調査地の地権者の事情により、未掘削であった部分を7月29日に表土掘削を行った。6月10日に杭打ち測量を行い、遺構の掘り下げを進めた。精査の結果、土師住居跡4軒、堅穴状遺構2軒、溝4条、土坑1基、掘立建物跡2軒、ピットを多数検出した。8月19日に遺構精査、調査区全景写真撮影を行い、8月27日に5区と合わせて埋め戻しを行った。

7区…7月27・28日に重機による表土掘削を行い、調査を開始した。8月21日に杭打ち測量を行い、遺構掘り下げを開始した。土師住居跡15軒、土坑5基などを検出した。9月18日に遺構精査、調査区全景写真撮影を行い、10月5、6日に埋め戻しを行った。

8区…5月25日に重機による表土掘削を行い、調査を開始した。遺構掘り下げに平行して、5月27日に杭打ち測量を行った。調査の結果、土師住居跡6軒、堅穴状遺構1軒、溝1条、土坑2基、ピット7基を検出した。7月2日に調査区全景写真撮影を行い、7月8日に埋め戻しを行った。

9区…5月21、22日に重機による表土掘削を行い、調査を開始した。5月27日に杭打ち測量を行い、遺構の掘り下げを進めた。調査の結果、土師住居跡3軒、溝1条、土坑2基、道路状遺構2条を検出した。6月18日に調査区全景写真撮影を行い、6月29日に埋め戻しを行った。

10区…11月17、18日に重機による表土掘削を行い、調査を開始した。11月30日に11区と合わせて杭打ち測量を行い、遺構の掘り下げを進めた。二箇所に分かれるので、西側を10A区、東側を10B区とした。調査の結果、住居跡10軒、土坑1基、土坑墓1基などを検出した。12月22日に11区と合わせて調査区全景写真撮影を行い、12月24・25日に埋め戻しを行った。

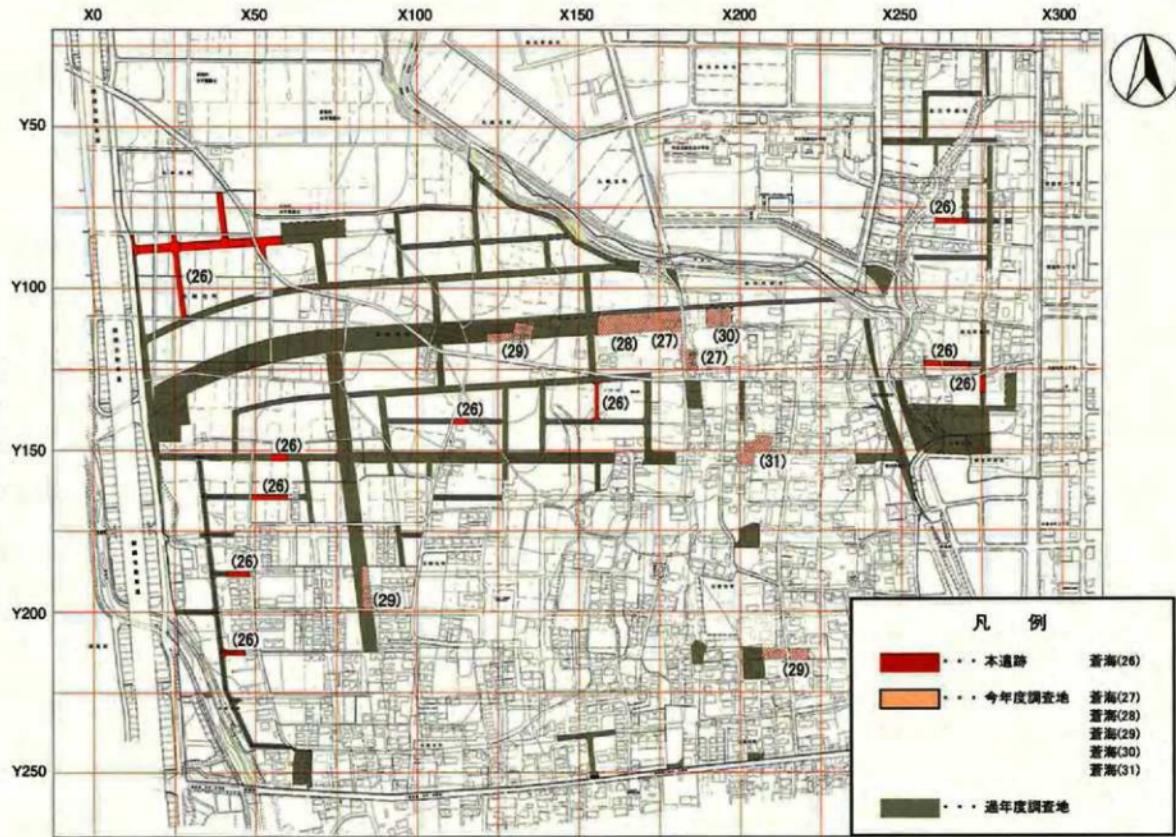
11区…11月18、19日に重機による表土掘削を行い、調査を開始した。調査の結果土師住居跡7軒、土坑2基などを検出した。

12区…12月9日に重機による表土掘削後、プラン確認を行った。調査区の西半分は近年の攪乱で、残り東半分も近年の土地改良で遺構の検出はなかった。12月18日に埋め戻しを行った。

13区…12月10日に重機による表土掘削を行い、プラン確認で住居跡1軒を検出した。遺構の掘り下げを行い、12月17日に調査区全景写真撮影を行い、12月18日に埋め戻しを12区と共にを行い、調査は終了した。

12月21日より文化財保護課庁舎に戻り、出土遺物・図面・写真当の整理作業及び報告書作成にあたり、翌年3月13日までに全ての作業を終了した。

Fig. 3 元老社青海遺跡群位置図とグリッド調査図



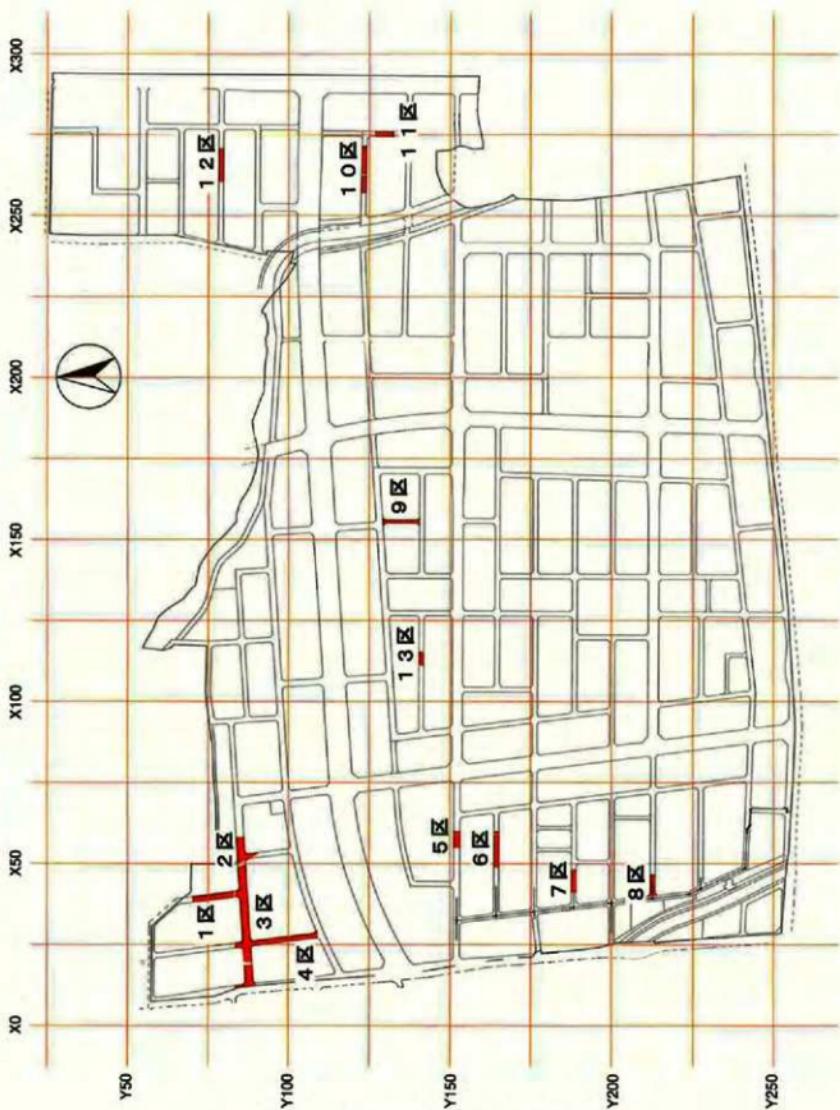


Fig. 4 元總社跡海遺跡群位置図(26) 調査区位置図

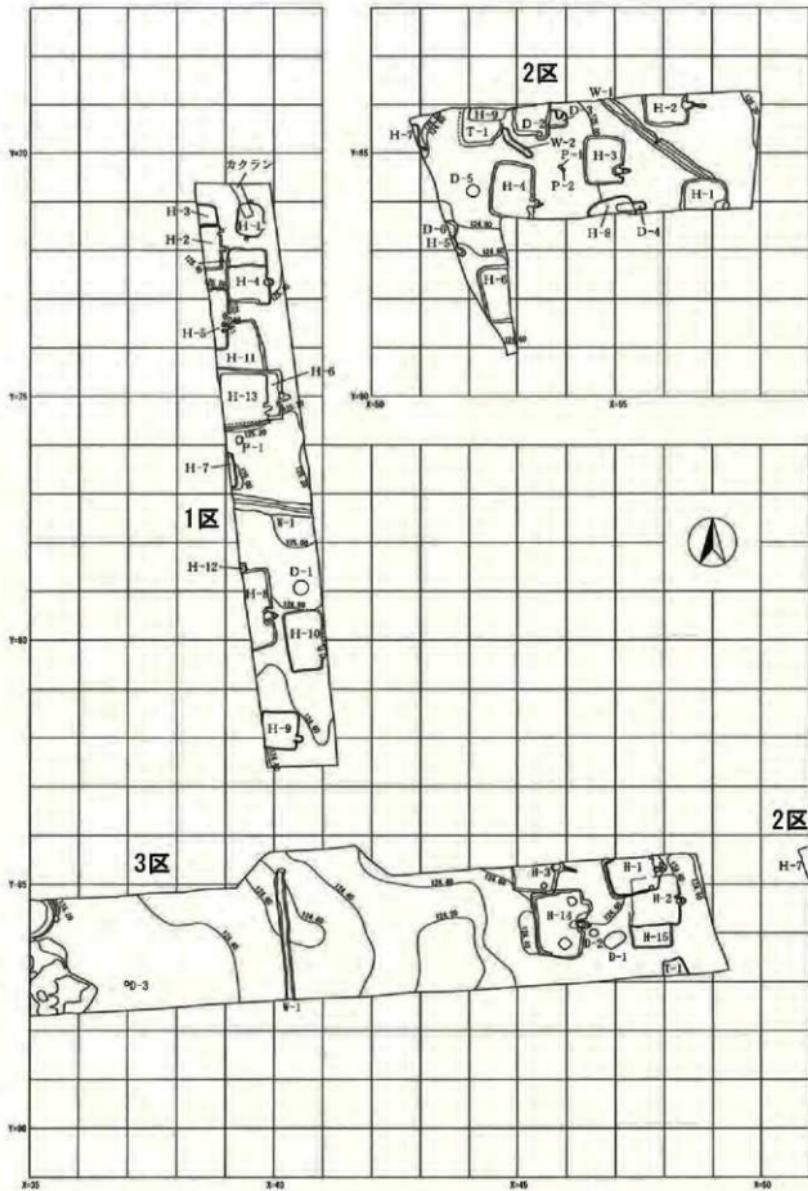


Fig. 5 元總社蒼海遺跡群位置図(26) 1・2・3区東側全体図

1 : 400 150

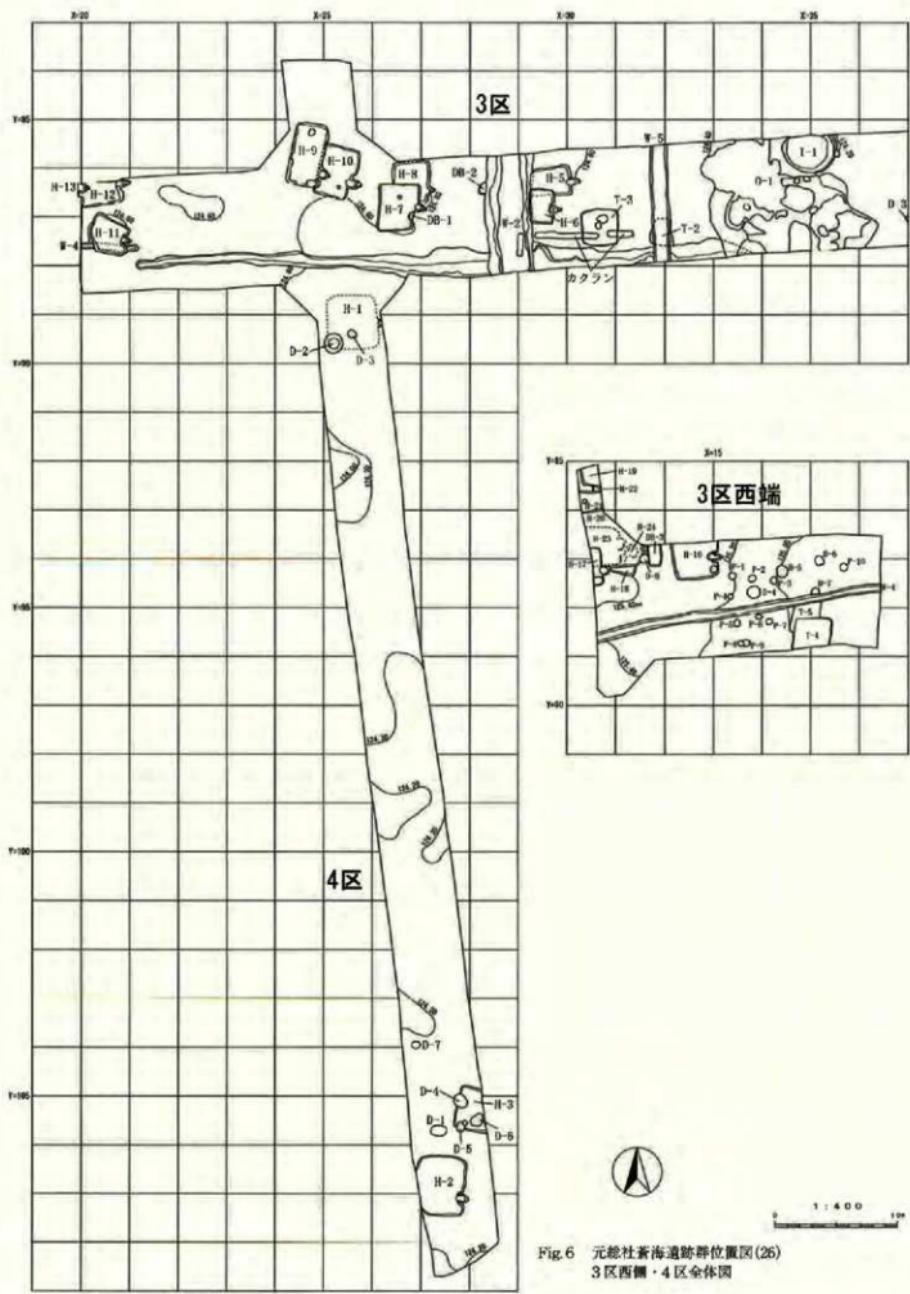
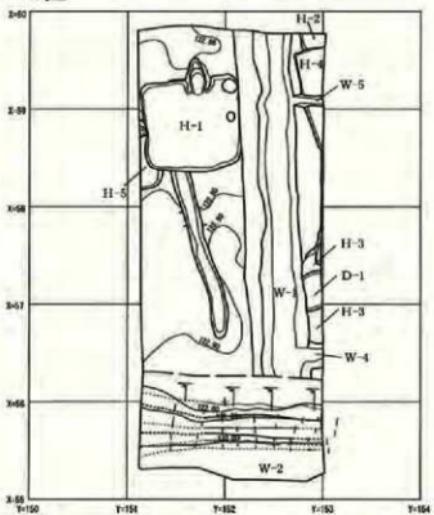


Fig. 6 元總社舊海遺跡群位置図(26)
3区西端・4区全体図

5区



6区

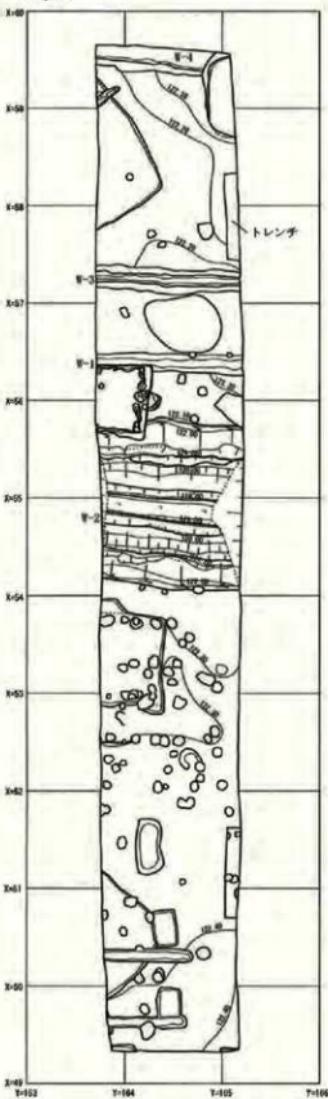


Fig. 7 元總社舊海遺跡群位置図(26) 5・6区全体図

1 : 200

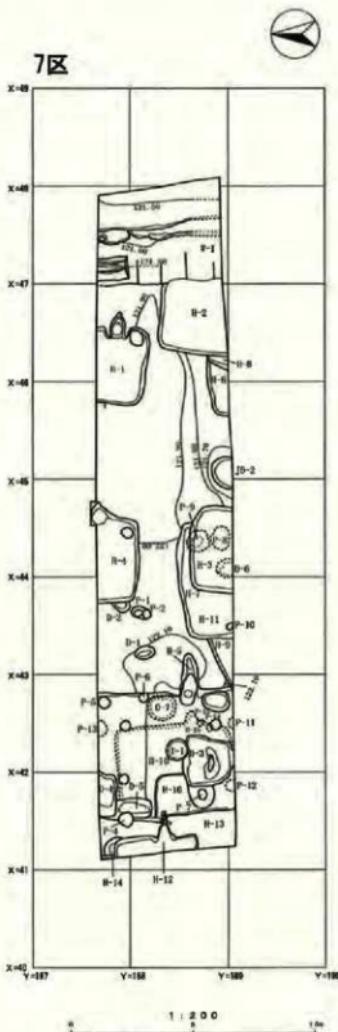
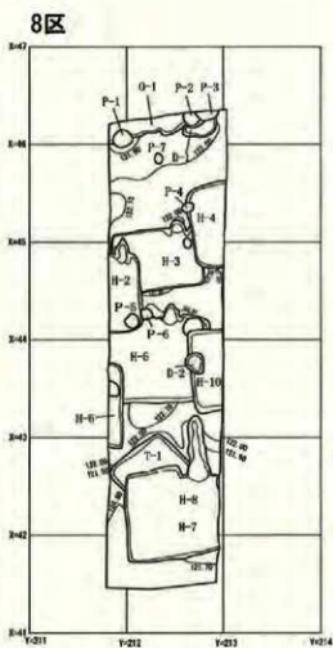


Fig. 8 元總社若海遺跡群位置図(26) 7・8区全体図



9区

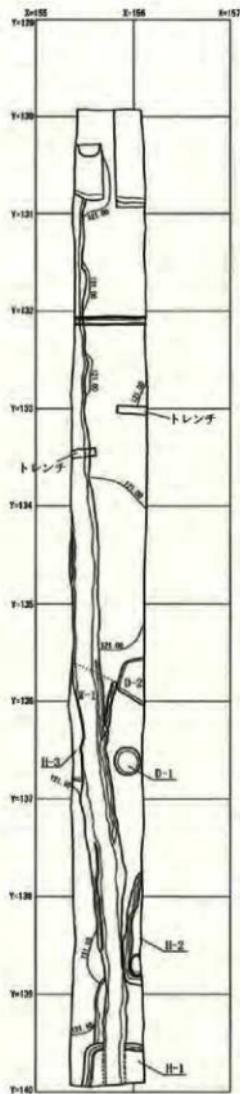
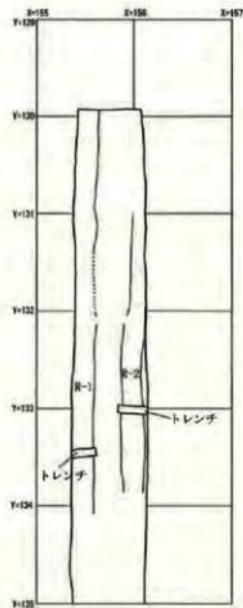


Fig. 9 元總社蓄海道路群位置図(26) 9区全体図

1 : 200

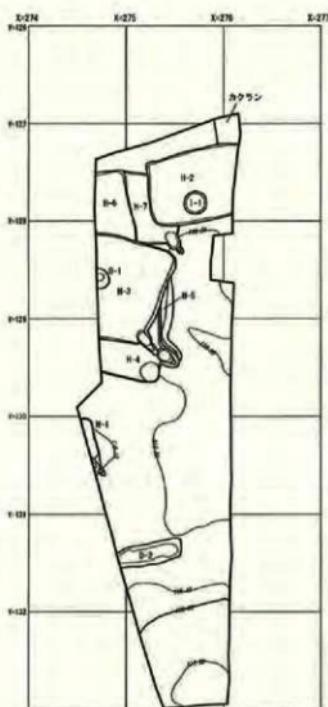
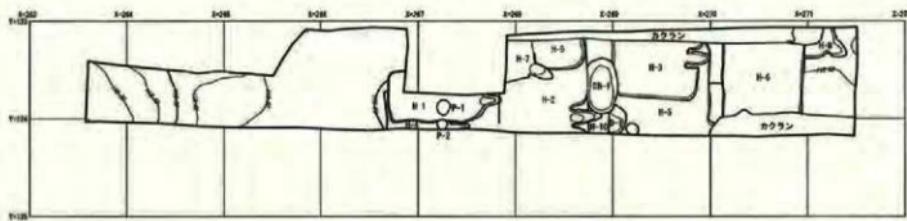
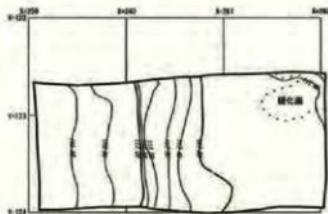
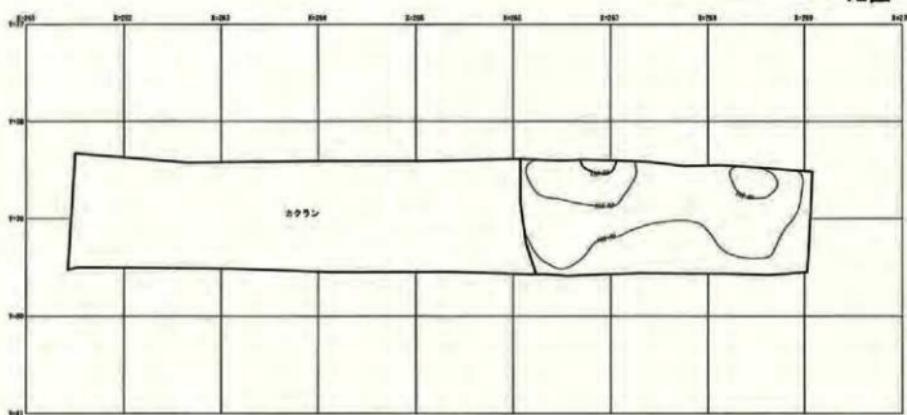


Fig.10 元總社舊海遺跡群位置図(26) 10・11区全体図

1:200



12区



13区

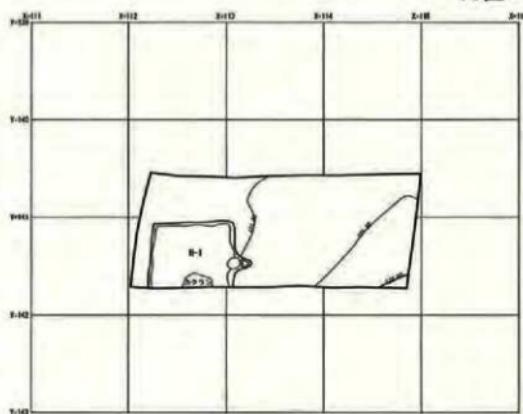
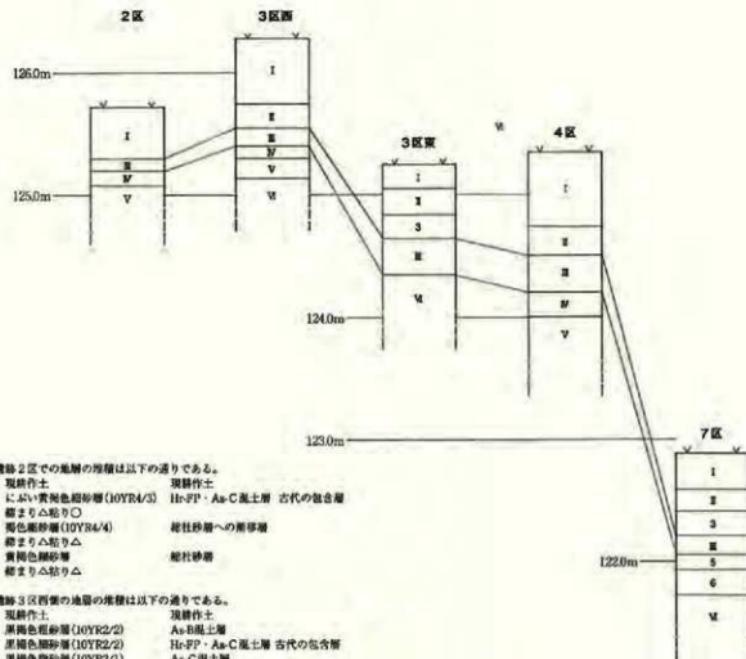


Fig.11 元總社舊海遺跡群位置図(26) 12・13区全体図

1:200

IV 基本層序



本道路2区での地層の堆積は以下の通りである。

- I 現耕作土 現耕作土
- II 黒褐色粗砂層(10YR4/3) Aa-B混土層 古代の包含層
絆まり△ねり○
- V 黒褐色細砂層(10YR4/4) 赭社砂層への遷移層
絆まり△ねり△
- VI 寸褐色細砂層 赭社砂層
絆まり△ねり△
- III 黒褐色粗砂層(10YR2/2) Hr-FP · Aa-C混土層 古代の包含層
絆まり○ねり○
- IV 黒褐色散砂層(10YR2/1) Aa-C混土層
- VII 墓褐色散砂層(10YR3/4) 赭社砂層への遷移層
- VIII 黄褐色細砂層(10YR4/6) 赭社砂層

本道路3区東側の地層の堆積は以下の通りである。

- I 現耕作土 現耕作土
- II 黒褐色粗砂層(10YR3/3) Aa-B混土層
絆まり○ねり○
- III 黑褐色細砂層(10YR3/3) 赭社砂層
絆まり○ねり○
- IV 黑褐色散砂層(10YR2/2) Hr-FP · Aa-C混土層 古代の包含層
絆まり○ねり○
- V 黑褐色散砂層(10YR2/2) 赭社砂層
絆まり○ねり○
- VI 黑褐色散砂層(7SYR2/3) 赭社砂層への遷移層

本道路4区での地層の堆積は以下の通りである。

- I 現耕作土 現耕作土
- II 黒褐色粗砂層(10YR2/2) Aa-B混土層
- III 黑褐色細砂層(10YR2/3) Hr-FP · Aa-C混土層 古代の包含層
絆まり○ねり○
- IV 黑褐色散砂層(10YR2/1) Aa-C混土層
- V 黑褐色散砂層(7SYR2/3) 赭社砂層への遷移層

本道路7区での地層の堆積は以下の通りである。

- I 現耕作土 現耕作土
- II 黒褐色粗砂層(10YR2/2) Aa-B混土層
- III 黑褐色細砂層(10YR2/2) Hr-FP · Aa-C混土層 古代の包含層
絆まり○ねり○
- IV 黑褐色散砂層(10YR2/3) Hr-FP · Aa-C混土層 古代の包含層
絆まり○ねり○
- 5 黑褐色散砂層(10YR2/3) 赭社砂層
絆まり○ねり○
- 6 黑褐色散砂層(10YR2/2) 赭社砂層
- VII 黄褐色細砂層(10YR4/5) 赭社砂層

Fig.12 基本層序

V 遺構と遺物

1区

(1) 穫穴住居跡

H-1号住居跡 (Fig.8-41, PL.1-13)

位置 X39、Y71グリッド 主軸方向 N-96°-E 形状等 長方形と推定される。東西2.22m、南北2.82m、壁現高11cm。面積 15.43m² 床面 平坦な床。出土遺物 土師器32点、須恵器8点、瓦2点。時期 覆土や出土遺物から9世紀代と考えられる。

H-2号住居跡 (Fig.13-65, PL.1-30)

位置 X38-39、Y71-72グリッド 主軸方向 N-88°-E 形状等 長方形と推定される。東西(1.76)m、南北(3.82)m、壁現高46.0cm。面積 (5.94)m² 床面 堅緻な貼り床。竈 東壁中央南寄りに位置する。主軸方向 N-90°-E。全長96cm、最大幅56cm、焚口部幅22cm。構築材に粘土を用いる。重複 H-3と重複しており、新旧関係はH-3→本遺構 出土遺物 土師器138点、須恵器16点、瓦16点、石製品1点。そのうち土師器壺1点・土師器甕3点、須恵器蓋2点・須恵器壺2点、瓦1点を図示。時期 覆土や出土遺物から9世紀中葉と考えられる。

H-3号住居跡 (Fig.13, PL.1)

位置 X38、Y71グリッド 主軸方向 N-81°-E 形状等 長方形と推定される。東西(1.60)m、南北(1.94)m、壁現高18.0cm。面積 (2.54)m² 床面 平坦な貼り床。重複 H-2と重複しており、新旧関係は本遺構→H-3 出土遺物 土師器23点、須恵器3点、瓦1点。時期 覆土や出土遺物から8世紀前半と考えられる。

H-4号住居跡 (Fig.14-65-92, PL.2-30-42-44)

位置 X39-40、Y71-73グリッド 主軸方向 N-86°-E 形状等 長方形と推定される。東西3.56m、南北4.44m、壁現高42.0cm。面積 14.91m² 床面 平坦な貼り床。竈 東壁中央南寄りに位置する。主軸方向 N-88°-E。全長84cm、最大幅96cm、焚口部幅46cm。構築材に粘土、袖部に凝灰岩、瓦を用いる。出土遺物 土師器517点、須恵器125点、瓦37点、灰釉陶器1点、石製品2点、鉄滓4.6g。そのうち土師器壺1点・土師器甕1点、須恵器壺1点・須恵器高台壺1点、瓦1点、石製品1点を図示。時期 覆土や出土遺物から9世紀中葉と考えられる。

H-5号住居跡 (Fig.14-90, PL.2)

位置 X38-39、Y72-74グリッド 主軸方向 N-85°-E 形状等 長方形と推定される。東西(1.64)m、南北(5.10)m、壁現高34.0cm。面積 (6.55)m² 床面 平坦な床。竈 東壁中央南寄りに位置する。主軸方向 N-86°-E。全長90cm、最大幅65cm、焚口部幅20cm。構築材に粘土、袖部に凝灰岩を用いる。旧竈 東壁中央に位置する。主軸方向 N-97°-E。全長82cm、最大幅104cm、焚口部幅20cm。構築材に粘土を用いる。重複 H-11と重複しており、新旧関係はH-11→本遺構 出土遺物 土師器48点、須恵器12点、瓦11点、灰釉陶器1点、石製品1点、鉄滓3.3g。時期 覆土や出土遺物から9世紀代と考えられる。

H-6号住居跡 (Fig.15-66, PL. 2-30-31-41)

位置 X38~40、Y74~75グリッド 主軸方向 N-88°-E 形状等 長方形と推定される。東西(5.12)m、南北(4.88)m、壁現高67.0cm。面積(22.78)m² 床面 堅密な貼り床。竈 東壁中央南寄りに位置する。主軸方向 N-102°-E。全長111cm、最大幅142cm、焚口部幅62cm。構築材に粘土、凝灰岩、袖部に瓦を用いる。重複 H-11、13と重複しており、新旧関係はH-11→H-13→本遺構。出土遺物 土師器1024点、須恵器284点、瓦54点、純文土器4点、石製品2点、鉄製品1点、灰釉陶器3点、鉄滓443g。そのうち土師器壺3点・土師器壺1点・須恵器蓋2点・須恵器壺2点・須恵器高台壺1点・須恵器大甕1点、瓦9点、鉄製品1点を図示。

時期 覆土や出土遺物から9世紀後半と考えられる。

H-7号住居跡 (Fig.16-66, PL.31)

位置 X39、Y76グリッド 主軸方向 N-80°-E 形状等 長方形と推定される。東西(0.58)m、南北(2.92)m、壁現高52.0cm。面積(1.41)m² 床面 平坦な床。出土遺物 土師器213点、須恵器36点、瓦3点、土製品1点。そのうち土師器壺1点、須恵器高台壺1点、土製品1点を図示。時期 覆土や出土遺物から9世紀代と考えられる。

H-8号住居跡 (Fig.16-66, PL. 3-31)

位置 X39~40、Y78~80グリッド 主軸方向 N-82°-E 形状等 長方形と推定される。東西(2.21)m、南北(6.68)m、壁現高79.0cm。面積(9.70)m² 床面 平坦な床。竈 東壁中央南寄りに位置する。主軸方向 N-87°-E。全長124cm、最大幅148cm、焚口部幅60cm。構築材に粘土、袖部に凝灰岩を用いる。重複 H-12と重複しており、新旧関係は本遺構→H-12 出土遺物 土師器1190点、須恵器181点、瓦2点。そのうち土師器壺1点、須恵器蓋1点、須恵器壺1点、須恵器高台壺2点を図示。時期 覆土や出土遺物から8世紀前半と考えられる。

H-9号住居跡 (Fig.17-67, PL. 3-31)

位置 X39~40、Y81~82グリッド 主軸方向 N-83°-E 形状等 長方形と推定される。東西(3.14)m、南北(3.20)m、壁現高26.0cm。面積(8.75)m² 床面 平坦な貼り床。竈 東壁南寄りに位置する。主軸方向 N-100°-E。全長73cm、最大幅84cm、焚口部幅30cm。構築材に粘土、袖部に凝灰岩を用いる。出土遺物 土師器237点、須恵器70点、瓦11点、鉄製品1点、灰釉陶器3点。そのうち須恵器高台壺2点、鉄製品1点を図示。時期 覆土や出土遺物から9世紀後半と考えられる。

H-10号住居跡 (Fig.17-67, PL. 3-31)

位置 X40~41、Y79~80グリッド 主軸方向 N-81°-E 形状等 長方形と推定される。東西(3.16)m、南北(4.99)m、壁現高33.0cm。面積(14.10)m² 床面 平坦な貼り床。竈 東壁南寄りに位置する。主軸方向 N-84°-E。全長72cm、最大幅125cm、焚口部幅36cm。構築材に粘土、凝灰岩、瓦を用いる。出土遺物 土師器193点、須恵器73点、瓦22点。そのうち土師器壺1点、土師器壺2点、須恵器壺1点、須恵器蓋1点を図示。時期 覆土や出土遺物から9世紀後半と考えられる。

H-11号住居跡 (Fig.18-67, PL. 3-31)

位置 X38~39、Y73~74グリッド 主軸方向 N-18°-W 形状等 長方形と推定される。東西(4.31)m、南北(5.08)m、壁現高62.0cm。面積(16.98)m² 床面 平坦な貼り床。竈 北壁中央西寄りに位置する。主

軸方向 N - 2° - E。全長147cm、最大幅104cm、焚口部幅48cm。構築材に粘土、袖部に凝灰岩を用いる。
旧層 北壁西寄りに位置する。主軸方向 N - 11° - W。全長72cm、最大幅66cm、焚口部幅37cm。構築材に粘土を用いる。重複 H - 5、6と重複しており、新旧関係は本遺構→H - 5、6。**出土遺物** 土師552点、須恵器78点、瓦3点、石製品2点、灰釉陶器2点、鉄滓21.6g。そのうち土師器环1点・土師器蓋2点を図示。時期覆土や出土遺物から8世紀後半と考えられる。

H - 12号住居跡 (Fig.16, PL. 3)

位置 X39、Y78 - 79グリッド **主軸方向** N - 81° - E **形状等** 長方形と推定される。東西(0.55)m、南北(4.78)m、壁現高32.0cm。**面積** (2.86)m² **床面** 平坦な床。**重複** H - 8と重複しており、新旧関係はH - 8→本遺構。**出土遺物** 土師器6点、須恵器3点、瓦1点、土製品1点。そのうち土製品1点を図示。時期覆土や重複関係から9世紀代と考えられる。

H - 13号住居跡 (Fig.18)

位置 X38 - 39、Y74 - 75グリッド **主軸方向** N - 88° - E **形状等** 長方形と推定される。東西(3.92)m、南北(4.65)m、壁現高58.0cm。**面積** (16.48)m² **床面** 平坦な貼り床。**重複** 東壁南寄りに位置する。主軸方向 N - 74° - E。全長68cm、最大幅97cm、焚口部幅38cm。構築材に粘土を用いる。**重複** H - 6、11と重複しており、新旧関係は本遺構→H - 13→H - 6。**出土遺物** 土師器1点。時期 覆土や重複関係から6世紀後半と考えられる。

(2) 溝跡

W - 1号溝跡 (Fig.19)

位置 X39 - 40、Y77グリッド **主軸方向** N - 98° - E **形状等** 逆台形。長さ 7.0m 深さ 52.0cm 最大上幅140cm、最大下幅30cm。**出土遺物** 土師器99点、須恵器20点、瓦22点、縄文土器3点。そのうち瓦3点を図示。時期 覆土からAs-B降下以前と考えられる。参考 流水の痕跡無し。

(3) 土坑、ピット (Fig.19)

土坑、ピットについては、Tab. 4 土坑・ピット・井戸跡・落ち込み計測表を参照のこと。

(4) グリッド等出土遺物

土師器306点、須恵器84点、瓦71点、灰釉陶器7点、縄文陶器2点、陶器2点、石製品2点を出土。

2区

(1) 穫穴住居跡

H - 1号住居跡 (Fig.19, PL. 4 - 32)

位置 X56 - 57、Y85 - 86グリッド **主軸方向** N - 89° - E **形状等** 長方形と推定される。東西(3.96)m、南北(2.61)m、壁現高48.0cm。**面積** (9.18)m² **床面** 平坦な貼り床。**重複** W - 1と重複しており、新旧関係は本遺構→W - 1。**出土遺物** 土師器309点、須恵器26点、瓦13点、縄文土器1点、鉄製品2点、灰釉陶器2点、

鉄滓8.9g。そのうち土師器壺1点を図示。 時期 覆土や出土遺物から9世紀後半から10世紀前半と考えられる。

H-2号住居跡 (Fig.20-68, PL. 4-32)

位置 X55・56、Y83・84グリッド 主軸方向 N-83°-E 形状等 長方形と推定される。東西(3.64)m、南北(2.27)m、壁現高69.0cm。面積(8.97)m² 床面 壓敷な貼り床。竈 東壁中央南寄りに位置する。主軸方向 N-93°-E。全長198cm、最大幅118cm、焚口部幅58cm。構築材に粘土を用いる。 出土遺物 土師器506点、須恵器32点、瓦1点、繩文土器2点、石製品2点。そのうち土師器壺5点、土師器壺2点、須恵器高台碗1点を図示。 時期 覆土や出土遺物から8世紀中葉と考えられる。

H-3号住居跡 (Fig.20, PL. 4)

位置 X54・55、Y84・85グリッド 主軸方向 N-91°-E 形状等 長方形と推定される。東西3.36m、南北4.01m、壁現高62.0cm。面積 12.18m² 床面 平坦な貼り床。竈 東壁南寄りに位置する。主軸方向 N-92°-E。全長126cm、最大幅120cm、焚口部幅41cm。構築材に粘土、凝灰岩を用いる。 出土遺物 土師器40点、須恵器8点、繩文土器1点。そのうち土師器壺を1点図示。 時期 覆土や出土遺物から6世紀代と考えられる。

H-4号住居跡 (Fig.21-69, PL. 4-32)

位置 X52・53、Y85・86グリッド 主軸方向 N-93°-E 形状等 長方形と推定される。東西(3.72)m、南北(4.68)m、壁現高60.0cm。面積 15.42m² 床面 壓敷な貼り床。竈 東壁中央南寄りに位置する。主軸方向 N-95°-E。全長128cm、最大幅120cm、焚口部幅41cm。構築材に粘土を用いる。 出土遺物 土師器685点、須恵器45点、瓦3点、繩文土器3点、鉄製品1点、石製品2点。そのうち土師器壺1点、土師器壺3点、須恵器蓋1点、須恵器壺3点を図示。 時期 覆土や出土遺物から8世紀後半と考えられる。

H-5号住居跡 (Fig.21, PL. 5-32)

位置 X51、Y86・87グリッド 主軸方向 N-67°-E 形状等 長方形と推定される。東西(0.32)m、南北(0.54)m、壁現高17.0cm。面積(0.32)m² 床面 平坦な床。竈 東壁南寄りに位置する。主軸方向 N-118°-E。全長80cm、最大幅66cm、焚口部幅26cm。構築材に粘土を用いる。 重複 D-6と重複しており、新旧関係は本遺構→D-6 出土遺物 土師器37点、須恵器4点、繩文土器2点、石製品1点。そのうち土師器壺1点を図示。 時期 覆土や出土遺物から8世紀中葉と考えられる。

H-6号住居跡 (Fig.22-69, PL. 5)

位置 X52、Y87・88グリッド 主軸方向 N-76°-E 形状等 長方形と推定される。東西(2.76)m、南北(5.00)m、壁現高52.0cm。面積(10.56)m² 床面 平坦な貼り床。 出土遺物 土師器112点、須恵器26点。そのうち須恵器蓋1点を図示。 時期 覆土や出土遺物から8世紀中葉と考えられる。

H-7号住居跡 (Fig.22-69, PL.32)

位置 X50・51、Y84グリッド 主軸方向 N-78°-E 形状等 長方形と推定される。東西(0.55)m、南北(2.12)m、壁現高36.0cm。面積(0.64)m² 床面 平坦な床。竈 東壁南寄りに位置する。 主軸方向 N-103°-E。全長80cm、最大幅35cm、焚口部幅10cm。構築材に粘土を用いる。 出土遺物 土師器33点、須恵器8点、繩文土器5点。そのうち土師器壺1点を図示。 時期 覆土や出土遺物から8世紀中葉と考えられる。

H-8号住居跡 (Fig.22-69, PL.32)

位置 X54・55、Y85・86グリッド 主軸方向 N-78°-E 形状等 長方形と推定される。東西(3.88)m、南北(1.73)m、壁現高85.0cm。面積(4.50)m² 床面 平坦な貼り床。重複 D-4と重複しており、新旧関係はD-4→本遺構 出土遺物 土師器304点、須恵器42点、瓦2点、繩文土器14点、鉄製品5点。そのうち土師器壊3点、須恵器蓋1点、須恵器壊1点を図示。時期 覆土や出土遺物から8世紀前半と考えられる。

H-9号住居跡 (Fig.23-69, PL. 5-32-33)

位置 X52・53、Y84グリッド 主軸方向 N-104°-E 形状等 長方形と推定される。東西(2.90)m、南北(1.58)m、壁現高16.0cm。面積(3.00)m² 床面 堅硬な貼り床。竈 東壁中央南寄りに位置する。構築材に粘土、瓦、凝灰岩を用いる。重複 T-1と重複しており、新旧関係は本遺構→T-1 出土遺物 土師器254点、須恵器134点、瓦58点、鉄製品5点、鉄滓8.2g。そのうち須恵器壊2点、須恵器高台皿1点、須恵器羽釜2点、須恵器瓶1点、瓦1点を図示。時期 覆土や出土遺物から10世紀後半と考えられる。

(2) 壇穴状遺構

T-1号壇穴状遺構 (Fig.23, PL. 5)

位置 X51・52、Y84グリッド 主軸方向 N-93°-E 形状等 隅丸方形と推定される。東西(3.30)m、南北(3.24)m、壁現高39.0cm。面積(8.19)m² 床面 平坦な床。重複 H-9と重複しており、新旧関係は本遺構→H-9 出土遺物 土師器82点、須恵器10点、瓦27点、繩文土器2点、鉄製品1点、石製品3点、灰釉陶器5点、鉄滓15.0g。そのうち瓦4点を図示。時期 覆土や出土遺物から9世紀後半と考えられる。

(3) 溝跡

W-1号溝跡 (Fig.24)

位置 X54～57、Y83～85グリッド 主軸方向 N-127°-E 形状等 逆台形。長さ11.3m、深さ41.0cm、最大上幅100cm、最大下幅49cm。出土遺物 土師器14点、須恵器3点、瓦1点。時期 覆土からAs-B障下以前と考えられる。備考 流水の痕跡無し。

W-2号溝跡 (Fig.24)

位置 X52・53、Y84・85グリッド 主軸方向 N-136°-E 形状等 U字形。長さ3.4m、深さ23.0cm、最大上幅64cm、最大下幅48cm。出土遺物 土師器18点、須恵器3点、1点、石製品1点。時期 覆土からAs-B障下以前と考えられる。備考 流水の痕跡無し。

(4) 土坑、ピット (Fig.21-23-70, PL.32-33)

土坑、ピットについては、Tab. 4 土坑、ピット計測表を参照のこと。

(5) グリッド等出土遺物 (Fig.70-88・92)

土師器494点、須恵器84点、瓦71点、繩文土器6点、鉄製品7点、灰釉陶器4点、鉄滓8.0gを出土。そのうち土師器壊2点、須恵器壊1点、瓦1点、石製品1点を図示。

3区

(1) 穫穴住居跡

H-1号住居跡 (Fig.25-70, PL. 5-33)

位置 X46~48、Y84~85グリッド 主軸方向 N-73°-E 形状等 長方形と推定される。東西(4.30)m、南北(3.59)m、壁現高41.0cm。面積(13.26)m² 床面 平坦な貼り床。竈 東壁中央南寄りに位置する。主軸方向 N-85°-E。全長106cm、最大幅132cm、焚口部幅44cm。構築材に粘土を用いる。重複 H-2と重複しており、新旧関係は本遺構→H-2 出土遺物 土師器478点、須恵器88点、瓦10点。そのうち土師器壊1点・土師器壺1点・須恵器蓋1点・須恵器壊1点を図示。時期 覆土や出土遺物から8世紀後半と考えられる。

H-2号住居跡 (Fig.25-71, PL. 5-33)

位置 X47~48、Y84~85グリッド 主軸方向 N-89°-E 形状等 方形と推定される。東西(4.22)m、南北(4.24)m、壁現高39.0cm。面積(16.14)m² 床面 平坦な貼り床。竈 東壁中央に位置する。主軸方向 N-83°-E。全長82cm、最大幅88cm、焚口部幅44cm。構築材に粘土、凝灰岩を用いる。重複 H-1、15と重複しており、新旧関係はH-1、15→本遺構 出土遺物 土師器455点、須恵器91点、瓦17点。そのうち土師器壊2点・土師器壺3点・須恵器蓋1点・須恵器壊2点・須恵器高台椀1点・須恵器高盤1点を図示。時期 覆土や出土遺物から9世紀前半と考えられる。

H-3号住居跡 (Fig.25-72, PL. 6-34)

位置 X44~46、Y84~85グリッド 主軸方向 N-75°-E 形状等 長方形と推定される。東西(3.88)m、南北(3.16)m、壁現高54.0cm。面積(8.00)m² 床面 やや堅致な貼り床。竈 東壁中央に位置する。主軸方向 N-104°-E。全長174cm、最大幅100cm、焚口部幅50cm。構築材に粘土を用いる。出土遺物 土師器249点、須恵器62点、瓦16点、繩文土器3点。そのうち土師器壊3点・土師器壺1点・須恵器壊1点を図示。時期 覆土や出土遺物から8世紀後半と考えられる。

H-4号住居跡 欠番

H-5号住居跡 (Fig.25-72, PL. 6-33-42)

位置 X29~30、Y85~96グリッド 主軸方向 N-88°-E 形状等 長方形と推定される。東西(3.42)m、南北(2.50)m、壁現高50.0cm。面積(5.69)m² 床面 平坦な貼り床。竈 東壁中央南寄りに位置する。主軸方向 N-88°-E。全長108cm、最大幅70cm、焚口部幅30cm。構築材に粘土、凝灰岩を用いる。重複 H-6と重複しており、新旧関係は本遺構→H-6 出土遺物 土師器281点、須恵器18点、瓦14点、繩文土器1点、石製品1点。そのうち土師器壊2点・須恵器壺1点・石製品1点を図示。時期 覆土や出土遺物から8世紀後半と考えられる。

H-6号住居跡 (Fig.26, PL. 6)

位置 X29、Y86~87グリッド 主軸方向 N-91°-E 形状等 長方形と推定される。東西(2.02)m、南北(2.88)m、壁現高48.0cm。面積(5.28)m² 床面 平坦な貼り床。竈 東壁南寄りに位置する。主軸方向 N-90°-E。全長99cm、最大幅105cm、焚口部幅38cm。構築材に粘土を用いる。重複 H-5と重複しており、新旧関係はH-5→本遺構 出土遺物 土師器91点、須恵器36点、瓦6点、繩文土器4点、鉄滓38g。

時期 覆土や出土遺物から9世紀前半と考えられる。

H-7号住居跡 (Fig.27-72, PL. 6-34)

位置 X26・27、Y86・87グリッド 主軸方向 N-94°-E 形状等 長方形と推定される。東西(3.42)m、南北(3.96)m、壁現高31.0cm。面積(11.75)m² 床面 平坦な貼り床。竈 東壁中央南寄りに位置する。主軸方向 N-106°-E。全長96cm、最大幅86cm、焚口部幅44cm。構築材に粘土、凝灰岩を用いる。重複 H-8と重複しており、新旧関係は本造構→H-8 出土遺物 土師器183点、須恵器74点、瓦40点、縄文土器3点、石製品1点。そのうち土師器壺2点、須恵器高台碗2点を図示。時期 覆土や出土遺物から9世紀後半と考えられる。

H-8号住居跡 (Fig.27-72, PL. 7-34)

位置 X26・27、Y86・87グリッド 主軸方向 N-90°-E 形状等 長方形と推定される。東西(3.14)m、南北(3.50)m、壁現高37.0cm。面積(9.94)m² 床面 平坦な貼り床。竈 東壁南寄りに位置する。主軸方向 N-94°-E。全長72cm、最大幅81cm、焚口部幅55cm。構築材に粘土を用いる。重複 H-7と重複しており、新旧関係はH-7→本造構 出土遺物 土師器168点、須恵器68点、瓦21点、縄文土器1点、鉄製品2点、鉄滓26.2g。そのうち土師器壺1点、須恵器壺1点、須恵器高台皿1点を図示。時期 覆土や出土遺物から9世紀中葉と考えられる。

H-9号住居跡 (Fig.28-72, PL. 7-34-42)

位置 X24・25、Y85・86グリッド 主軸方向 N-102°-E 形状等 長方形と推定される。東西2.87m、南北2.52m、壁現高36.0cm。面積(14.12)m² 床面 平坦な貼り床。竈 東壁南寄りに位置する。主軸方向 N-106°-E。全長104cm、最大幅113cm、焚口部幅63cm。構築材に粘土、凝灰岩、袖部に瓦を用いる。重複 H-10と重複しており、新旧関係はH-10→本造構 出土遺物 土師器254点、須恵器120点、瓦56点、縄文土器1点、鉄製品2点、石製品2点、綠釉陶器1点。そのうち須恵器壺2点、須恵器高台碗2点、鉄製品2点、石製品2点を図示。時期 覆土や出土遺物から9世紀後半と考えられる。

H-10号住居跡 (Fig.28-72, PL. 7-34)

位置 X24・25、Y85・86グリッド 主軸方向 N-116°-E 形状等 長方形と推定される。東西3.28m、南北4.56m、壁現高24.0cm。面積12.00m² 床面 堅緻な貼り床。竈 東壁中央南寄りに位置する。主軸方向 N-103°-E。全長113cm、最大幅108cm、焚口部幅54cm。構築材に粘土、凝灰岩を用いる。重複 H-9と重複しており、新旧関係は本造構→H-9 出土遺物 土師器186点、須恵器72点、瓦47点、縄文土器2点、鉄製品2点、石製品2点、鉄滓29.8g。そのうち土師器壺1点、土師器壺1点、須恵器壺2点、須恵器高台皿1点、瓦2点を図示。時期 覆土や出土遺物から9世紀中葉と考えられる。

H-11号住居跡 (Fig.27-73, PL. 7)

位置 X20・21、Y86・87グリッド 主軸方向 N-99°-E 形状等 長方形と推定される。東西3.26m、南北3.20m、壁現高45.0cm。面積(7.87)m² 床面 平坦な床。竈 東壁中央に位置する。主軸方向 N-102°-E。全長84cm、最大幅94cm、焚口部幅34cm。構築材に粘土を用いる。重複 W-4と重複しており、新旧関係は本造構→W-4 出土遺物 土師器114点、須恵器67点、瓦54点、縄文土器5点、鉄製品1点、鉄滓187.2g。そのうち土師器壺1点、須恵器壺1点、瓦2点を図示。時期 覆土や出土遺物から9世紀中葉と考えられる。

H-12号住居跡 (Fig.29-73, PL. 8)

位置 X20・21、Y86グリッド 主軸方向 N-89°-E 形状等 長方形と推定される。東西(3.28)m、南北(2.38)m、壁現高46.0cm。面積(6.54)m² 床面 平坦な床。竈 東壁中央南寄りに位置する。主軸方向 N-82°-E。全長128cm、最大幅82cm、焚口部幅42cm。構築材に粘土を用いる。重複 H-13と重複しており、新旧関係は本造構→H-13 出土遺物 土師器44点、須恵器25点、瓦3点、縄文土器3点、石製品1点。そのうち須恵器壊2点を図示。時期 覆土や出土遺物から9世紀代と考えられる。

H-13号住居跡 (Fig.30-73, PL. 8-34)

位置 X19・20、Y86グリッド 形状等 不明 竈 東壁に位置する。主軸方向 N-90°-E。全長194cm、最大幅196cm、焚口部幅108cm。構築材に粘土・凝灰岩、袖部に瓦を用いる。重複 H-12と重複しており、新旧関係はH-12→本造構 出土遺物 土師器51点、須恵器14点、瓦26点、そのうち土師器壊2点、須恵器高台碗2点、瓦2点を図示。時期 覆土や出土遺物から9世紀中葉～後半と考えられる。

H-14号住居跡 (Fig.29-73, PL. 8-34)

位置 X45・46、Y85・86グリッド 主軸方向 N-82°-E 形状等 長方形と推定される。東西4.86m、南北5.67m、壁現高54.0cm。面積(20.50)m² 床面 平坦な床。竈 東壁中央に位置する。主軸方向 N-90°-E。全長122cm、最大幅110cm、焚口部幅38cm。構築材に粘土を用いる。出土遺物 土師器812点、須恵器272点、瓦39点、縄文土器3点、鉄製品2点、石製品2点、鉄滓19.8g。そのうち土師器壊1点・土師器壊2点、須恵器壊3点、鉄製品1点、石製品2点を図示。時期 覆土や出土遺物から8世紀中頃～後半と考えられる。

H-15号住居跡 (Fig.25-74, PL. 8)

位置 X47・48、Y85・86グリッド 主軸方向 N-87°-E 形状等 長方形と推定される。東西(3.50)m、南北(1.88)m、壁現高32.0cm。面積(6.03)m² 床面 平坦な貼り床。重複 H-2と重複しており、新旧関係は本造構→H-2 出土遺物 土師器99点、須恵器21点、瓦17点、鉄製品1点、石製品1点。そのうち土師器壊1点、鉄製品1点を図示。時期 覆土や出土遺物から8世紀中頃から後半と考えられる。

H-16号住居跡 (Fig.30, PL.11・36)

位置 X14・15、Y86-87グリッド 主軸方向 N-86°-E 形状等 方形と推定される。東西3.94m、南北(3.12)m、壁現高40.5cm。面積(10.78)m² 床面 平坦な床。竈 東壁中央南寄りに位置する。主軸方向 N-86°-E。全長96cm、最大幅93cm、焚口部幅51cm。構築材として粘土・凝灰岩を用いる。出土遺物 土師器壊、須恵器壊、須恵器高台碗、須恵器壊、石製品など。そのうち、須恵器壊、須恵器壊を図示。時期 覆土や出土遺物から8世紀後半と考えられる。

H-17号住居跡 (Fig.31, PL.11)

位置 X12、Y86-87グリッド 主軸方向 N-84°-E 形状等 方形と推定される。東西(0.86)m、南北3.18m、壁現高16.5cm。面積(3.37)m² 床面 堅致な貼床。竈 東壁中央南寄りに位置する。主軸方向 N-84°-E。全長94cm、最大幅(70)cm、焚口部幅63cm。構築材として瓦を用いる。重複 H-18・20・23と重複しており、新旧関係はH-23→H-18→H-20→本造構 出土遺物 土師器壊、須恵器壊、瓦など。特に瓦は25点もの出土があり、完形に近い形での出土も多かった。また貯蔵穴をふさぐ形で完形に近い平瓦が見つかった。そのうち、土師器壊、須恵器壊、瓦を図示。時期 覆土や出土遺物から9世紀後半と考えられる。

H-18号住居跡 (Fig.32, PL.12)

位置 X12・13、Y87グリッド 主軸方向 不明 形状等 方形と推定される。東西(254)m、南北(0.96)m、壁現高47.0cm。面積(1.25)m² 床面 堅緻な貼り床。重複 H-17・20・23と重複しており、新旧関係はH-23→本遺構→H-20→H-17 出土遺物 須恵器高台碗など。時期 覆土からHr-FP降下以後からAs-B降下以前と考えられる。

H-19号住居跡 (Fig.31, PL.12)

位置 X12、Y85グリッド 主軸方向 N-84°-E 形状等 方形と推定される。東西(150)m、南北(1.94)m、壁現高36.0cm。面積(2.30)m² 床面 平坦な貼り床。出土遺物 土師器甕、須恵器壺、須恵器高台碗、須恵器甕、瓦など。時期 覆土からHr-FP降下以後からAs-B降下以前と考えられる。

H-20号住居跡 (Fig.32, PL.12)

位置 X12・13、Y85～87グリッド 主軸方向 N-87°-E 形状等 長方形と推定される。東西(4.44)m、南北4.9m、壁現高17.5cm。面積(10.48)m² 床面 堅緻な貼り床。竈 東壁中央南寄りに位置する。主軸方向 N-92°-E。全長(68)cm、最大幅88cm、焚口部幅60cm。重複 H-17・18・21・23・24と重複しており、新旧関係はH-24→H-18・21・23→本遺構→H-17 出土遺物 土師器壺、土師器甕、須恵器壺、須恵器高台碗、瓦など。そのうち、須恵器壺を図示。時期 覆土や出土遺物から9世紀前半と考えられる。

H-21号住居跡 (Fig.32, PL.12)

位置 X12、Y85・86グリッド 主軸方向 不明 形状等 方形と推定される。東西(18.6)m、南北(1.8)m、壁現高38.5cm。面積(2.49)m² 床面 堅緻な貼り床。重複 H-20・22と重複しており、新旧関係はH-22→本遺構→H-20 出土遺物 瓦など。時期 覆土や重複関係から8世紀代以前と考えられる。

H-22号住居跡 (Fig.32, PL.12)

位置 X12、Y85グリッド 主軸方向 不明 形状等 方形と推定される。東西(0.72)m、南北(0.38)m、壁現高36.0cm。面積(0.25)m² 床面 平坦な床。出土遺物 土師器、須恵器の小片が少數出土。重複 H-19・20・21と重複しており、新旧関係は本遺構H-21→H-19・20 出土遺物 瓦など。時期 覆土や重複完形から8世紀代以前と考えられる。

H-23号住居跡 (Fig.32, PL.12)

位置 X12・13、Y86・87グリッド 主軸方向 N-90°-E 形状等 方形と推定される。東西(2.78)m、南北3.26m、壁現高10.0cm。面積(8.27)m² 床面 堅緻な貼り床。北竈 東壁中央北寄りに位置する。主軸方向 N-84°-E。全長89cm、最大幅84cm、焚口部幅68cm。南竈 東壁中央南寄りに位置する。主軸方向 N-93°-E。全長66cm、最大幅(54)cm、焚口部幅28cm。重複 H-17・18・20・24と重複しており、新旧関係はH-24→本遺構→H-18→H-20→H-17 出土遺物 土師器壺、須恵器壺、須恵器甕など。そのうち、土師器壺を図示。時期 覆土や出土遺物から8世紀前半と考えられる。

H-24号住居跡 (Fig.32)

位置 X86・87、Y13グリッド 主軸方向 不明 形状等 不定形な床面が残るのみ。東西(1.54)m、南北(1.46)m、壁現高不明。面積(0.88)m² 床面 堅緻な貼り床。出土遺物 土師器、須恵器の小片が少數。重複

H-18・20・23と重複しており、新旧関係は本遺構→H-23→H-18→H-20 時期 覆土や重複関係から8世紀前半以前と考えられる。

(2) 穴状遺構

T-1号穴状遺構 (Fig.33-74)

位置 X47・48、Y86グリッド 主軸方向 N-87°-E 形状等 長方形と推定される。東西(2.19)m、南北(1.47)m、壁現高13.0cm。面積(2.40)m² 床面 平坦な床。出土遺物 土師器20点、須恵器8点、瓦6点。そのうち土師器壺1点を図示。時期 覆土や出土遺物から9世紀代と考えられる。

T-2号穴状遺構 (Fig.33-74、PL.35)

位置 X31・32、Y87グリッド 主軸方向 N-85°-E 形状等 長方形と推定される。東西1.83m、南北2.33m、壁現高43.0cm。面積3.32m² 床面 平坦な床。重複 W-5と重複しており、新旧関係はW-5→本遺構 出土遺物 土師器39点、須恵器36点、瓦11点。そのうち土師器壺1点、瓦2点を図示。時期 覆土や出土遺物から9世紀前半～中頃と考えられる。

T-3号穴状遺構 (Fig.33-74、PL.9-35)

位置 X30・31、Y86・87グリッド 主軸方向 N-92°-E 形状等 方形と推定される。東西3.08m、南北3.04m、壁現高17.0cm。面積(8.38)m² 床面 平坦な床。出土遺物 土師器39点、須恵器36点、瓦38点、鉄製品2点、縁輪陶器1点。そのうち土師器壺1点、須恵器高台壺1点、瓦2点を図示。時期 覆土や出土遺物から9世紀代と考えられる。

T-4号穴状遺構 (Fig.33-75)

位置 X16・17、Y88グリッド 主軸方向 N-91°-E 形状等 方形と推定される。東西3.07m、南北(2.05)m、壁現高7.0cm。面積(7.72)m² 床面 平坦な床。重複 T-5と重複しており、新旧関係はT-5→本遺構 出土遺物 須恵器壺、須恵器高台壺を図示。時期 覆土や出土遺物から10世紀後半と考えられる。

T-5号穴状遺構 (Fig.33、PL.5)

位置 X16・17、Y87・88グリッド 主軸方向 N-102°-E 形状等 長方形と推定される。東西2.54m、南北2.95m、壁現高7.0cm。面積(8.73)m² 床面 平坦な床。重複 T-4と重複しており、新旧関係は本遺構→T-4 時期 覆土や重複関係から10世紀後半以前と考えられる。

(3) 溝跡

W-1号溝跡 (Fig.34、PL.9)

位置 X40、Y84～87グリッド 主軸方向 N-5°-W 形状等 逆台形。長さ10.9m 深さ30.0cm 最大上幅80cm、最大下幅50cm 出土遺物 土師器19点、須恵器8点、瓦2点、鉄製品1点、鉄錠17.0g。時期 覆土からAs-B層以下以前と考えられる。備考 流水の痕跡無し。

W-2号溝跡 (Fig.34、PL.9)

位置 X28・29、Y85～88グリッド 主軸方向 N-2°-W 形状等 逆台形。長さ10.0m 深さ89.5cm 最

大上幅385cm、最大下幅158cm 重複 W-3と重複しており、新旧関係は本道橋→W-3 出土遺物 土師器11点、須恵器46点、瓦111点、繩文土器2点、石製品1点。このうち瓦1点を図示。 時期 覆土からAs-B降下以前と考えられる。 備考 流水の痕跡あり。

W-3号溝跡 (Fig.34-75, PL.35-42)

位置 X21~34, Y87~88グリッド 主軸方向 N-90°-E 形状等 U字形。長さ50.5m 深さ45.0cm 最大上幅245cm、最大下幅110cm 重複 W-2, O-1と重複しており、新旧関係はW-2, O-1→本道橋 出土遺物 土師器396点、須恵器182点、瓦127点、繩文土器6点、鉄製品1点、石製品7点、鉄滓18.6g。このうち土師器壺1点、須恵器円面鏡1点、陶器1点、石製品1点を図示。 時期 覆土からAs-B降下以前と考えられる。 備考 流水の痕跡無し

W-4号溝跡 (Fig.35-75)

位置 X12~21, Y87~88グリッド 主軸方向 N-92°-E 形状等 逆台形。長さ4.73m 深さ28.0cm 最大上幅54cm、最大下幅24cm 出土遺物 瓦1点。 時期 覆土からAs-B降下以前と考えられる。 備考 流水の痕跡無し。

W-5号溝跡 (Fig.35, PL.10-42)

位置 X31, Y85~87グリッド 主軸方向 N-2°-W 形状等 逆台形。長さ9.6m 深さ61.0cm 最大上幅146cm、最大下幅110cm 出土遺物 土師器18点、須恵器61点、瓦18点、鉄製品1点、石製品1点、鉄滓88.0g。そのうち石製品1点を図示。 時期 覆土からFP降下以降As-B降下以前と考えられる。 備考 流水の痕跡無し。

(4) 土坑、ピット、土坑墓、井戸跡 (Fig.33-35-36-75, PL. 8-10-12-13)

土坑、ピット、土坑墓、井戸跡については、Tab. 4 土坑、ピット、土坑墓、井戸跡計測表を参照のこと。

(5) 落ち込み

O-1号落ち込み (Fig.37-76-77, PL.10-36)

位置 X32~36, Y86~87グリッド 形状等 不定形と推定される。長軸(13.80)m、短軸(7.40)m、深さ49.0cm。 出土遺物 土師器2682点、須恵器991点、瓦46点、繩文土器2点、鉄製品2点、石製品4点、鉄滓32.4g。そのうち土師器壺18点、土師器甕1点、須恵器蓋1点、須恵器壺2点、須恵器高台碗2点、須恵器甕5点、須恵器円面鏡1点、瓦2点、鉄製品1点、石製品1点を図示。 時期 覆土や出土遺物から8世紀前半と考えられる。

(6) グリッド等出土遺物

土師器514点、須恵器283点、瓦188点、繩文土器12点、鉄製品5点、石製品3点、縄釉陶器4点、鉄滓141.5gを出土。

4区

(1) 積穴住居跡

H-1号住居跡 (Fig.38, PL.14)

位置 X25~26, Y88~89グリッド 主軸方向 N-88°-E 形状等 窪と遺物の集中を検出するのみにとど

まり不明。平面図では遺物の集中している範囲を図示。竈 東壁に位置する。主軸方向 N-85°-E。全長不明、最大幅88cm、焚口部幅46cm。構築材に瓦を用いる。重複 D-2・3と重複しており、新旧関係は本遺構→D-2・3 出土遺物 土師器壺、土師器甕、須恵器壺、須恵器高台輪、瓦、砥石など多数。そのうち土師器壺、土師器甕、須恵器壺、須恵器高台輪、石製品を図示。時期 覆土や出土遺物から9世紀前半と考えられる。

H-2号住居跡 (Fig.38, PL.14)

位置 X26・27、Y106・107グリッド 主軸方向 N-95°-E 形状等 長方形と推定される。東西(4.92)m、南北4.24m、壁現高63.0cm。面積 (18.27)m² 床面 平坦な床。竈 東壁中央南寄りに位置する。主軸方向 N-90°-E。全長90cm、最大幅100cm、焚口部幅48cm。構築材に粘土と瓦を用いる。出土遺物 土師器壺、須恵器甕、瓦など。そのうち、土師器甕を図示。時期 覆土や出土遺物から9世紀前半と考えられる。

H-3号住居跡 (Fig.39, PL.14)

位置 X27・28、Y105・106グリッド 主軸方向 N-100°-E 形状等 方形と推定される。東西(2.96)m、南北3.58m、壁現高49.5cm。面積 (8.03)m² 床面 平坦な床。重複 D-4・5・6と重複しており、新旧関係は本遺構→D-4・5・6 出土遺物 須恵器壺、須恵器甕、瓦など。時期 覆土や出土遺物から9世紀後半と考えられる。

(2) 土坑 (Fig.38・39) 土坑については、Tab. 4 土坑計測表を参照のこと。

5区

(1) 竪穴住居跡

H-1号住居跡 (Fig.40, PL.14)

位置 X58・59、Y151・152グリッド 主軸方向 N-84°-E 形状等 方形。東西3.94m、南北4.18m、壁現高75.0cm。面積 14.45m² 床面 壓縮な貼り床。重複 H-5・W-1・3と重複しており、新旧関係はH-5・W-3→本遺構→W-1 竈 東壁中央南寄りに位置する。主軸方向 N-86°-E。全長150cm、最大幅130cm、焚口部幅46cm。構築材に粘土を用いる。出土遺物 土師器壺、土師器甕、須恵器壺、須恵器高台輪、鉄製品、石製品など。そのうち土師器壺、土師器甕を図示。時期 覆土や出土遺物から8世紀後半と考えられる。

H-2号住居跡 (Fig.41, PL.15)

位置 X59、Y152・153グリッド 主軸方向 不明 形状等 方形と推定される。東西(0.68)m、南北(0.98)m、壁現高13.0cm。面積 (0.16)m² 床面 平坦な床。重複 H-4・W-1と重複しており、新旧関係は本遺構→H-4→W-1 出土遺物 土師器、須恵器の小片が少量。時期 覆土や出土遺物から7世紀後半と考えられる。

H-3号住居跡 (Fig.42, PL.15)

位置 X56・57、Y152グリッド 主軸方向 N-87°-E 形状等 方形と推定される。東西(3.98)m、南北(1.0)m、壁現高29.0cm。面積 (2.55)m² 床面 平坦な床。重複 W-1・4、D-1と重複しており、新旧関係は本遺構→D-1→W-4→W-1 出土遺物 土師器甕など。時期 覆土や重複関係から8世紀後半以前と考えられる。

H-4号住居跡 (Fig41, PL.15)

位置 X58・59, Y152・153グリッド 主軸方向 N-75°-E 形状等 方形と推定される。東西4.22m、南北(1.34)m、壁現高30.0cm。面積(3.05)m² 床面 平坦な床。重複 H-2, W-1・5と重複しており、新旧関係はH-2→本遺構→W-5→W-1 出土遺物 土師器壺など。時期 覆土や出土遺物から8世紀前半と考えられる。

H-5号住居跡 (Fig41, PL.15)

位置 X58, Y151グリッド 主軸方向 N-70°-E 形状等 方形と推定される。東西2.88m、南北(1.12)m、壁現高59.0cm。面積(1.95)m² 床面 平坦な貼り床。重複 H-1と重複しており、新旧関係は本遺構→H-1 出土遺物 土師器壺など。土師器壺を図示。時期 覆土や出土遺物から8世紀中葉と考えられる。

(3) 溝跡

W-1号溝跡 (Fig42)

位置 X56～59, Y152グリッド 主軸方向 N-87°-E 形状等 逆台形。長さ14.2m 深さ118cm 最大上幅(130)cm、最大下幅120cm 時期 覆土からAs-B降下以前と考えられる。備考 流水の痕跡無し。元餘社蓄海遺跡群(20)9区W-1号溝跡の西への延長部分となる。蓄海(20)9区W-1では多くの石が投げ込まれていたが、本遺跡では石の投げ込まれた痕跡は無かった。W-2号溝跡と重複し、新旧関係は本遺構→W-2

W-2号溝跡 (Fig42)

位置 X55・56, Y151～153グリッド 主軸方向 N-93°-E 形状等 薙研状。長さ7.6m 深さ382cm 最大上幅(440)cm、最大下幅28cm 時期 覆土からAs-B降下以降と考えられる。備考 流水の痕跡無し。本調査区の中では最も新しい遺構である。南に位置する6区でも同一の溝(6区W-2号溝跡)を検出している。崩落の危険性があったため、発掘調査では、西側部分を掘り残している。

W-3号溝跡 (Fig41)

位置 X56～58, Y150・151グリッド 主軸方向 N-74°-E 形状等 逆台形。長さ7.2m 深さ25.5cm 最大上幅73cm、最大下幅50cm 覆土からAs-B降下以前と考えられる。備考 流水の痕跡無し。

W-4号溝跡 (Fig42)

位置 X56, Y152グリッド 主軸方向 N-3°-E 形状等 U字形。長さ1.1m 深さ51.5cm 最大上幅110cm、最大下幅52cm 時期 覆土からAs-B降下以降と考えられる。備考 流水の痕跡無し。

W-5号溝跡 (PL.15)

位置 X59, Y152グリッド 主軸方向 N-3°-E 形状等 逆台形。長さ1.2m 深さ25.5cm 最大上幅52cm、最大下幅38cm 時期 覆土からAs-B降下以降と考えられる。備考 流水の痕跡無し。

(4) 土坑 (Fig42)

土坑については、Tab. 4 土坑計測表を参照のこと。

6区

(1) 穴住居跡

H-1号住居跡 (Fig.43, PL.16)

位置 X45・46、Y187・188グリッド 主軸方向 N-98°-E 形状等 長方形と推定される。東西3.28m、南北(2.34)m、壁現高51.0cm。面積(6.85)m² 床面 壓級な貼り床。竈 東壁中央南寄りに位置する。主軸方向 N-98°-E。全長118cm、最大幅106cm、焚口部幅40cm。構築材に粘土と凝灰岩を用いる。出土遺物 土師器壺、須恵器壺、須恵器甕、石製品など。そのうち、須恵器壺、須恵器高台碗、灰釉陶器高台碗、石製品を図示。時期 覆土や出土遺物から10世紀前半と考えられる。

H-4号住居跡 (Fig.43, PL.16)

位置 X46・47、Y188グリッド 主軸方向 N-97°-E 形状等 方形と推定される。東西(3.08)m、南北(3.08)m、壁現高44.5cm。面積(8.27)m² 床面 平坦な床。重複 H-6、8と重複しており、新旧関係はH-8→H-6→本遺構 出土遺物 須恵器高台碗、須恵器羽釜、菰編石。そのうち、須恵器高台碗を図示。時期 覆土や出土遺物から10世紀前半と考えられる。

(2) 穴状遺構

T-1号穴状遺構 (Fig.44)

位置 X47・48、Y86グリッド 主軸方向 N-87°-E 形状等 長方形と推定される。東西(2.19)m、南北(1.47)m、壁現高13.0cm。面積(2.40)m² 床面 平坦な床。出土遺物 土師器20点、須恵器8点、瓦6点。そのうち土師器壺1点を図示。時期 覆土や出土遺物から9世紀代と考えられる。

T-2号穴状遺構 (Fig.44)

位置 X31・32、Y87グリッド 主軸方向 N-85°-E 形状等 長方形と推定される。東西1.83m、南北2.33m、壁現高43.0cm。面積3.32m² 床面 平坦な床。重複 W-5と重複しており、新旧関係はW-5→本遺構 出土遺物 土師器39点、須恵器36点、瓦11点。そのうち土師器壺1点、瓦■点を図示。時期 覆土や出土遺物から9世紀前半～中頃と考えられる。

(3) 溝跡

W-2号溝跡 (Fig.45, PL.17)

位置 X55・56、Y151～153グリッド 主軸方向 N-93°-E 形状等 薬研状。長さ7.6m、深さ38.2cm、最大上幅(440)cm、最大下幅28cm 時期 覆土からAs-B低下以降と考えられる。備考 流水の痕跡無し。本調査区の中では最も新しい遺構である。南に位置する6区でも同一の溝(6区W-2号溝跡)を検出している。崩落の危険性があったため、発掘調査では、西側部分を掘り残している。

(3) 土坑 (Fig.45)

土坑については、Tab.4 土坑計測表を参照のこと。

7区

(1) 壁穴住居跡

H-1号住居跡 (Fig.46, PL.18)

位置 X45・46、Y187・188グリッド 主軸方向 N-98°-E 形状等 長方形と推定される。東西3.28m、南北(2.34)m、壁現高51.0cm。面積 (6.85)m² 床面 堅微な貼り床。竪 東壁中央南寄りに位置する。主軸方向 N-98°-E。全長118cm、最大幅106cm、焚口部幅40cm。構築材に粘土と凝灰岩を用いる。出土遺物 土師器壺、須恵器壺、須恵器甕、石製品など。そのうち、須恵器壺、須恵器高台椀、灰釉陶器高台椀、石製品を図示。時期 覆土や出土遺物から10世紀前半と考えられる。

H-2号住居跡 (Fig.47, PL.18)

位置 X46・47、Y188グリッド 主軸方向 N-97°-E 形状等 方形と推定される。東西(3.08)m、南北(3.08)m、壁現高44.5cm。面積 (8.27)m² 床面 平坦な床。重複 H-6、8と重複しており、新旧関係はH-8→H-6→本遺構。出土遺物 須恵器高台椀、須恵器羽釜、瓦編石。そのうち、須恵器高台椀を図示。時期 覆土や出土遺物から10世紀前半と考えられる。

H-3号住居跡 (Fig.49, PL.19)

位置 X43・44、Y188・189グリッド 主軸方向 N-95°-E 形状等 方形と推定される。東西3.54m、南北(1.94)m、壁現高45.0cm。面積 (6.05)m² 床面 堅微な貼り床。重複 H-7・11と重複しており、新旧関係はH-11→H-7→本遺構。出土遺物 土師器壺、灰釉陶器、瓦、紡錘車、猫編石など。そのうち、土師器壺、石製品を図示。時期 覆土や出土遺物から9世紀後半と考えられる。

H-4号住居跡 (Fig.47, PL.19)

位置 X43・44、Y187・188グリッド 主軸方向 N-87°-E 形状等 方形と推定される。東西3.48m、南北(1.76)m、壁現高39.5cm。面積 (6.17)m² 床面 平坦な床。竪 東壁に位置する。主軸方向 N-92°-E。全長78cm、最大幅90cm、焚口部幅78cm。構築材に粘土、瓦を用いる。出土遺物 土師器壺、土師器甕、須恵器高台皿、瓦など。土師器壺、土師器甕、須恵器高台皿、瓦を図示。時期 覆土や出土遺物から9世紀後半と考えられる。

H-5号住居跡 (Fig.48, PL.19)

位置 X41～43、Y187～189グリッド 主軸方向 N-87°-E 形状等 長方形と推定される。東西5.78m、南北(5.46)m、壁現高24.0cm。面積 (9.33)m² 床面 堅微な貼り床。竪 東壁中央南寄りに位置する。主軸方向 N-88°-E。全長186cm、最大幅106cm、焚口部幅60cm。構築材に粘土、凝灰岩を用いる。重複 H-10・12・13・15・16、I-1、D-3・4・5などと重複しており、新旧関係はH-15→本遺構→H-10→H-16→H-13→H-12→D-5→D-4→D-3→I-1。出土遺物 土師器壺、土師器甕、須恵器壺、須恵器高台椀、須恵器甕、鐵製品。そのうち、土師器甕、須恵器高台椀、石製品、鐵製品を図示。時期 覆土や出土遺物から9世紀中葉と考えられる。

H-6号住居跡 (Fig.47, PL.18)

位置 X45・46、Y188・189グリッド 主軸方向 N-86°-E 形状等 方形と推定される。東西(2.58)m、

南北 (0.84) m、壁現高74.5cm。面積 (1.86) m² 床面 平坦な床。重複 H-2・8と重複しており、新旧関係は本造構→H-8→H-2 出土遺物 石田川式土器壺など。石田川式土器壺を図示。時期 覆土や出土遺物から4世紀後半と考えられる。

H-7号住居跡 (Fig.49, PL.19)

位置 X43・44、Y188・189グリッド 主軸方向 N-86°-E 形状等 方形と推定される。東西 (2.80) m、南北 (0.84) m、壁現高74.5cm。面積 (1.86) m² 床面 堅微な貼り床。重複 H-3・11と重複しており、新旧関係はH-11→本造構→H-3 出土遺物 土師器壺、土師器壺、須恵器壺など。そのうち、土師器壺、須恵器壺を図示。時期 覆土や出土遺物から9世紀中葉と考えられる。

H-8号住居跡 (Fig.47, PL.18)

位置 X46、Y188・189グリッド 主軸方向 N-119°-E 形状等 不明。東西 (0.52) m、南北 (1.12) m、壁現高19.5cm。面積 (0.34) m² 床面 平坦な床。重複 H-3・6と重複しており、新旧関係はH-6→本造構→H-3 出土遺物 土師器壺など。土師器壺を図示。時期 覆土や出土遺物から7世紀後半と考えられる。

H-9号住居跡 (Fig.49, PL.19)

位置 X42・43、Y188・189グリッド 主軸方向 N-65°-E 形状等 方形と推定される。東西 (2.48) m、南北 (1.08) m、壁現高24.0cm。面積 (1.39) m² 床面 平坦な貼り床。重複 H-11と重複しており、新旧関係は本造構→H-11 出土遺物 土師器壺など。時期 覆土や出土遺物から7世紀後半と考えられる。

H-10号住居跡 (Fig.48, PL.19)

位置 X41・42、Y188グリッド 主軸方向 N-88°-E 形状等 長方形と推定される。東西 (5.40) m、南北 (3.62) m、壁現高27.0cm。面積 (8.98) m² 床面 堅微な貼り床。重複 H-5・12・13・15・16、I-1、D-3・4・5などと重複しており、新旧関係はH-15→H-5→本造構→H-16→H-13→H-12→D-5→D-4→D-3→I-1 出土遺物 須恵器壺、須恵器高台皿、鉄製品など。須恵器壺、須恵器高台皿、鉄製品を図示。時期 覆土や出土遺物から9世紀後半と考えられる。

H-11号住居跡 (Fig.49, PL.19)

位置 X43、Y188・189グリッド 主軸方向 N-79°-E 形状等 方形と推定される。東西 (2.46) m、南北 (2.14) m、壁現高74.0cm。面積 (4.19) m² 床面 堅微な貼り床。重複 H-3・7・9と重複しており、新旧関係はH-9→本造構→H-7→H-3 出土遺物 土師器壺、須恵器壺、灰釉陶器高台碗など。そのうち須恵器壺、須恵器高台碗、灰釉陶器高台碗を図示。時期 覆土や出土遺物から9世紀前半と考えられる。

H-12号住居跡 (Fig.48, PL.20)

位置 X41、Y187・188グリッド 主軸方向 N-87°-E 形状等 方形と推定される。東西 (0.96) m、南北 3.42m、壁現高47.0cm。面積 (0.23) m² 床面 堅微な貼り床。電 東壁中央南寄りに位置する。主軸方向 N-87°-E。全長126cm、最大幅90cm、焚口部幅36cm。構成材に粘土、凝灰岩、土器、瓦を用いる。重複 H-5・10・13・14・15・16、J D-1と重複しており、新旧関係はJ D-1→H-15→H-5→H-10→H-16→H-13・14→本造構 出土遺物 土師器壺、須恵器壺、須恵器高台碗、須恵器長頸瓶、縁付陶器後輪など。土師器壺、須恵器壺、須恵器高台碗、須恵器長頸瓶、縁付陶器後輪を図示。時期 覆土や出土遺物から9世紀

後半と考えられる。

H-13号住居跡 (Fig.48)

位置 X41、Y188・189グリッド 主軸方向 不明 形状等 方形と推定される。重複 H-5・10・12・15・16と重複しており、新旧関係はH-15→H-5→H-10→H-16→本造構・H-14→H-12 出土遺物 須恵器高台瓶、須恵器甕など。時期 覆土や重複関係から9世紀後半以前と考えられる。

H-14号住居跡 (Fig.48)

位置 X41、Y187グリッド 主軸方向 不明 形状等 不明。東西 (0.20)m、南北 (0.68)m、壁現高26.0cm。面積 (0.11)m² 床面 平坦な床。時期 覆土や重複関係から9世紀後半以前と考えられる。

H-15号住居跡 (Fig. 49)

位置 X41・42、Y187～189グリッド 主軸方向 N-85°-E 形状等 方形と推定される。東西 (4.06)m、南北4.82m、壁現高8.0cm。面積 (17.59)m² 床面 掘り方と周溝のみが残る。竈 東壁中央南寄に位置する。主軸方向 N-88°-E。全長62cm、最大幅76cm、焚口部幅46cm。重複 H-5・10・12・13・16、I-1、D-3・5などと重複しており、新旧関係は本造構→H-5→H-10→H-16→H-13→H-12→D-5→D-3→I-1 時期 覆土や重複関係から9世紀中葉以前と考えられる。

H-16号住居跡 (Fig.48)

位置 X41・42、Y188・189グリッド 主軸方向 N-83°-E 形状等 方形と推定される。東西 (1.78)m、南北 (3.46)m、壁現高6cm。面積 (0.35)m² 床面 坚密な貼床。竈 調査区内には存在しないが、調査区南側に竈の断面が僅かに確認できる。重複 H-5・10・12・13・15、I-1、D-3などと重複しており、新旧関係は本造構→H-5→H-10→H-16→H-13→H-12→D-3→I-1 時期 覆土や重複関係から9世紀後半以降と考えられる。

(2) 溝跡

W-1号溝跡 (Fig.50、PL.20)

位置 X46～48、Y187～188グリッド 主軸方向 N-85°-W 形状等 逆台形。長さ5.3m 深さ167cm 最大上幅 (430)cm、最大下幅 (150)cm 時期 覆土からAs-B降下以降と考えられる。備考 流水の痕跡無し。溝の上端に向かう傾斜の途中に階段状の部分がある。崩落の危険性があったため、発掘調査においては、東・南部分を掘り残した。

(4) 土坑、ピット、井戸跡 (Fig.13)

土坑、ピット、井戸跡については、Tab. 4 土坑、ピット、井戸跡計測表を参照のこと。

8区

(1) 積穴住居跡

H-1号住居跡 欠番

H-2号住居跡 (Fig.51、PL.21)

位置 X44・45、Y211・212グリッド 主軸方向 N-85°-E 形状等 方形と推定される。東西3.14m、南北(1.40)m、壁現高17.5cm。面積(4.16)m² 床面 堅致な貼床。竈 東壁南寄に位置する。主軸方向 N-95°-E。全長106cm、最大幅78cm、焚口部幅34cm。構築材に粘土、凝灰岩を用いる。重複 H-3・5、P-5・6と重複しており、新旧関係はH-3・5、P-5・6→本遺構 出土遺物 土師器壺、須恵器壺、須恵器壺、瓦。そのうち、須恵器小型壺、石製品を図示。時期 覆土や出土遺物から10世紀前半と考えられる。

H-3号住居跡 (Fig.52、PL.21)

位置 X44・45、Y211・212グリッド 主軸方向 N-84°-E 形状等 長方形と推定される。東西2.56m、南北3.58m、壁現高14.0cm。面積(7.02)m² 床面 堅致な貼り床。竈 東壁南寄に位置する。主軸方向 N-82°-E。全長76cm、最大幅92cm、焚口部幅48cm。構築材に粘土、凝灰岩を用いる。重複 H-2・4と重複しており、新旧関係はH-2・4→本遺構 出土遺物 土師器壺、土師器壺、須恵器壺、須恵器壺など。時期 覆土や出土遺物から9世紀前半と考えられる。

H-4号住居跡 (Fig.52、PL.22)

位置 X44・45、Y212グリッド 主軸方向 N-80°-E 形状等 方形と推定される。東西3.50m、南北(1.89)m、壁現高19.0cm。面積(4.66)m² 床面 堅致な貼床。重複 H-3と重複しており、新旧関係はH-3→本遺構 出土遺物 土師器壺、須恵器高台輪、灰釉陶器高台輪、灰釉陶器高台皿、綠釉陶器など。そのうち、土師器壺、灰釉陶器高台皿を図示。時期 覆土や出土遺物から9世紀後半と考えられる。

H-5号住居跡 (Fig.53、PL.22)

位置 X43・44、Y211・212グリッド 主軸方向 N-86°-E 形状等 長方形と推定される。東西3.46m、南北(3.38)m、壁現高21.0cm。面積(11.03)m² 床面 堅致な貼り床。竈 東壁中央南寄りに位置する。主軸方向 N-90°-E。全長72cm、最大幅98cm、焚口部幅68cm。構築材に粘土、瓦を用いる。重複 H-2・6・10、D-2、P-5・6と重複しており、新旧関係は本遺構→H-2・6・10→D-2、P-5・6 出土遺物 土師器壺、土師器壺、須恵器壺、須恵器高台輪、桃の種など。そのうち、須恵器壺、須恵器高台輪、鉄製品を図示。時期 覆土や出土遺物から9世紀後半と考えられる。

H-6号住居跡 (Fig.53、PL.22)

位置 X43、Y211グリッド 主軸方向 不明 形状等 方形と推定される。東西3.50m、南北(0.64)m、壁現高25.0cm。面積(1.98)m² 床面 平坦な床。重複 H-5と重複しており、新旧関係はH-5→本遺構 出土遺物 土師器壺、須恵器壺、須恵器壺、瓦など。時期 覆土や出土遺物から8世紀後半と考えられる。

H-7号住居跡 (Fig.54、PL.22)

位置 X41～43、Y211・212グリッド 主軸方向 N-86°-E 形状等 方形と推定される。東西3.90m、南北(3.84)m、壁現高55.0cm。床や壁が赤く焼け残れている。面積(15.52)m² 床面 堅致な貼床。竈 東壁中央南寄りに位置する。主軸方向 N-83°-E。全長256cm、最大幅182cm、焚口部幅78cm。構築材に粘土、凝灰岩を用いる。また、地山を掘り残して土としている。重複 T-1と重複しており、新旧関係はT-1→本遺構3 出土遺物 土師器壺、土師器壺、須恵器壺、須恵器高台輪など。そのうち、土師器壺、土師器壺、須恵器壺を図示。時期 覆土や出土遺物から9世紀中葉と考えられる。

H-8号住居跡 欠番

H-9号住居跡 欠番

H-10号住居跡 (Fig.53, PL.22)

位置 X43・44、Y212グリッド 主軸方向 不明 形状等 方形と推定される。東西 3.46m、南北 (1.54)m、壁現高29.5cm。面積 (4.51)m² 床面 堅緻な貼り床。重複 H-5、D-2と重複しており、新旧完形はH-5→本造構→D-2 出土遺物 土器器壺、鉄製品など。そのうち、鉄製品を図示。時期 覆土や重複關係から10世紀前半と考えられる。

(2) 穫穴状遺構

T-1号竪穴状遺構 (Fig.54・82)

位置 X42・43、Y211・212グリッド 主軸方向 N-52°-E 形状等 方形と推定される。東西 (2.25)m、南北 (2.75)m、壁現高38.0cm。面積 (3.30)m² 床面 平坦な床。時期 覆土や出土遺物から7世紀中葉と考えられる。

(3) 土坑、ピット (Fig.56)

土坑、ピットについては、Tab. 4 土坑、ピット計測表を参照のこと。

(4) 落ち込み状遺構

O-1号落ち込み状遺構 (Fig.52, PL.22)

位置 X46、Y211～212グリッド 形状等 不定形と推定される。長軸 (3.33)m、短軸 (1.01)m、深さ24.0cm。時期 覆土からAs-B降下以前と考えられる。

(5) グリッド等出土遺物

須恵器壺を図示。

9区

(1) 穫穴住居跡

H-1号住居跡 (Fig.55・83, PL.23)

位置 X45・46、Y187・188グリッド 主軸方向 N-98°-E 形状等 長方形と推定される。東西3.28m、南北 (2.34)m、壁現高51.0cm。面積 (6.85)m² 床面 堅緻な貼り床。竪穴 東壁中央寄りに位置する。主軸方向 N-98°-E。全長118cm、最大幅106cm、焚口部幅40cm。構築材に粘土と凝灰岩を用いる。出土遺物 土器器壺、須恵器壺、須恵器壺、石製品など。そのうち、須恵器壺、須恵器高台碗、灰釉陶器高台碗、石製品を図示。時期 覆土や出土遺物から10世紀前半と考えられる。

H-2号住居跡 (Fig.55・83, PL.23)

位置 X45・46、Y187・188グリッド 主軸方向 N-98°-E 形状等 長方形と推定される。東西3.28m、南

北(2.34)m、壁現高51.0cm。面積(6.85)m²床面堅緻な貼り床。竈 東壁中央南寄りに位置する。主軸方向 N-98°-E。全長118cm、最大幅106cm、焚口部幅40cm。構築材に粘土と凝灰岩を用いる。出土遺物 土師器壺、須恵器壺、須恵器甕、石製品など。そのうち、須恵器壺、須恵器高台碗、灰陶陶器高台碗、石製品を図示。時期 覆土や出土遺物から10世紀前半と考えられる。

H-3号住居跡 (Fig.56・83, PL.23)

位置 X46・47、Y188グリッド 主軸方向 N-97°-E 形状等 方形と推定される。東西(3.08)m、南北(3.08)m、壁現高44.5cm。面積(8.27)m²床面平坦な床。重複 H-6、8と重複しており、新旧関係はH-8→H-6→本造構 出土遺物 須恵器高台碗、須恵器羽釜、埴輪。そのうち、須恵器高台碗を図示。時期 覆土や出土遺物から10世紀前半と考えられる。

(3) 土坑、ピット (Fig.56・83)

土坑、ピットについては、Tab. 4 土坑、ピット計測表を参照のこと。

10A区 道路の名残と思われる堅緻面が残るのみであった。

10B区

(1) 穫穴住居跡

H-1号住居跡 (Fig.57、PL.24)

位置 X266・267、Y123・124グリッド 主軸方向 N-91°-E 形状等 長方形と推定される。東西3.94m、南北2.14m、壁現高19.0cm。面積(5.31)m²床面平坦な床。竈 東壁中央南寄りに位置する。主軸方向 N-92°-E。全長80cm、最大幅62cm、焚口部幅36cm。構築材に凝灰岩を用いる。重複 H-4と重複しており、新旧関係はH-4→本造構 出土遺物 土師器壺、土師器甕、須恵器壺、須恵器羽釜、瓦など。時期 覆土や出土遺物から10世紀後半と考えられる。

H-2号住居跡 (Fig.57・83、PL.24)

位置 X267・268、Y123・124グリッド 主軸方向 N-89°-E 形状等 方形と推定される。東西(3.40)m、南北(3.94)m、壁現高20.0cm。面積(8.76)m²床面壊乱を受けて全体的に荒らされていた。竈 東壁に位置する。主軸方向 N-87°-E。全長123cm、最大幅122cm、焚口部幅42cm。構築材に粘土、川原石、土器を用いる。重複 H-7・9・10、D-1、D-B-1と重複しており、新旧関係はD-1→H-10→本造構→H-9→H-7→D-B-1 出土遺物 須恵器壺、須恵器高台碗、須恵器羽釜など。そのうち、須恵器小型壺、須恵器高台碗、須恵器羽釜を図示。時期 覆土や出土遺物から11世紀前半と考えられる。

H-3号住居跡 (Fig.59・83、PL.25)

位置 X268・269、Y123グリッド 主軸方向 N-95°-E 形状等 方形と推定される。東西3.74m、南北(2.64)m、壁現高21.5cm。面積(7.95)m²床面堅緻な貼り床。竈 東壁に位置する。主軸方向 N-93°-E。全長100cm、最大幅88cm、焚口部幅30cm。構築材に粘土、凝灰岩を用いる。重複 H-5、D-B-1と重複しており、新旧関係はH-5→本造構→D-B-1 出土遺物 須恵器壺、瓦など。そのうち、須恵器壺、須恵器小型壺、坪体を図示。時期 覆土や出土遺物から11世紀前半と考えられる。

H-4号住居跡 (Fig.57・84、PL.25)

位置 X266・267、Y123グリッド 主軸方向 N-86°-E 形状等 方形と推定される。東西2.48m、南北(1.72)m、壁現高16.5cm。面積(1.15)m² 床面 平坦な床。竈 東壁に位置する。主軸方向 N-88°-E。全長36cm、最大幅(36)cm、焚口部幅(28)cm。重複 H-1と重複しており、新旧関係は本遺構→H-1 出土遺物 土師器土釜、瓦など。土師器土釜を図示。時期 覆土や出土遺物から10世紀前半と考えられる。

H-5号住居跡 (Fig.59・85、PL.25)

位置 X268・269、Y123グリッド 主軸方向 N-92°-E 形状等 長方形と推定される。東西(4.10)m、南北(4.06)m、壁現高16.0cm。面積(16.12)m² 床面 坚硬な貼床。竈 調査区内には存在しないが、調査区南壁に擾乱によって削り取られ、残っている部分が見える。重複 H-3・10、D-1、DB-1と重複しており、新旧関係はD-1→H-10→本遺構→H-3→DB-1 出土遺物 土師器壺、須恵器壺、須恵器羽釜など。そのうち、須恵器羽釜を図示。時期 覆土や出土遺物から10世紀後半と考えられる。

H-6号住居跡 (Fig.57・85、PL.25)

位置 X270、Y123グリッド 主軸方向 N-92°-E 形状等 方形と推定される。東西3.42m、南北(3.18)m、壁現高26.0cm。面積(9.70)m² 床面 坚硬な貼床。重複 H-8と重複しており、新旧関係は本遺構→H-8 出土遺物 土師器壺、灰釉陶器高台皿。灰釉陶器高台皿を図示。時期 覆土や出土遺物、重複関係から10世紀後半と考えられる。

H-7号住居跡 (Fig.58・84、PL.26)

位置 X267・268、Y123グリッド 主軸方向 N-79°-E 形状等 方形と推定される。東西(1.42)m、南北(1.42)m、壁現高計測不能。面積(2.20)m² 床面 坚硬な貼り床。竈 南東隅に位置する。主軸方向 N-124°-E。全長98cm、最大幅78cm、焚口部幅40cm。構築材に粘土、凝灰岩を用いる。重複 H-2・9と重複しており、新旧関係はH-9→H-2→本遺構 出土遺物 須恵器壺、須恵器高台皿など。須恵器壺、須恵器高台皿を図示。時期 覆土や出土遺物から11世紀後半と考えられる。

H-8号住居跡 (Fig.59・85、PL.26)

位置 X270・271、Y123グリッド 主軸方向 N-82°-E 形状等 方形と推定される。東西(2.56)m、南北(1.46)m、壁現高24.5cm。面積(2.68)m² 床面 平坦な床。竈 南東隅に位置する。主軸方向 N-120°-E。全長84cm、最大幅70cm、焚口部幅36cm。構築材に凝灰岩、瓦を用いる。重複 H-6と重複しており、新旧関係は本遺構→H-6 出土遺物 土師器土釜、須恵器高台碗、瓦など。土師器土釜、須恵器高台碗、瓦を図示。時期 覆土や出土遺物、重複関係から10世紀前半と考えられる。

H-9号住居跡 (Fig.59、PL.26)

位置 X268、Y123グリッド 主軸方向 不明 形状等 方形と推定される。東西(2.20)m、南北(1.30)m、壁現高21.0cm。面積(2.35)m² 床面 平坦な床。重複 H-2・7と重複しており、新旧関係はH-2→本遺構→H-7 出土遺物 須恵器壺など。時期 覆土や出土遺物、重複関係から11世紀中葉と考えられる。

H-10号住居跡 (Fig.59・85、PL.25)

位置 X268、Y123・124グリッド 主軸方向 不明 形状等 不明。東西(0.88)m、南北(1.48)m、壁現高

計測不能。面積 (0.67)m² 床面 堅緻な貼床。重複 H-2・5、D-1、DB-1と重複しており、新旧完形はD-1→本遺構→H-2・5→DB-1 出土遺物 土師器鉢形土器?。時期 覆土や重複関係から11世紀前半以前と考えられる。

(4) 土坑、ピット、土坑墓 (Fig.85)

土坑、ピット、土坑墓については、Tab. 4 土坑、ピット、土坑墓計測表を参照のこと。

11区

(1) 穫穴住居跡

H-1号住居跡 (Fig.60・85, PL.27)

位置 X274、Y130グリッド 主軸方向 N-75°-E 形状等 方形と推定される。東西 (0.54)m、南北2.42m、壁現高37.5cm。面積 (0.56)m² 床面 平坦な床面。竈 南東隅に位置する。主軸方向 N-134°-E。全長 (95)cm、最大幅 (38)cm、焚口部幅 (14)cm。構築材として粘土を用いる。出土遺物 土師器、須恵器の小片が少數。時期 覆土や出土遺物から11世紀代と考えられる。

H-2号住居跡 (Fig.60・85, PL.27)

位置 X275・276、Y127・128グリッド 主軸方向 N-76°-E 形状等 長方形と推定される。東西 (4.00)m、南北3.00m、壁現高29.5cm。面積 (10.14)m² 床面 堅緻な貼床。重複 H-7と重複しており、新旧関係はH-7→本遺構 出土遺物 須恵器壊、埴輪など。そのうち、須恵器小型壊を図示。時期 覆土や出土遺物、重複関係から11世紀後半と考えられる。

H-3号住居跡 (Fig.61・85, PL.27)

位置 X274・275、Y128・129グリッド 主軸方向 N-112°-E 形状等 方形と推定される。東西 (3.60)m、南北4.40m、壁現高49.0cm。面積 (11.07)m² 床面 堅緻な貼床。竈 南東隅に位置する。主軸方向 N-143°-E。全長124cm、最大幅90cm、焚口部幅48cm。構築材に粘土を用いる。重複 H-4・5・6、D-1と重複しており、新旧関係はH-6→H-5→H-4→本遺構→D-1 出土遺物 土師器壘、須恵器高台碗、鉄製品、石製品など。須恵器小型壊、石製品、鐵製品を図示。時期 覆土や出土遺物、重複関係から11世紀後半と考えられる。

H-4号住居跡 (Fig.61・85, PL.27)

位置 X274・275、Y128・129グリッド 主軸方向 N-96°-E 形状等 方形と推定される。東西 (2.40)m、南北 (3.30)m、壁現高120cm。面積 (3.46)m² 床面 堅緻な貼床。竈 東壁中央南寄に位置する。主軸方向 N-125°-E。全長106cm、最大幅69cm、焚口部幅60cm。構築材に粘土、凝灰岩を用いる。重複 H-3・5と重複しており、新旧関係はH-5→本遺構→H-3 出土遺物 土師器壊、土師器壘、須恵器高台碗、須恵器羽釜など。そのうち、須恵器壊、須恵器高台碗、須恵器羽釜を図示。時期 覆土や出土遺物、重複関係から11世紀前半と考えられる。

H-5号住居跡 (Fig.61・85, PL.28)

位置 X275、Y128・129グリッド 主軸方向 N-97°-E 形状等 方形と推定される。東西 (0.90)m、南北

(0.50)m、壁現高37.0cm。面積 (2.34)m² 床面 平坦な床。竈 南東隅に位置する。主軸方向 計測不能。全長125cm、最大幅 (36)cm、焚口部幅 (15)cm。構築材に粘土を用いる。重複 H-3・4と重複しており、新旧関係は本遺構→H-4→H-3 出土遺物 土師器壺、須恵器羽釜。そのうち、須恵器羽釜を図示。時期 覆土や出土遺物、重複関係から10世紀後半と考えられる。

H-6号住居跡 (Fig.85, PL.28)

位置 X274・275, Y127・128グリッド 主軸方向 N-79°-E 形状等 方形と推定される。東西 (1.72)m、南北 (3.06)m、壁現高25.0cm。面積 (3.31)m² 床面 堅継な貼床。重複 H-3・7と重複しており、新旧関係はH-7→本遺構→H-3 出土遺物 須恵器壺など。時期 覆土や出土遺物から11世紀後半と考えられる。

H-7号住居跡 (Fig.60・85, PL.28)

位置 X274・275, Y127・128グリッド 主軸方向 N-94°-E 形状等 方形と推定される。東西 (2.30)m、南北 (2.96)m、壁現高6.0cm。面積 (4.03)m² 床面 堅継な貼り床。竈 南東隅に位置する。主軸方向 N-146°-E。全長105cm、最大幅60cm、焚口部幅43cm。構築材として、両袖に瓦石、縦道に土蓋、粘土を使用する。重複 H-2・6と重複しており、新旧関係は本遺構→H-2・6 出土遺物 土師器土釜、須恵器高台輪、須恵器壺、石製品、瓦など。そのうち、土師器土釜を図示。時期 覆土や出土遺物から11世紀前半と考えられる。

(2) 土坑、井戸跡 (Fig.85)

土坑、井戸跡については、Tab. 4 土坑、井戸跡計測表を参照のこと。

(3) グリッド等出土遺物 (Fig.86, PL.41)

須恵器小型壺を図示。

12区

遺構の検出無し。土師器7点、須恵器1点、繩文土器1点を出土。

13区

(1) 竪穴住居跡

H-1号住居跡 (Fig.30, PL.29)

位置 X112・113, Y141グリッド 主軸方向 N-91°-E 形状等 長方形と推定される。東西3.51m、南北 (2.83)m、壁現高27cm。面積 (9.95)m² 床面 平坦な床面。竈 東壁中央に位置する。主軸方向 N-87°-E。全長100cm、最大幅90cm、焚口部幅46cm。構築材として粘土を用いる。時期 覆土から9世紀代と考えられる。

(2) グリッド等出土遺物

土師器48点、須恵器13点を出土。

Tab.5 純文・弥生土器觀察表

縄文土器觀察表

番号	出土遺物 名	器種名	(1)口往 (2)底深	(3)器高 (4)色調	1)胎土 2)施成 3)色調	器種の特徴・形態・調整技術	登録 番号	備考
1	7区 JD-1	深鉢	(1)- (2)-	(3)- (4)-	①中段 ②赤褐	手口傳。内面には焼きが施される。半軽竹管により矢羽状モチーフを施し、下位に施した平行沈縫を施す。		黒浜式並行
2	7区 II-5	深鉢	(1)- (2)-	(3)- (4)-	①中段 ②黄褐色	半軽竹管により矢羽状モチーフを施す。		黒浜式並行
3	7区 JD-1'	深鉢	(1)- (2)-	(3)- (4)-	①中段 ②赤褐	手口傳。内面には焼きが施される。半軽竹管により矢羽状モチーフを施し、下位に施した平行沈縫を施す。		黒浜式並行
4	S8	深鉢	(1)- (2)-	(3)- (4)-	①深鉢 ②赤褐 ③褐	作陶。平行式底で胎子目状の文様を施す。下位には連続系波文が模様に施る。		縦継式
5	7区 H-2	深鉢	(1)- (2)-	(3)- (4)-	①中段 ②良好 ③明黄褐色	波状口傳。口唇部は平行で胎子目文を施す。底面部は半軽竹管の押拌による山形状のモチーフを施す。		黒浜式並行
6	6区	深鉢	(1)- (2)-	(3)- (4)-	①中段 ②赤褐 ③褐	波状口傳。口唇部はやや内反し、側面で彎曲する。深鉢の部分は波を施し、底部には斜位集合洗縫を施す。		縦継b式
7	7区 II-3	深鉢	(1)- (2)-	(3)- (4)-	①中段 ②良好 ③褐	波状口傳。口唇部はやや内反し、側面で彎曲する。深鉢の部分は波を施し、底部には斜位集合洗縫を施す。		縦継b式
8	5区 W-2	深鉢	(1)- (2)-	(3)- (4)-	①中段 ②良好 ③明黄褐色	瓶状口傳。半軽竹管による平行式底で胎子目状文を施す。底部には斜位集合洗縫を施す。		縦継b式
9	5区 W-2	深鉢	(1)- (2)-	(3)- (4)-	①中段 ②良好 ③褐	作陶。底部は半軽竹管による平行式底で胎子目状文を施す。		縦継b式
10	7区	深鉢	(1)- (2)-	(3)- (4)-	①中段 ②良好 ③明赤褐	作陶。半軽竹管による平行式底で胎子目状文を施す。		縦継b式
11	右区	深鉢	(1)- (2)-	(3)- (4)-	①中段 ②良好 ③褐	体部破片。斜位の集合化洗縫を巡らす。斜位の半軽竹管で胎子目状のモチーフを施す。		縦継c式
12	5区 W-2	深鉢	(1)- (2)-	(3)- (4)-	①中段 ②良好 ③明黄褐色	底部から休鉢。休鉢は直立する。半軽竹管による平行沈縫を地文とし、ボタン状添付文を施す。		縦継c式
13	6区	深鉢	(1)- (2)-	(3)- (4)-	①深鉢 ②良好 ③にせい黄褐色	体部破片。深鉢の集合化洗縫を配し、底面上にボタン状添付文を施す。		縦継c式
14	7区 JD-1	深鉢	(1)- (2)-	(3)- (4)-	①中段 ②良好 ③暗赤褐	底部、斜位の集合化洗縫を施し、休鉢底とボタン状添付文を配す。		縦継c式
15	7区 JD-1	深鉢	(1)- (2)-	(3)- (4)-	①中段 ②良好 ③にせい赤褐色	手口傳。内面は肥厚する。口唇部は斜位により四凹に覆す。口唇部に移動板による胎子目文が施され、側面にボタン状添付文が施される。内面肥厚部は斜位板が施された後、添付文が施される。		縦継c式
16	5区 T-2	深鉢	(1)- (2)-	(3)- (4)-	①中段 ②良好 ③明赤褐	口縁部破片。内面は肥厚する。口縁部に2列一組の大筋の突起状添付文を配し、斜位底上に添付文を施す。それぞれの添付文は内面にまで加えられる。地文は斜位の施した洗縫。		縦継c式
17	5区	深鉢	(1)- (2)-	(3)- (4)-	①中段 ②良好 ③明赤褐	作陶。炎紋によるロッキングを施す。		齊津式
18	5区 H-2	深鉢	(1)- (2)-	(3)- (4)-	①中段 ②良好 ③灰褐	作陶。炎紋によるロッキングを施す。		齊津式
19	5区	深鉢	(1)- (2)-	(3)- (4)-	①深鉢 ②良好 ③明黄褐色	瓶状口傳か。口唇部は平底。口唇部は半軽竹管による3列の結跡薄縫が施される。結跡薄縫により斜位のモチーフが施用される。		下島式、花鳥山式?
20	5区	深鉢	(1)- (2)-	(3)- (4)-	①中段 ②良好 ③褐	作陶。地文は斜位の平行沈縫。半軽竹管による結跡薄縫文で曲線的なモチーフを施す。		下島式、花鳥山式?
21	5区	深鉢	(1)- (2)-	(3)- (4)-	①深鉢 ②良好 ③にせい黄褐色	瓶状口傳か。口唇部は平底。地文は平行沈縫。半軽竹管による結跡薄縫文で斜位を施す。		下島式、花鳥山式?
22	6区	深鉢	(1)- (2)-	(3)- (4)-	①中段 ②良好 ③褐	休鉢。炎紋に斜位の集合化洗縫。半軽竹管による胎子目文が斜位に配す。		下島式、花鳥山式?
23	5区 II-1	深鉢	(1)- (2)-	(3)- (4)-	①深鉢 ②良好 ③褐	休鉢。地文は斜位の集合化洗縫。半軽竹管による結跡薄縫文で曲線的なモチーフを施す。		下島式、花鳥山式?
24	6区	深鉢	(1)- (2)-	(3)- (4)-	①深鉢 ②良好 ③灰褐	休鉢部。地文は斜位の集合化洗縫。半軽竹管による3列の結跡薄縫文を斜位に配す。小鉢のボタン状添付文を集合化洗縫上に施す。		下島式、花鳥山式?
25	6区 H-2	深鉢	(1)- (2)-	(3)- (4)-	①深鉢 ②良好 ③灰褐	口縁部。口縁部に斜位に添付文を施す。口縁部、休鉢に炎紋薄縫文が施される。		直糊式
26	5区	深鉢	(1)- (2)-	(3)- (4)-	①深鉢 ②良好 ③灰褐	作陶。地文は斜位の集合化洗縫。半軽竹管による結跡薄縫文が斜位に施される。		下島式、花鳥山式?
27	6区	深鉢	(1)- (2)-	(3)- (4)-	①深鉢 ②良好 ③灰褐	口縁部破片。口唇部は若干肥厚する。半軽竹管による平行沈縫で菱形のモチーフを施す。		前隈式
28	6区 JD-1	深鉢	(1)- (2)-	(3)- (4)-	①中段 ②良好 ③にせい赤褐色	作陶。地文は斜位の集合化洗縫。移動底土を斜位後傾斜の洗縫を施す。斜位文から半軽竹管による3列の結跡薄縫文が斜位に施生ずる。		下島式、花鳥山式?
29	7区	深鉢	(1)- (2)-	(3)- (4)-	①中段 ②良好 ③にせい黃褐色	休鉢。爪痕剥落を持つ平行沈縫で木の葉文を描出す。		縦継b式並行
30	7区 II-3	深鉢	(1)- (2)-	(3)- (4)-	①深鉢 ②良好 ③にせい黃褐色	作陶。半軽竹管による平行沈縫で匣面文を構成し、沈縫に沿って斜位底土を施す。匣面内には灰塗。		齊津式
31	6区	深鉢	(1)- (2)-	(3)- (4)-	①深鉢 ②良好 ③灰褐	口縁部は平底であり内面に口唇剥落による横位の窓みが観られる。口唇部から斜位内のモチーフを施す。窓みは焼く前の「JEL」直寫。		縦継c式並行
32	5区	深鉢	(1)- (2)-	(3)- (4)-	①深鉢 ②良好 ③明黄褐色	作陶。斜位化洗縫で休鉢部を区画し、匣面内は洗縫による捺印文で構成される。休鉢は口縁部より口唇部文様を区画する。		加曾利Ⅱ式 古墳時代
33	7区 H-5	深鉢	(1)- (2)-	(3)- (4)-	①深鉢 ②良好 ③赤褐	瓶状口傳か。休鉢は口縁部より口唇部文様を区画し、匣面内は交叉剥離文が施される。休鉢は洗縫により文様が描出される。		加曾利Ⅰ式 古墳時代

番号	出土遺物 部位	器種名	①口径 ②容積 ③重量	①胎土 ②焼成 ③色調	器種の特徴・変形・調整技術	登錄 番号	備考
34	4区 II-2	深鉢	①1— ②— ③—	①細粒 ②良好 ③黄褐色	体底。3本の沈棒が壓下する。縁文はR.L.純文。		加曾利E式
35	6区	深鉢	①— ②— ③—	①細粒 ②良好 ③明褐色	底部破片。壓下する2本の沈棒により外縁文縫合帯は圧密される。北縁 角は崩れ消される。縁文はR.L.純文。		加曾利E式
36	5区 W-2	深鉢	①1— ②— ③—	①中粒 ②良好 ③難	口縁部。壓下する2本の沈棒により口縁部文縫合帯を圧密する。		加曾利E式
37	8区 II-8	深鉢	①1— ②— ③—	①細粒 ②良好 ③明黄褐色	各部。底面により桃円形		加曾利E式

弥生土器観察表

番号	出土遺物 部位	器種名	①口径 ②容積 ③重量	①胎土 ②焼成 ③色調	器種の特徴・変形・調整技術	登錄 番号	備考
1	7区 X46Y12B	壺	①— ②— ③—	①細粒 ②良好 ③灰褐色	口縁部破片。荷接部状文。口羽部は崩みが施される。		
2	100区 H-5	壺	①— ②— ③—	①細粒 ②良好 ③黄褐色	器種強状文。		

Tab. 6 古墳・奈良・平安時代出土土器観察表
1区

番号	出土遺物 場所	器種名	①CH ②形状 ③用途				④始 ⑤歴史 ⑥表面 ⑦構成	器種の特徴・要部・調査技術	登録 番号	備考
			①	②	③	④				
1-1	H-2 床直	土器器 壺	①18.1 ②-	③4.3 ④-	⑤細粒 ⑥はがき形	⑦良好	⑧陶成 ⑨表面	口縁部：外筋、内外面被施で、交換点に複数。底部：平底気味、内面施で、内面施削り。	268	
1-2	H-2 床直	土器器 壺	①14.5 ②-	③16.0 ④-	⑤細粒 ⑥はがき形	⑦良好	⑧陶成 ⑨表面	口縁部：直立丸味からやや外反、内外面被施で、削部中身に膨らみがある。器最大径となる。内面施で、外筋施方角削り。底部：平底、内面施で、外筋施削り。	27	内面に付着物
1-3	H-2 直土	土器器 壺	①21.0 ②-	③2.3 ④-	⑤細粒 ⑥はがき形	⑦良好	⑧陶成 ⑨表面	口縁部：やや直立気味から外反、内外面被施で。底部上段：膨らみがある。内面施で、外筋方向施削り。底部：欠損。	14	
1-4	H-2 直土	土器器 壺	①19.0 ②-	③27.3 ④-	⑤細粒 ⑥はがき形	⑦良好	⑧陶成 ⑨表面	口縁部：やや直立気味から外反、内外面被施で。底部上段：膨らみがある。内面施で、外筋方向施削り。底部：欠損。	3168	
1-5	H-2 直土	土器器 壺	①17.9 ②-	③7.0 ④-	⑤細粒 ⑥はがき形	⑦良好	⑧陶成 ⑨表面	口縁部：直立丸味から外反、内外面被施で。底部上段：膨らみがある。内面施で、外筋方向施削り。天井部：水平から緩やかに斜向、直り有り。外筋端部削り。底辺3cmの横状の溝有り。内面被施有り。燃焼跡等付いた所と思われる痕跡部に口縁部破損があり、アスファルト状物質と見付かる。	26	内面に付着物
1-6	H-2 直土	土器器 壺	①16.6 ②-	③2.5 ④-	⑤細粒 ⑥はがき形	⑦良好	⑧陶成 ⑨表面	口縁部：直立丸味から外反、内外面被施で。底部上段：膨らみがある。内面施で、外筋方向施削り。天井部：水平から緩やかに斜向、直り有り。外筋端部削り。斜状の横状の溝有り。内面被施有り。	27	
1-7	H-2 直土	土器器 壺	①22.6 ②7.6	③2.7 ④-	⑤細粒 ⑥はがき形	⑦良好	⑧陶成 ⑨表面	口縁部：口縁・体部：外筋、内外面被施で。底部：内面被施で、外筋端部削り調整。底部に「十」の捺印と墨書き文字「大鏡」有り。範囲は墨書きの跡と思われる。裏面に使用が考えられる。底部から側面方向へ考慮される。	1	捺印記述既見 者文字
1-8	H-2 直土	土器器 壺	①13.1 ②6.0	③3.6 ④-	⑤細粒 ⑥はがき形	⑦良好	⑧陶成 ⑨表面	口縁部：直立丸味から外反、内外面被施で。底部：内面被施で、外筋端部削り。底部に墨書き文字「少」有り。底部の横状から想定がされたことが考えられる。底部から側面方向へ考慮される。		
1-9	H-4 直土	土器器 壺	①12.6 ②9.5	③2.6 ④-	⑤細粒 ⑥はがき形	⑦良好	⑧陶成 ⑨表面	口縁部：外筋、内外面被施で。底部：平底気味、内面施で、外筋上段削り。下位倒削り。	1	
1-10	H-4 直土	土器器 壺	①20.2 ②-	③25.3 ④-	⑤細粒 ⑥はがき形	⑦良好	⑧陶成 ⑨表面	口縁部：やや直立気味から外反、内外面被施で。底部上段：内面施で、外筋上位削り向削り。中段やや上段で器壁大径、中下位内筋施で、外筋斜削り。底部：欠損。	128	
1-11	H-4 直土	土器器 壺	①13.1 ②8.0	③2.4 ④-	⑤細粒 ⑥はがき形	⑦良好	⑧陶成 ⑨表面	口縁部：直立丸味から外反、内外面被施で。底部：内面被施で、外筋端部削り。底部に墨書き文字「大鏡」有り。	30板	
1-12	H-4 直土	土器器 壺	①14.3 ②8.2	③2.6 ④-	⑤細粒 ⑥はがき形	⑦良好	⑧陶成 ⑨表面	口縁部：直立丸味から外反、内外面被施で。底部：内面被施で、外筋端部削り後削面四角形の高台を取り付け。	14	焼成粘泥成 形
1-13	H-5 直土	土器器 壺	①12.3 ②-	③2.6 ④-	⑤細粒 ⑥はがき形	⑦良好	⑧陶成 ⑨表面	口縁部：やや内傾、内外面被施で。底部：丸底、内面施で、外筋削り削り。	77板	
1-14	H-5 直土	土器器 壺	①13.3 ②-	③2.5 ④-	⑤細粒 ⑥はがき形	⑦良好	⑧陶成 ⑨表面	口縁部：横く直立気味、内外面被施で。底部：丸底、内面施で、外筋削り削り。	101	
1-15	H-5 直土	土器器 壺	①11.0 ②-	③2.7 ④-	⑤細粒 ⑥はがき形	⑦良好	⑧陶成 ⑨表面	口縁部：横く直立しやや内傾、内外面被施で。底部：やや丸底、内面施で、碎削りあり。外筋削り削り。		
1-16	H-5 直土	土器器 壺	①20.0 ②-	③11.5 ④-	⑤細粒 ⑥はがき形	⑦良好	⑧陶成 ⑨表面	口縁部：やや直立しやや内傾、内外面被施で。底部上位で器壁大径、内面施で、外筋上位削り向削り。底部：欠損。	936 カット	
j-17	H-5 直土	土器器 壺	①17.0 ②-	③2.3 ④-	⑤細粒 ⑥はがき形	⑦良好	⑧陶成 ⑨表面	口縁部：やや内傾、内外面被施で。底部：丸底、内面施で、外筋削り削り。底盤：空耳。	108	
1-18	H-5 直土	土器器 壺	①11.0 ②-	③2.0 ④-	⑤細粒 ⑥はがき形	⑦良好	⑧陶成 ⑨表面	口縁部：大井部：やや丸みを待ちながら斜向、内面施で、外筋削り削り。底部：内面被施で。	33	
1-19	H-5 直土	土器器 壺	①13.0 ②-	③2.4 ④-	⑤細粒 ⑥はがき形	⑦良好	⑧陶成 ⑨表面	口縁部：直立丸味から外反、内外面被施で。底部：内面被施で、外筋削り削り未調査。	95	
1-20	H-5 直土	土器器 壺	①11.6 ②-	③2.7 ④-	⑤細粒 ⑥はがき形	⑦良好	⑧陶成 ⑨表面	口縁部：直立丸味から外反、内外面被施で。底部：内面被施で、外筋削り削り未調査。	94	
1-21	H-5 直土	土器器 壺	①13.8 ②-	③2.8 ④-	⑤細粒 ⑥はがき形	⑦良好	⑧陶成 ⑨表面	口縁部：横く直立気味で、底部：内面被施で、外筋削り削り。外筋端部削り。底部：内面被施で、底盤は丸底。	23板	
1-22	H-5 直土	土器器 壺	①-	③(5.5)	⑤細粒 ⑥はがき形	⑦良好	⑧陶成 ⑨表面	口縁部：欠損。底部：内面被施で、外筋削り削り後、削部上位仕上げ。外筋端部削り後、削部上位仕上げ。底部：内面被施で、外筋削り削り未調査。	109	
1-23	H-7 直土	土器器 壺	①14.0 ②-	③12.0 ④-	⑤細粒 ⑥はがき形	⑦良好	⑧陶成 ⑨表面	口縁部：やや直立気味から外反、内外面被施で。底部：内面被施で、外筋削り削り未調査。	33.27	
1-24	H-7 直土	土器器 壺	①14.4 ②-	③2.6 ④-	⑤細粒 ⑥はがき形	⑦良好	⑧陶成 ⑨表面	口縁部：直立丸味から外反、内外面被施で。底部：内面被施で、外筋削り削り未調査。	17板	
1-25	H-8 直土	土器器 壺	①16.0 ②-	③2.1 ④-	⑤細粒 ⑥はがき形	⑦良好	⑧陶成 ⑨表面	口縁部：直立丸味から外反、内外面被施で。底部：内面被施で、外筋削り削り未調査。		
1-26	H-8 直土	土器器 壺	①18.4 ②-	③1.9 ④-	⑤細粒 ⑥はがき形	⑦良好	⑧陶成 ⑨表面	口縁部：直立丸味から外反、内外面被施で。底部：内面被施で、外筋削り削り未調査。		
1-27	H-8 直土	土器器 壺	①11.4 ②-	③2.8 ④-	⑤細粒 ⑥はがき形	⑦良好	⑧陶成 ⑨表面	口縁部：直立丸味から外反、内外面被施で。底部：内面被施で、外筋削り削り未調査。		
1-28	H-8 直土	土器器 壺	①18.0 ②-	③2.0 ④-	⑤細粒 ⑥はがき形	⑦良好	⑧陶成 ⑨表面	口縁部：直立丸味から外反、内外面被施で。底部：内面被施で、外筋削り削り未調査。	2	
1-29	H-8 直土	土器器 壺	①17.6 ②-	③4.6 ④-	⑤細粒 ⑥はがき形	⑦良好	⑧陶成 ⑨表面	口縁部：直立丸味から外反、内外面被施で。底部：内面被施で、外筋削り削り未調査。		

番号	出土遺物 部位	器種名	①口径 ②底高 ③底径	④胎土 ⑤色調 ⑥造形	⑦地紋 ⑧底面 ⑨造形度	器種の特徴・性状・調整技術	登録 番号	備考
1-30	H- 9 床底	須恵器 高台瓶	①14.8 ②3.7	③6.2 ④灰白	⑤織部 ⑥良好 ⑦3/4	輪縁整形。口縁・全体：やや邵らみをもたらす外縁。口縁輪縁外反。内外面横模様で。底部：内面横模様で、外周斜削系切り抜頭部底内角の高台を散り付け。	12	輪化輪底底
1-31	H- 9 床底	須恵器 高台瓶	①14.0 ②3.7	③4.9 ④灰白	⑤織部 ⑥良好 ⑦3/4	輪縁整形。口縁・全体：外縁、口縁部やや外反。内外面横模様で、内面に油付着。底部：内面横模様で、外周斜削系切り抜頭部二角形の高台を散り付け。	14	輪化輪底底
1-32	H- 10 埋土 环	土師器 环	①17.4 ②9.8	③6.0 ④灰白	⑤織部 ⑥良好 ⑦1/4	口縁部：外縁から鋭く直立。内外面横模様で。全体：内面側で後抜削状の縦文を残す。外周側で後削り。底部：平底。内面側で、外周側削り。	15	等文
1-33	H- 10 埋土 环	土師器 环	①23.2 ②-	③6.9 ④灰白	⑤織部 ⑥良好 ⑦3/4	口縁部：外縁から鋭く直立。内外面横模様で。底部：底立ちがより器底大径。内面側で、外周側方削り削り。底部：丸底。		
1-34	H- 10 埋土 环	土師器 环	①-	③4.1 ④8.6	⑤織部 ⑥良好 ⑦3/4	輪縁整形。口縁・底脚久弧。底部：外周斜削模様で、外周斜削系切り抜頭部取り付け。全体：外縁から外反・高い、内面側削り。断面は二角形。		輪化輪底底
1-35	H- 10 埋土 环	須恵器 环	①14.4 ②9.4	③6.8 ④灰白	⑤織部 ⑥良好 ⑦3/4	輪縁整形。口縁・底脚久弧。底部：外周斜削模様で、外周斜削系切り抜頭部取り付け。全体：外縁から外反・高い、内面側削り。断面は二角形。	5	
1-36	H- 10 埋土 环	須恵器 环	①16.0 ②13.2	③4.9 ④灰白	⑤織部 ⑥良好 ⑦3/4	輪縁整形。口縁部：鋭く直立。内外面横模様で。底部：大きさ邵らみ中段や下で変形する。外周斜削模様で。底部：後削り切り付。断面四角形の両端を削る。上井田特殊有機質粘土。		上井田特殊有 机质粘土
1-37	H- 11 床底	土師器 环	①11.8 ②-	③3.7 ④灰白	⑤織部 ⑥良好 ⑦3/4	口縁部：鋭く直立。内外面横模様で。底部：丸底。内面側で、油付付着。全体と想われる絞状の跡跡有り。外周側削り。	7	内面横模様 之の器粗筋跡
1-38	H- 11 床底	土師器 环	①23.2 ②-	③6.8 ④灰白	⑤織部 ⑥良好 ⑦1/5	口縁部：やや直立気味から大きく外反し唇最も最大径。内外面横模様で。断面：やや邵らみあり。内面側で。外周側方向削り削り。底部：丸底。	16倍	
1-39	H- 11 床底	土師器 环	①24.9 ②4.7	③8.2 ④灰白	⑤織部 ⑥良好 ⑦3/4	口縁部：やや直立気味から大きく外反し唇最も最大径。内外面横模様で。断面：やや邵らみあり。内面側で、外周側上段削り。下段斜削り削り。底部：丸底。	15倍	

2区

番号	出土遺物 部位	器種名	①口径 ②底高 ③底径	④胎土 ⑤色調 ⑥造形	⑦地紋 ⑧底面 ⑨造形度	器種の特徴・性状・調整技術	登録 番号	備考
2-1	H- 1 土師器 环	土師器 环	①18.0 ②19.6	③6.0 ④灰白	⑤織部 ⑥良好 ⑦1/4	口縁部：紺やや外反。内外面横模様で。底部：上位がやや邵らみ唇最も大径。内面側で後削毛目を残す。外周上段方削り。中位斜方削り。底部：丸底。	18倍	内外面に擦、 削削付着
2-2	H- 2 床底	土師器 环	①12.2 ②-	③8.4 ④灰白	⑤織部 ⑥良好 ⑦1/2	口縁部：外縁整形。全体：浅い丸底。内面側で、外周側削り。	29	
2-3	H- 2 埋土 环	土師器 环	①14.4 ②-	③9.9 ④灰白	⑤織部 ⑥良好 ⑦1/2	口縁部：鋭く直立。内外面横模様で。底部：浅い丸底。内面側で、外周側削り。	60.81	
2-4	H- 2 埋土 环	土師器 环	①13.2 ②-	③6.1 ④灰白	⑤織部 ⑥良好 ⑦4/4	口縁部：鋭く直立。内外面横模様で。底部：平底。内面側で、外周側削り。	24.25	
2-5	H- 2 埋土 环	土師器 环	①13.2 ②-	③6.0 ④灰白	⑤織部 ⑥良好 ⑦2/3	口縁部：鋭く直立。内外面横模様で。底部：丸底。内面側で、外周側削り。	15. 2022	油焼付着
2-6	H- 2 室内 环	土師器 环	①13.4 ②12.2	③6.0 ④灰白	⑤織部 ⑥良好 ⑦1/2	口縁部：鋭く内傾。内外面横模様で。底部：やや丸底。内面側で、外周側削り。	80	
2-7	H- 2 室内 环	土師器 环	①13.2 ②13.1	③6.0 ④灰白	⑤織部 ⑥良好 ⑦1/3	口縁部：紺やや外反。内外面横模様で。底部：中位がやや邵らみ唇最も大径。内面側で、外周側方向削り。底部：一部欠損。内面側で、外周側削り。	18.21 他	
2-8	H- 2 室内 环	土師器 环	①20.0 ②15.6	③6.0 ④灰白	⑤織部 ⑥良好 ⑦3/4	口縁部：やや直立丸底から外傾。内外面横模様で。断面上位：やや邵らみがあり。内面側で、外周側方向削り削り。底部：欠損。	94	
2-9	H- 2 室内 环	須恵器 高台瓶	①15.4 ②11.9	③6.9 ④灰白	⑤織部 ⑥良好 ⑦1/3	輪縁整形。口縁・全体：外縁から上部邵らみ外反。内外面横模様で。底部：内面側で、外周側斜削切り剥離法。断面四角形の両端を削り付け。		
2-10	H- 3 埋土 环	土師器 环	①15.4 ②4.3	③6.0 ④灰白	⑤織部 ⑥良好 ⑦1/3	口縁部：やや直立丸底から外傾。内外面横模様で。断面上位：邵らみがあり。内面側で、外周側方向削り削り。底部：丸底。	16倍	
2-11	H- 4 床底	土師器 环	①13.4 ②-	③6.2 ④灰白	⑤織部 ⑥良好 ⑦1/3	口縁部：鋭く直立やや外反。内外面横模様で。底部：やや平底。内面側で、外周側削り。	16倍	
2-12	H- 4 床底	土師器 环	①23.0 ②-	③15.6 ④灰白	⑤織部 ⑥良好 ⑦1/3	口縁部：やや直立丸底から少し外傾。内外面横模様で。断面上位：邵らみがあり最大径。内面側で、外周側方向削り削り。底部：丸底。	13.59 他	
2-13	H- 4 床底	土師器 环	①23.0 ②-	③18.3 ④灰白	⑤織部 ⑥良好 ⑦1/2	口縁部：直立丸底から外傾。内外面横模様で。断面上位：邵らみがあり。内面側で、外周側方向削り削り。底部：丸底。	14.5倍	
2-14	H- 4 床底	土師器 环	①23.0 ②13.9	③10.6 ④灰白	⑤織部 ⑥良好 ⑦3/4	口縁部：やや直立丸底から外傾。内外面横模様で。底部：邵らみがあり。内面側で、外周側斜削切り剥離法。	82.81 他	
2-15	H- 4 埋土 环	須恵器 环	①14.0 ②9.2	③11.6 ④灰白	⑤織部 ⑥良好 ⑦1/2	輪縁整形。天井部から口縁部：水谷ひち天井部から底までに落着し。底部：斜削。外周側斜削切り剥離法。	18	
2-16	H- 4 床底	須恵器 环	①13.4 ②9.2	③4.7 ④灰白	⑤織部 ⑥良好 ⑦1/2	輪縁整形。口縁・底脚：外縁から口縁部や外反。内外面横模様で。断面上位：やや邵らみがあり。内面側で、外周側方向削り削り。底部：丸底。	2.89倍	
2-17	H- 4 床底	須恵器 环	①13.5 ②-	③6.9 ④灰白	⑤織部 ⑥良好 ⑦1/3	輪縁整形。口縁・全体：外縁から外傾。内外面横模様で。断面上位：邵らみがあり。内面側で、外周側削り削り。	24.26	
2-18	H- 4 床底	須恵器 环	①15.0 ②10.9	③6.2 ④灰白	⑤織部 ⑥良好 ⑦1/3	輪縁整形。口縁・全体：外縁から外傾。内外面横模様で。底部：内面横模様で、外周側斜削切り剥離法。	22	
2-19	H- 5 埋土 环	土師器 环	①20.5 ②-	③19.5 ④灰白	⑤織部 ⑥良好 ⑦1/3	口縁部：やや直立丸底から外反。内外面横模様で。断面上位：やや邵らみがあり。白縁とは2回じ性となる。内面側で、外周側方向削り削り。底部：丸底。	1	
2-20	H- 6 床底	須恵器 环	①14.0 ②-	③22.7 ④灰白	⑤織部 ⑥良好 ⑦1/3	輪縁整形。天井部：水谷ひち天井部から底までに落着し。底部：底にL字型斜削切り削り。内面側で、外周側斜削切り剥離法。	4	
2-21	H- 7 土師器 环	土師器 环	①20.4 ②-	③26.0 ④灰白	⑤織部 ⑥良好 ⑦1/3	口縁部：やや直立丸底から外反。内外面横模様で。断面上位：やや邵らみがあり。白縁とは2回じ性となる。内面側で、外周側方向削り削り。底部：丸底。	12.64	
2-22	H- 8 床底	土師器 环	①12.3 ②-	③23.6 ④灰白	⑤織部 ⑥良好 ⑦1/3	口縁部：鋭く直立。内外面横模様で。底部：やや丸底。内面側で、外周側削り。		

番号	出土遺物 層位	器種名	①口径 ②底径	③高さ ④底径	⑤土色 ⑥焼成 ⑦底存	器種の特徴・器形・測量技術	登録 番号	備考
2-23	H-8 底直	土器器 坪	⑩15.0 ⑨-	⑩15.0 ⑨-	⑩細粒 ⑪中 ⑫白	口縁部：大きめ外縁、内面糊痕跡。底部：浅い丸底焼成、内面糊で、外縁削り。	18	
2-24	H-8 壁上	土器器 坪	⑩12.7 ⑨-	⑩4.0 ⑨-	⑩細粒 ⑪中 ⑫白	口縁部：底く直立、内面糊痕跡。底部：丸底、内面糊で、外縁削り。		
2-25	H-8 底直 裏土	土器器 坪	⑩15.2 ⑨-	⑩16.0 ⑨-	⑩細粒 ⑪中 ⑫白	輪郭整然、天井部：水平から緩やかに傾斜し、堵底やや斜仄、邊り有り。外縁削り無し、鍋底少しき。		
2-26	H-8 底直	土器器 坪	⑩11.6 ⑨11.1	⑩5.5 ⑨5.5	⑩細粒 ⑪中 ⑫白	輪郭整然、口縁・体部：外縁。内面糊痕跡。底部：内面糊糊化。外縁手持ち削り調節。		
2-28	H-9 底直	土器器 坪	⑩13.6 ⑨12.2	⑩4.8 ⑨4.0	⑩細粒 ⑪中 ⑫白	輪郭整然、口縁・体部：外縁。内面糊痕跡で、ベンガラ付着。外面口縁部削り、体部削り、邊り有り。底部：内面糊糊化で、外縁手持ち削り調節。	15.64	黒土器類化 塗装
2-29	H-9 底直 坪	土器器 坪	⑩13.2 ⑨8.0	⑩4.5 ⑨4.0	⑩細粒 ⑪中 ⑫白	輪郭整然。口縁・体部：大きめ外縁部、内面糊痕跡で、外縁手持ち削り調節。底部：丸底で、暴唇有り。底部：内面糊糊化で、外縁手持ち削り調節。	21	器形有り化 塗装
2-27	H-9 底直 灰土	土器器 坪	⑩13.2 ⑨6.6	⑩3.2 ⑨3.5	⑩細粒 ⑪中 ⑫白	輪郭整然。口縁・体部：外縁からやや立ち、内面糊痕跡で、外縁手持ち削り調節。底部：外縁削り無し後面四角部に高台付り付ける。全体に内面糊。		化粧底直
2-30	H-9 底直 灰土	土器器 坪	⑩10.0 ⑨-	⑩12.7 ⑨-	⑩細粒 ⑪中 ⑫白	輪郭整然。口縁部：外縁からやや立ち。内面糊痕跡で、外縁手持ち削り調節。底部：やや膨らみ器蓋大底。内面糊痕跡。底部：久須水付し。脇部：やや膨らみ器蓋大底。	62.9	
2-31	H-9 底直 灰土	土器器 坪	⑩18.6 ⑨-	⑩13.4 ⑨-	⑩細粒 ⑪中 ⑫白	輪郭整然。口縁部：大きめ外縁、内面糊痕跡で、底平に付く。脇部：やや膨らみ器蓋大底。内面糊糊化で、外縁上中面糊痕跡で、下位旋削方向削り調節。底部：欠損。	6	
2-32	H-9 底直	土器器 坪	⑩13.8 ⑨13.4	⑩20.6 ⑨19.6	⑩細粒 ⑪中 ⑫白	輪郭整然。口縁部：ほぼ直立。内面糊痕跡で、脚部：画面三角形状でほぼ水平に付く。脇部：内面糊痕跡で。底部：内面糊糊化で、外縁上中面糊痕跡で。	17.56	
2-33	D-2 底直	土器器 坪	⑩12.4 ⑨6.0	⑩11.1 ⑨4.5	⑩細粒 ⑪中 ⑫白	口縁部：底く丸底からやや内傾、内面糊痕跡で。脚部上部にやや膨らみがあり、膨らみ大底。内面糊で、外縁削り直し付ける。底部：平底、内面糊削り。	2	
2-34	D-2 底直	土器器 坪	⑩18.8 ⑨-	⑩21.0 ⑨-	⑩細粒 ⑪中 ⑫白	口縁部：外縁からやや立ち、外縁・内面糊・底部で、脚部・上部がやや膨らみ器蓋大底。内面糊で、外縁上位旋削方向に削り調節。下位旋削方向削り直し。脇部：欠損。	15.20	底
2-35	H-2 底直	土器器 坪	⑩21.4 ⑨-	⑩6.7 ⑨-	⑩細粒 ⑪中 ⑫白	口縁部：やや直立底からやや立ち、外縁・内面糊で。脚部：上位がやや膨らみ器蓋大底。内面糊で、上位旋削方向削り直し。外縁上位旋削方向に削り直す。底部：欠損。	22	
2-36	D-2 底直	土器器 坪	⑩19.2 ⑨-	⑩12.6 ⑨-	⑩細粒 ⑪中 ⑫白	輪郭整然。口縁部：内面糊痕跡で。脚部：画面三角形状で水平に付く。脇部：やや膨らみ器蓋大底。内面糊痕跡で。底部：欠損。	24	塑化底直
2-37	XSY257 底直	土器器 坪	⑩13.2 ⑨2.7	⑩2.12 ⑨2.12	⑩細粒 ⑪中 ⑫白	輪郭整然。口縁・体部：外縁。内面糊痕跡で。底部：内面糊痕跡で。外縁削り直し。脇部：溝。		
2-38	灰持覆 土	土器器 坪	⑩10.8 ⑨-	⑩1.9 ⑨-	⑩細粒 ⑪中 ⑫白	口縁部：底く丸底からやや内傾、内面糊痕跡で。脇部：やや丸底、内面糊で、外縁削り。		
2-39	灰持覆 土	土器器 坪	⑩11.2 ⑨-	⑩6.6 ⑨-	⑩細粒 ⑪中 ⑫白	口縁部：底く直立からやや内傾、内面糊痕跡で。底部：丸底、内面糊で、外縁削り。		

3区

番号	出土遺物 層位	器種名	①口径 ②底径	③高さ ④底径	⑤土色 ⑥焼成 ⑦底存	器種の特徴・器形・測量技術	登録 番号	備考
3-1	H-1 底直	土器器 坪	⑩13.2 ⑨-	⑩3.6 ⑨-	⑩細粒 ⑪中 ⑫白	口縁部：底からやや内傾、内面糊痕跡で。底部：やや丸底、内面糊で、外縁削り。	75	
3-2	H-1 底直	土器器 坪	⑩12.8 ⑨6.4	⑩2.9 ⑨2.9	⑩細粒 ⑪中 ⑫白	口縁部：やや直立から外縁、腰膨れ大。内面糊：横無で。脚部：内面糊で、外縁上位旋削方向に削り直し。中下位旋削方向削り。脇部：一部欠損。内面糊削り。	38.6	
3-3	H-1 底直	土器器 坪	⑩15.0 ⑨-	⑩3.7 ⑨-	⑩細粒 ⑪中 ⑫白	輪郭整然。天井部：水平から緩やかに傾斜し腰膨れや内傾。外面糊痕跡で、口縁部4cmの環状つまみを取付け後削り直す。内面糊痕跡で。	15	
3-4	H-1 底直	土器器 坪	⑩14.0 ⑨7.4	⑩3.7 ⑨3.5	⑩細粒 ⑪中 ⑫白	輪郭整然。口縁・体部：外縁。内面糊痕跡で。底部：内面糊痕跡で。外縁削り直し。脇部：ちぢれ割れ。	11.13	
3-5	H-2 底直	土器器 坪	⑩13.0 ⑨-	⑩3.4 ⑨-	⑩細粒 ⑪中 ⑫白	口縁部：底立からやや内傾、内面糊痕跡で。脇部：底く丸底、内面糊で、外縁削り直し。中位旋削方向に削り直す。底部：底。	H-1 54	
3-6	H-2 底直	土器器 坪	⑩16.0 ⑨14.4	⑩2.8 ⑨2.8	⑩細粒 ⑪中 ⑫白	口縁部：外縁。内面糊痕跡で。底部：平底。内面糊で一部腰膨り有り、外縁削り。	40	
3-7	H-2 底直	土器器 坪	⑩1.9 ⑨4.3	⑩2.9 ⑨4.3	⑩細粒 ⑪中 ⑫白	口縁部：やや直立から外縁、腰膨れ大。内面糊で。脚部：内面糊で、外面上位旋削方向に削り直し、中位旋削方向削り。脇部：脇付。容積はH-1と同様。底部：内面糊削り。	70.60	
3-8	H-2 底直	土器器 坪	⑩24.4 ⑨-	⑩19.0 ⑨-	⑩細粒 ⑪中 ⑫白	口縁部：やや直立からやや内傾。内面糊：横無で。脚部：内面糊で、外面上位旋削方向に削り直し、中位旋削方向削り。脇付。脇付はH-1と同じ。底部：底。	H-1 47.6	
3-9	H-2 底直 泥質土 器	土器器 坪	⑩1.9 ⑨-	⑩2.0 ⑨-	⑩細粒 ⑪中 ⑫白	口縁部：欠損。脚部：内面糊で、外縁削り直し。脇部：内面糊削り。	H-1 54	
3-10	H-2 底直	土器器 坪	⑩14.0 ⑨8.4	⑩3.2 ⑨3.6	⑩細粒 ⑪中 ⑫白	輪郭整然。天井部：水平から緩やかに傾斜し腰膨れや内傾。外縁削り直し。口縁部6cmの環状つまみを取付け後削り直す。内面糊痕跡で。	H-1 91.6	
3-11	H-2 底直	土器器 坪	⑩12.2 ⑨6.5	⑩2.4 ⑨2.5	⑩細粒 ⑪中 ⑫白	輪郭整然。口縁・体部：外縁。内面糊痕跡で。底部：内面糊痕跡で。外縁削り直し切り外観。	39	
3-12	H-2 底直	土器器 坪	⑩13.7 ⑨8.4	⑩2.4 ⑨2.5	⑩細粒 ⑪中 ⑫白	輪郭整然。口縁・体部：外縁。内面糊痕跡で。底部：内面糊痕跡で。外縁削り直し。脇部：内面糊削り。	H-1 68.50	
3-13	H-2 底直	土器器 坪	⑩15.0 ⑨8.6	⑩2.7 ⑨2.8	⑩細粒 ⑪中 ⑫白	輪郭整然。口縁・体部：外縁。内面糊痕跡で。底部：内面糊痕跡で。外縁削り直し後面腰膨れ。	20~ 26	
3-14	H-2 底直	土器器 坪	⑩18.7 ⑨12.4	⑩12.0 ⑨12.0	⑩細粒 ⑪中 ⑫白	輪郭整然。舟の底形と思われる。腰膨らみ外反。内面糊痕跡で。脇部：ややかに外反。内面糊痕跡で。脇部脇。	133.6	

番号	出土遺物 種類	器種名	①径深 ②底径		③底土 ④底面	器種の特徴・型式・調査取扱	登録 番号	備考
			①径高	②壁厚				
3-15	H-3 床面	土師器 环	⑩13.4 ⑨3.3	⑩2.5	③粘土 ④灰土	口縁部：粗く直立、内外面横擦で。底部：やや丸底、内面無で、外表面崩れり。 ①底土 ②良好 ③灰土 ④1/3	5枚	
3-16	H-3 床面	土師器 环	⑩12.3 ⑩6.4	⑩4.5	③粘土 ④灰土	口縁部：外縁、内外面横擦で。底部：平底、内外面横擦で。	20	
3-17	H-3 床面	土師器 环	⑩15.0 ⑩1.0	⑩3.1	③粘土 ④灰土	口縁部：粗く直立、内外面横擦で。底部：やや丸底、内面無で、外表面崩れり。 ①底土 ②良好 ③灰土 ④1/2	19	
3-18	H-3 床面	土師器 环	⑩10.4 ⑩2.0	⑩18.0	③粘土 ④灰土	口縁部：やや直立から外反、底膨大。内外面：横擦で。肩部：内面底 で、外表面凹向に施刷り、中腹底方向施刷り。底部：欠底。	13, 34.35	
3-19	H-3 床面	土師器 环	⑩12.0 ⑩7.0	⑩3.4	③粘土 ④灰土	橢円形。口縁、底部：外縁し施刷りや外反。内外面横擦で。底部： 内面横擦で、外表面施刷り未調査。	9.40	
3-20	H-3 床面	土師器 环	⑩13.4 ⑩7.0	⑩4.0	③粘土 ④灰土	橢円形。口縁、底部：外縁、内外面横擦で。底部：内面横擦で、 外表面施刷り未調査。	5枚	歴化粧成度
3-21	H-5 床面	土師器 环	⑩14.1 ⑩9.4	⑩4.0	③粘土 ④灰土	口縁部：外縁、内外面横擦で。底部：手底、内面無で横擦を施す。外 表面崩れり。	13.23 短文	
3-22	H-5 床面	土師器 环	⑩14.2 ⑩9.2	⑩3.6	③粘土 ④灰土	口縁部：外縁、内外面横擦で。底部：手底、内面無で横擦を施す。外 表面崩れり。	5枚 短文	
3-23	H-5 龜腹	土師器 环	⑩18.3 ⑩3.0	⑩6.1	③粘土 ④灰土	口縁部：直立からやや外反、内外面：横擦で。外面上 施刷方向に施刷り、膨肚大底、底部：欠底。	28.54 他	
3-24	H-7 床面穴	土師器 环	⑩10.0 ⑩3.0	⑩4.7	③粘土 ④灰土	口縁部：直立から外縁、内面無で、横擦で。肩部：内面無で、外面上斜傾 方向に施刷り。底部：欠底。	58	
3-25	H-7 便座	土師器 环	⑩15.2 ⑩3.5	⑩5.3	③粘土 ④灰土	口縁部：直立から大きく外反、内面横擦で、外表面横擦一部付着され、 施刷大底。肩部：内面無で、外面上斜傾方向に施刷り。底部：欠底。	20	
3-26	H-7 便座 高台背	土師器 环	⑩14.9 ⑩7.8	⑩3.6	③粘土 ④灰土	橢円形。口縁、底部：外縁、内外面横擦で、外表面四角形の高台を取り付け。	20	
3-27	H-7 便座	土師器 环	⑩15.2 ⑩3.5	⑩2.9	③粘土 ④灰土	橢円形。口縫、底部：外縁から口縫部外反。内外面横擦で。底部： 内面横擦で、外表面斜傾方向に施刷り調整後、新面と内形の高台を取り付け。	H-8 15枚	
3-28	H-8 便座	土師器 环	⑩12.0 ⑩3.0	⑩5.0	③粘土 ④灰土	口縁部：直立から大きく外反、内面無で、横擦で。肩部：内面無で、外面上 斜傾方向に施刷り。	10	
3-29	H-8 便座	土師器 环	⑩11.0 ⑩6.6	⑩3.2	③粘土 ④灰土	橢円形。口縫、底部：外縁し上斜底やや外反、内外面横擦で。底部： 内面横擦で、外表面斜傾方向に施刷り。	2	歴化粧成度
3-30	H-8 便座 高台背	土師器 环	⑩12.9 ⑩6.3	⑩2.9	③粘土 ④灰土	橢円形。口縫、底部：外縫し底膨大後斜面四角形の高台を取り付け	2	歴化粧成度
3-31	H-9 便座 机	土師器 环	⑩12.0 ⑩5.7	⑩3.2	③粘土 ④灰土	橢円形。口縫、底部：外縫し上斜底やや外反。内外面横擦で。底部： 内面横擦で、外表面斜傾方向に施刷り。	129	
3-32	H-9 便座 床面	土師器 环	⑩13.3 ⑩6.8	⑩2.9	③粘土 ④灰土	橢円形。口縫、底部：外縫し口縫部外反、内外面横擦で。底部：内 面横擦で、外表面斜傾方向に施刷り。	40.82	
3-33	H-9 便座 高台背 P1	土師器 环	⑩14.4 ⑩6.0	⑩3.0	③粘土 ④灰土	橢円形。口縫、底部：外縫から口縫部外反。内外面横擦で。底部： 内面横擦で、外表面斜傾方向に施刷り。	19	
3-34	H-9 便座 高台背 高山背	土師器 环	⑩13.5 ⑩6.8	⑩3.8	③粘土 ④灰土	橢円形。口縫、底部：外縫から大きく外反、内面横擦で底膨大。外縫、 内面横擦で、外表面斜傾方向に施刷り。底部：内面横擦で、外表面斜傾方 向に施刷り調整後、新面と内形の高台を取り付け。今や笠つぐく。	16, 76.80	歴化粧成度
3-35	H-10 便座 便座	土師器 环	⑩12.4 ⑩6.8	⑩3.2	③粘土 ④灰土	口縫部：外縫から直立、内面横擦で。外表面横擦で底部付近は無で。底部： 内面無で、外表面斜傾方向に施刷り。	5.6, 7.64	
3-36	H-10 便座 便座	土師器 环	⑩12.6 ⑩6.8	⑩3.9	③粘土 ④灰土	橢円形。口縫、底部：外縫から口縫部外反、内外面横擦で。底部： 内面横擦で、外表面斜傾方向に施刷り。	9.10	
3-37	H-10 便座 床面	土師器 环	⑩13.2 ⑩6.8	⑩3.6	③粘土 ④灰土	橢円形。口縫、底部：外縫、内面横擦で、外表面斜傾方向に施刷り。	2, 70.82	
3-38	H-10 便座 高台背	土師器 环	⑩13.0 ⑩7.4	⑩2.7	③粘土 ④灰土	橢円形。口縫、底部：大体く外縫、内外面横擦で。底部：内面横擦 で、外表面斜傾方向に施刷り後底曲四角形の高台を取り付ける	16	
3-39	H-11 便座 便座	土師器 环	⑩11.5 ⑩5.7	⑩4.0	③粘土 ④灰土	口縫部：直立からやや外縫。内外面：横擦で。肩部：内面無で、外面上 斜傾方向に施刷り。脇膨大か。直底：欠底。	46	
3-40	H-11 便座 床面	土師器 环	⑩13.6 ⑩6.8	⑩3.8	③粘土 ④灰土	橢円形。口縫、底部：外縫、内面横擦で。底部：内面黑色處理。底部： 内面横擦で、内外面斜傾方向に施刷り。	32	
3-41	H-12 便座 床面	土師器 环	⑩13.2 ⑩8.0	⑩3.4	③粘土 ④灰土	橢円形。口縫、底部：外縫、内面横擦で。底部：内面横擦で、 外表面斜傾方向に施刷り。	3	
3-42	H-12 便座 床面	土師器 环	⑩11.8 ⑩7.2	⑩3.6	③粘土 ④灰土	橢円形。口縫、底部：外縫、内面横擦で。底部：内面横擦で、 外表面斜傾方向に施刷り後底曲四角形の高台を取り付ける	15	
3-43	H-12 便座 龜腹	土師器 环	⑩11.7 ⑩5.7	⑩4.1	③粘土 ④灰土	口縫部：直立からやや外縫。内外面：横擦で。肩部：内面無で、外面上 斜傾方向に施刷り。脇膨大か。直底：欠底。	46	
3-44	H-12 便座 龜腹	土師器 环	⑩19.0 ⑩5.7	⑩14.8	③粘土 ④灰土	橢円形。口縫、底部：外縫、内面横擦で。底部：内面黑色處理。底部： 内面横擦で、内外面斜傾方向に施刷り。	30.31 他	
3-45	H-13 便座 龜腹	土師器 环	⑩11.7 ⑩6.6	⑩3.2	③粘土 ④灰土	橢円形。口縫、底部：外縫、内面横擦で。底部：内面横擦で、 外表面斜傾方向に施刷り。	50	歴化粧成度
3-46	H-13 便座 高台背	土師器 环	⑩14.1 ⑩6.9	⑩5.1	③粘土 ④灰土	橢円形。口縫、底部：外縫、内面横擦で。底部：内面横擦で、 外表面斜傾方向に施刷り。新面と内形の高台を取り付ける。	20.23	
3-47	H-14 便座 床面	土師器 环	⑩15.6 ⑩7.6	⑩3.9	③粘土 ④灰土	口縫部：外縫から直立、内外面横擦で。交差点に後有り。底部：や や平底、内面無で、外表面斜傾。	228	
3-48	H-14 便座 小甕	土師器 环	⑩15.6 ⑩7.6	⑩2.9	③粘土 ④灰土	口縫部：外縫からやく外縫。内面無で。底部：内面無で、外面上斜 傾方向に施刷り。脇膨大か。直底：欠底。	18枚	
3-49	H-14 便座 床面	土師器 环	⑩21.8 ⑩7.6	⑩11.1	③粘土 ④灰土	橢円形。口縫、底部：外縫、内面横擦で。底部：内面無で、外面上斜傾 方向に施刷り。	246	
3-50	H-14 便座 床面	土師器 环	⑩13.0 ⑩7.6	⑩4.3	③粘土 ④灰土	橢円形。口縫、底部：外縫、内面横擦で。底部：内面横擦で、 外表面斜傾方向に施刷り。	16	
3-51	H-14 便座 床面	土師器 环	⑩12.8 ⑩7.6	⑩4.4	③粘土 ④灰土	橢円形。口縫、底部：外縫、内面横擦で。底部：内面横擦で、 外表面斜傾方向に施刷り。	51	
3-52	H-14 便座 床面	土師器 环	⑩12.8 ⑩7.7	⑩4.3	③粘土 ④灰土	橢円形。口縫、底部：外縫、内面横擦で。底部：内面横擦で、 外表面斜傾方向に施刷り。	69	
3-53	H-15 便座 床面	土師器 环	⑩1-⑩ ⑩4.4	⑩16.5	③粘土 ④灰土	口縫部：欠底。脚部：内面無で、外面上斜傾方向に施刷り。脇膨大か。 底部：内面無で、外表面斜傾方向に施刷り後、始底あり。	12.24 他	

番号	山名	通称	学名	①花期 ②葉色	③株高 ④葉質	④根土 ⑤茎高 ⑥葉有無	特徴の概要、形態・調整技術	登録番号	備考
3-54	H-16 麻直	銀葉草 草	①(41) ②(31)	④根粒 ④黄	④良好 ④/10	輪葉整形。大井丹: 半円は徑み、そこから節らみ外側に向て緩い斜面で傾いていく。外側葉腋芽あり。茎葉後退、小さい葉腋芽の挿み分けを中心。その間に節み径を削り、内側面で。通部: 外側削除で、内側削除で。	30		
3-55	H-16 麻直	銀葉草 坪	①(128) ②(32)	④根粒 ④灰白	④良好 ④定形	輪葉整形。外縁部: やや節らみを持つて外縁、内側面で。底部: やや節らみを持つて外縁、内側面で。底部: 内側削除で、外側削除で。底部: 茎葉後退。	38	若歳穴土	
3-56	H-17 麻直 底直	銀葉草 草	①(109) ②(185)	④根粒 ④灰白	④良好 ④/5	輪葉整形。外縁部: やや節らみを持つて外縁、内側面で。底部: やや節らみを持つて外縁、内側面で。底部: 内側削除で、外側削除で。底部: 茎葉後退。	25	底土	
3-57	H-17 麻直	銀葉草 坪	①(159) ②(51)	④根粒 ④灰白	④良好 ④灰白	輪葉整形。山脚部: 前縁、内側面削除で。通部: やや節らみを持つて外縁、内側面削除で、底部: 内側面で。底部: 内側削除で切られ、付け高台、高台の節が鋸歯。節土に供する小穂がため、直角に穴が開いている。	12	酸化焰	
3-58	H-17 麻直	銀葉草 坪	①(111) ②(226)	④根粒 ④灰白	④良好 ④/2	輪葉整形。口縁部: 口縁・体部: やや節らみを持つて外縁、内側面削除で、底部: 内側削除で、外側削除で。節土に根粒があつたため、表面が凹凸している。	26		
3-59	H-20 銀葉 草土	銀葉草 草	①(155) ②(29)	④根粒 ④灰白	④良好 ④定形	輪葉整形。口縫部: 口縫・体部: やや節らみを持つて外縁、内側面削除で、内側土に植え込みで。底部: 内側削除で、外側削除で。底部: 内側は下へ伸び、立ち上がりに無理を要をしており、やや偏んでいる。	1		
3-60	H-20 銀葉 草土	銀葉草 坪	①(140) ②(38)	④根粒 ④灰白	④良好 ④灰白	輪葉整形。口縫部: やや外反、内側面削除で。体部: やや節らみを持つて外縁、内側面削除で、底部: 内側削除で、外側削除で。底部: 内側削除で、少し凸凹した印象を持つ。	220	底土	
3-61	H-20 銀葉 草土	銀葉草 坪	①(119) ②(58)	④根粒 ④灰白	④良好 ④灰白	輪葉整形。口縫部: 体部: 外縁、内側面削除で。底部: 内側削除で、外側削除で。	3		
3-62	H-23 土脚草 底直	銀葉草 草	①(144) ②(19)	④根粒 ④灰白	④良好 ④/3	輪葉整形。外縁に自然黒葉。口縫・体部: 外傾し口縫葉部や外反、内側面削除で、外側削除で。底部: 内側削除で、外側削除で。	3	底土	
3-63	T-1 底直	銀葉草 坪	①(124) ②(42)	④根粒 ④灰白	④良好 ④/3	輪葉整形。口縫部: 体部: 外縫。内側面削除で。底部: 内側削除で。	3		
3-64	T-2 底直	銀葉草 高台地	①(168) ②(82)	④根粒 ④灰白	④良好 ④灰白	輪葉整形。口縫部: 体部: 外縫。内側面削除で。底部: 内側削除で。	4		
3-65	T-3 土脚草 台合裏	銀葉草 草	①(130) ②(137)	④根粒 ④灰白	④良好 ④/4	口縫部: やや直立から外縫。内側面: 種付部: 内側面で、外縫上に直進方向に削り、直進大鋸歯。外縫中に下部削りと直進削り。台部: はく次第、内側面で、外縫削り。断面四角形の薄肉を底部整形取り付ける。	36		
3-66	T-3 土脚草 底直	銀葉草 坪	①(168) ②(82)	④根粒 ④灰白	④良好 ④灰白	輪葉整形。口縫部: 体部: 外縫、口縫葉部や外反。内側面削除で、底部: 内側削除で、外縫削り。断面四角形の薄肉を底部整形取り付ける。	50		
3-67	T-4 底直	銀葉草 坪	①(61) ②(33)	④根粒 ④灰白	④良好 ④/2	輪葉整形。口縫部: 体部: 外縫。内側面削除で。底部: 内側削除で、外側削除で。	1	酸化焰	
3-68	T-4 底直	銀葉草 坪	①(17) ②(36)	④中性 ④灰白	④良好 ④灰白	輪葉整形。口縫部: やや外反、内側面削除で。体部: 底部からやや直立並に立ち上り、口縫部へ向かって節みをもつて外縫、内側面削除で。底部: 内側面で、外側削除で、外縫に直進が曳っている。	2021		
3-69	T-4 底直	銀葉草 高台地	①(118) ②(40)	④根粒 ④灰白	④良好 ④/5	輪葉整形。口縫部: 体部: 外縫。内側面削除で。底部: 回転系切り後、2cm程の高さのみを残すと直進を付ける。	22	酸化焰	
3-70	W-3 土脚草 坪	銀葉草 坪	①(206) ②(87)	④根粒 ④灰白	④良好 ④定形	口縫部: 外縫、内側面削除で後縫を治す。外縫削除で。底部: 平底。内側面で、縮めらしをやり、外縫削除。	箱文		
3-71	W-3 土脚草 門司堤	銀葉草 坪	①(130) ②(12)	④根粒 ④灰白	④良好 ④灰白	輪葉整形。内側面削除で、外縫削除で。外縫部に面倒三角形の把手を握りだして付ける。	1		
3-72	W-3 土脚草 坪	銀葉草 坪	①(-) ②(8)	④根粒 ④灰白	④良好 ④灰白	輪葉整形。内側: 種付部で後、刻みを入れる。外縫: 回転系切り朱調整、剥離付香。			
3-73	W-4 カワラク 土脚草	銀葉草 坪	①(144) ②(24)	④根粒 ④灰白	④良好 ④/4	輪葉整形。口縫部: 体部: 外縫、内側面削除で。底部: 内側削除で、外縫削除で。	1		
3-74	D-1 底直	銀葉草 小葉	①(100) ②(25)	④根粒 ④灰白	④良好 ④灰白	輪葉整形。口縫部: 外縫、口縫葉部や外反、内側面削除で。底部: 平底、内側面削除で、外縫削除で。底部: 内側削除で未調整。		酸化焰焼成	
3-75	D-3 底直	土脚草 小葉	①(128) ②(37)	④根粒 ④灰白	④良好 ④根 ④定形	口縫部: やや直立から外縫。内側面: 摻進で。削部: 内側削除で、削上に直進方向に削り。直進大鋸歯。中下部斜削に直削り。底部: 内側面で、外縫削除。	1		
3-76	D-3 底直	土脚草 台合裏	①(132) ②(193)	④根粒 ④灰	④良好 ④/4	口縫部: やや直立から外縫。内側面: 摻進で。削部: 内側削除で、外縫上に直進方向に削り。直進大鋸歯。外縫中下部削りに直削り。削部: 内側削除で、外縫削除で。削部と中下部斜削は横削で。断面四角形の薄肉を底部整形取り付ける。設置部分や外縫。			
3-77	I-1 土脚草 坪	土脚草 坪	①(210) ②(31)	④根粒 ④灰	④良好 ④定形	口縫部: 直立・直進で、内側面削除で。削部: 内側削除で、外縫削除。			
3-78	I-1 土脚草 坪	土脚草 坪	①(116) ②(36)	④根粒 ④灰	④良好 ④定形	口縫部: 対く直立しやや内彎、内側面削除で。直進: 丸底、内側面で、外縫削除。			
3-79	I-1 土脚草 坪	土脚草 坪	①(123) ②(34)	④根粒 ④灰	④良好 ④定形	口縫部: 外縫、内側面削除で、外縫削除で底部付近削り。直進: 平底、内側面削除で、外縫削除。			
3-80	I-1 土脚草 坪	土脚草 坪	①(272) ②(112)	④根粒 ④灰	④良好 ④定形	口縫部: 外縫、内側面削除で、直進: 丸底、内側面で、外縫削除で。底部: 内側削除で、外縫に直進がき。直進: 丸底、直進の凹。			
3-81	I-1 土脚草 坪	銀葉草 高台地	①(169) ②(128)	④根粒 ④灰	④良好 ④定形	輪葉整形。口縫部: 外縫、体部: 外縫。内側面削除で。削部: 内側削除で。削上に直進削りと削り、削部削除で。削上に直進削りと削り、削部削除で。			
3-82	I-1 土脚草 坪	銀葉草 大葉	①(-) ②(106)	④根粒 ④灰	④良好 ④定形	輪葉整形。口縫部: 外縫、体部: 外縫。内側面削除で。削部: 内側削除で。削上に直進削りと削り、削部削除で。	230	407	
3-83	I-1 土脚草 坪	銀葉草 坪	①(114) ②(34)	④根粒 ④灰	④良好 ④定形	口縫部: 外縫、内側面削除で。削部: やや底直、内側削除で、外縫削除。	230	407	
3-84	O-1 底直	土脚草 坪	①(124) ②(35)	④根粒 ④灰	④良好 ④定形	口縫部: 直立、内側面削除で。底部: 丸底、内側面で、外縫削除。	230	407	
3-85	O-1 底直	土脚草 坪	①(228) ②(34)	④根粒 ④灰	④良好 ④定形	口縫部: 直立、内側面削除で。底部: 丸底、内側面で、外縫削除。	235		
3-86	O-1 底直	土脚草 坪	①(127) ②(37)	④根粒 ④灰	④良好 ④定形	口縫部: 直立、内側面削除で。底部: 丸底、内側面で、外縫削除。	237	407	
3-87	O-1 底直	土脚草 坪	①(115) ②(37)	④根粒 ④灰	④良好 ④定形	口縫部: 直立、内側面削除で。底部: 丸底、内側面で、外縫削除。	338		

番号	出土遺物 層位	器種名	①口径 ②器高 ③底径	④胎土 ⑤色調 ⑥造形	器種の特徴・藍型・調整技術	登録 番号	備考
3-88	O-1 床底	土師器 环	①10.8 ②—	①織紋 ②良好 ③灰 ④丸形	口縁部：外縁、内外面横模様で。底部：丸底、内面凹で、外面部削り。	263	
3-89	O-1 床底	土師器 环	①11.4 ②—	①織紋 ②良好 ③灰 ④丸形	口縁部：直立、内外面横模様で。底部：丸底、内面凹で指痕有り、外面部削り。	374	
3-90	O-1 床底	土師器 环	①12.4 ②—	①織紋 ②良好 ③灰 ④丸形	口縁部：外縁、内外面横模様で。底部：丸底、内面凹で指痕有り、外面部削り。	51	
3-91	O-1 床底	土師器 环	①11.6 ②—	①織紋 ②良好 ③灰 ④4/5	口縁部：外縁、内外面横模様で。底部：丸底、内面凹で、外面部削り。	59	
3-92	O-1 床底	土師器 环	①17.8 ②—	①織紋 ②良好 ③灰 ④4/5	口縁部：外縁、内外面横模様で。交換点に段有り。底部：やや平底、内面凹で、外面部削り。	378	
3-93	O-1 便土	土師器 环	①11.8 ②—	①織紋 ②良好 ③灰 ④1/2	口縁部：短く直立、内外面横模様で。底部：やや平底、内面凹削り後張で、外面部削り。	26	
3-94	O-1 便土	土師器 环	①11.8 ②—	①織紋 ②良好 ③灰 ④1/3	口縁部：短く直立し少し内傾、内外面横模様で。底部：丸底、内面凹で、外面部削り。	375	
3-95	O-1 便土	土師器 环	①16.4 ②—	①織紋 ②良好 ③灰 ④5/6	口縁部：外縁から大きくなり反、内外面横模様で。底部：やや丸底、内面凹で、外面部削り。	27	
3-96	O-1 便土	土師器 环	①13.8 ②—	①織紋 ②良好 ③灰 ④3/4	口縁部：直立、内外面横模様で。底部：やや平底、内面凹で、外面部削り。	146	
3-97	O-1 便土	土師器 环	①15.2 ②—	①織紋 ②良好 ③灰 ④3/4+完 ⑤灰+完形	口縁部：直立、内外面横模様で。底部：やや平底、内面凹で、外面部削り。	4	4052
3-98	O-1 便土	土師器 环	①11.5 ②—	①織紋 ②良好 ③灰 ④3/4	口縁部：直立、内外面横模様で。底部：やや丸底、内面凹で、外面部削り。	23	
3-99	O-1 便土	土師器 环	①15.0 ②—	①織紋 ②良好 ③灰 ④3/4	口縁部：外縁からやや外反、内外面横模様で。底部：やや丸底、内面凹で、外面部削り。	6168	地
3-100	O-1 便土	土師器 环	①11.8 ②—	①織紋 ②良好 ③灰 ④3/4+完 ⑤灰+完形	口縁部：直立からやや内傾、内外面横模様で。底部：やや丸底、内面凹で、外面部削り。	535地	
3-101	O-1 便土	土師器 环	①21.6 ②17.9	①織紋 ②良好 ③灰 ④1/3	口縁部：外縁、内外面横模様で。底部：やや平底、内面凹で、外面部削り。	353地	
3-102	O-1 便土	埴輪 環	①18.2 ②—	①織紋 ②良好 ③灰	埴輪形態。天井部：水平から緩やかに傾斜し底部に足り有り。外面部模様で、口部5.2cmの溝状つまみを取り付け後削り。底部：欠損。	353	
3-103	O-1 便土	埴輪 環	①16.7 ②—	①織紋 ②良好 ③灰 ④4/2織片	埴輪形態。耳部：底やかに外縁、内面横模様で、彌形やや外反。外面部は模様で、青銅器有り所は削り削り跡。底部：欠損。	36	
3-104	O-1 便土	埴輪 環	①11.7 ②17.6	①織紋 ②良好 ③灰 ④1/3	埴輪形態。口縫・底部：外縁、内面横模様で、外面部は模様で、底部：中位斜孔有り削り跡。底部：欠損。	303地	
3-105	O-1 便土	埴輪 高台輪	①15.4 ②11.6	①織紋 ②良好 ③灰 ④3/2	埴輪形態。天井部：水平から緩やかに傾斜し底部に足り有り。外面部模様で、外縫目取付用削り跡付り上部高台を有す。	276地	
3-106	O-1 便土	埴輪 高台輪	①19.6 ②6.3	①織紋 ②良好 ③灰 ④1/2	埴輪形態。口縫・底部：外縁、内面横模様で、彌形や四角形の溝を取り付け、後削り。	311	
3-107	O-1 床底	埴輪 環	①25.6 ②—	①織紋 ②良好 ③灰 ④3/2織片	埴輪形態。口縫・外縁・内面凹：横筋で、頂部：内面横模様で、外縫目取付用削り跡。底部：欠損。	656	地
3-108	O-1 床底	埴輪 环	①21.0 ②—	①織紋 ②良好 ③灰 ④3/6	埴輪形態。口縫部：外縫・内面凹：横筋で。頂部：内面横模様で、外縫目取付用削り跡。底部：欠損。	35	
3-109	O-1 便土	埴輪 便土	①22.4 ②—	①織紋 ②良好 ③灰白 ④3/2織片	埴輪形態。口縫部：外縫・内面凹：横筋で。頂部：内面横模様で。外縫目取付用削り跡。底部：日字入り、底部：火鉢。	41	
3-110	O-1 便土	埴輪 便土	①— ②18.7	①織紋 ②良好 ③灰 ④1/2	埴輪形態。口縫部：ほぼ直縁、内外面横模様で。割部：中位豊大柱。内面横模様で、一部斜孔有り、中位に断面四角形の溝み有り。底部：一部欠損。内面横模様で、外面部削り。	29612	地
3-111	O-1 床底	埴輪 高台輪	①26.5 ②—	①織紋 ②良好 ③灰 ④3/2織片	埴輪形態。口縫部：外縫・内面横模様で。割部：内面横模様で。外縫目取付用削り跡。底部：欠損。	57678	地
3-112	O-1 便土	埴輪 高台輪	①22.8 ②—	①織紋 ②良好 ③灰 ④3/2	埴輪形態。内面横模様削り、外面部横模様で。外縫部に断面四角形の把手を取り付け。		

4区

番号	出土遺物 層位	器種名	①口径 ②器高 ③底径	④胎土 ⑤色調 ⑥造形	器種の特徴・藍型・調整技術	登録 番号	備考
4-1	H-1	土師器 环	①12.4 ②—	①織紋 ②良好 ③灰 ④1/4	口縁・体部：ほぼ直立、内面凹曲で。底部：丸底、内面凹で、外面部削り。	XSYTH 12	
4-2	H-1	土師器 环	①19.6 ②—	①織紋 ②良好 ③灰 ④1/4のみ	口縁部：「この字」型、内外面横模様で。底部：内面横模様で、外面上部削りの見切り、底部欠損。	23	
4-3	H-1	土師器 环	①20.0 ②—	①織紋 ②良好 ③灰 ④3/2織片	口縁部：「この字」型、内外面横模様で。底部：内面横模様で、外面上部削り欠損。	XSYTH 16	
4-4	H-1	土師器 环	①12.2 ②—	①織紋 ②良好 ③灰 ④1/2	埴輪形態。口縫部：外縫・内面凹：横筋で。体部：彌らみを持って外縫・内面横模様で、底部：内面横模様で、外縫目取付用削り。	25	カマド
4-5	H-1	土師器 环	①12.0 ②—	①織紋 ②良好 ③灰 ④1/2	埴輪形態。口縫部：外縫・内面凹：横筋で。底部：内面横模様で、外縫目取付用削り。	27	土
4-6	H-1	埴輪 高台輪	①16.1 ②8.3	①織紋 ②良好 ③灰 ④3/2	埴輪形態。口縫部：やや外反、内外面横模様で。体部：彌らみを持って外縫・内面横模様で。底部：内面横模様で、外縫目取付用削り。	12	化粧壺
4-7	H-1	埴輪 高台輪	①15.2 ②—	①織紋 ②良好 ③灰 ④3/5	埴輪形態。口縫部：やや外反、内外面横模様で。体部：彌らみを持って外縫・内面横模様で。底部：内面横模様で、外縫目取付用削り。底部内面に他の土器と重ね焼きしたと思われる積土の付着痕有。	XSYTH 17	

番号	出土遺物 層位	器種名	①口径 ②底高 ③底径	①歯土 ②底成 ③色調 ④底有皮	器種の特徴・形態・測定技術	登録 番号	備考
4-8	H-2 土壌 底灰	土器部 小鉢型	⑩11.3 ②6.7 ⑤-	①網紋 ②良好 ③明褐色 ④1/3	口縁部：やや外反、内外面模様無。底盤：丸みを帯びる、内面側で、外 面側位の黒削り。底灰欠損。	29.32	
4-9	H-2 土壌 底灰	土器部 小鉢型	⑩23.2 ②12.7 ⑤-	①網紋 ②良好 ③灰 ④1/4-明褐色の一部のみ	口縁部：「くの字」型、内外面模様無。底盤：内面側で、外側上部模様 の黒削り、以下斜位の黒削り。底灰欠損。	42.他	

5区

番号	出土遺物 層位	器種名	①口径 ②底高 ③底径	①歯土 ②底成 ③色調 ④底有皮	器種の特徴・形態・測定技術	登録 番号	備考
5-1	H-1 土壌 底灰	土器部 耳	⑩14.5 ②9.0	①網紋 ②良好 ③灰 ④1/2弱 ⑤にれ一程 ⑥4/2	口縁部：やや外反、内外面模様無。底盤：丸みを帯びるが底平に近い、内面側で、外 面側位の黒削り。底灰：やや丸みを帯びるが底平に近い。底灰欠損。	34.35 理土	略文
5-2	H-1 土壌 底灰	土器部 耳	⑩13.4 ②8.9 ⑤-	①網紋 ②良好 ③灰 ④1/2弱 ⑤にれ一程 ⑥4/2	口縁・体部：短く直立、内外面模様無。底盤：丸底、内面側で、外面側削り。 底灰：外反文。	理土	略文
5-3	H-1 土壌 底灰	土器部 耳	⑩12.2 ②8.6 ⑤-	①網紋 ②良好 ③灰 ④1/2弱 ⑤にれ一程 ⑥4/2	口縁・体部：短く直立、内外面模様無。底盤：丸底、内面側で、外面側削り。	理土	
5-4	H-1 土壌 底灰	土器部 耳	⑩1- ②7.1 ⑤-	①網紋 ②良好 ③灰 ④底部破片	底盤：内面側で、外面側削り。内面に施書きで「百芒星」有。	理土	施書き
5-5	H-1 土壌 底灰	土器部 耳	⑩14.7 ②9.5 ⑤-	①網紋 ②良好 ③灰 ④1/2	口縁部：やや外反、内外面模様無。底盤：丸底、外面側削り、内面側で。底灰：やや丸みを帯びた半球形。底・底灰外側が内削している。	理土	
5-6	H-1 土壌 底灰	土器部 耳	⑩10.4 ②10.0 ⑤-	①網紋 ②良好 ③灰 ④1/2弱 ⑤にれ一程 ⑥1/3	口縁部：やや外反、内外面模様無。底盤：底らみを持つ、内面側で、外 面側上部に黒削り。外面下部に底削りの跡削り。底灰欠損。	30	
5-7	H-5 土壌 底灰	土器部 耳	⑩13.4 ②8.5 ⑤-	①網紋 ②良好 ③灰 ④1/2弱 ⑤にれ一程 ⑥4/2	口縁部：やや内傾、内外面模様無。底盤：丸底、内面側で、外面側削り、後、底削で。底灰：丸底、内面側で、外面側削り。	-	
5-8	H-5 土壌 底灰	土器部 耳	⑩13.1 ②8.1 ⑤-	①網紋 ②良好 ③灰 ④1/2弱 ⑤にれ一程 ⑥2/3弱	口縁部：外傾か直立、内外面模様無。底盤：丸底、内面側で、外 面側削り。	2	
D-1	D-1 土壌 底灰	土器部 耳	⑩13.5 ②8.5 ⑤-	①網紋 ②良好 ③灰 ④1/4	口縁・体部：短く直立、内外面模様無。底盤：丸底、内面側で、外面側削り。	4	
D-10	D-1 土壌 底灰	土器部 耳	⑩12.9 ②7.0 ⑦(2.5)	①網紋 ②良好 ③灰 ④1/2弱 ⑤にれ一程 ⑥4/2	輪縞模形。火井部：中心部が凹くなってしまおり、そこから周囲へ向けて輪 縞状で凹がっていく。外面側縫合糸跡、底で調節跡、底盤周辺の縫み を付ける。内面側。底盤：内外面削り。	11	
D-11	D-1 土壌 底灰	土器部 耳	⑩13.6 ②8.0 ⑤-	①網紋 ②良好 ③灰 ④1/2	輪縞模形。山脚部：外傾、内面側で。体部：外傾か直立、内外面模 様無。底盤：外傾か直立、内面側で底削り、底灰：内面側削り。	6	
D-12	D-1 土壌 底灰	土器部 耳	⑩11.4 ②8.4 ⑤-	①網紋 ②良好 ③灰 ④1/2弱 ⑤にれ一程 ⑥3/2	輪縞模形。口縁部：外傾、内面側削り。底盤：やや底らみを持つ外傾、 内面側で、外面側で後、下部外側削り。底盤：内面側で、外面側削り、底 灰：外側削り。	13	
D-13	D-1 土壌 底灰	土器部 底灰	⑩13.6 ②8.8 ⑨(0.1)	①網紋 ②良好 ③灰 ④1/2弱 ⑤にれ一程 ⑥4/2	輪縞模形。口縁・体部：外傾、内面側削り。底盤：四輪削り後、付け 高台。底盤の表面の中央が窪む。	12	
M-14	M-3 土壌 底灰	土器部 耳	⑩1.3 ②3.5	①網紋 ②良好 ③灰 ④1/2強	輪縞模形。口縁部：外反する。内外面側で。体部：底らみを持つ外傾、 底盤：内面側で、外面側削り。	1	

6区

番号	出土遺物 層位	器種名	①口径 ②底高 ③底径	①歯土 ②底成 ③色調 ④底有皮	器種の特徴・形態・測定技術	登録 番号	備考
H-5	H-5 土壌 底灰	土器部 耳	⑩10.0 ②6.0 ⑤-	①網紋 ②良好 ③灰 ④1/2	天板部削りハラ削り後に半の焼印。受け難部や張りをもつ。輪縞模形。	-	
X152	M-3 土壌 底灰	土器部 耳	⑩14.4 ②6.5	①網紋 ②浅元形 ③灰	短くハの字の高台を付し、体部は内削して斜く。口唇部はやや膨大し て丸くなる。輪縞模形。底盤削り	-	

7区

番号	出土遺物 層位	器種名	①口径 ②底高 ③底径	①歯土 ②底成 ③色調 ④底有皮	器種の特徴・形態・測定技術	登録 番号	備考
7-1	H-1 土壌 底灰	土器部 耳	⑩12.6 ②2.9 ⑤2.5	①網紋 ②良好 ③灰 ④1/2弱 ⑤にれ一程 ⑥4/2	輪縞模形。口縁部：外傾、内面側削り。底盤：内面側で、外面側削 り。	1	酸化焰
H-1	H-1 土壌 底灰	土器部 耳	⑩12.9 ②4.7 ⑤2.7	①網紋 ②良好 ③灰 ④1/2弱 ⑤にれ一程 ⑥4/2	輪縞模形。口縁・体部：底盤から丸みを帯びて立ち上がり外反、内面側 削り。底盤：底盤削り後、外斜面部分で底盤。	13	酸化焰
7-3	H-1 土壌 底灰	土器部 一部中 高台	⑩12.2 ②4.2 ⑤3.1	①網紋一部 中 ②良好 ③灰 ④1/2強 ⑤にれ一程 ⑥4/2強	輪縞模形。口縁・体部：やや底らみを持つ外傾、内面側削り。底盤削 り後、付け高台。口唇部にタワー状の付着物有。	12	酸化焰
7-4	H-1 土壌 底灰	土器部 高台	⑩13.6 ②4.4 ⑤3.5	①網紋 ②良好 ③褐 ④1/2弱 ⑤にれ一程 ⑥4/2強	輪縞模形。口縁部：外反、内面側削り。体部：やや底らみを持つ外傾、 内面側削り。底盤：内面側で、外面側削り後、付け高台。高台の接 着部の端に異常有。	16	酸化焰
7-5	H-1 土壌 底灰	土器部 高台	⑩16.3 ②6.3 ⑤7.4	①網紋 ②良好 ③灰 ④1/2弱 ⑤にれ一程 ⑥4/2	輪縞模形。口縁部：やや外反、内面側削り。体部：丸みを帯びて外傾、 内面側削り。底盤：内面側で、外面側削り後、付け高台。	25	大気窓式
7-6	H-2 土壌 底灰	土器部 高台	⑩13.9 ②4.5 ⑤6.6	①網紋 ②良好 ③灰 ④1/2強 ⑤にれ一程 ⑥4/2強	輪縞模形。口縁部：外反、内面側削り。底盤：内面側で、外面側削 り後、底盤削り。底盤：内面側で、外面側削り後、付け高台。高台の接 着部の端に調整有。	2	酸化焰
7-7	H-2 土壌 底灰	土器部 高台	⑩14.6 ②6.7 ⑤6.6	①網紋 ②良好 ③灰 ④1/2弱 ⑤にれ一程 ⑥4/2弱	輪縞模形。口縁部：やや外反、内面側削り。体部：やや底らみを持つ外傾、 内面側削り。底盤：内面側で、外面側削り後、付け高台。	8	酸化焰
7-8	H-3 土壌 底灰	土器部 耳	⑩11.9 ②6.0 ⑤7.0	①網紋 ②良好 ③灰 ④1/2強 ⑤にれ一程 ⑥4/2強	輪縞模形。口縁・体部：やや底らみを持つ外傾、内面側削り。底盤：内 面側で、外面側削り。底盤：内面側で、外面側削り後、完全に底付着。	1	

番号	出土遺物 種類	器物名	①口径 ②底径	③厚さ ④成形	⑤胎土 ⑥色調 ⑦造形度	器種の特徴・並び・調査技術	登録 番号	備考
7-9	日-4 床底	土師器 环	①12.4 ②8.5	③0.8 ④手捏	⑤良好 ⑥灰白 ⑦3/3	口縁・外縁・口縁部内凹出脚部で、体部外面露削り、内面削で。底部は平底、内面削で。外縫目削り。全体的に削りして鍛な作り。	623 24	
7-10	日-4 床底	陶器 环	①14.4 ②6.5	③0.8 ④手捏	⑤良好 ⑥灰白 ⑦4/4+完形	口縁・下部は漆らみを持って外縁し、中部でややくびれを持ち、上部では直線的で外縫目削り。全体的に削りして鍛な作り。	3	焼成法
7-11	H-4 床底	陶器 环	①13.2 ②8.0	③0.8 ④手捏	⑤良好 ⑥灰白 ⑦1/2	織維整形。口縁・下部は漆らみを持って外縁し、中部で内面削で。外縫目削り後、付け高台。	1	
7-12	H-5 床底	土師器 环	①22.4 ②18.2	③0.8 ④手捏	⑤良好 ⑥灰白 ⑦1/6	口縁部：「コの字」型、内外面削離で。底部：内面削で、外面上部に斜めに削り。外縫目削りの差別化。底足丸太。	5657	
7-13	H-5 床底	陶器 环	①13.0 ②6.9	③0.8 ④手捏	⑤良好 ⑥灰白 ⑦4/5	織維整形。口縁部：外反、内外露削で。底部：外縫目削り後、付け高台。	64	覆土
7-14	H-6 覆土	土師器 环	①15.5 ②9.4	③0.8 ④手捏	⑤良好 ⑥灰白 ⑦4/5	口縁部：「S」字型、内外面削離で。側部：イナジク型。内面削で、外面上部斜面に向かい右から左までの斜削の剥離部で。外縫目・下部は漆らみに向かい左から右への斜削。あるいは直下への剥離部で。底部：内面削で、外縫目削り後、付け高台。	8	右田原式
7-15	日-7 覆土	土師器 环	①12.6 ②8.4	③0.8 ④手捏	⑤良好 ⑥灰白 ⑦1部少	口縁部・やや外反、内外面削離で。体部：漆らみを持って外縁、内面削で。外縫目削り。底部：内面削で。底部に凸状の跡有り。	2	
7-16	H-7 覆土	陶器 环	①12.0 ②5.7	③0.8 ④手捏	⑤良好 ⑥灰白 ⑦1/2強	織維整形。口縁・体部：やや漆らみを持って外縁、内外面削で。底部：内面削で、外縫目削り。	1	
7-17	H-8 覆土	土師器 环	①12.0 ②4.1	③0.8 ④手捏	⑤良好 ⑥灰白 ⑦1/2	口縁・外縁・内面削離で。底部との接続点に残る。底部：丸底、内面削で、外縫目削り。	1	
7-18	H-10 覆土	陶器 环	①12.4 ②6.4	③0.8 ④手リープ	⑤良好 ⑥灰白 ⑦4/3	織維整形。口縁・体部：外縁、内外面削で。底部：内面削で、外縫目削り。	87	焼成法
7-19	H-10 覆土	土師器 环	①14.0 ②7.3	③0.8 ④手捏	⑤良好 ⑥灰白 ⑦4/5	織維整形。口縁・体部：外縁、内外面削で。底部：内面削で、外縫目削り。	19	焼成法 内面燒毛色埋
7-20	H-11 覆土	陶器 环	①12.4 ②5.4	③0.8 ④手捏	⑤良好 ⑥灰白 ⑦4/2	織維整形。口縁・体部：やや外反、内外面削で。底部：内面削で、外縫目削り。	15	
7-21	H-11 覆土	土師器 环	①13.0 ②6.5	③0.8 ④手捏	⑤良好 ⑥灰白 ⑦4/10	織維整形。口縁部：やや外反、内外面削で。底部：内面削で、外縫目削り。	9	
7-22	H-11 覆土	陶器 环	①11.9 ②6.8	③0.8 ④手捏	⑤良好 ⑥灰白 ⑦4/4+完形	織維整形。口縁部：やや外反、内外面削で。底部：内面削で、外縫目削り。	19	
7-23	H-11 覆土	土師器 环	①15.6 ②8.7	③0.8 ④手捏	⑤良好 ⑥灰白 ⑦4/2	織維整形。口縁・体部：やや漆らみを持って外縁、内面削で。底部：内面削で、外縫目削り後、高台に付ける。	10.	焼成法 覆土
7-24	H-11 覆土	陶器 环	①17.2 ②8.0	③0.8 ④手捏	⑤良好 ⑥灰白 ⑦3/2弱	織維整形。口縁・体部：底部から漆らみを持てて立ち上がり外削する。内面削で。高台部・底部へ立ち上がる部分を削離し。底部：内面削で、外縫目削り後、高さ4mmほどの低い高台を付ける。	13.29	
7-25	H-11 覆土	陶器 环	①15.8 ②7.5	③0.8 ④手リープ	⑤良好 ⑥灰白 ⑦4/3	織維整形。口縁部：外縁、内面削離で。体部：丸底を帯びて外縁、内面削で。底部：削離部削り、削離部丸底。	12	光モ丘式窯
7-26	H-12 覆土	土師器 环	①21.1 ②7.0	③0.8 ④手捏	⑤良好 ⑥灰白 ⑦4/5+完形	口縁部：「つ」字型、内面削で。外縁・削離部・削離後、削離後で、新成の成形をした箇所が削離する。削離部：内面削で、底部上部削離の削削り。下部は削成の削離部で、削離部の凹部より、底盤部に凹部。漆らみが浮きやすい印象。底部を金銀色で、蓋の邊道に使用されていた。	12	轟の邊道に兼用
7-27	H-12 覆土	土師器 环	①20.8 ②7.0	③0.8 ④手捏	⑤良好 ⑥灰白 ⑦4/5+高 ⑧3/3	口縁部：「コの字」型、内外面削離で。底部：内面削で、外縫目削り。底部修理後、中部下部削離の削削り。底足丸太。	481	轟邊使用の可 能性有り
7-28	H-12 覆土	陶器 环	①13.4 ②6.3	③0.8 ④手捏	⑤良好 ⑥灰白 ⑦4/3	織維整形。口縁・体部：外縁、内面削離で。底部：内面削で、外縫目削り。	4.5	焼成法
7-29	H-12 床底	土師器 环	①17.2 ②7.2	③0.8 ④手捏	⑤良好 ⑥灰白 ⑦4/2	織維整形。口縁部：やや外反、内面削離で。底部：内面削で、外縫目削り後、付け高台。	8.9	焼成法
7-30	H-12 床底	陶器 环	①- ②10.9	③(16.0)	④良好 ⑤灰白 ⑥4/3	織維整形。口縁部：外縁・内面削離で。底部：内面削で、外縫目削り。高台部分が消失。	11.1	轟の邊道に兼用
7-31	H-12 陶器 环	織維陶器 輪輪	①15.4 ②8.4	③0.8 ④手捏	⑤良好 ⑥灰白 ⑦4/1-4/2	織維整形。高台は灰白。口縁部丸底。体部：柱を有する。底部：内面に削離きの跡がある花文、削離部削離の付ける高台。半分ほどが焼け落している。	H-10	尾張県豊島9-0 窯跡
7-32	P-4 覆土	陶器 环	①17.0 ②6.6 ③(6.6) ④(6.6)	③0.8 ④0.8 ⑤0.8 ⑥0.8	⑤良好 ⑥灰白 ⑦2/3	織維整形。天井部・中心部やや突起、中心部から半径5cmほどがなく残っている。そこから外縁へかけていき縫合部下がっていく。外縫目削り、塗て調製法、環状の構造を付ける。内面削で。底部：内面削離で。	1	

8区

番号	出土遺物 種類	器物名	①口径 ②底径	③厚さ ④成形	⑤胎土 ⑥色調 ⑦造形度	器種の特徴・並び・調査技術	登録 番号	備考
8-1	H-2 覆土	陶器 小切环	①6.6 ②5.6	③0.8 ④手捏	⑤良好 ⑥灰白 ⑦3/3	織維整形。口縁・体部：底部から漆らみを留めて立ち上がり。やや外反、内面削離で。底部：内面削で、外縫目削り。	3	焼成法
8-2	H-4 床底	土師器 环	①21.0 ②17.1	③0.8 ④手捏	⑤良好 ⑥灰白 ⑦4/4	口縁部：「コの字」型、内外面削離で。底部：内面削で、外縫目削り。	1	
8-3	H-4 床底	陶器 环	①16.2 ②22.7	③0.8 ④手捏	⑤良好 ⑥灰白 ⑦4/2	織維整形。口縁・体部：丸底で内面削離の削削り。底部上部に漆らみがある。内面削離部の削削り。切削部丸底。	4	光モ丘式古手
8-4	H-5 床底	陶器 环	①11.7 ②9.6	③0.8 ④手捏	⑤良好 ⑥灰白 ⑦4/5	織維整形。口縁部：外縁、内面削離で。体部：漆らみを持って外縁、内面削で。内面削離部切り。口縁部にクールの付ける有り。	16.17	
8-5	H-5 床底	陶器 环	①11.0 ②9.3	③0.8 ④手捏	⑤良好 ⑥灰白 ⑦4/2	織維整形。口縁部：やや外反、内面削離で。底部：やや漆らみを持って外縁、内面削で、内面削離部切り。2~3mmほどの漆らみが無数にあり。器表部が白化している。	36.16	
8-6	H-5 床底	陶器 环	①15.0 ②26.0	③0.8 ④手捏	⑤良好 ⑥灰白 ⑦3/26	織維整形。口縁部：外縁、内面削離で。底部：内面削で、外縫目削り。漆らみが凹凸している。	28	

番号	出土場所 層位	器種名	①口径 ②底径 ③成形	④胎土 ⑤焼成 ⑥剖面	⑦表面	器物の特徴・変形・焼成・焼成技術	登録 番号	備考
B-7	H-7 土器部 底面	土器部 耳	①117.0 ②92	①焼成 ②良好 ③捏ね ④1/28	口縁部：やや外反、内外面焼成。底部：丸みを帯びた平底。内面側で、外面部削り。	口縁部：やや外反、内外面焼成。底部：丸みを帯びた平底。内面側で、外面部削り。	6	
B-8	H-7 底面	土器部 耳	①136.0 ②132.0	①焼成 ②良好 ③にい・痕跡 ④1/4	口縁部：「コ」字型。内面側で、外面部削りの花形切り。底部：内面側で、外面部削り。	口縁部：「コ」字型。内面側で、外面部削りの花形切り。底部：内面側で、外面部削り。	9	
B-9	H-7 土器部 耳	土器部 耳	①142.0 ②135.0 ③72.0	①焼成 ②良好 ③灰白 ④4/5	橢円形容。口縁・体部：外端・内外面側で。底部：内面側で、外面部削り。	橢円形容。口縁・体部：外端・内外面側で。底部：内面側で、外面部削り。	7	焼成
B-10	T-1 底面	土器部 耳	①129.0 ②125.0	①焼成 ②良好 ③灰白 ④1/3	口縁・体部：外端・内外面側で。底部との交換点に焼成。底部：丸底、内面側で、外面部削り。	口縁・体部：外端・内外面側で。底部との交換点に焼成。底部：丸底、内面側で、外面部削り。	1	
B-11	H-6 底面	土器部 高台付	①138.0 ②53.0 ③72.0	①焼成 ②良好 ③オーバーフロウ1/2	口縁部：やや膨らみを持って外端・内外面側で。底部：内面側で、外面部削り。切り足。付け高台。底部内部の中央に穴穿孔。	口縁部：やや膨らみを持って外端・内外面側で。底部：内面側で、外面部削り。切り足。付け高台。底部内部の中央に穴穿孔。	12	焼成
B-12	P-6 底面	土器部 高台付	①130.0 ②53.0 ③70.0	①焼成 ②良好 ③オーバーフロウ2/5	橢円形容。口縁・体部：丸みを帯びて外端・内外面側で。底部：内面側で、外面部削り。底部：丸底。	橢円形容。口縁・体部：丸みを帯びて外端・内外面側で。底部：内面側で、外面部削り。底部：丸底。	57	
B-13	X45-Y 211	土器部 耳	①131.0 ②65.0 ③61.0	①焼成 ②良好 ③灰白 ④5/6	橢円形容。口縁・体部：外端・内外面側で。底部：内面側で、外面部削り。	橢円形容。口縁・体部：外端・内外面側で。底部：内面側で、外面部削り。	7	焼成焰

10B区

番号	出土場所 層位	器種名	①口径 ②底径 ③成形	④胎土 ⑤焼成 ⑥剖面	⑦表面	器物の特徴・変形・焼成技術	登録 番号	備考
10B-1	H-2 底面	土器部 小窓付	①84.0 ②82.0	①焼成 ②良好 ③灰白 ④変形	橢円形容。口縁部：やや外反。内面側で。底部：外側・内面側で。外面部削りあり。底切りが鋸歯。	橢円形容。口縁部：やや外反。内面側で。底部：外側・内面側で。外面部削りあり。底切りが鋸歯。	2	焼成焰
10B-2	H-2 底面	土器部 小窓付	①84.0 ②119.0	①焼成 ②良好 ③灰白 ④変形	橢円形容。口縁部：やや外反。内面側で。底部：やや膨らみを持って外端・内外面側で。外側・内面側で、外面部削り。口縁部に打厙痕。	橢円形容。口縁部：やや外反。内面側で。底部：やや膨らみを持って外端・内外面側で。外側・内面側で、外面部削り。口縁部に打厙痕。	8	焼成焰
10B-3	H-2 底面	土器部 小窓付	①88.0 ②71.0	①焼成 ②良好 ③浅腹型 ④定形	橢円形容。口縁部：やや外反。内面側で。底部：やや膨らみを持って外端・内外面側で。外側・内面側で、外面部削り。底切りが口縁と平行に入りておらず、底部が斜めになっている。	橢円形容。口縁部：やや外反。内面側で。底部：やや膨らみを持って外端・内外面側で。外側・内面側で、外面部削り。底切りが口縁と平行に入りておらず、底部が斜めになっている。	9	焼成焰
10B-4	H-2 底面	土器部 小窓付	①88.0 ②82.0	①焼成 ②良好 ③浅腹型 ④浅腹型	橢円形容。口縁部：やや外反。内面側で。底部：やや膨らみを持って外端・内外面側で。外側・内面側で、外面部削り。	橢円形容。口縁部：やや外反。内面側で。底部：やや膨らみを持って外端・内外面側で。外側・内面側で、外面部削り。	10	焼成焰
10B-5	H-2 底面	土器部 小窓付	①99.0 ②82.0	①焼成 ②良好 ③灰白 ④定形	橢円形容。口縁部：やや外反。内面側で。底部：やや膨らみを持って外端・内外面側で。外側・内面側で、外面部削り。底部：丸底。	橢円形容。口縁部：やや外反。内面側で。底部：やや膨らみを持って外端・内外面側で。外側・内面側で、外面部削り。底部：丸底。	18	焼成焰
10B-6	H-2 底面	土器部 高台付	①154.0 ②67.0	①焼成 ②良好 ③にい・複数 ④1/2強	橢円形容。口縁部：やや外反。内面側で。底部：丸底。	橢円形容。口縁部：やや外反。内面側で。底部：丸底。	1	焼成焰
10B-7	H-2 底面	土器部 高台付	①156.0 ②66.0	①焼成 ②良好 ③灰白 ④定形	橢円形容。口縁部：外端・内面側で。底部：底部上から膨らみと口縁部が斜めに並んでいる。	橢円形容。口縁部：外端・内面側で。底部：底部上から膨らみと口縁部が斜めに並んでいる。	20	底土 焼成焰
10B-8	H-2 底面	土器部 高台付	①156.0 ②69.0	①焼成 ②良好 ③灰白 ④定形	橢円形容。口縁部：外端・内面側で。底部：底部上から膨らみと口縁部が斜めに並んでいる。	橢円形容。口縁部：外端・内面側で。底部：底部上から膨らみと口縁部が斜めに並んでいる。	5	焼成焰
10B-9	H-2 底	土器部 茎葉	①25.0 ②(114.0) ③-	①中空 ②直筒形 ③口縁・胴部の一部のみ	口縁部：内端・内外面側で。刷毛：やや丸みを帯びて直立、内側横幅の狭い部で、底部に丸底と並びながら直立する。その後、底状の造具で円錐形の穴を開いている。底部欠損。	口縁部：内端・内外面側で。刷毛：やや丸みを帯びて直立、内側横幅の狭い部で、底部に丸底と並びながら直立する。その後、底状の造具で円錐形の穴を開いている。底部欠損。	6	焼成焰
10B-10	H-3 底	土器部 小窓付	①165.0 ②91.0 ③68.0	①中空 ②直筒 ③にい・直筒 ④1/10	橢円形容。口縁部：外端・内面側で。底部：底部上に比べてやや内側から立ち上がる。内外面側で。底部：丸底。	橢円形容。口縁部：外端・内面側で。底部：底部上に比べてやや内側から立ち上がる。内外面側で。底部：丸底。	6	焼成焰
10B-11	H-3 底	土器部 耳	①142.0 ②87.0	①焼成 ②良好 ③灰白 ④1/2	橢円形容。口縁部：外端・内面側で。底部：丸底。	橢円形容。口縁部：外端・内面側で。底部：丸底。	7	底土 焼成焰
10B-12	H-3 底	土器部 茎葉	①90.0 ②115.0 ③51.0	①焼成 ②良好 ③灰白 ④1/2	橢円形容。口縁部：外端・内面側で。底部：丸底。	橢円形容。口縁部：外端・内面側で。底部：丸底。	7	底土 焼成焰
10B-13	H-3 底	土器部	①61.0 ②(122.0) ③(1.3)	①焼成 ②直筒 ③灰白	口縁部：内面立ち上がりが弱い部分で断続的有。外面部削り。底部：砂目底。	口縁部：内面立ち上がりが弱い部分で断続的有。外面部削り。底部：砂目底。	8	底土 焼成焰
10B-14	H-3 底	土器部	①15.0 ②(6.1) ③(1.2)	①焼成 ②丸好 ③灰 ④口縫部破片	口縁部を削りして片口を造り出す。	口縁部を削りして片口を造り出す。	9	底土 焼成焰
10B-15	H-4 底面	土器部 底	①225.0 ②(8.2)	①中空 ②直筒 ③口縫部一部のみ	口縁部：複く外彎。内外面側で。底部：丸みを帯びて、内外面側で。底部欠損。全般的に土器の表面が粗んでいて、ザラザラしている。	口縁部：複く外彎。内外面側で。底部：丸みを帯びて、内外面側で。底部欠損。全般的に土器の表面が粗んでいて、ザラザラしている。	2	
10B-16	H-5 底	土器部 底	①20.0 ②(122.0)	①中空 ②直筒 ③口縫部一部のみ	口縁部：長くは直立。内外面側で。外縁は内面に比べて凸凹しており、軽度の輪郭線が残る。底部：やや膨らみを帯びて直立。調査は口縁部とは別同じ。やや斜め上に若干伸びる肉を残す。底部欠損。	口縁部：長くは直立。内外面側で。外縁は内面に比べて凸凹しており、軽度の輪郭線が残る。底部：やや膨らみを帯びて直立。調査は口縁部とは別同じ。やや斜め上に若干伸びる肉を残す。底部欠損。	4	焼成焰
10B-17	H-5 底面	土器部 底	①20.0 ②(10.0)	①焼成 ②直筒 ③直筒 ④口縫部一部のみ	橢円形容。口縁・体部：大きくて外端・内外面側で。刷毛：やや膨らみを帯びて直立。内外面側で。底部：丸底。	橢円形容。口縁・体部：大きくて外端・内外面側で。刷毛：やや膨らみを帯びて直立。内外面側で。底部：丸底。	7	焼成焰
10B-18	H-6 底	灰褐色器 底	①14.0 ②(7.0)	①焼成 ②直筒 ③直筒 ④灰白 ⑤4/4	橢円形容。口縁・体部：大きくて外端・内外面側で。底部：内面側で、外面部削り。底部：丸底。	橢円形容。口縁・体部：大きくて外端・内外面側で。底部：内面側で、外面部削り。底部：丸底。	5	大底直火式
10B-19	H-7 底	土器部 底	①— ②38.0	①— ②(23)	橢円形容。体部：丸みを帯びて底部から立ち上がる。内外面側で。底部：丸底。	橢円形容。体部：丸みを帯びて底部から立ち上がる。内外面側で。底部：丸底。	金属性付着	
10B-20	H-7 底	土器部 底	①— ②36.0	①焼成 ②直筒 ③灰白 ④作・底	橢円形容。口縁・体部：直筒。内外面側で。底部：内面側で、外面部削り。底部：丸底。	橢円形容。口縁・体部：直筒。内外面側で。底部：内面側で、外面部削り。底部：丸底。	1	焼成焰

番号	出土遺物 層位	種類名	①口径 ②底高 ③色調	④胎土 ⑤焼成 ⑥焼成度	器種の特徴・形態・調査技術	登錄 番号	備考
HB-21	H-2 床直	須恵器 高台盤	①15.2 ②7.7	③暗紺 ④灰 ⑤焼成	口縁部・外縁、内面凹凸感、外面施釉。底部:丸みを帯びて外傾、内面施釉。外縁部:底部:内面施釉。外面凹凸感を切り落し、付け合台、窓孔付ける過程で外輪条切りが施して消されている。	15	焼成度 内面黑色共通
HB-22	H-3 床直	土師器 土釜	①21.6 ②10.7	③中紺 ④灰 ⑤焼成	口縁部: 傾く外傾、内外面施釉。底部: 内面施釉と削落による粗面で外輪条切りの窓孔付。	14,16	
HB-23	H-3 床直	土師器 土釜	①23.1 ②9.6	③中紺 ④灰 ⑤口縁・鋸筋の一端のみ	口縁部: 傾く外傾、内外面施釉で。窓孔: 内面施釉で、外面削落により。	4	
HB-24	H-10 床直	土師器 土釜	①14.0 ②-	③中紺 ④灰 ⑤焼成	口縁部: 傾く外傾、内外面施釉で。窓孔: 内面施釉と削落による粗面で外輪条切りの窓孔付。	2	
HB-25	DB-1 覆土	須恵器 小環	①8.9 ②4.5	③中紺 ④灰 ⑤焼成	口縁部: やや外傾、内面施釉で。底部: 丸みを帯びて外傾、内面施釉で、窓孔: 内面施釉。	3	焼成度
HB-26	DB-1 覆土	須恵器 小環	①8.8 ②4.9	③中紺 ④灰 ⑤焼成	口縁部: 外縁、内外面施釉で。底部: 丸みを持って外傾、内面施釉で、窓孔: 内面施釉。	4	焼成度
HB-27	DB-1	須恵器 小環	①9.9 ②5.5	③中紺 ④灰 ⑤焼成	口縁部: 外縁、内外面施釉で。底部: 丸みを持って外傾、内面施釉で、窓孔: 内面施釉。	6	焼成度
HB-28	DB-1 覆土	須恵器 环	①10.2 ②5.0	③中紺 ④灰 ⑤焼成	口縁部: 外縁、内面施釉で。底部: 丸みを持って外傾、内面施釉で、窓孔: 内面施釉。	覆土	焼成度
HB-29	DB-1 覆土	須恵器 环	①8.2 ②4.7	③中紺 ④灰 ⑤焼成	口縁部: 外縁、内面施釉で。底部: 丸みを持って外傾、内面施釉で、窓孔: 内面施釉。	5	焼成度
HB-30	DB-1 覆土	須恵器 环	①9.8 ②9.7	③中紺 ④灰 ⑤焼成	口縁部: 外縁、内面施釉で。底部: 丸みを持って外傾、内面施釉で、窓孔: 内面施釉。	1	焼成度
HB-31	全体覆土	須恵器 小環	①9.4 ②5.2	③中紺 ④灰 ⑤焼成	口縁部: 外縁、内面施釉で。底部: 丸みを持って外傾、内面施釉。	覆土	焼成度

11区

番号	出土遺物 層位	種類名	①口径 ②底高 ③色調	④胎土 ⑤焼成 ⑥焼成度	器種の特徴・形態・調査技術	登錄 番号	備考
11-1	H-2 床底	須恵器 小環	①8.5 ②4.9	③中紺 ④灰 ⑤焼成	縦縫整型。口縁部: 体部: 窓孔からやや外反して立ち上がり、丸みを伴って外傾、内面施釉で、底部: 内面施釉で、外輪条切り。	1	焼成度
11-2	H-3 覆土	須恵器 小環	①8.2 ②5.5	③中紺 ④灰 ⑤焼成	縦縫整型。口縁部: 体部: 外縁、内外面施釉で。底部: 内面施釉で、外輪条切り。	15	焼成度
11-3	H-3 覆土	須恵器 小環	①8.5 ②5.5	③中紺 ④灰 ⑤焼成	縦縫整型。口縁部: やや外反、内外面施釉で。底部: 外縁、内面施釉で、窓孔あり。	覆土	焼成度
11-4	H-3 覆土	須恵器 小環	①8.7 ②5.0	③中紺 ④灰 ⑤焼成	縦縫整型。口縁部: やや外反、内外面施釉で。底部: 丸みを持って外傾、内面施釉で、窓孔あり。	X275 Y128	焼成度 覆土
11-5	H-3 覆土	須恵器 小環	①8.8 ②5.1	③中紺 ④灰 ⑤焼成	縦縫整型。口縁部: やや外反、内外面施釉で。底部: 丸みを持って外傾、内面施釉で、窓孔あり。	X276 Y128	焼成度 覆土
11-6	H-4 覆土	須恵器 环	①10.4 ②6.1	③中紺 ④灰 ⑤焼成	縦縫整型。口縁部: やや外反、内外面施釉で。底部: 外縁、内面施釉で、内輪条切り。	5	灯明度
11-7	H-4 高台盤	須恵器 高台盤	①11.0 ②6.0	③中紺 ④灰 ⑤焼成	縦縫整型。口縁部: 外縁、内外面施釉で。底部: 底部から外反して立ち上がり、丸みを伴って外傾、内面施釉で、窓孔あり。	1	
11-8	H-4 床底	須恵器 羽茎	①10.4 ②7.1	③中紺 ④灰 ⑤焼成	縦縫整型。口縁部: 外縁、内外面施釉で。底部: 内面施釉で。やや斜めに付ける窓孔。	7A8	焼成度
11-9	H-5 覆土	須恵器 羽茎	①20.9 ②14.1 ③-	③中紺 ④灰 ⑤焼成	縦縫整型。口縁部: やや内傾、内外面施釉で、内輪条切り。	4	焼成度
11-10	H-7 覆土	土師器 土釜	①26.0 ②18.3	③中紺 ④灰 ⑤焼成	口縁部: 外縁、内外面施釉で。底部: 内面施釉で、外輪条切り。	13.1	窓の埋進に使用
11-11	H-7 床底	須恵器 土釜	①25.9 ②15.6	③中紺 ④灰 ⑤焼成	口縁部: 傾く外縁、内外面施釉で。底部: 内面施釉で、外輪条切り。	11,14 15	
11-12	D-1 覆土	須恵器 环	①15.3 ②7.0	③中紺 ④灰 ⑤焼成	縦縫整型。口縁部: やや外反、内外面施釉で。体部: 丸みを伴って外傾、内面施釉。	覆土	焼成度
11-13	X275 Y127	須恵器 小環	①9.3 ②6.1	③中紺 ④灰 ⑤焼成	縦縫整型。口縁部: やや外反、内面施釉で。底部: 丸みを伴って外傾、窓孔を付ける過程で窓孔より底の大部分が削れて消されている。	1	焼成度 内面黑色共通

中世

番号	器種名	出土 層位	①口径 ②底高 ③色調	④胎土 ⑤焼成 ⑥焼成度	器種の特徴・形態・調査技術	登錄 番号	備考
6-1	組部 高輪	覆土	①~ ②0.5	③中紺 ④灰白 ⑤成部片	削出し高台で、置き盤を掘り取り、底部は盤状に復元。天日蓋城。		
6-2	ガワラク 皿	土釜	①(11.9) ②7.0	③中紺 ④灰 ⑤組一部	内輪面に刻まれる。口唇部に打痕。底部削取痕を削除。		
6-3	焼拂ぬ器 大皿	覆土	①~ ②~	③中紺 ④灰 ⑤-	削痕部で盤状の叩き目を施し、内面に焼拂み。		常滑城
6-4	焼拂ぬ器 大皿	土釜	①~ ②~	③中紺 ④灰 ⑤-	研削部で素顔状の叩き目を施し、内面に焼拂み。		常滑城
6-5	焼拂ぬ器 こね鉢	土釜	①~ ②~	③中紺 ④灰 ⑤-	底部に石粉を含む移行部。内面に焼拂痕。		常滑城
6-6	秋寅御 盤体	土釜	①~ ②~	③中紺 ④灰 ⑤-	内面に丸み。1周の僅り目と底溝痕。外部立上部はヘア刷毛。下平部は磨痕で指紋捺痕。		

Tab.7 石器・石製品 観察表

1区

番号	出土遺構/層位	器種名	最大長	最大幅	最大厚	重さ	石材	遺存度	登録番号	備考
1-石1	H-4 床直	砾石	16.8	10.3	8.8	1840		破片	52	

2区

番号	出土遺構/層位	器種名	最大長	最大幅	最大厚	重さ	石材	遺存度	登録番号	備考
2-石1	X57 Y84 覆土	磨製石斧	16.2	5.5	3.5	500	安山岩	完形		

3区

番号	出土遺構/層位	器種名	最大長	最大幅	最大厚	重さ	石材	遺存度	登録番号	備考
3-石1	H-5 床直	磨錐車	4.4	4.5	2.1	62	滑石	完形	68	
3-石2	H-9 覆土	砾石	(4.5)	4	3.2	98	凝灰岩	破片	覆土	
3-石3	H-9 床直	磨石	9.6	10.5	3	480	頁岩	完形	145	
3-石4	H-14 覆土	打製石斧	12.9	5	2.1	140	安山岩	ほぼ完形	99	
3-石5	H-14 床直	砾石	10.5	3.2	3.9	280	凝灰岩	完形	273	
3-石6	H-16	穿石	17.2	1.5	7.9	910	角閃石安山岩	完形	35	
3-石7	T-4	打斧	9.0	4.0	1.2	50.5	黑色頁岩	完形	15	
3-石8	W-3 覆土	砾石	7	3.8	2.1	66	凝灰岩	ほぼ完形		
3-石9	W-5 覆土	打製石斧	8.8	5	1.3	54	黑色頁岩	完形		
3-石10	O-1 覆土	凹石	18	19	10.5	4000	輝石安山岩	完形		

4区

番号	出土遺構/層位	器種名	最大長	最大幅	最大厚	重さ	石材	遺存度	登録番号	備考
4-石1	H-1	砾石	13.0	6.1	6.5	435	安山岩	完形	19	
4-石2	X25 Y90	管玉	2.9	0.6	0.6	1.9	蛇紋岩	完形	覆土	
4-石3	X25 Y90	打斧	6.5	4.5	1.3	59.5	安山岩	破片	覆土	
4-石4	X25 Y90	石織	3.2	1.7	0.5	1.5	鐵石英	完形	覆土	

5区

番号	出土遺構/層位	器種名	最大長	最大幅	最大厚	重さ	石材	遺存度	登録番号	備考
5-石1	H-5	打斧	7.0	4.8	1.6	54.5	黑色頁岩	破片	覆土	

7区

番号	出土遺構/層位	器種名	最大長	最大幅	最大厚	重さ	石材	遺存度	登録番号	備考
7-石1	H-1	白玉	1.0	1.0	0.5	0.5	滑石	完形	覆土	
7-石2	H-3	磨錐車	4.6	4.6	1.6	56.5	蛇紋岩	完形	2	
7-石3	H-3	石鑿	2.3	1.4	0.5	1.0	黑曜石	ほぼ完形	覆土	
7-石4	H-5	砾石	9.0	4.9	4.3	230	凝灰岩	破片	63	
7-石5	D-3	打斧	4.8	4.3	1.2	29.4	黑色頁岩	破片	覆土	
7-石6	X45 Y188	打斧	11.5	5.3	1.5	97.5	黑色頁岩	完形	覆土	
7-石7	X45 Y188	打斧	9.5	6.3	2.4	16.4	砂岩	破片	覆土	
7-石8	全体覆土	打斧	9.6	4.4	1.8	88.0	珪質頁岩	ほぼ完形	覆土	

8区

番号	出土遺構/層位	器種名	最大長	最大幅	最大厚	重さ	石材	遺存度	登録番号	備考
8-石1	H-2	砾石	6.0	4.1	3.9	104.0	凝灰岩	完形	17	
8-石2	H-5	石織	2.6	1.7	0.5	2.1	チャート	ほぼ完形	覆土	
8-石3	P-6	砾石	7.3	4.4	4.9	250.0	凝灰岩	破片	6	

Tab. 8 鉄器・鉄製品 観察表

1区

番号	出土遺物/部位	器種名	最大長	最大幅	最大厚	重さ	遺存度	登錄番号	備考
1-鉄1	H-6 覆土	刀子	(8.4)	12	0.6	39	破片	37	
1-鉄2	H-9 床底	刀子	(11.8)	17	0.65	12	1/2	35	

2区

番号	出土遺物/部位	器種名	最大長	最大幅	最大厚	重さ	遺存度	登錄番号	備考
2-鉄1	H-4 覆土	審査未?	25	22	-	4	ほぼ完形		
2-鉄2	H-8 床底	釘?	127	0.8	0.5	37	2/3		
2-鉄3	H-8 床底	刀子	(18.6)	4	0.5	102	1/3		
2-鉄4	XK2 Y88 覆土	釘?	21.5	0.8	0.5	33	ほぼ完形		

3区

番号	出土遺物/部位	器種名	最大長	最大幅	最大厚	重さ	遺存度	登錄番号	備考
3-鉄1	H-9 床底	釘?	5.8	0.5	0.5	47	ほぼ完形	10	
3-鉄2	H-9 覆土	釘?	(11.2)	11	1	278	2/3		
3-鉄3	H-14 覆土	釘?	(6.2)	1.3	1.2	324	2/3	141	
3-鉄4	H-15 覆土	刀子?	(12.1)	25	0.5	418	破片	22	
3-鉄5	O-1 覆土	刀子?	(5.1)	28	0.4	11.8	破片	227	

7区

番号	出土遺物/部位	器種名	最大長	最大幅	最大厚	重さ	遺存度	登錄番号	備考
7-鉄1	H-2	刀子	14.8	13	0.3	17.2	完形	覆土	
7-鉄2	H-5	刀子	11.6	0.5	0.3	13.2	完形	56	
7-鉄3	H-5	刀子	18.3	1.3	0.5	3100	完形	82	
7-鉄4	H-5	鉤先	20	31	0.5	21	破片	覆土	
7-鉄5	H-10	釘?	8.8	0.5	0.3	11.2	ほぼ完形	H5 No.7	
7-鉄6	H-10	刀子	17.1	14	0.3	23.0	完形	H5 No.16	

8区

番号	出土遺物/部位	器種名	最大長	最大幅	最大厚	重さ	遺存度	登錄番号	備考
8-鉄1	H-5	鉤頭	11.4	3.7	0.4	25.8	ほぼ完形		登録番号がわからない
8-鉄2	H-10	軸頭等	16.6	5.2	0.2	50.5	完形	1	車輪部分のみ

9区

番号	出土遺物/部位	器種名	最大長	最大幅	最大厚	重さ	遺存度	登錄番号	備考
9-鉄1	H-1	軸頭等	4.4	4.4	0.1	10.6	完形	3	車輪部分のみ

10B区

番号	出土遺物/部位	器種名	最大長	最大幅	最大厚	重さ	遺存度	登錄番号	備考
10B-鉄1	DB-1	鉄錠	120	18	0.8	238	ほぼ完形	2	

11区

番号	出土遺物/部位	器種名	最大長	最大幅	最大厚	重さ	遺存度	登錄番号	備考
11-鉄1	H-3	鉄錠	9.8	1.6	0.8	9.8	破片	12	
11-鉄2	H-3	鉄錠	12.8	3.3	0.9	26.4	2/3	19	

10B区

番号	出土遺構/層位	器種名	最大長	最大幅	最大厚	重さ	石材	造形	登錄番号	備考
10B-石1	H-2	石墨	19.5	16.3	5.3	3080.0	—	完形	21	
10B-石2	H-6	石墨	3.9	1.8	0.5	3.7	黑色頁岩	完形	覆土	

11区

番号	出土遺構/層位	器種名	最大長	最大幅	最大厚	重さ	石材	造形	登錄番号	備考
11-石1	H-3	砾石	6.1	4.7	4.1	170	麻沢層	完形	覆土	
11-石2	H-7	砾石	17.1	8.4	2.0	445	黑色安山岩	球状完形	6	未成品
11-石3	H-7	砾石	13.7	10.7	5.3	960	安山岩	完形	16	

Tab.9 土製品 觀察表

1区

番号	出土遺構/層位	器種名	最大長	最大幅	最大厚	重さ	石材	造形	登錄番号	備考
1-土1	H-7 覆土	土錐	3.9	0.9	0.8	完形	22			
1-土2	H-12 覆土	土錐	3.5	0.8	0.8	完形	?			
3-土1	H-17 覆土	土錐	4.6	1.6	1.6	完形				

Tab10 銅錢 觀察表

3区

番号	出土遺構/層位	器種名	名称	登錄番号
3-銭1	W-4 覆土	古鏡	永富通寶	
3-銭2	W-4 覆土	古鏡	天聖元宝	
3-銭3	DB-2 覆土	古鏡	永富通寶	

番号	出土遺構/層位	器種名	名称	登錄番号
3-銭4	DB-2 覆土	古鏡	照富元寶	
3-銭5	DB-2 覆土	古鏡	圓天通寶	
3-銭6	DB-2 覆土	古鏡	皇富通寶	

Tab.11 瓦 觀察表

1区

番号	出土遺 構部位	器種名	①長さ	②厚さ	③胎土	④焼 成 ⑤還存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録 番号	備考
1-JL1	月~2 廐土	平瓦	①(225)	②1.3	③粗粒	④良好	一枚作り。西面：布目有り。凸面：施で。斜板子口押き有り。側面：西 面取り2回。	26/40	
1-JL2	H~4 廐内	丸瓦	①(35.9)	②1.5	③粗粒	④良好	玉縁式。凸面：施で。西面：模様模有り。施部施で。側面：側面2回。	28枚	
1-JL3	H~5 廐土	平瓦	①(84)	②1.9	③粗粒	④良好	西面：布目押り消し。凸面：施で。発書き文字の一部有り。判読不明。		
1-JL4	H~6 廐底	丸瓦	①(35.6)	②2.1	③粗粒	④良好	玉縁式。凸面：施押き後面で消し。黒底一面有り。西面：布目、系切り9 枚有り。施部施で。側面：西面取り1回。	79	
1-JL5	H~6 廐底	丸瓦	①(88)	②1.5	③粗粒	④良好	玉縁式。凸面：施押き後面で消し。黒底一面有り。西面：布目有り、一部擦で消し。斜 面：施取り2回。	50枚	
1-JL6	H~6 廐底	丸瓦	①(329)	②1.7	③粗粒	④良好	玉縁式。凸面：施で。西面：布目有り、施部有り。側面：西面取り2回。	92	
1-JL7	H~6 廐底	平瓦	①(39.8)	②1.9	③粗粒	④良好	西面：布目押り消し。施部有り。西面施で。凸面：施押き後面で消し。側面：西面 面取り2回。	82	
1-JL8	H~6 廐底	平瓦	①(31.1)	②1.9	③粗粒	④良好	一枚作り。西面：布目有り。凸面：施で。施部施押き有り。側面：西 面取り2回。	85	
1-JL9	H~6 廐底	平瓦	①(41.5)	②2.3	③粗粒	④良好	一枚作り。西面：布目有り。兩端施で。凸面：施で。縫3本の短い毛書 き有り。側面：西面取り3回。	91	
1-JL10	H~6 廐土	丸瓦	①(60)	②2.0	③粗粒	④良好	鳥足状模文と思われる。背面に模文が1つづつ付く。縫1cm後面の 無施部。瓦当施部。	63	
1-JL11	W~1 廐土	新丸瓦	①(46)	②(1.7)	③粗粒	④良好	鳥足状模文と思われる。背面に模文が1つづつ付く。縫1cm後面の 無施部。康子は修復のもの3本1組で構成と思われる。		
1-JL12	W~1 廐土	新丸瓦	①(70)	②0.3	③粗粒	④良好	二重瓦の小片。瓦底の外縁。裏面：施取り。鎌倉B104か。		
1-JL13	W~1 廐土	新平瓦	①(85)	②0.1	③粗粒	④良好	三重瓦軒平瓦の破片と思われる。西面施部削り消し。凸面施部削り。山王殿寺日 式か。		

2区

番号	出土遺 構部位	器種名	①長さ	②厚さ	③胎土	④焼 成 ⑤還存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録 番号	備考
2-JL1	H~9 廐土	平瓦	①(29.7)	②2.5	③中粒	④良好	西面：布目施で消し。凸面：施で一部剥離り。施子状の押き有り。側面： 側面取り2回。	2	
2-JL2	T~1 廐土	平瓦	①(13.0)	②1.5	③粗粒	④良好	西面：布目有り。方形神の中に「雲」が入る。雲印と考えていいのではないか。 凸面：施で。側面：不明。鎌倉・吉井窯。	25	文字
2-JL3	T~1 廐土	平瓦	①(29.3)	②1.9	③粗粒	④良好	一枚作り。西面：布目有り。凸面：施で。施書きによる文字「平」有り。 側面：西面取り2回。蘇窯・吉井窯。	31	文字
2-JL4	T~1 廐土	平瓦	①(18.7)	②2.1	③粗粒	④良好	一枚作り。西面：布目有り。端部施で。凸面：施で。施書きによる文字「平」有り。 側面：西面取り2回。	34	
2-JL5	T~1 廐土	平瓦	①(17.0)	②2.0	③粗粒	④良好	西面：布目有り。施書きが有るが、認読不可。凸面：施で。側面：施取 り2回。蘇窯・吉井窯。	37	
2-JL6	D~2 廐底	丸瓦	①(28.8)	②0.8	③中粒	④良好	玉縁式。凸面：施で。西面に施部削りの工具痕有り。西面：布目有り。側面： 西面取り2回。	10	
2-JL7	D~3 廐土	丸瓦	①(18.1)	②2.0	③粗粒	④良好	玉縁式。凸面：施で。西面に施部削りの工具痕有り。西面：布目有り。側面： 西面取り3回。	1	
2-JL8	D~3 廐土	平瓦	①(34.0)	②1.6	③中粒	④良好	一枚作り。西面：布目有り。施書きによる文字「子」有り。鎌倉燒土の「八 重人」。と同様になるか。西面：布目有り。西面部施で。側面：西面取り3 回。蘇窯・吉井窯。	23	
2-JL9	XSE1284 廐土	輕平瓦	①(11.7)	②4.3	③中粒	④良好	三重瓦軒平瓦の破片と思われる。西面施部削り消し。凸面施部削り。		

3区

番号	出土遺 構部位	器種名	①長さ	②厚さ	③胎土	④焼 成 ⑤還存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録 番号	備考
3-JL1	H~10 廐内	平瓦	①(17.8)	②2.1	③粗粒	④良好	一枚作り。西面：布目有り。凸面：施で。施書きの記号らしきもの有り。 「丁」の可能性もある。側面：西面取り3回。鎌倉・吉井窯。	91	文字
3-JL2	H~10 廐底	平瓦	①(22.9)	②1.8	③粗粒	④良好	西面：布目有り。施部施で。凸面：施で。側面：西面取り1回。	13	
3-JL3	H~11 廐底	丸瓦	①(19.3)	②2.2	③粗粒	④良好	玉縁式。凸面：施で。施書きによる文字「里人」有り。鎌倉燒土の「八 重人」と同様になるか。西面：布目有り。西面部施で。側面：西面取り3 回。蘇窯・吉井窯。	22	文字
3-JL4	H~11 廐底	輕平瓦	①(8.5)	②0.4	③粗粒	④良好	一枚作り。外縁は施文の外縁部。内区は施書きによる斜辺を組み合わ せるが強制性はない。施部の一種か。西面：布目有り。西面部施で。側面：西面取り3 回。瓦当前面上まで施有り。凸面：施目が斜に向いて残る。	9	
3-JL5	H~12 廐内	A丸瓦	①(37.9)	②2.0	③粗粒	④良好	行系式。凸面：施部。西面：布目有り。西面部施で。側面：西面取り1回。 鎌倉・吉井窯。	10, 4548	
3-JL6	H~12 廐内	平瓦	①(24.2)	②0.4	③粗粒	④良好	一枚作り。西面：布目有り。施書きによる文字「千子」有り。2文字でなく1文字と考 えた方が良いが、強制性がない。側面：西面取り2回。鎌倉・吉井窯。	1	文字
3-JL7	H~17	丸瓦	①(37.0)	②1.4	③粗粒	④良好	行系式。凸面：施で。西面：布目有り。側面：西面取り1回。	II-17 -1	

番号	出土遺物部位	器種名	①長さ	②厚さ	③地土	④焼成度	⑤色調	⑥遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備考
3-JC8	H-17	丸瓦	①86.7	②4.7	①織紋	②良好	③赤褐色	④灰白色	行基式。凸面：施で。凹面：布目有り。裏骨痕らしき跡有り。側面：面取り2回。叩き約一部有り。	H-17-2	
3-JC10	H-17	丸瓦	①(34.0)	②14	①中粒	②良好	③赤褐色	④灰白色	行基式。凸面：施で。凹面：布目有り。裏骨痕無。側面：面取り3回。	H-17-4	
3-JL9	H-17	平瓦	①(34.0)	②14	①中粒	②良好	③赤褐色	④灰白色	一枚作り。凹面：布目有り。側面：側面取り1回。側面内に制作時付帯した軽土が一部有り。側面：面取り2回。	H-17-3	
3-JC11	H-17	平瓦	①37.6	②20	①粗粒	②良好	③赤褐色	④灰白色	一枚作り。凹面：布目有り。側面：側面取付した軽土が一部有り。凸面：叩き。側面：面取り1回。片面：側面取り。	H-17-5	
3-JE12	T-3 (床面)	A.瓦	①(31.8)	②22	①織紋	②良好	③赤褐色	④灰白色	行基式。凸面：施で。稚體輪郭等の工具痕が側面に5本平行に入る。凹面：布目有り。側面：面取り3回。	25	
3-JL13	T-3 (床面)	平瓦	①(24.5)	②13	①中粒	②良好	③赤褐色	④灰白色	凸面：布目有り。側面：施で。凹面：布目有り。側面：面取り2回。「半季争合」の半は多摩郡平野を表す。	18	文字
3-JE14	W-2 (床面)	特平瓦	①(7.5)	②15	①織紋	②良好	③赤褐色	④灰白色	鳥足状突出部と色われ。弁側に唐文がつづつ付く。端1cm前後の吹付跡。通体は抹除のものと3cm相てて現れ。	9	
3-JC15	O-1 (便土)	丸瓦	①(15.8)	②45	①織紋	②良好	③オリーブグリーン	④灰白色	二重瓦の少破片。瓦紋の外縁。裏面：施削り。		
3-JC16	O-1 (便土)	特平瓦	①(6.3)	②20	①粗粒	②良好	③赤褐色	④灰白色	早川八弁進葉草。界隈と唐文等の間は無理。瓦当面では進葉の中央が一番高い。筋土には右突起が混ざる。瓦当面は墨削り。偏寺E103。因分帶切妻期と見えらる。後藤：吉井記。	30	
3-JE17	I-1 瓦土	丸瓦	①(31.0)	②40	①中粒	②良好	③赤褐色	④4/5	正規式。凸面：側面押出跡で出し。凹面：布目有り。裏骨痕有り。側面：面取り3回。		

4区

番号	出土遺物部位	器種名	①口径	②器高	③地土	④地調	⑤遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備考	
4-JL1	便土	特平瓦	①(7.5)	②4.0	①中粒	②良好	③赤褐色	④灰白色	素燒狀平瓦。一枚作り平瓦の凸面口部に粘土縫を加え背へ筋をつくり瓦筋を用いて垂直板を押す。板縫は四面或縫があるが実際の器皿があるのが特徴。	X26 Y96	
4-JL2	便土	丸瓦	①85	②18	①織紋	②良好	③赤褐色	④灰白色	省炭狀丸瓦。型木は一本であるが玉縁の部分で折れ、とっくり状となる。凸面は織縫の後、ナメ仕上げ。	X27 Y107	

5区

番号	出土遺物部位	器種名	①口径	②器高	③地土	④地調	⑤遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備考	
5-JL1	全体 便土	平瓦	①20.5	②19	①織紋	②良好	③明赤色	④灰白色	平瓦凸面の文字瓦。上野郡分田地で出土する「製作」(押印)と思われる。若狭古書によれば、縁に残る部分は左側で「奉」の一部。奢侈品の豪品を示すものとされるが、笠懸形と思われる。	便土	

6区

番号	出土遺物部位	器種名	①口径	②器高	③地土	④地調	⑤遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備考	
6-JL1	H-3 カマド	丸瓦	①(14.4)	②24	①中粒	②良好	③暗青灰	④灰白色	早川八弁進葉草。瓦当面では進葉の中央が一番高い。瓦当面に落泥の部分は左側で「奉」の一部。奢侈品の豪品を示すものとされるが、笠懸形と思われる。	H-3 カマド	

7区

番号	出土遺物部位	器種名	①口径	②器高	③地土	④地調	⑤遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備考	
7-JL1	H-4 床底	丸瓦	①40.5	②23	①織紋	②良好	③暗青灰	④灰白色	無段式丸瓦。10cm×2と異なるもののもの。凸面はナメ仕上げ。凹面には挽糸縫口上に型の筋土の合わせ目がある。同時に左筋縫、糸引り筋縫が残る。	H-4 40	
7-JE2	H-4 床底	文字瓦	①(8.0)	②16	①織紋	②良好	③暗青灰	④灰白色	丸瓦凹面の文字瓦。押印文字瓦であろう。上野郡分田地では築造文字を伴う例が報告されている。また、山王廟寺では築造文字を伴う例が報告されている。金型筋によるとみられ、墨脱無縫で作られている。	H4	

9区

番号	出土遺物部位	器種名	①口径	②器高	③地土	④地調	⑤遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備考	
9-JL1	H-2	特平瓦	①(14.5)	②15	①中粒	②良好	③赤褐色	④灰白色	一枚作りの上野郡分田地平瓦。上野郡分田地の報告ではP008に近い。	H-2	
9-JE2	H-2	特平瓦	①(10.5)	②10	①中粒	②良好	③青灰	④灰白色	一枚作りの三葉型紋瓦平瓦。山王廟寺では「日輪瓦」といわれる丸瓦に作られる。	H-2	

10B区

番号	出土遺物部位	器種名	①口径	②器高	③地土	④地調	⑤遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備考
H-3 H-3 N-3	小型 丸瓦	①(2.8)	②16	①中粒	②良好	③赤褐色	④灰白色	小畳の丸瓦。笠懸方式での極度。平成18年度山王廟寺報告書で同様の丸瓦の出土が報告される。	H-3 3	
H-8 H-8 N-8 N-12	丸瓦	①(8.5)	②18	①織紋	②良好	③赤褐色	④灰白色	一本の型木に丸土を巻き、出来上がった円筒を2分にしたもの。無段式丸瓦。凸面は筋縫口上でのナメアース。凹面は表面板張が残る。扶桑青瓦にとりとめ落瓦と見られるか?私が見えた。	H-8 1 N-12 11,12	
H-8 H-8 N-8 N-12	平瓦	①(41.5)	②20	①織紋	②良好	③赤褐色	④灰白色	山王廟寺では「日輪瓦」とされる一枚作りの平瓦。三方に腰を許す腰板の台に作られる。凸面は筋縫口に側面をもつた後、後端寄のみ誤方舟に向く。「牧童寺」瓦、「日昇瓦」丸瓦と同様の手法。扶桑青瓦。	38, 11,12	

VI まとめ

1. 墨書き土器について

(1) 本遺跡で出土した墨書き土器について

本遺跡で出土した墨書き土器には、1区H-2号住居跡から出土した須恵器2点(整理番号1-7, 8)と2区H-9号住居跡から出土した須恵器2点(整理番号2-27, 28)がある。1-7は坏底部外面に墨書「大館」が記され、十字の刻痕もある。1-8は坏底部外面に墨書「少」が記され、底部が糸切り後磨削されている。底部内面には墨滴としての使用痕跡が残る。2-27, 28は体部外面に墨書(判読不可)が記され、2-27の内面にはベンガラが付着した跡がある。全体的に雑なつくりで、輪権成形後、体部は撫で調整、底部は荒削り調整している。

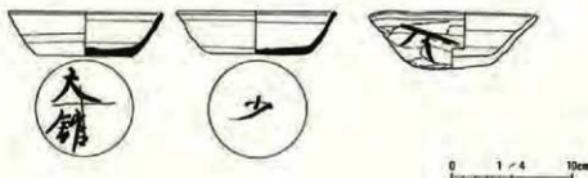


Fig. 1 元総社蒼海遺跡群(26) 出土墨書き土器

1-7と同様に「大館」と書かれた墨書き土器の例として、武藏国府関連遺跡830次調査2号堅穴住居跡出土の須恵器がある。出土地区は現在の府中本町駅西方の低地で、大型の掘立柱建物跡が密集している。また隣接する調査区では9世紀前半の綠釉陶器が出土している。北東側隣接地の調査では、これらの建物を取り囲むような大溝も見つかっている。この周辺は武藏国府遺跡では国衙南面の官衙ブロックに位置し、この墨書き土器に書かれた「大館」は国司の館の存在を示す資料と考えられている。

本遺跡1区で出土した1-7・8は、書かれている文字から出土した周辺に国府の館などの存在を想像させる遺物となっている。しかし本遺跡では前述の武藏国府関連遺跡とは異なり、周辺から掘立柱建物跡は検出されていない。ただし本遺跡1区は国分尼寺のすぐ西側、2区は南西隅にそれぞれ位置している。そのため国府の館と共に国分尼寺や遺跡東側にある国分僧寺と墨書き土器の関係も無視することはできない。またこの墨書き土器が国司など国府に関連する者が使用したものか、または国司の館などで使用後この住居跡周辺で再利用されたものかなど、今後の調査も含めて検討すべきことは多い。このようなことから、墨書き土器が国府解明の手がかりの一つとなるのは確かである。

(2) 元総社蒼海遺跡群で出土した墨書き土器について

元総社蒼海遺跡群の南東に位置する元総社寺田遺跡では、「國府」「曹司」「邑厨」等と書かれた墨書き土器が出土している。これらは国府について考えるうえで貴重な資料となっている。元総社蒼海地区では土地区画整理事業の伴う調査がここ10年ほど継続的に行われており、新たな知見が蓄積つつある。そこで過年度調査報告書に掲載されている墨書き土器を用いて、土器の種類、墨書きの特徴、出土遺構の時期、出土した場所に着目して、現段階における元総社蒼海遺跡群で出土した墨書き土器について考察してみたい。

今回、対象としたのは、上野国分尼寺寺域確認調査Ⅰ・Ⅱ(2000年)、元総社宅地遺跡(2000年)、總社闍耶明神北Ⅰ～Ⅲ・Ⅴ遺跡(1999, 2001, 2002, 2004年)、小見Ⅰ～Ⅵ遺跡(2000, 2002～2004年)、總社甲稻荷塚大道西Ⅰ～

IV(2001~2003年)、小見内Ⅲ・IV・VI-X遺跡(2001~2004年)、草作V遺跡(2002年)、蒼海(1)~(25)(2005~2009年)の計51遺跡である。(括弧内は報告書刊行年)調査は主として、国分尼寺南側で推定国府域の北西部と推定国府域の北側で行われてきた。いずれも当調査団が主体となり調査を行ったものである。

報告書に掲載されている墨書き土器は51遺跡中17遺跡で59点出土していた。まず、種類別・記録部位・時期についてまとめるところ以下のようなになる。なお、時期区分は元総社蒼海遺跡群で從来用いられている時期区分、I期(~7世紀前半:律令期以前)、II期(7世紀~10世紀初頭:律令期)、III期(10世紀前半~:律令期以後)に従いたい。ただしII期は集中する時期のため前半(7, 8世紀)、後半(9世紀、10世紀初頭)と今回は分けた。

①土器の種類

墨書きを伴う土器は須恵器・土師器が主であることは当時の生活との関連で当然といえる。ただ、群馬県内全体の調査では、ほぼ拮抗している土師器と須恵器の割合⁽¹⁾が、元総社蒼海遺跡群周辺での調査では、表1のように、須恵器が高い比率で占めているのが特徴といえる。この地域の特性かは今後の調査を含めた検討を要するといえよう。

表1 土器の種類別一覧表

種類	点数	比率(%)
土師器	10	17%
須恵器	47	80%
灰陶陶器	2	3%

②器種別の比率

器種別でみると、壺と高台碗が圧倒的に占めることがわかる。これまでの元総社蒼海遺跡群の調査では壺や蓋の墨書き土器は出土していない。群馬県内でも壺や蓋の墨書き土器の出土例は少ないので、同様の傾向といえよう。壺や高台碗の墨書き土器がどのように使用されたか、またどのような意味をもつかを探っていくことが、今後一つの視点になっていくと思われる。

表2 器種別一覧表

器種	点数	比率(%)
壺	25	42%
小型壺	4	7%
高台碗	26	44%
高台皿	4	7%

③墨書きの部位

各器種のどの部位に墨書きが書かれているかをまとめたのが表3である。部位名称は報告書中の表現に可能な限り合わせてある。体部60%に対して底部40%、外面64%に対して内面36%の比率となった。やはり外面が多いことは、容器としての性格から墨書きの場合は好都合であったためであろう。なお4点は底部の内外面に、3点は体部の内外面共に書かれている。どのような意味合いがあるのか興味深い。

表3 墨書きの記録部位一覧

記録部位	点数	比率(%)
体部外面	25	40%
体部内面	13	20%
底部外面	15	24%
底部内面	10	16%

④出土遺構の時期

表4のとおり、II期後半の9世紀代の住居跡を中心とした遺構からの出土が半分以上の63%となった。元総社蒼海遺跡群では国府周辺の居住規制も關係してか、住居の推定期代が8世紀末で減少し、9世紀中葉から大幅に増加する例が多い。そのことが墨書き土器の出土遺構の時期に關係していることも考えられる。

表4 出土遺構の時期区分一覧

時期	点数	比率(%)
I期	0	0%
II期前半	5	8%
II期後半	37	63%
III期	17	21%

今後の調査の進捗により、墨書き土器の類型は増加の一途を辿ると思われる。

現在国府中枢部の調査には及んでいないため、今後のその部分の調査、皿には国衙施設の検出も期待される。それらを踏まえた分析が今後期待される。

注(1) 群馬県出土の墨書き・刻書き土器集成(1)(群馬県教育委員会 1989より)

⑥墨書き土器出土場所について



Fig. 2 元總社蒼海遺跡群における墨書き土器出土場所

出土地点を見ると、推定国府域の北西で国分尼寺南西側に集中していることがわかる。ここでは8世紀後半から10世紀後半の住居跡を中心に23点出土している。判読できる文字には「大」「墓」「谷」「丈」「十」「蓮」「生」などがある。この場所は現在関越高速道となっている「上野国分僧寺・尼寺中間地域A・Z区」の東側に位置する。A区からは「原」など書かれた墨書き土器が7点、Z区からは「富」と書かれた墨書き土器1点出土している。またZ区南側のY区からは「如」「天タ」など書かれた墨書き土器が3点、A区北側のB区では「法花寺」と書かれた墨書き土器が出土している。また、その場所の西側僧寺東辺築垣想定線より東側では、「東院」と書かれた墨書き土器も出土し、この付近に東院が存在したと推定されている。国分尼寺南西及び分僧寺南東部にあるこの場所は、元總社蒼海遺跡群を含めて比較的墨書き土器が多く出土している場所といえる。

また図の左下推定国府西側では、10世紀代の住居跡などから「本」「代」等書かれた墨書き土器など7点が出土している。この場所の北西には、縁軸陶器片が13点出土した落ち込みを検出した元總社蒼海遺跡群(8)がある。また南西には炉が20以上並ぶ工房跡を検出した鳥羽遺跡がある。この遺跡では墨書き土器の出土は1点だけでとなっている。部分的な調査なので断定はできないが、墨書き土器の出土と合わせて縁軸陶器片の出土や工房跡を検出している国府西側には、国府に関係する施設等が存在したことを思わせる場所といえよう。

(3) まとめ

現段階での元総社舊海遺跡群や国府について墨書き土器の視点から考察すると二点ほど考えられることがある。第一点は、墨書き土器の出土位置から、推定国府北西部に国司の館や国分寺に関係する施設が存在したと考えられることである。国司の館は、国衙からやや離れた場所に館を設置し、出舉や職分田経営など経済活動の拠点としての役割を果たしていたことも考えられている。元総社舊海遺跡群では国府周辺に位置することからその可能性は十分あるといえよう。しかし遺構や遺物から国司の館と確定できる事例は全国でもまだ少ない。そのため他の建物などと比較検討し、国司の館としての特徴を検証するなど、まだ多くの調査研究課題があるのが実情である。全国の事例の検証と合わせて、元総社舊海遺跡群での事例も検出の蓄積が必要である。

第二点は、集落跡で出土した墨書き土器が大半を占めていることから、祭祀の際に仏教関係者によって記載された土器であることが考えられる。墨書きの文字に「富」「吉」等があること、本来の字体から変形した字形が使われていることが多いことや、特に器外面に書かれた墨書き土器が64%占めることからも、神仏の容器であることを示しているといえる。一般の集落で土器に文字を記入するということは、日常使用する食器には考えにくい。祭祀用に用いる土器を日常の食器と区別した表れといえる。ただし全ての墨書き土器が当てはまるとはいえない。なぜなら今回出土した「大館」と書かれた墨書き土器のように、国司の館と関係があると考えられるものが住居跡から出土している事例がある。それは国司の館などで祭祀に使われた墨書き土器が、住居で再利用されたことが示す事例ともいえよう。ただ本遺跡の「大館」と書かれた墨書き土器は、9世紀中頃と思われる住居跡の覆土から出土しているため、この住居跡で使用されたかは断定できない。しかしながらこの住居跡の覆土になっていたか、墨書き土器の利用も含めて、今後検出事例の蓄積により解明されていくことを期待したい。

墨書き土器についてはまだまだ十分に検討を重ねていく必要があるものである。今後の元総社舊海遺跡群の調査は、国府中枢部に及ぶことになる。調査に進捗で国府の発見と合わせて、さらに墨書き土器についても解明されることがあると思われる。今後の調査の成果に期待したい。

＜参考文献＞

- 【上野国分寺周辺地域発掘調査報告・遣寺尼寺中園地域の考古学的検討】群馬県教育委員会 1971年
- 【上野国分寺開拓完成発掘調査報告】群馬県教育委員会 1979年
- 鬼頭清明「国司の館について」国立歴史民族博物館研究報告第10集より 国立歴史民族博物館 1986年
- 群馬県文化財調査事業実績編『上野国分寺・尼寺中園地域(3)~(7)』1988~1993年
- 群馬県教育委員会事務局長池澤史嗣さん著『群馬県出土の墨書き・刻書き土器集成(1)』1989年
- 鈴木雅浩・高橋一彦編『元総社宅地遺跡・上野国分寺尼寺城跡認定委員会』
- 前橋市埋蔵文化財発掘調査団2001年
- 群馬県埋蔵文化財調査事業実績編『群馬の遺跡6 古代』2004年
- 府中文化振興財团編『府中市郷土の森博物館フリーレット5 古代武藏国府』2005年
- 余良文化財研究所編『古代の官街道跡 II 遺物・遺跡編』2004年

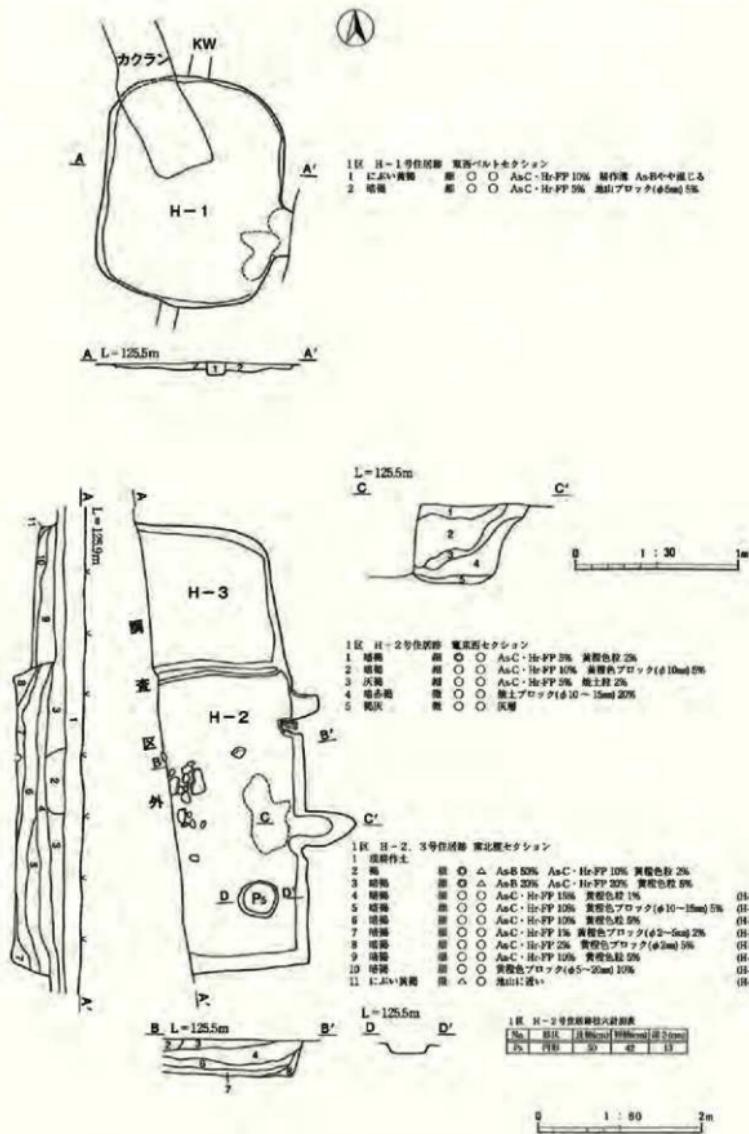


Fig.13 1区 H-1～3号住居跡

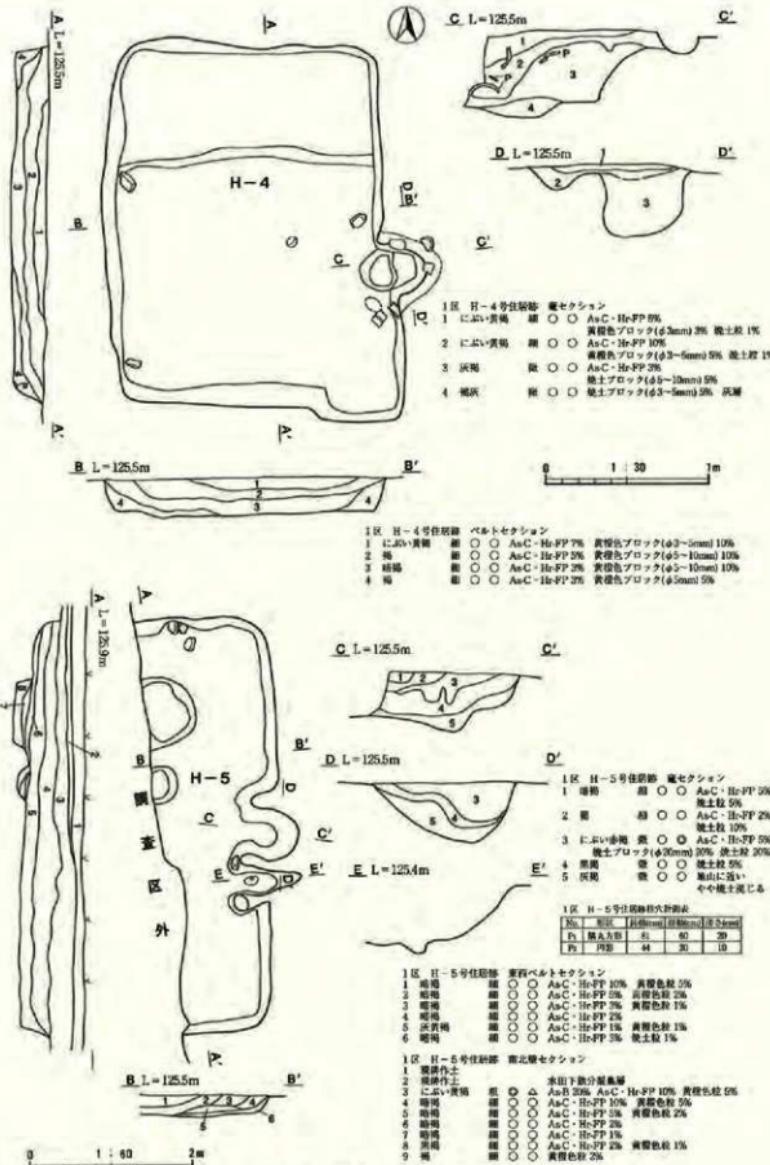


Fig.14 1区 H-4・5号住居跡

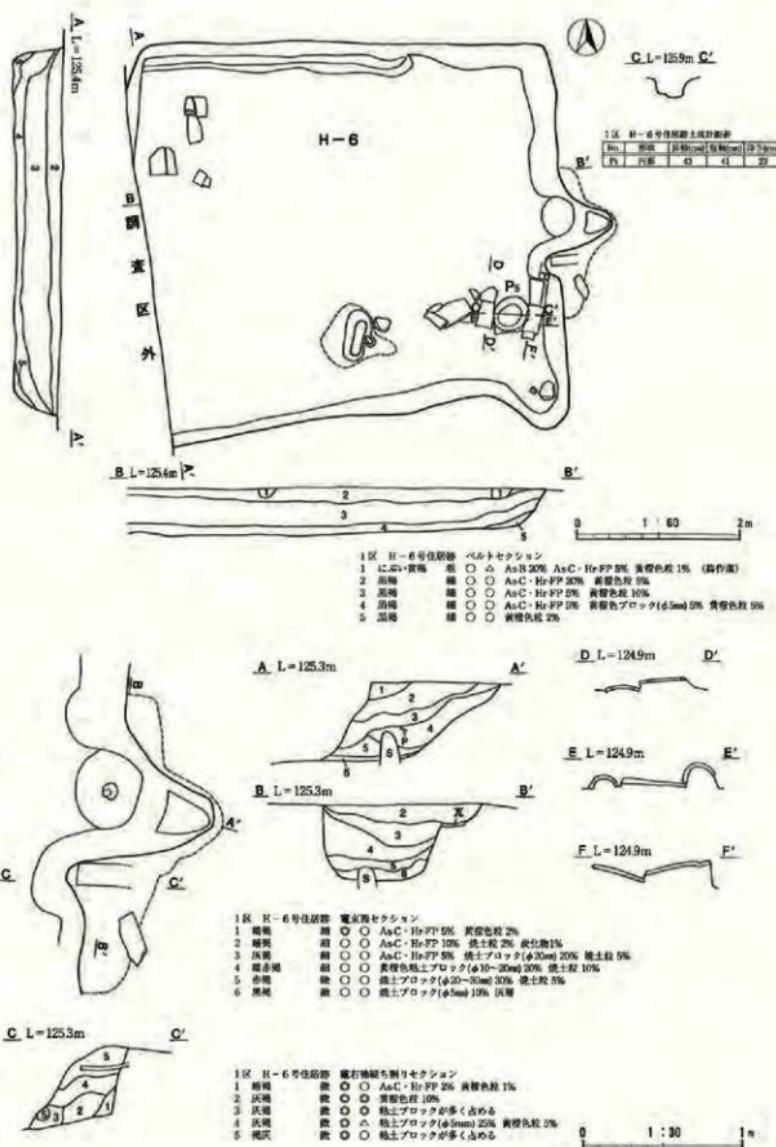


Fig.15 1区H-6号住居跡

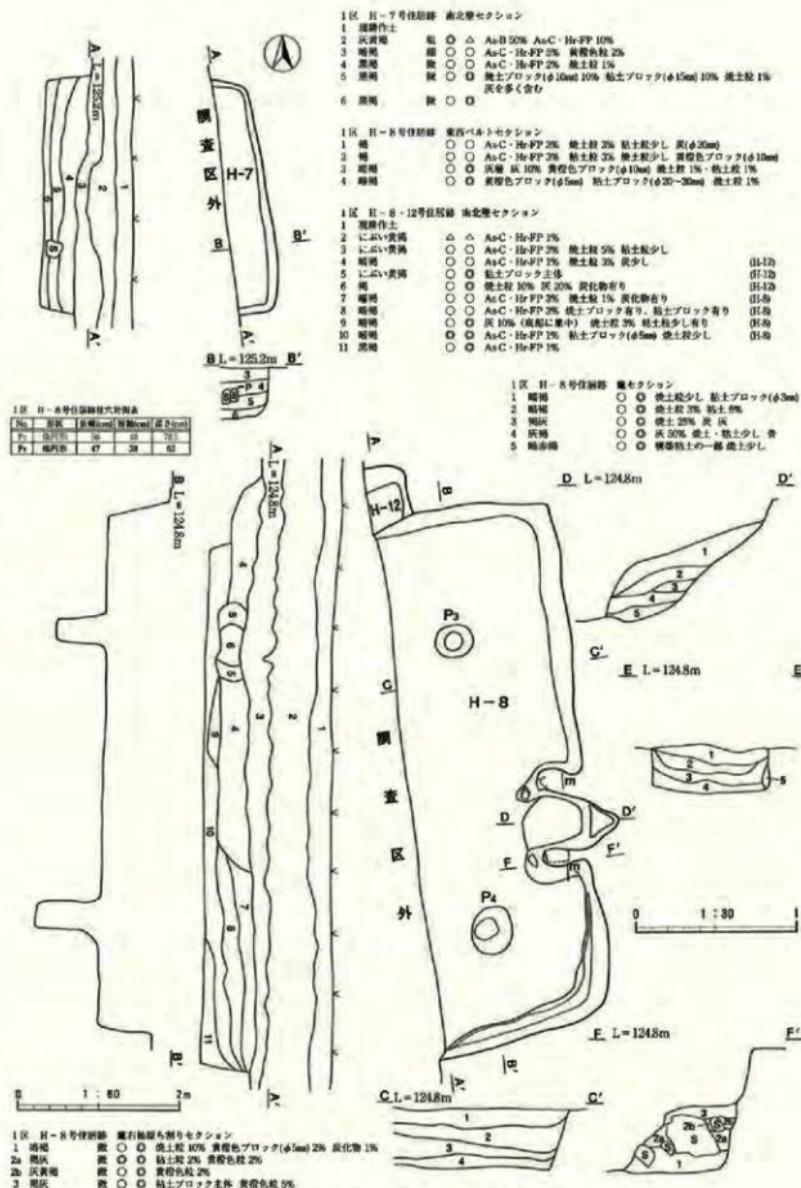


Fig.16 1区H-7·8·12号住居跡

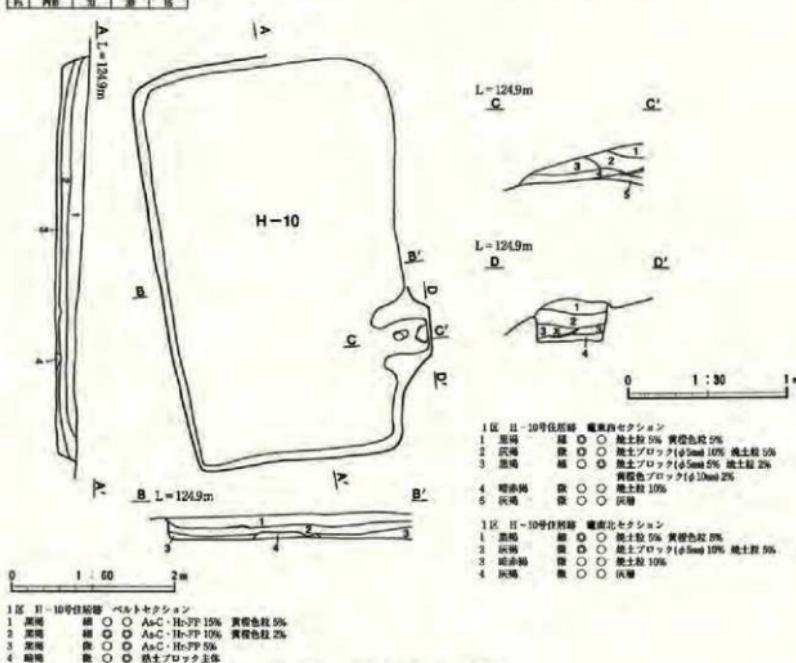
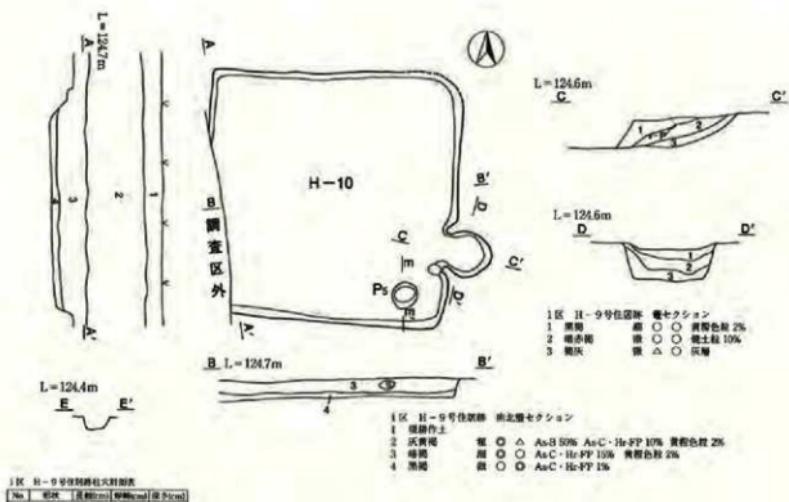


Fig.17 1区H-9・10号住居跡

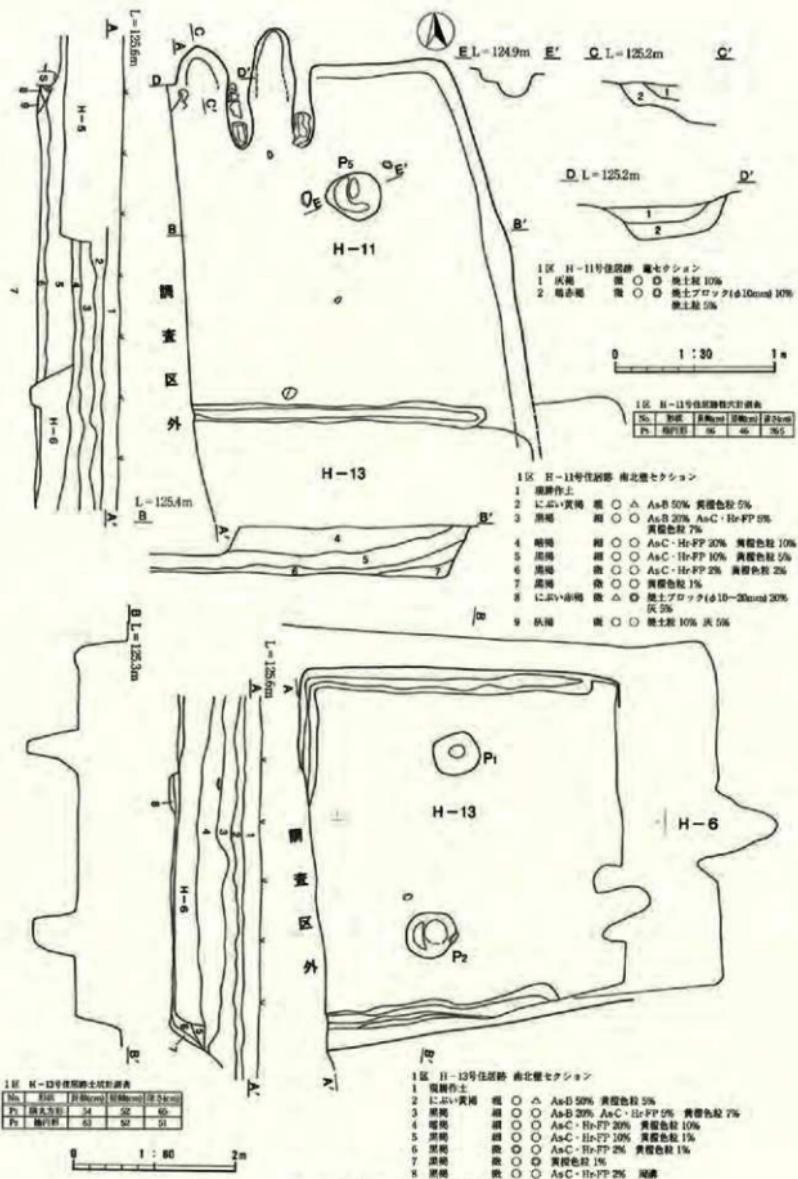


Fig.18 1区 H-11・13号住居跡

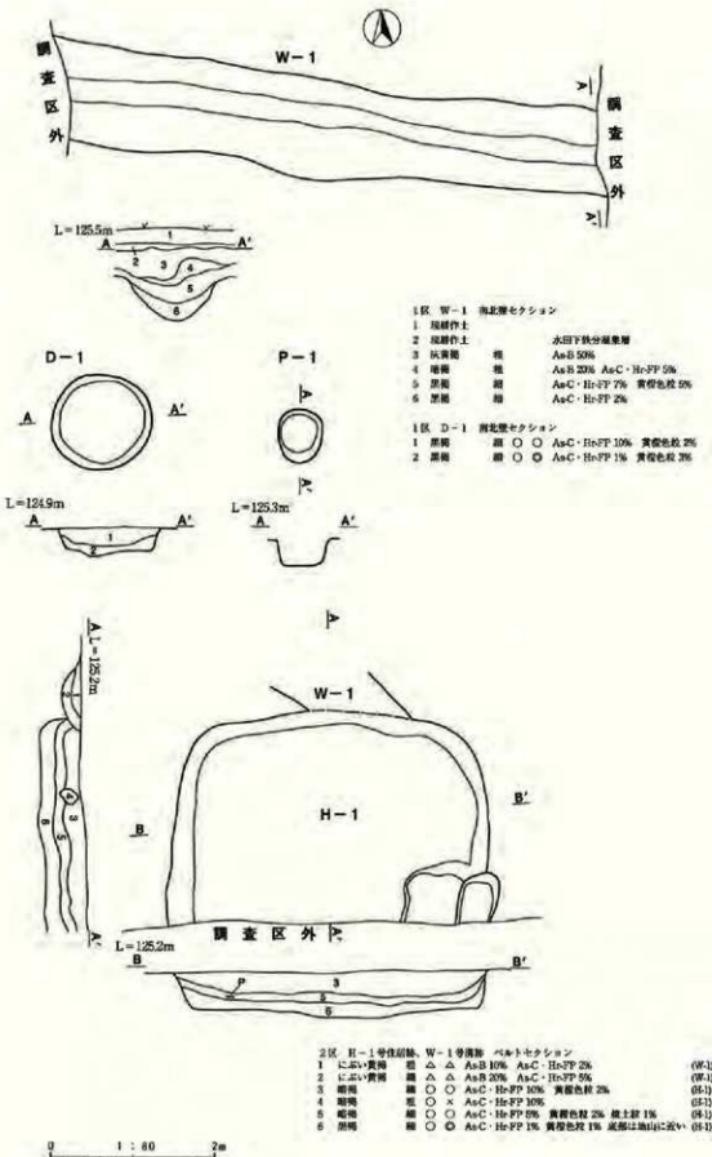


Fig.19 1区W-1号溝跡、D-1号土坑、P-1号ピット、2区H-1号住居跡

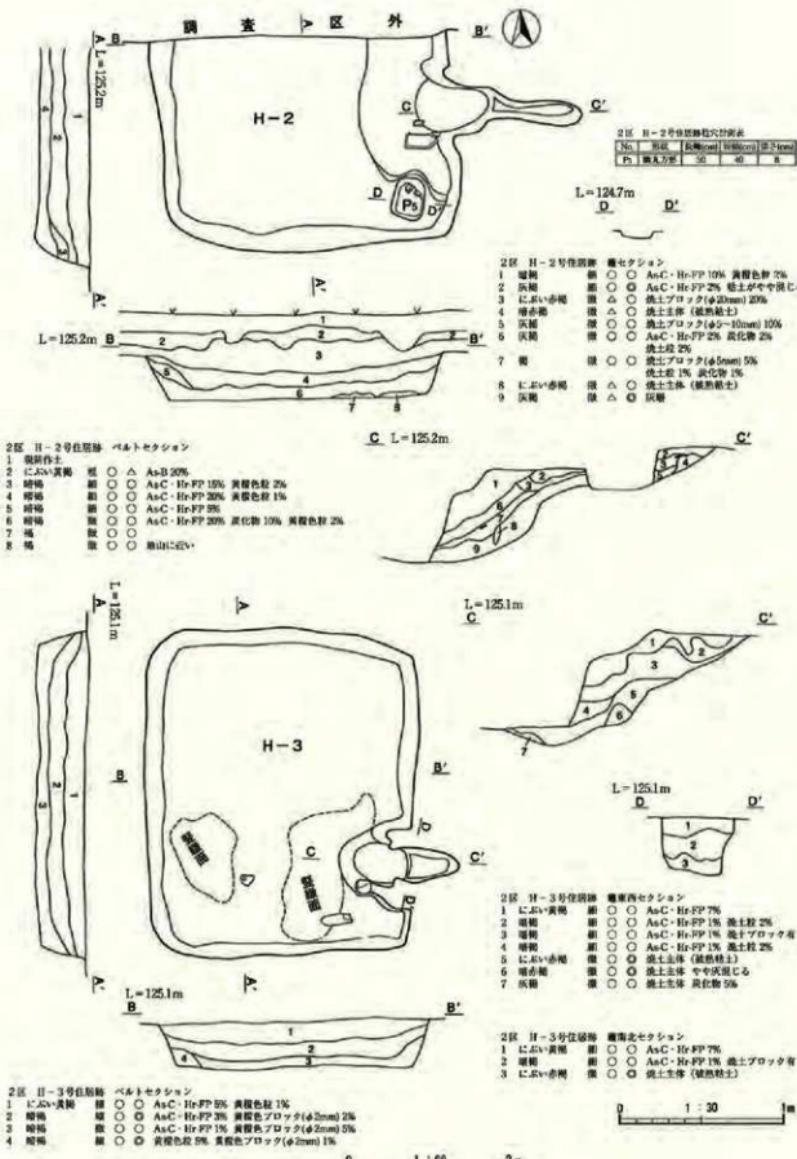


Fig.20 2区H-2・3号住居跡

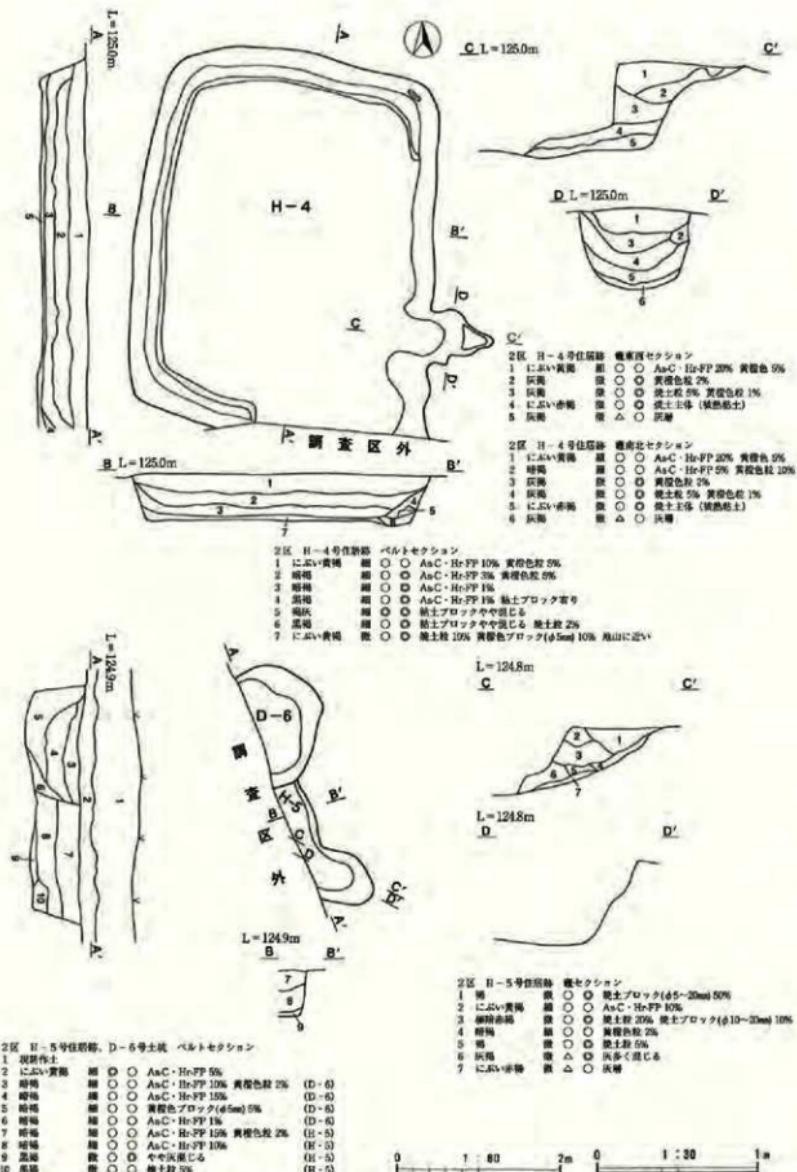


Fig.21 2区 H-4・5号住居跡、D-6号土坑 ベルトセクション

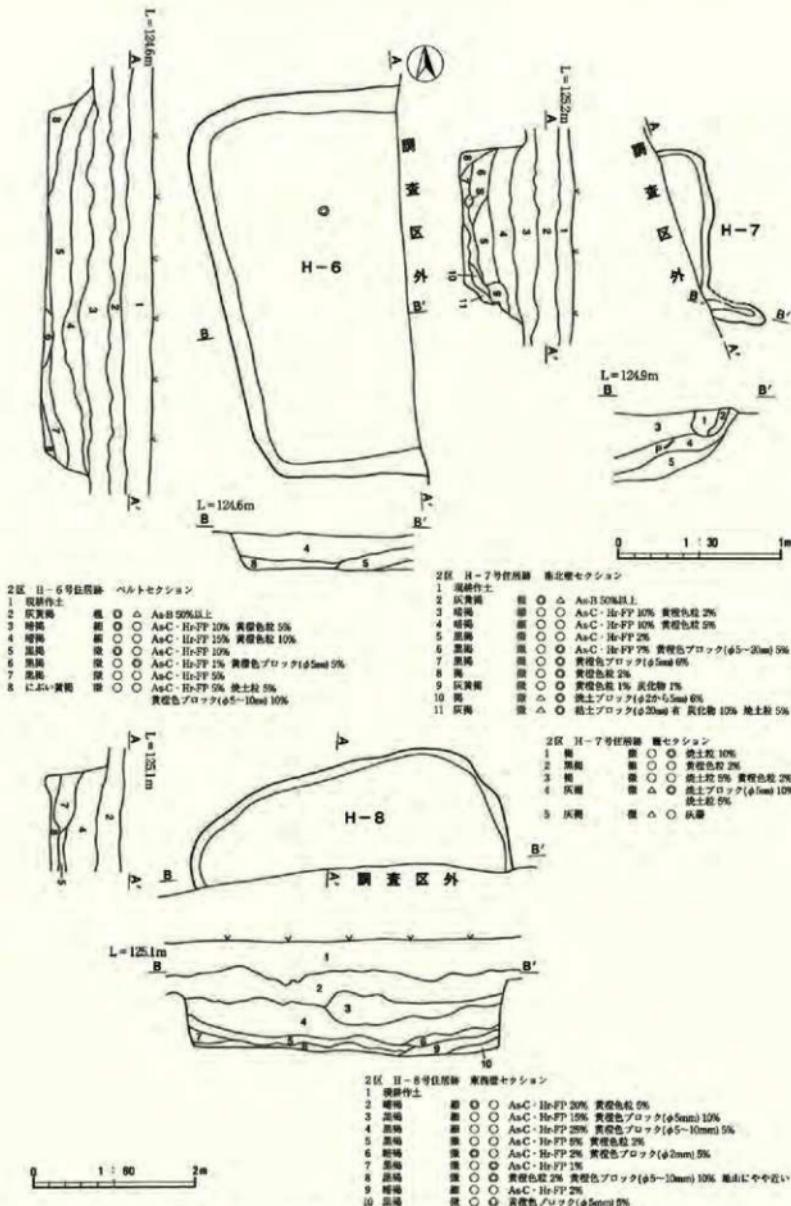


Fig.22 2区H-6～8号住居跡

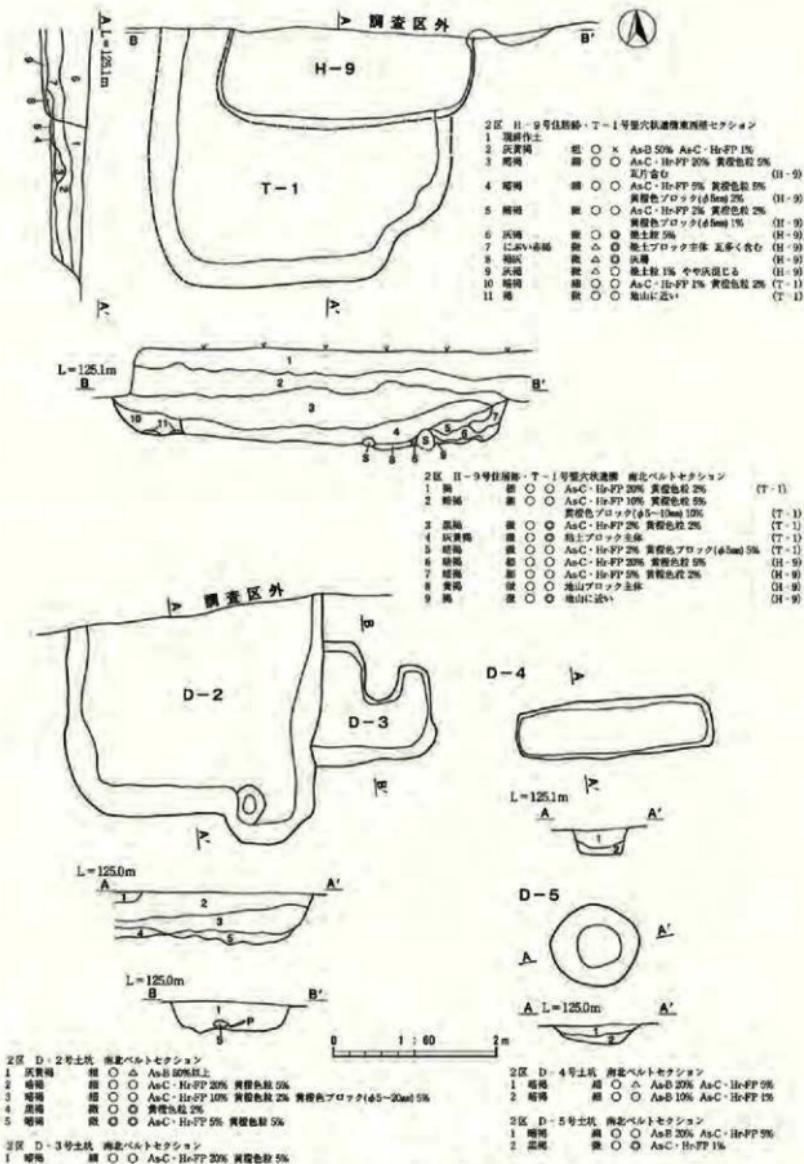


Fig.23 2区H-9号住居跡、T-1号堅穴状遺構、D-2～5号土坑

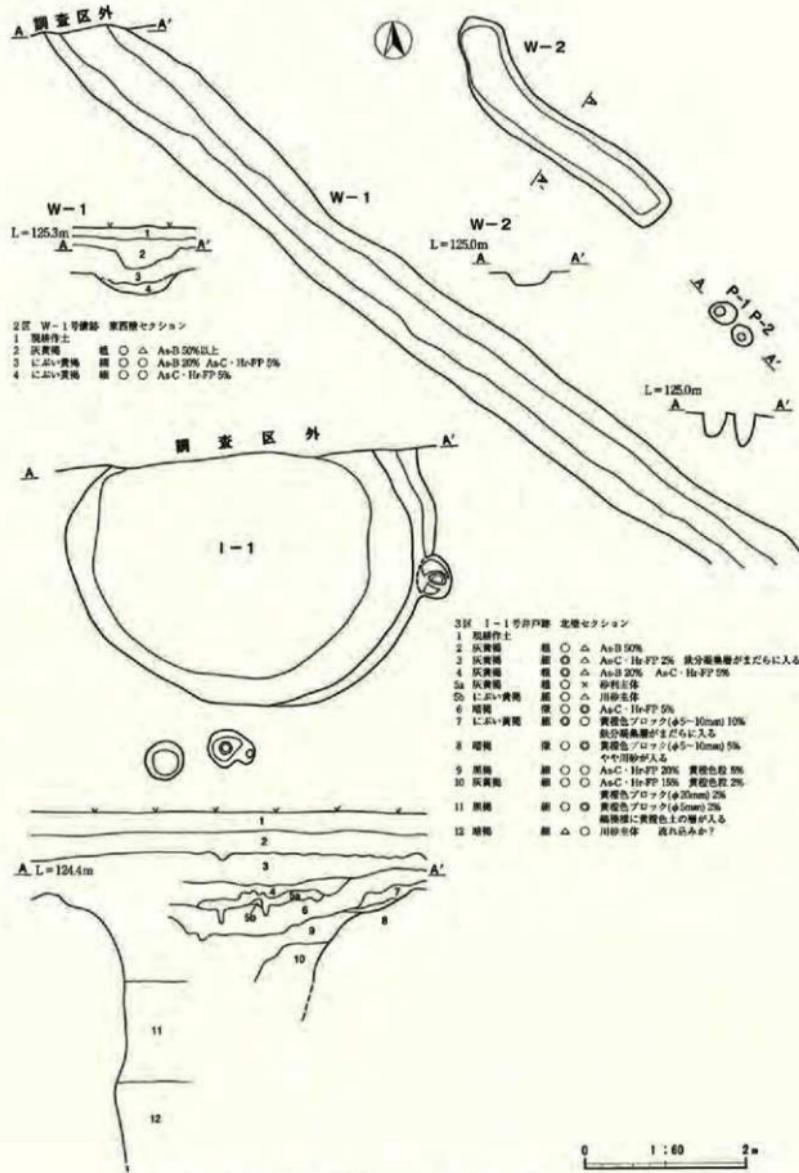


Fig.24 2区W-1・2号跡跡、P-1・2号ビット、3区I-1号井戸跡

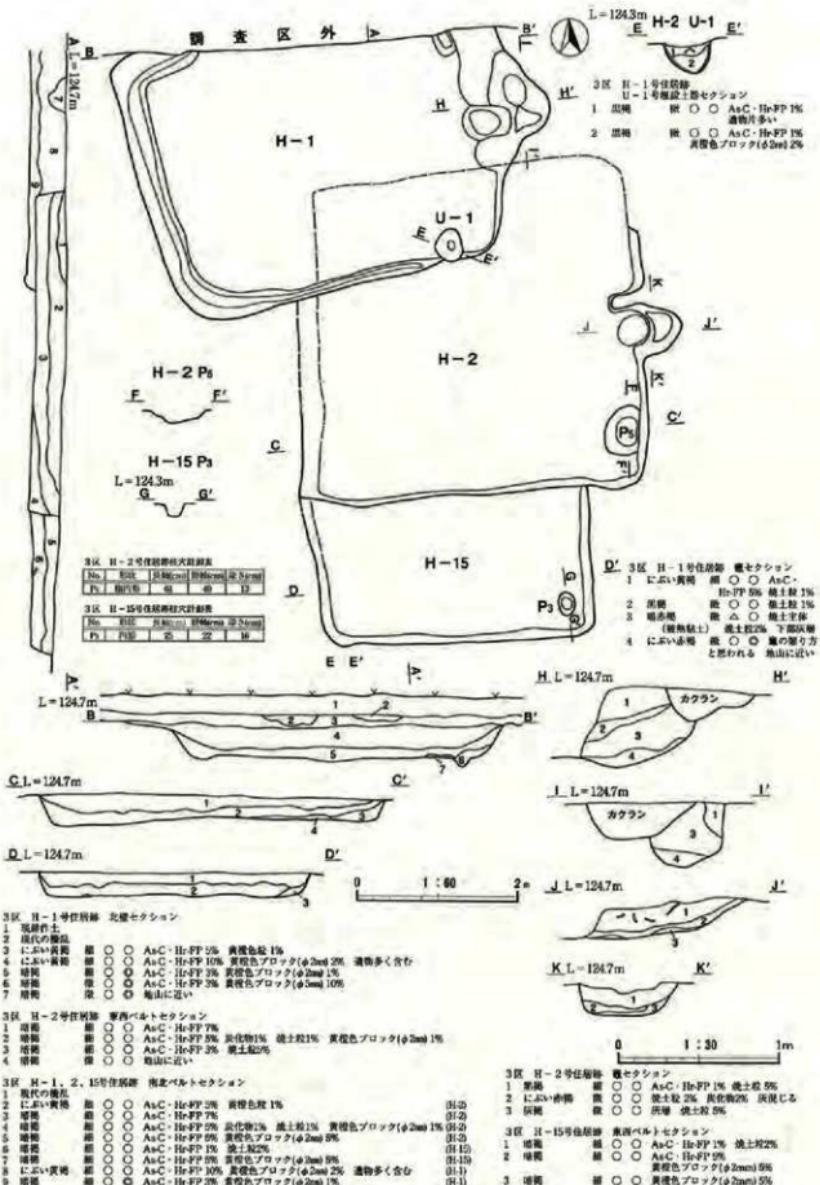


Fig25 3区H-1・2・15号住居跡

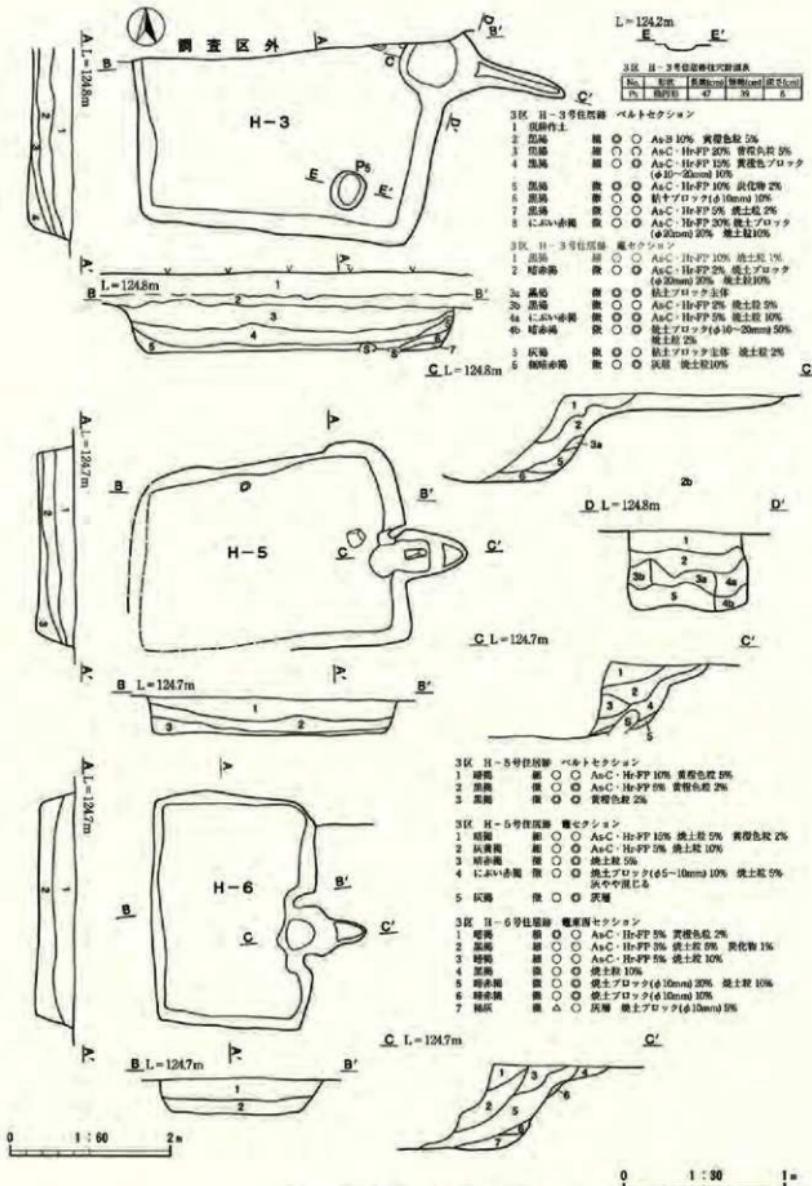


Fig.26 3区 H-3・5・6号住居跡

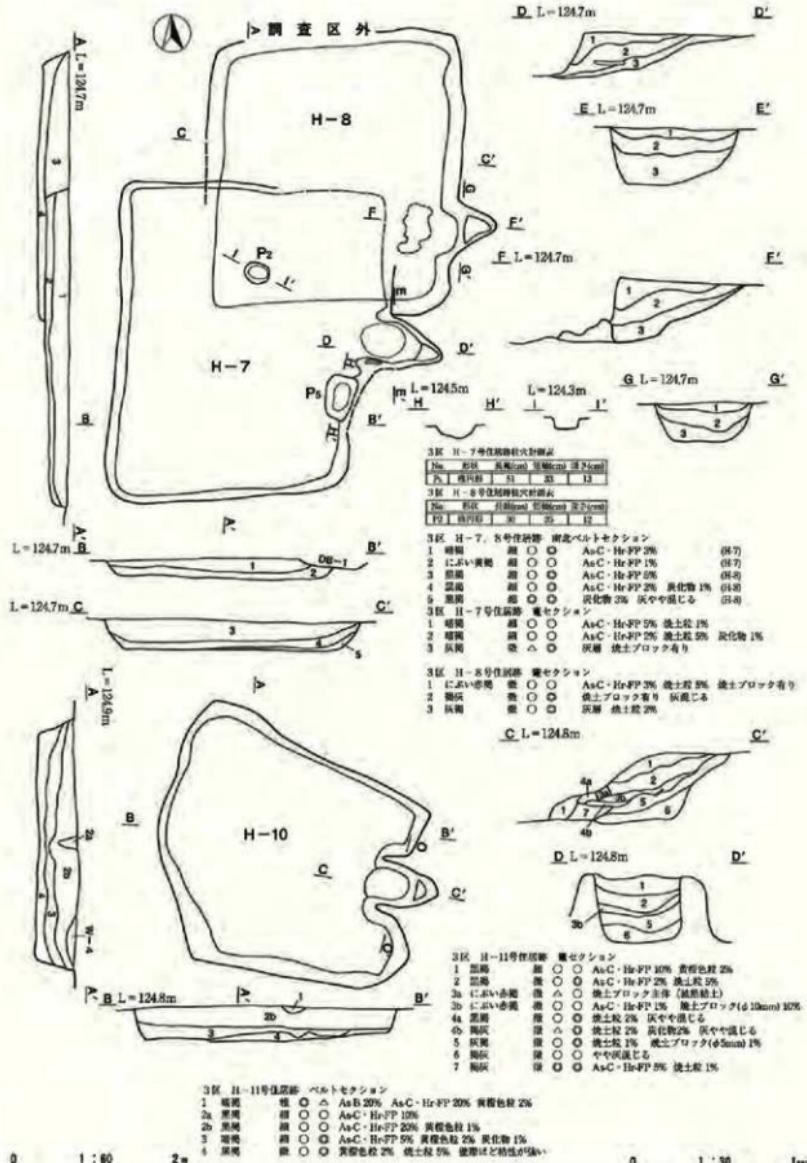


Fig.27 3区 H-7・8・11号住居跡

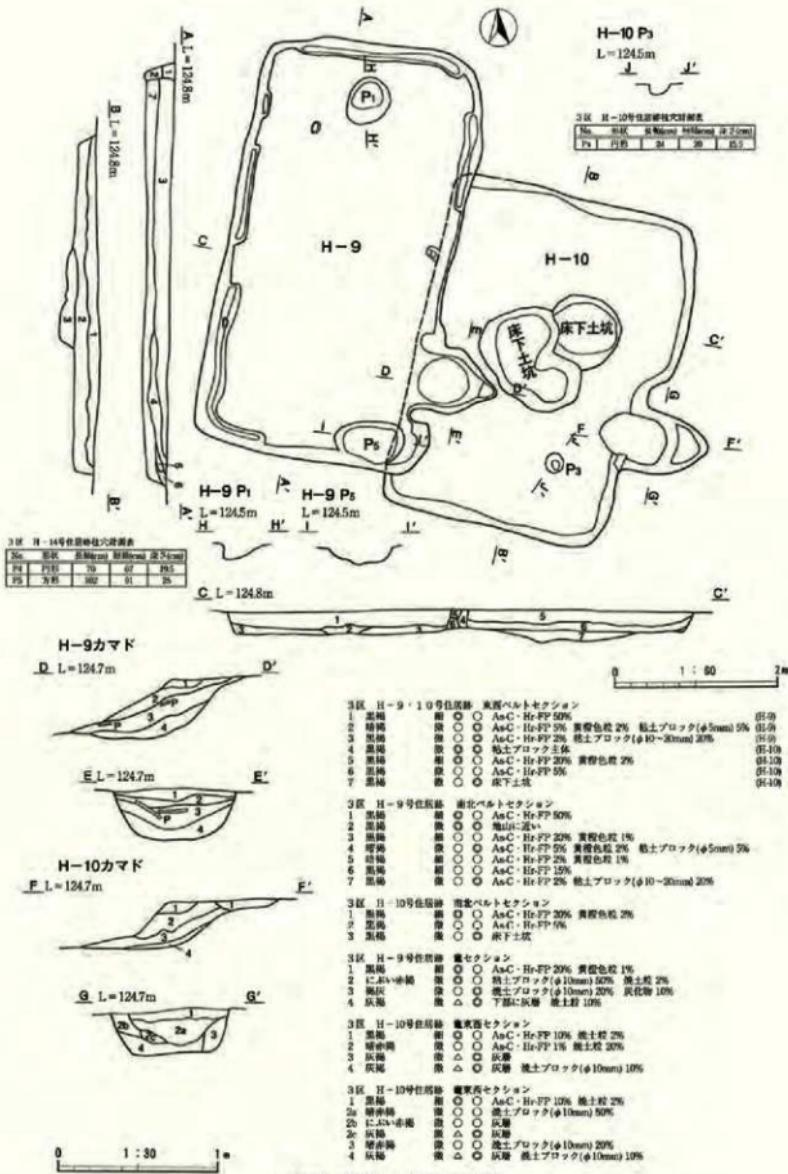


Fig.28 3区 H-9・10号住居跡

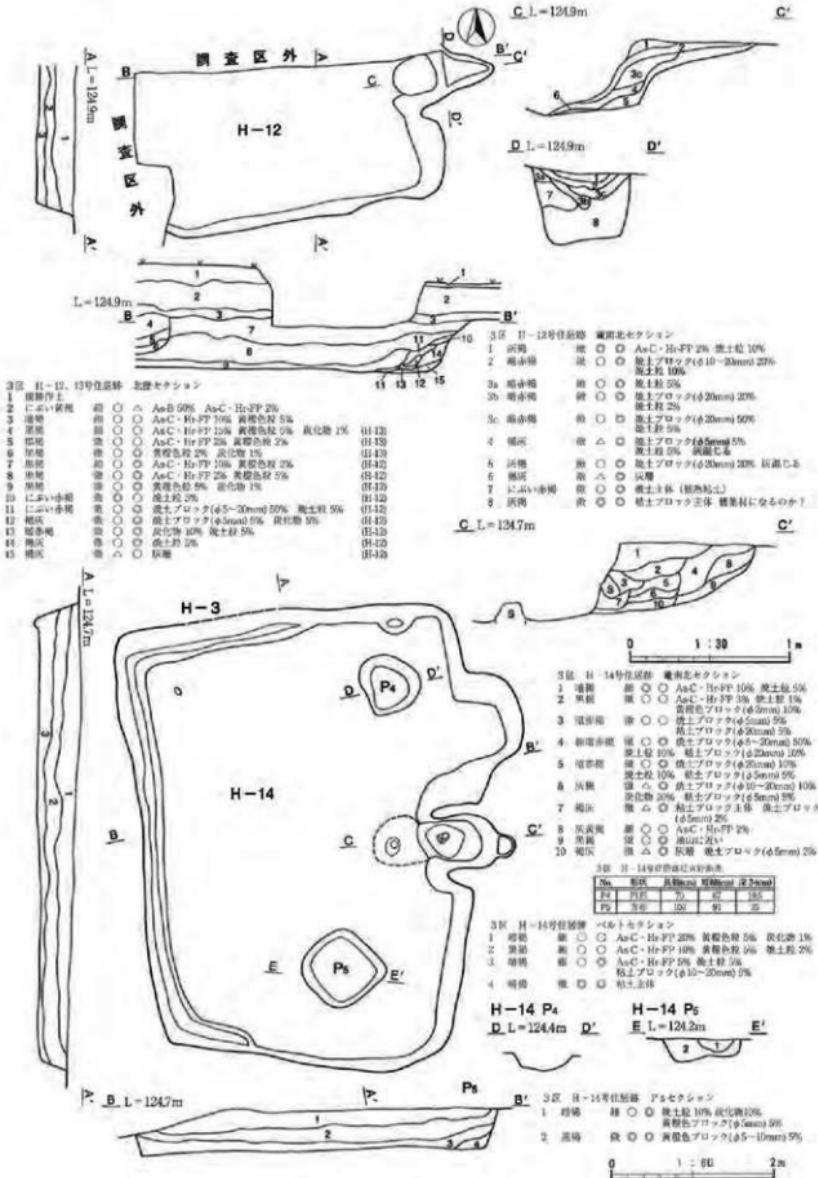


Fig.29 3区 H-12・14号住居跡

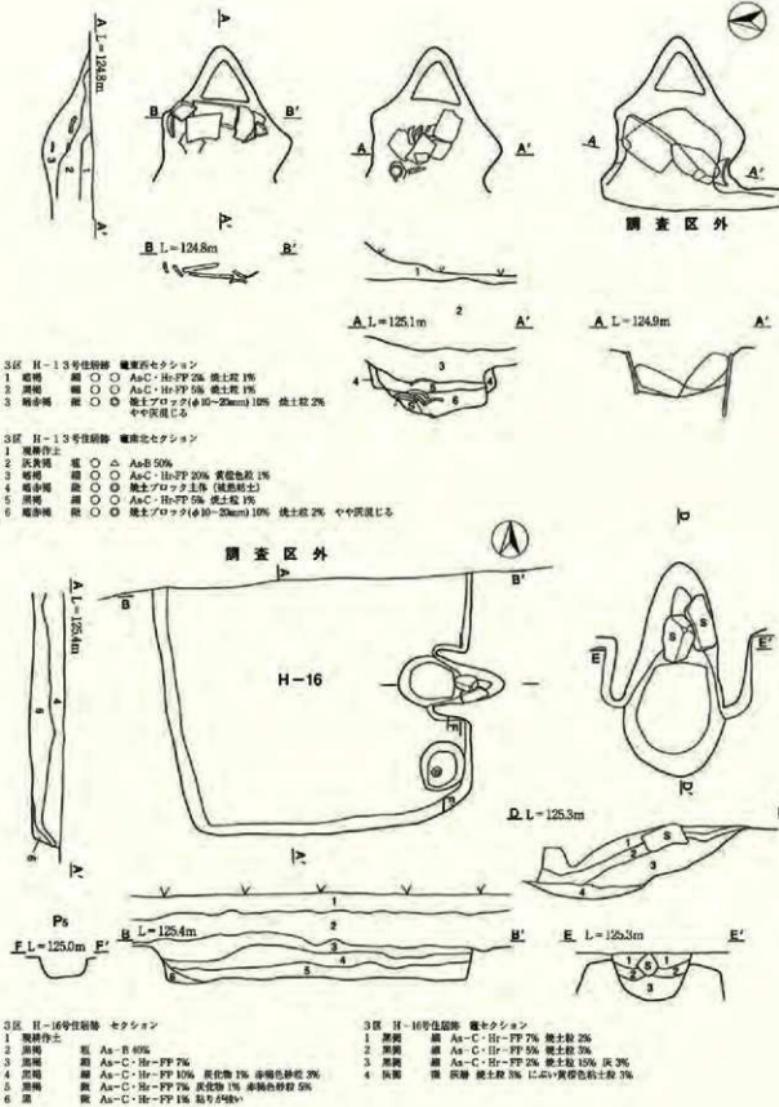


Fig.30 3区H-13・16号住居跡

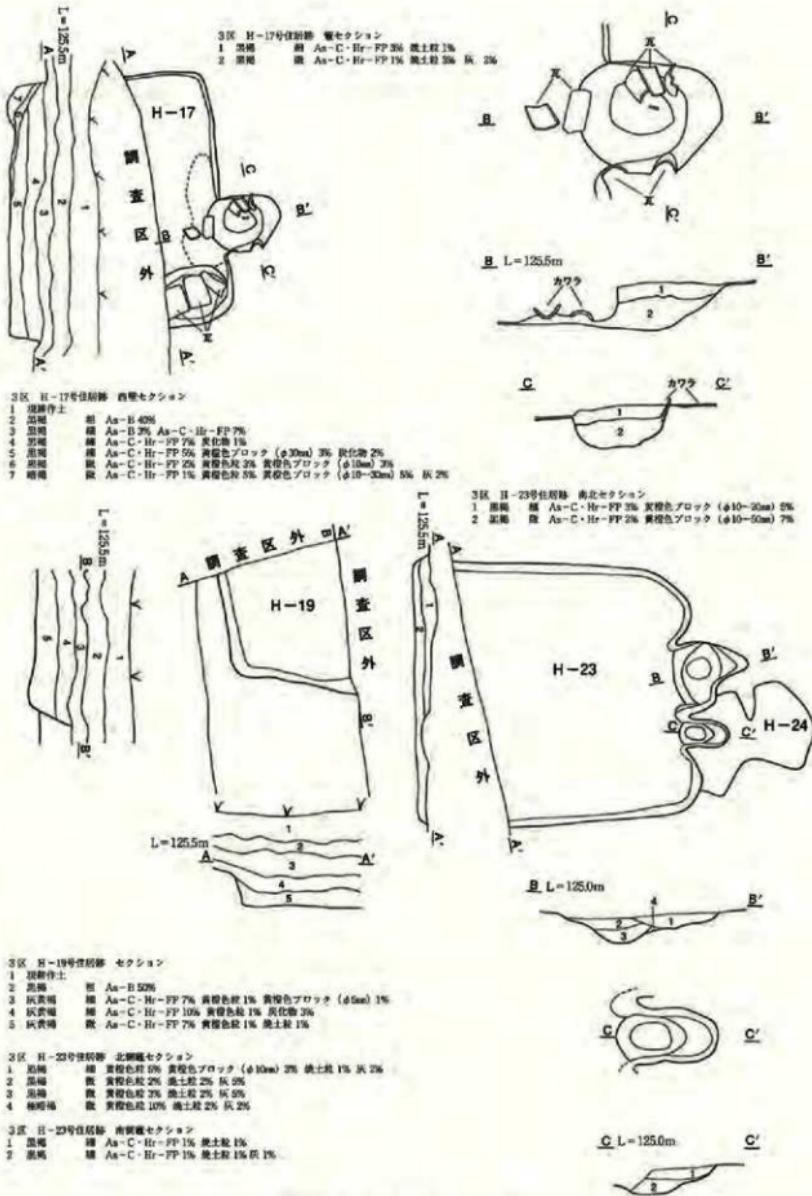
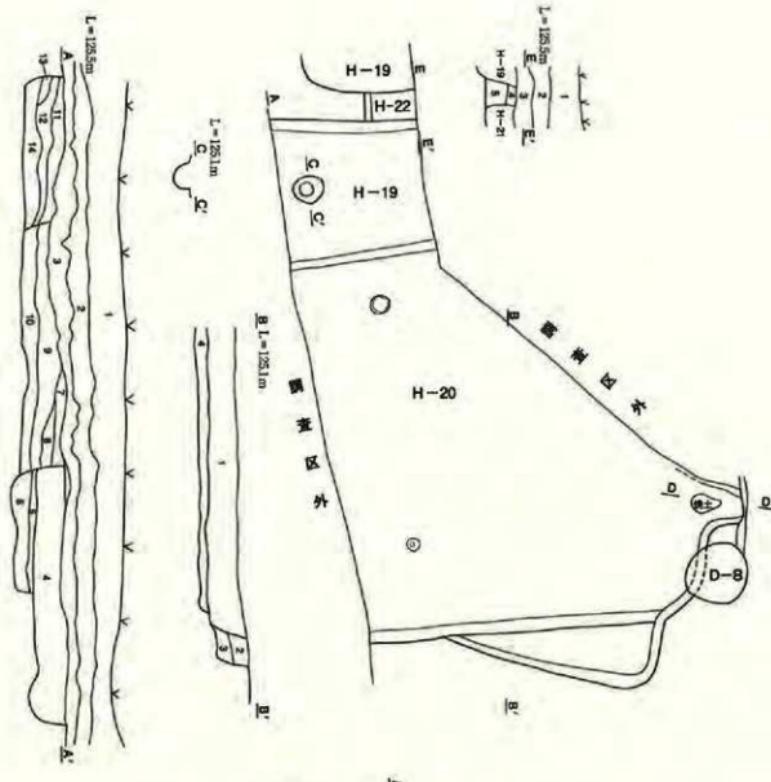


Fig.31 3区H-17・19・23号住居跡



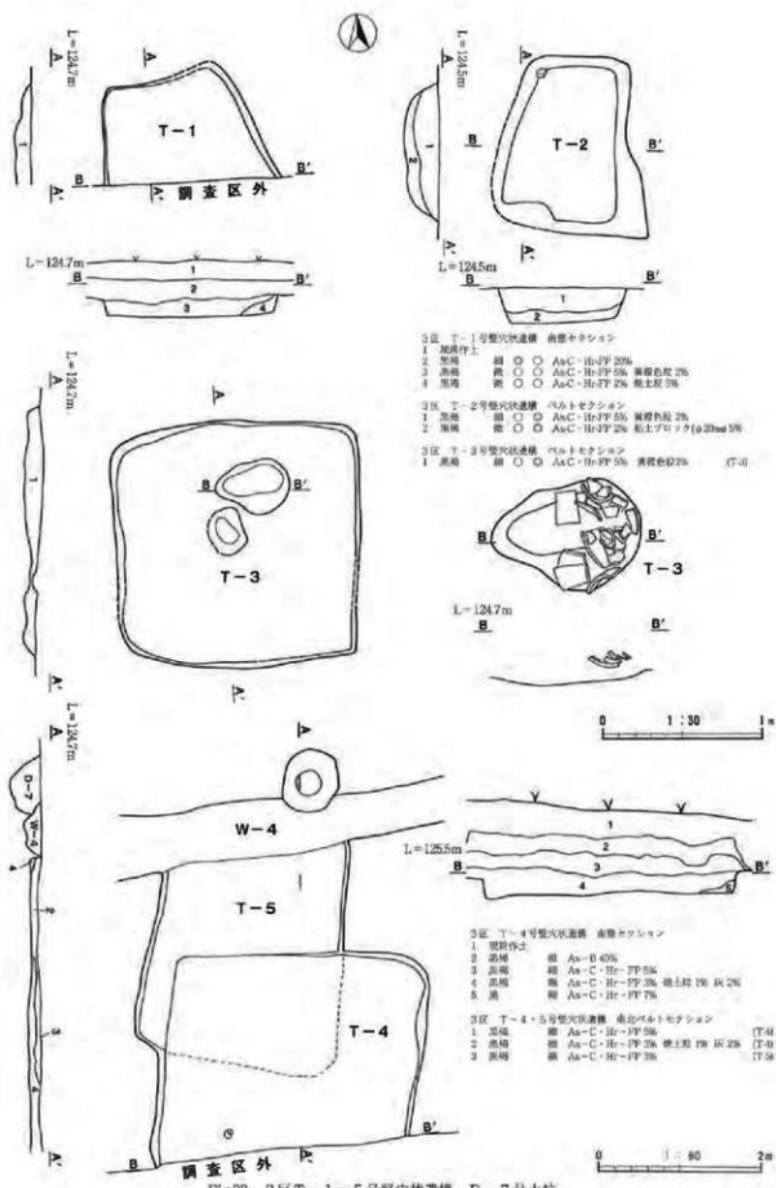
3区 H-18号住居跡
 1 H-20号住居跡
 2 黒泥 種 As-C-Hr-PP 5% 黄褐色土 35%
 3 黒泥 種 As-C-Hr-PP 25% 黄褐色土 55%
 4 黒泥 種 As-C-Hr-PP 3% 黄褐色土 7% 黄褐色ブロック ($\phi 10\sim20cm$) 35%
 挿りが無い H-20号住居跡底面

3区 H-20・21・22号住居跡 西壁セクション
 1 暗斜れ土 種 As-B 40%
 2 黒泥 種 As-D 3% As-C-Hr-PP 7%
 3 黒泥 種 As-C-Hr-PP 25% 黄褐色土 75%
 4 黒泥 種 As-C-Hr-PP 25% 黄褐色土 75% 黄褐色ブロック ($\phi 10\sim20cm$) 35%
 挿りが無い H-20号住居跡底面

(H-17床下)
 5 黒泥 種 As-C-Hr-PP 25% 黄褐色土 75%
 6 黒泥 種 As-C-Hr-PP 25% 黄褐色土 75% 黄褐色ブロック ($\phi 10\sim20cm$) 35%
 7 黒泥 種 As-C-Hr-PP 5% 残土 1% 黄褐色土 1%
 8 黑泥 種 As-C-Hr-PP 5% 残土 1% 黄褐色土 1%
 9 黑泥 種 As-C-Hr-PP 5% 残土 1% 黄褐色土 1%
 10 黑泥 種 As-C-Hr-PP 5% 残土 1% 黄褐色土 1%
 11 黑泥 種 As-C-Hr-PP 5% 残土 1% 黄褐色土 1%
 12 黑泥 種 As-C-Hr-PP 5% 残土 1% 黄褐色土 1%
 13 黑泥 種 As-C-Hr-PP 5% 残土 1% 黄褐色土 1%
 14 黑泥 種 As-C-Hr-PP 5% 残土 1% 黄褐色土 1%

(H-17床下)
 1 黑泥 種 As-C-Hr-PP 25% 黄褐色土 75% 残土 1%
 2 黑泥 種 As-C-Hr-PP 25% 黄褐色土 75% 残土 1% 黄褐色土 1%
 3 黑泥 種 As-C-Hr-PP 1% 黄褐色土 2% 残土 1% 黄褐色土 1%
 4 黑泥 種 黄褐色土 35% 残土 1% 黄褐色土 2%

Fig.32 3区 H-18・20~23号住居跡



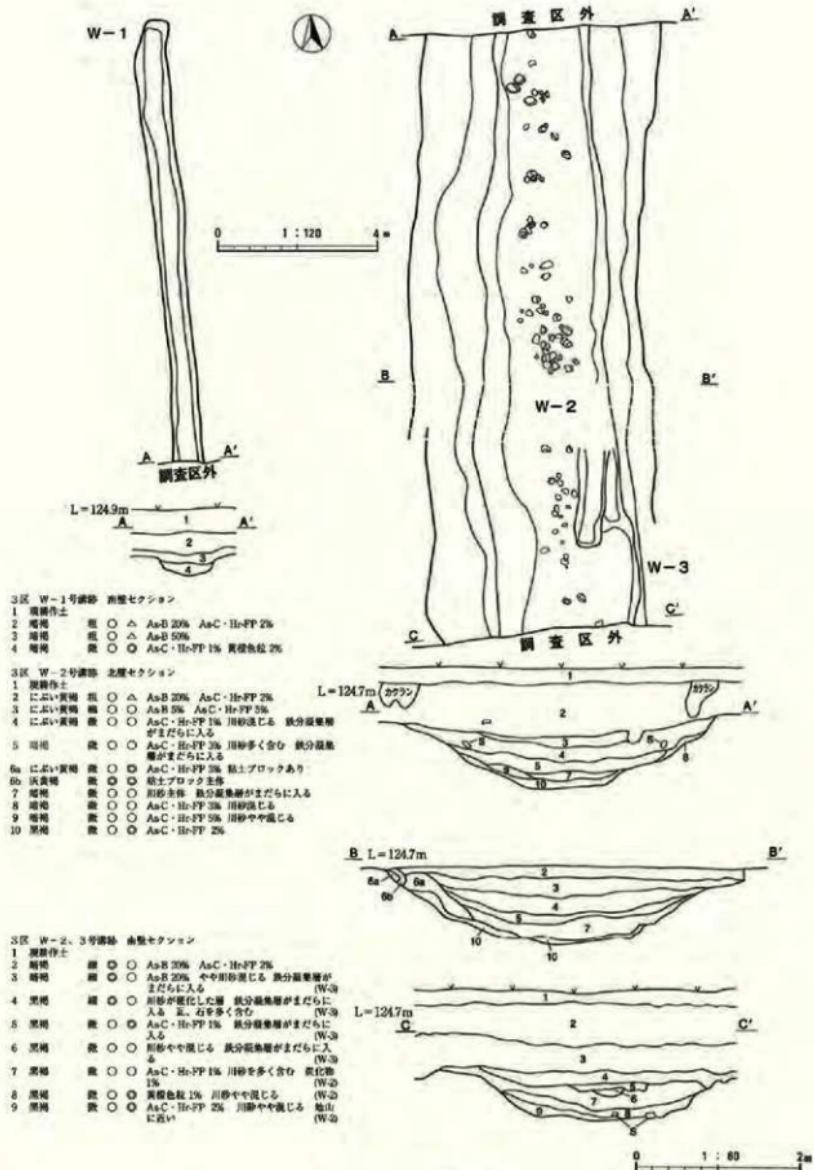


Fig.34 3区W-1～3号溝跡

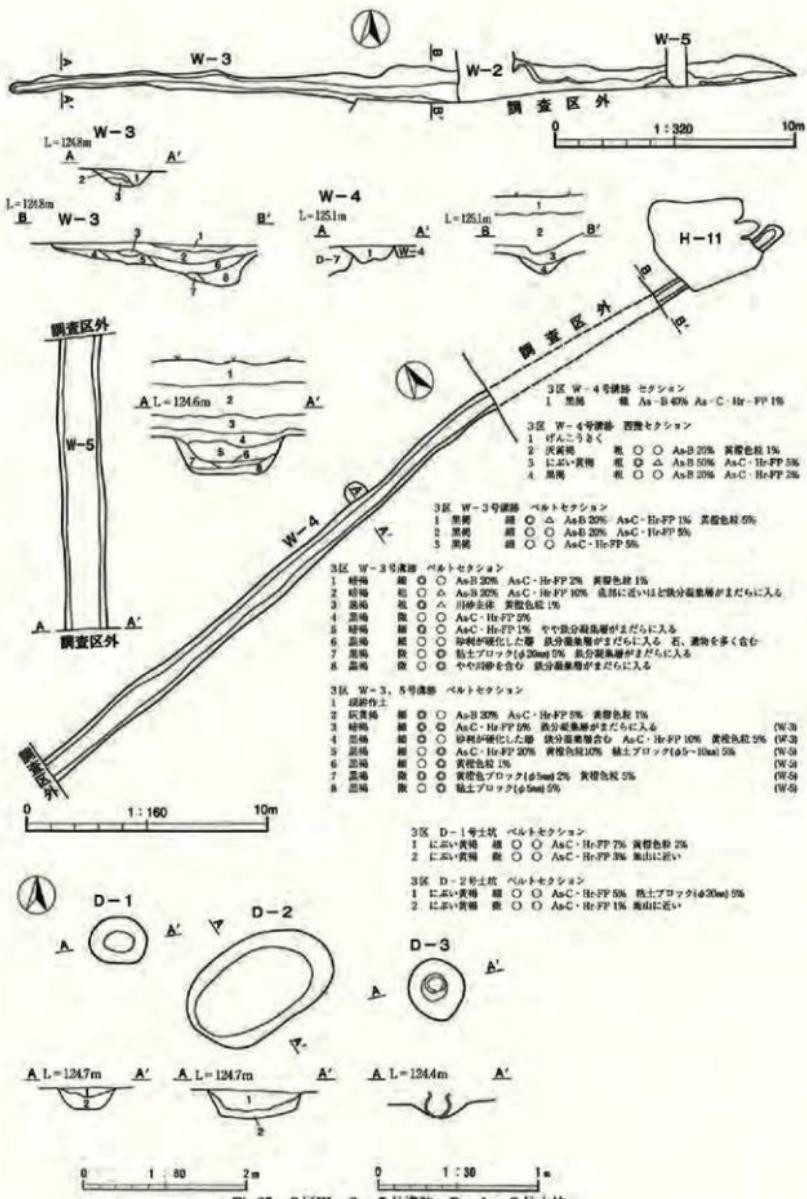
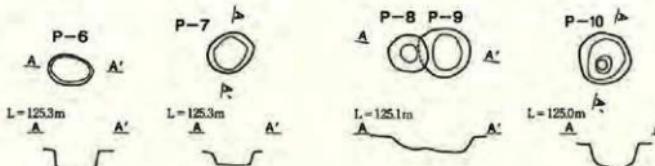
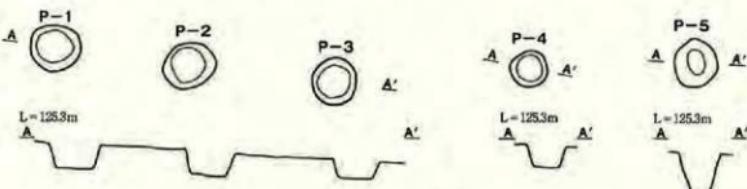
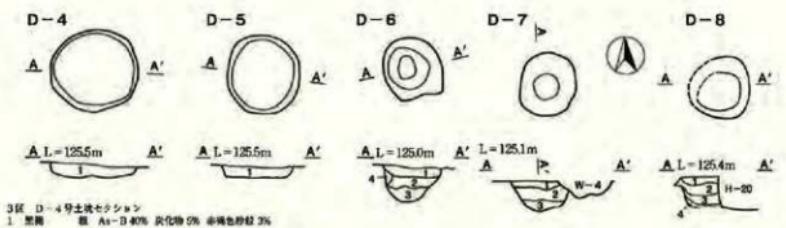


Fig.35 3区W-3～5号溝跡、D-1～3号土坑



0 1 : 60 2m

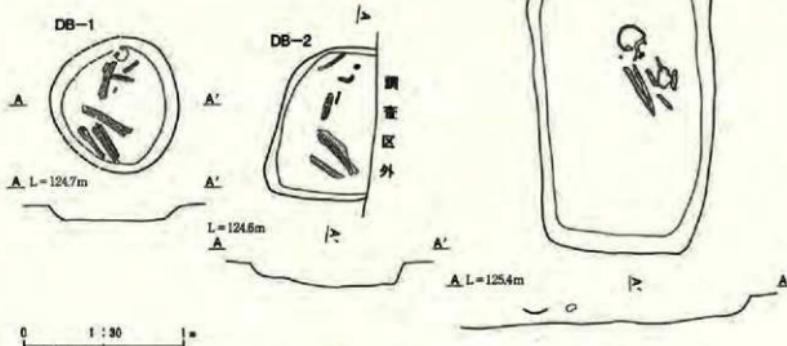
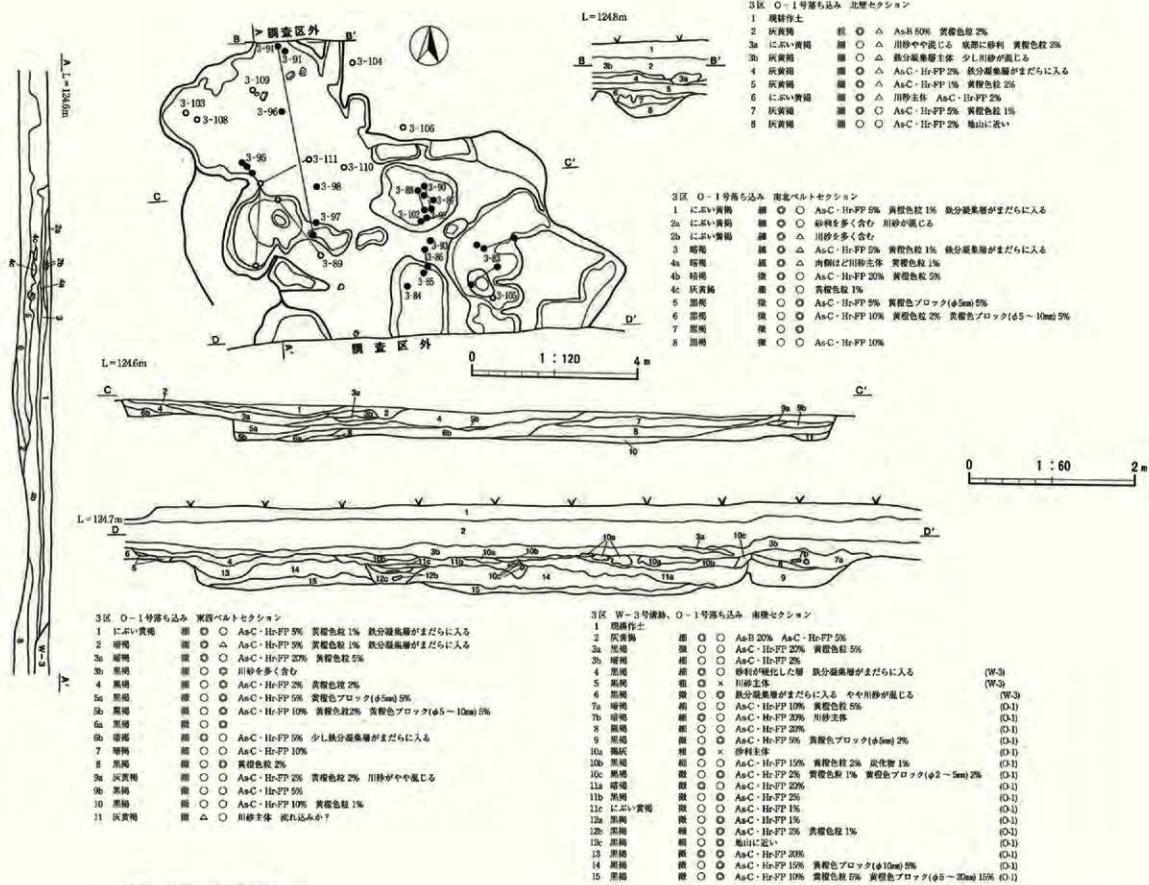


Fig.36 3区D-4~8号土坑、P-1~10号ピット、DB-1号土坑墓



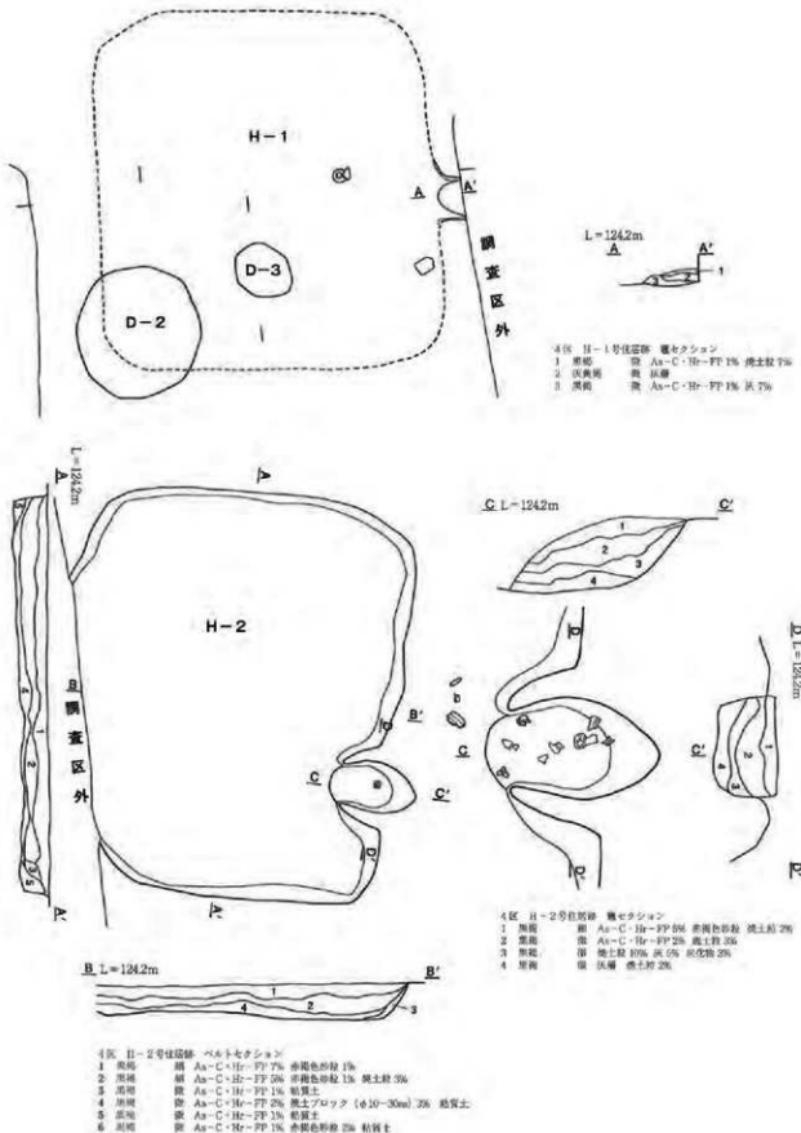


Fig.38 4区 H-1・2号住居跡、D-2・3号土坑

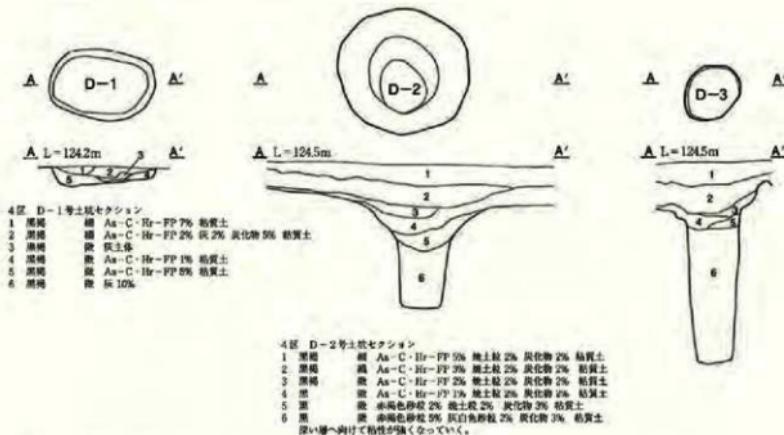
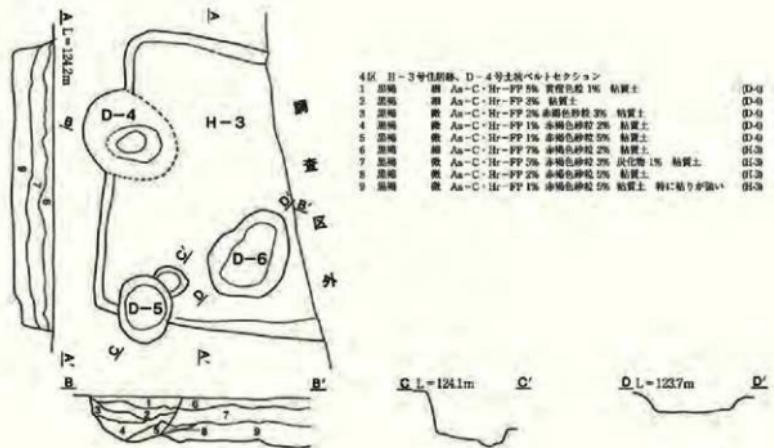
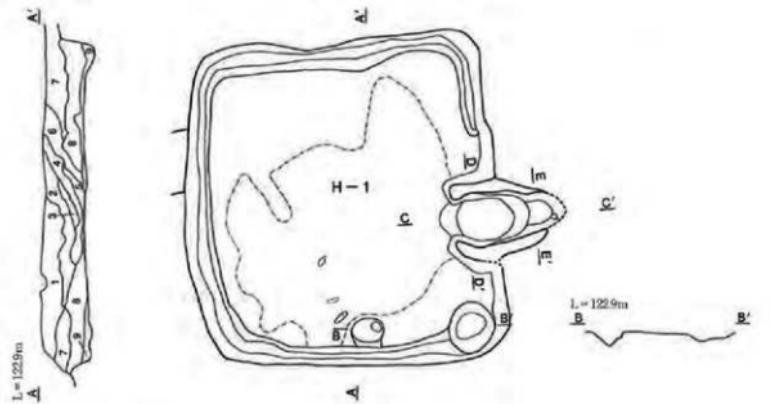


Fig.39 4区 H-3号住居跡、D-1・4～7号土坑



5区 H-1号住居跡 薙セカシヨン
 1 砂質
層 $Ae-C-Hr-Pr$ 7%
 2 黄褐色
層 $Ae-C-Hr-Pr$ 2% 黄褐色粘土 7%
 3 にじみ青層
層 $Ae-C-Hr-Pr$ 1%
 4 黄褐色
層 $Ae-C-Hr-Pr$ 2%
 5 黄褐色
層 $Ae-C-Hr-Pr$ 2%
 6 黄褐色
層 $Ae-C-Hr-Pr$ 2%
 7 黄褐色
層 $Ae-C-Hr-Pr$ 2%
 8 黄褐色
層 $Ae-C-Hr-Pr$ 2%
 9 黄褐色
層 $Ae-C-Hr-Pr$ 1%

5区 H-1号住居跡 薙セカシヨン
 1 砂質
層 $Ae-C-Hr-Pr$ 7% 佛土ブロック (φ5~10mm) 3% 黄褐色粘土 3%
 2 にじみ青層
層 $Ae-C-Hr-Pr$ 2% 佛土ブロック (φ5~10mm) 2% 黄褐色粘土 2%
 3 佛土層
層 $Ae-C-Hr-Pr$ 2% 佛土ブロック (φ10~20mm) 5% 0.5% 黄褐色粘土 2%
 4 黄褐色
層 $Ae-C-Hr-Pr$ 2% 黄褐色粘土 2%
 5 黄褐色
層 $Ae-C-Hr-Pr$ 2% 黄褐色粘土 2%
 6 黄褐色
層 $Ae-C-Hr-Pr$ 2% 黄褐色粘土 2%
 7 黄褐色
層 $Ae-C-Hr-Pr$ 2% 黄褐色粘土 2%
 8 黄褐色
層 $Ae-C-Hr-Pr$ 2% 黄褐色粘土 2%
 9 黄褐色
層 $Ae-C-Hr-Pr$ 1% 黄褐色粘土 1%

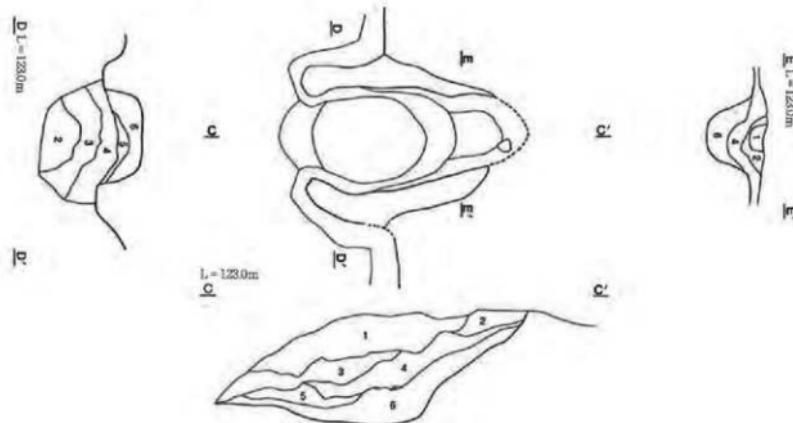


Fig.40 5区 H-1号住居跡

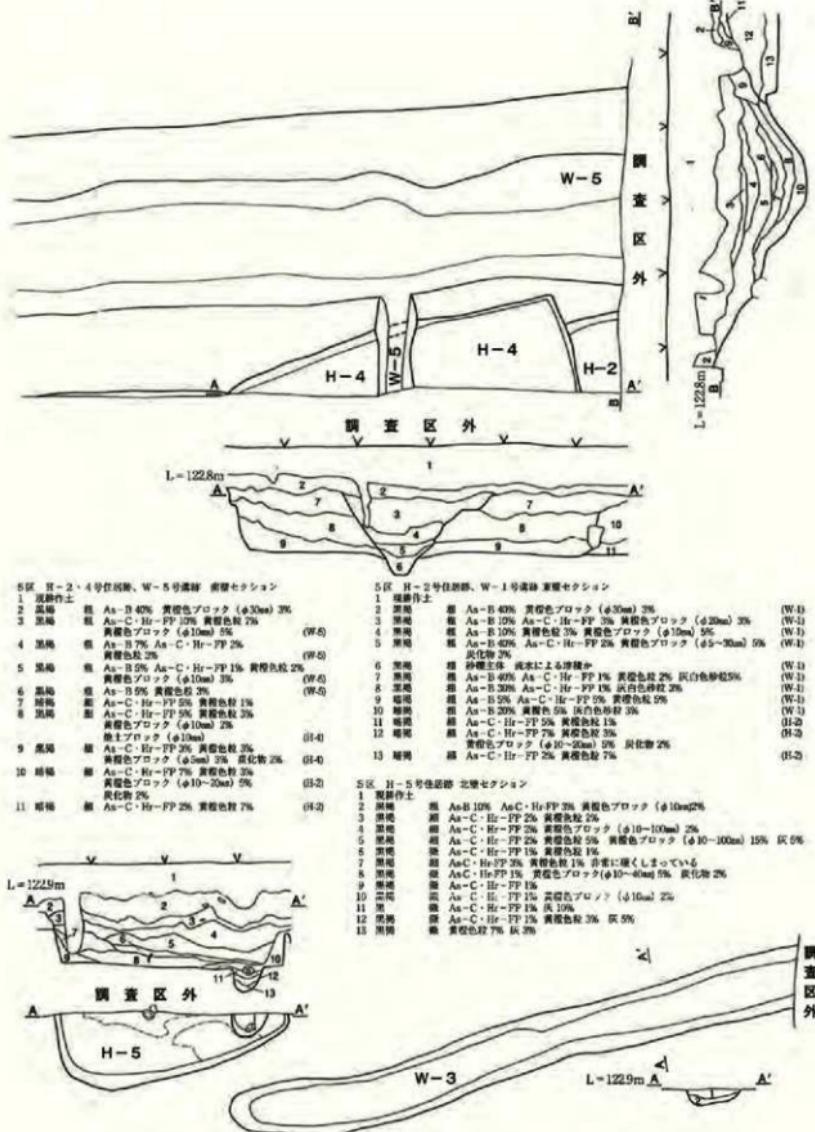
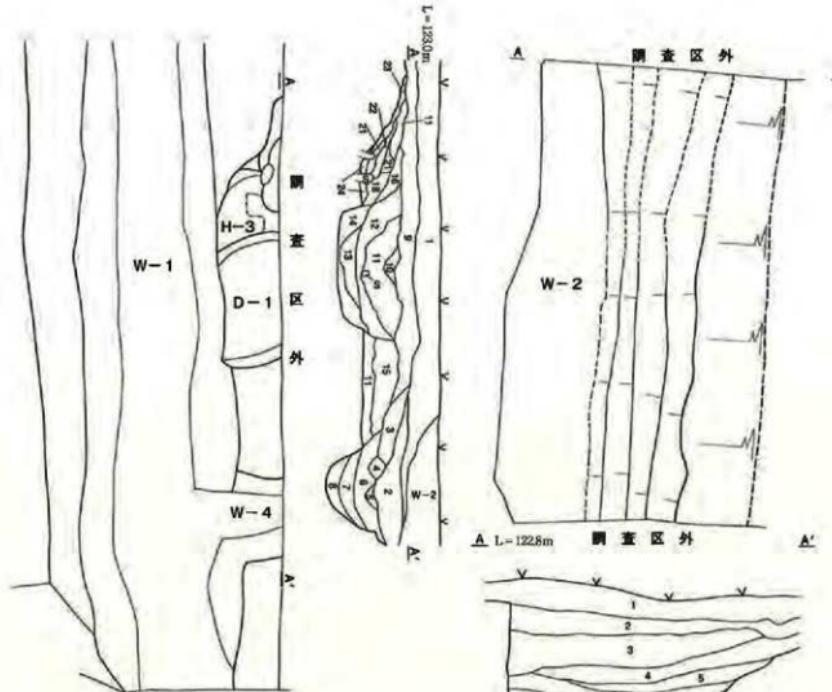


Fig.41 5区 H-2・4・5号住居跡、W-3号溝跡



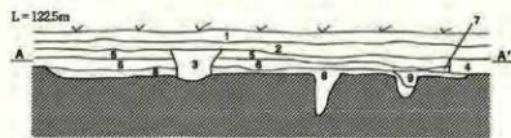
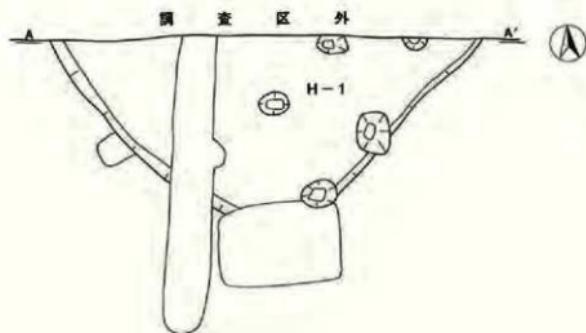
5区 H-3号住居跡 D-1号土坑、W-4号溝跡 南壁セクション

- 1 植物付土 粘 As-B 10% As-C-Hr-PP 2% 黄褐色粘土 3%
- 2 黑泥 粘 (H-3) 黄褐色ブロック (φ10cm) 2% 底白色砂粒 5%
- 3 黑泥 粘 (H-3) 黄褐色粘土 2% 底白色砂粒 2% 黄褐色砂粒 5%
- 4 黑泥 粘 As-B 5% 底白色砂粒 10% L.より弱い
- 5 黑泥 粘 As-B 5% 底白色砂粒 2%
- 6 黑泥 粘 As-B 40% 黄褐色砂 2% As-C-Hr-PP 1% (W-4)
- 7 黑泥 粘 As-B 30% 黄褐色砂 3% As-C-Hr-PP 1% 黄褐色砂 3% (W-4)
- 8 黑泥 粘 As-B 30% 黄褐色砂 3% As-C-Hr-PP 1% (W-4)
- 9 黑泥 粘 As-B 40% 黄褐色ブロック (φ10~30cm) 3%
- 10 黑泥 粘 As-B 5% As-C-Hr-PP 5% 砂土粒 1%
- 11 黑泥 粘 As-C-Hr-PP 7% 黄褐色砂 2% 黄褐色粘土 5% (D-1)
- 12 黑泥 粘 As-C-Hr-PP 3% 黄褐色砂 2% 黄褐色粘土 3%
- 13 黑泥 粘 As-C-Hr-PP 3% 黄褐色砂 2% 黄褐色粘土 3%
- 14 黑泥 粘 As-C-Hr-PP 1% 黄褐色砂 1% 砂土粒 1%
- 15 黑泥 粘 As-C-Hr-PP 7% 黄褐色砂 1% 土石砾 1%
- 16 黑泥 粘 As-C-Hr-PP 5% 砂土粒 1%
- 17 黑泥 粘 As-C-Hr-PP 3% 黄褐色砂 2%
- 18 黑泥 粘 As-C-Hr-PP 3% 黄褐色砂 2%
- 19 黑泥 粘 As-C-Hr-PP 2% 砂土粒 2% 離散部分
- 20 黑泥 粘 As-C-Hr-PP 2% 砂土粒 1% 黄褐色粘土 15% 離散部分 (D-3)
- 21 黒泥 粘 As-C-Hr-PP 1% 砂土粒 5% 底白色粘土 5%
- 離散部分
- 22 黑泥 粘 As-C-Hr-PP 1% 佛土ブロック (φ10~40cm) 7%
- 離散部分
- 23 黑泥 粘 As-C-Hr-PP 2% 土石ブロック (φ10~100cm) 10%
- 離散部分
- 24 黑泥 粘 As-C-Hr-PP 1% 佛土粒 2% 底 2% 部分

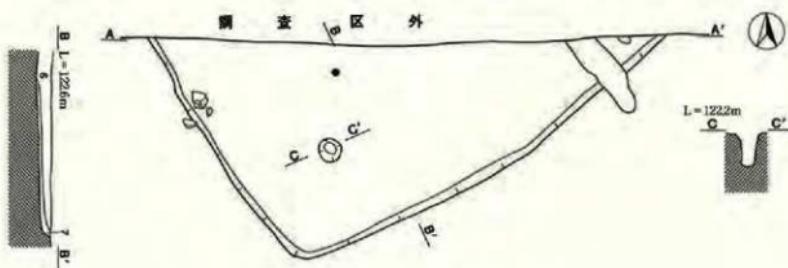
5区W-2号溝跡 北壁セクション

- 1 植物付土 粘 As-B 30% As-C-Hr-PP 2% 黄褐色ブロック (φ5~30cm) 10%
- 2 黑泥 粘 As-B 25% As-C-Hr-PP 1% 黄褐色ブロック (φ5~20cm) 3%
- 3 黑泥 粘 As-B 50% 黄褐色砂 1% 底白色砂粒 1%
- 4 黑泥 粘 As-B 40% 黄褐色砂 2% 黄褐色粘土 2% 黄褐色砂粒 1%
- 5 黑泥 粘 As-B 30% 黄褐色砂 2% 黄褐色粘土 2% 黄褐色砂粒 1%
- 6 黑泥 粘 As-B 30% 黄褐色砂 2% 黄褐色粘土 2% 黄褐色砂粒 1%
- 7 黑泥 粘 As-B 40% 黄褐色砂 1% 底白色砂粒 1%
- 8 黑泥 粘 As-B 40% 黄褐色砂 2% 底白色砂粒 1%
- 9 黑泥 粘 As-B 30% 黄褐色砂 2% 底白色砂粒 2%
- 10 黑泥 粘 As-B 30% 黄褐色砂 2% 黄褐色粘土 2% 黄褐色砂粒 1%
- 11 黑泥 粘 As-B 50% 黄褐色砂 1% 底白色砂粒 1%
- 12 黑泥 粘 As-B 50% 黄褐色砂 1% 底白色砂粒 1%
- 13 黑泥 粘 As-B 50% 黄褐色砂 2% 底白色砂粒 1%
- 14 黑泥 粘 As-B 40% 黄褐色砂 2% 底白色砂粒 2%
- 15 黑泥 粘 As-B 30% 黄褐色砂 1% 黄褐色粘土 10% 底白色砂粒 10%
- 16 黑泥 粘 As-B 30% 黄褐色砂 2% 底白色砂粒 10%
- 17 黑泥 粘 As-B 30% 黄褐色砂 2% 底白色砂粒 5%
- 18 黑泥 粘 As-B 20% 黄褐色砂 3% 黄褐色ブロック (φ10~40cm) 7%
- 離散部分
- 19 黑泥 粘 As-B 30% 黄褐色砂 2% 底白色砂粒 2%
- 20 黑泥 粘 As-B 30% 黄褐色砂 2% 底白色砂粒 2%
- 21 黑泥 粘 As-B 25% 黄褐色砂 3% 底白色砂粒 3%
- 22 黑泥 粘 As-B 5% 底白色砂粒 40%
- 離散部分

Fig.42 5区H-3号住居跡、D-1号土坑、W-2・4号溝跡



6区 1号住居跡セクション
 1 耕作土
 2 耕分層地帯
 3 淡褐色土 As-Cを微量に含む。相手土質。
 4 褐色土 As-Cを含む。被まりなく赤みがかる。5. 5層よりも皮膜をもつ。
 5 褐化土 As-Cを含む。被まりなく赤みがかる。
 6 褐褐色土 As-Cを多く含む。ローム粒を微量に含む。
 7 黄褐色土 ロームブロック主体。
 8 にい黄褐色土 As-C、ローム粒を多く含む。
 9 褐化土 As-Cを多く含む。ローム粒を微量に含む。



6区 4号住居跡セクション
 1 耕作土
 2 耕分層地帯
 3 淡褐色土
 4 褐色土 As-C、Ur-Poを微量に含む。5層よりも明い。
 5 褐化土 被まり無く、赤らか。
 6 褐化土 As-C、Ur-Po、ローム粒を多く含む。相手土質で非常に柔軟な粘土。
 7 灰褐色土 Ur-Poを含む。
 8 にい黄褐色土 日-4号住居。黒褐色土が結状に入る。
 9 灰白色土 彩質。
 10 泥炭土 微く被る。

Fig43 6区 H-1・4号住居跡

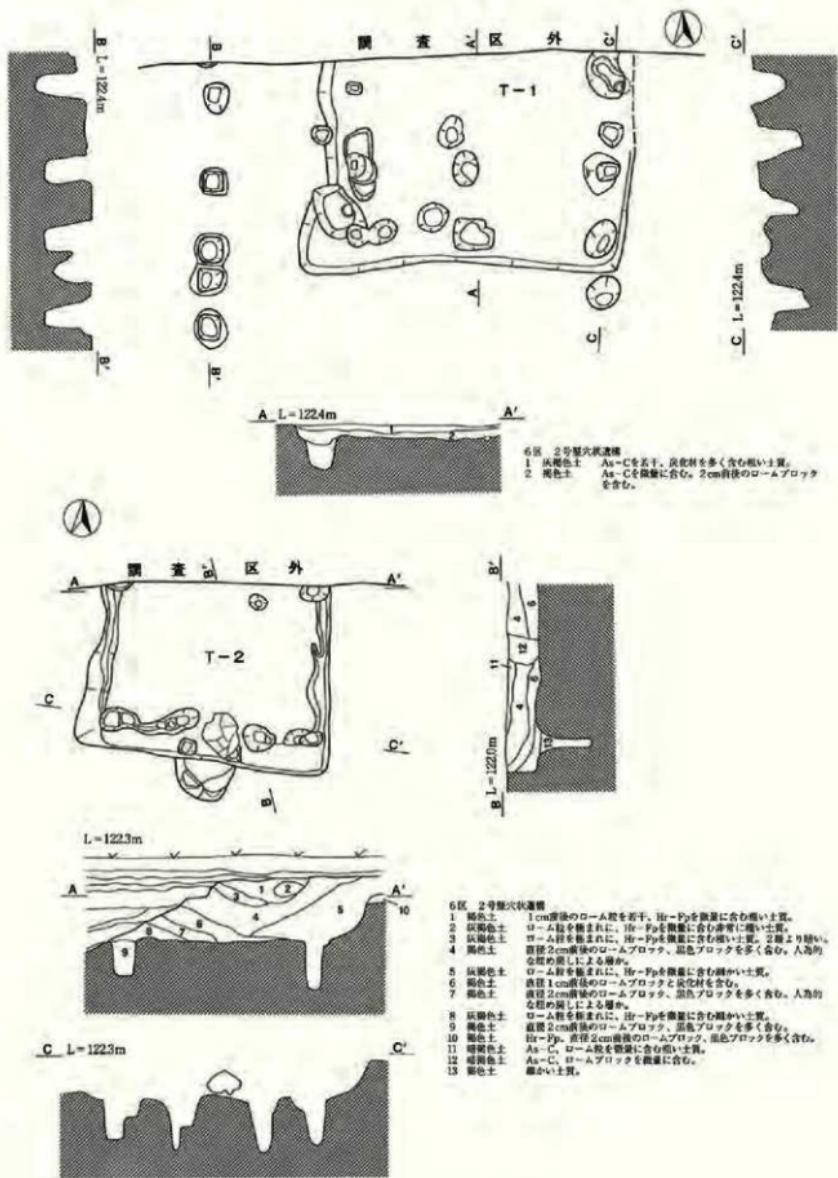
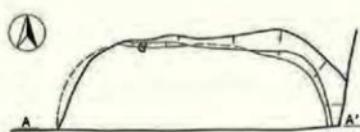
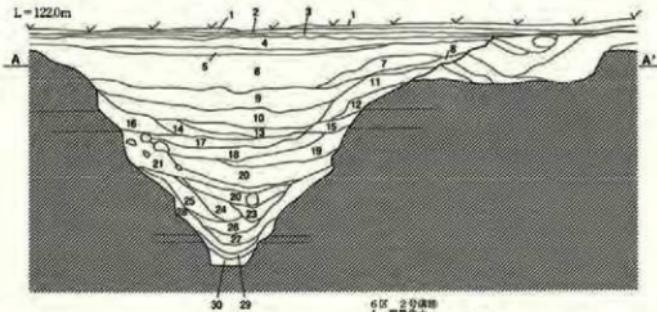
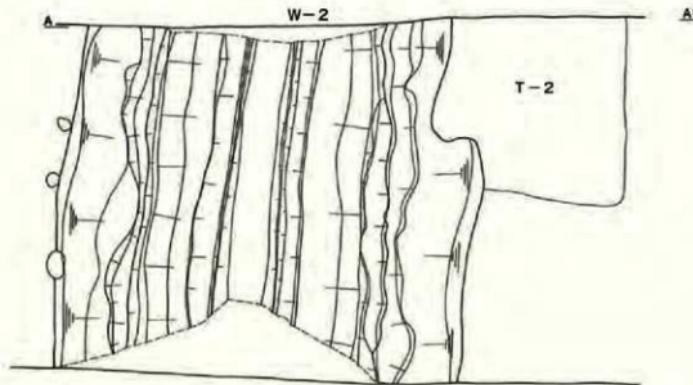
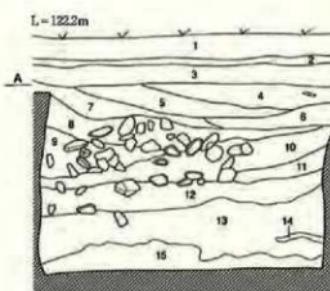


Fig. 44 6区 T-1・2号型穴状遺構



- 6区 2号溝跡
 1 濃青色土
 2 淡青色土
 3 褐褐色土
 4 淡褐色土
 5 深褐色土
 6 底褐色土
 7 底褐色土
 8 底褐色土
 9 底褐色土
 10 底褐色土
 11 底褐色土
 12 底褐色土
 13 底褐色土
 14 底褐色土
 15 底褐色土
 16 底褐色土
 17 底褐色土
 18 底褐色土
 19 底褐色土
 20 底褐色土
 21 底褐色土
 22 底褐色土
 23 底褐色土
 24 底褐色土
 25 底褐色土
 26 底褐色土
 27 底褐色土
 28 底褐色土
 29 底褐色土
 30 底褐色土
- 6号 2号溝跡
 1 濃青色土
 2 淡青色土
 3 褐褐色土
 4 淡褐色土
 5 深褐色土
 6 底褐色土
 7 底褐色土
 8 底褐色土
 9 底褐色土
 10 底褐色土
 11 底褐色土
 12 底褐色土
 13 底褐色土
 14 底褐色土
 15 底褐色土
 16 底褐色土
 17 底褐色土
 18 底褐色土
 19 底褐色土
 20 底褐色土
 21 底褐色土
 22 底褐色土
 23 底褐色土
 24 底褐色土
 25 底褐色土
 26 底褐色土
 27 底褐色土
 28 底褐色土
 29 底褐色土
 30 底褐色土
- 6号 2号溝跡
 1 濃青色土
 2 淡青色土
 3 褐褐色土
 4 淡褐色土
 5 深褐色土
 6 底褐色土
 7 底褐色土
 8 底褐色土
 9 底褐色土
 10 底褐色土
 11 底褐色土
 12 底褐色土
 13 底褐色土
 14 底褐色土
 15 底褐色土
 16 底褐色土
 17 底褐色土
 18 底褐色土
 19 底褐色土
 20 底褐色土
 21 底褐色土
 22 底褐色土
 23 底褐色土
 24 底褐色土
 25 底褐色土
 26 底褐色土
 27 底褐色土
 28 底褐色土
 29 底褐色土
 30 底褐色土



- 6区 2号溝跡
 1 濃青色土
 2 淡青色土
 3 褐褐色土
 4 淡褐色土
 5 深褐色土
 6 底褐色土
 7 底褐色土
 8 底褐色土
 9 底褐色土
 10 底褐色土
 11 底褐色土
 12 底褐色土
 13 底褐色土
 14 底褐色土
 15 底褐色土
- 6号 2号溝跡
 1 濃青色土
 2 淡青色土
 3 褐褐色土
 4 淡褐色土
 5 深褐色土
 6 底褐色土
 7 底褐色土
 8 底褐色土
 9 底褐色土
 10 底褐色土
 11 底褐色土
 12 底褐色土
 13 底褐色土
 14 底褐色土
 15 底褐色土

Fig.45 6区W-2号溝跡、地下式土坑

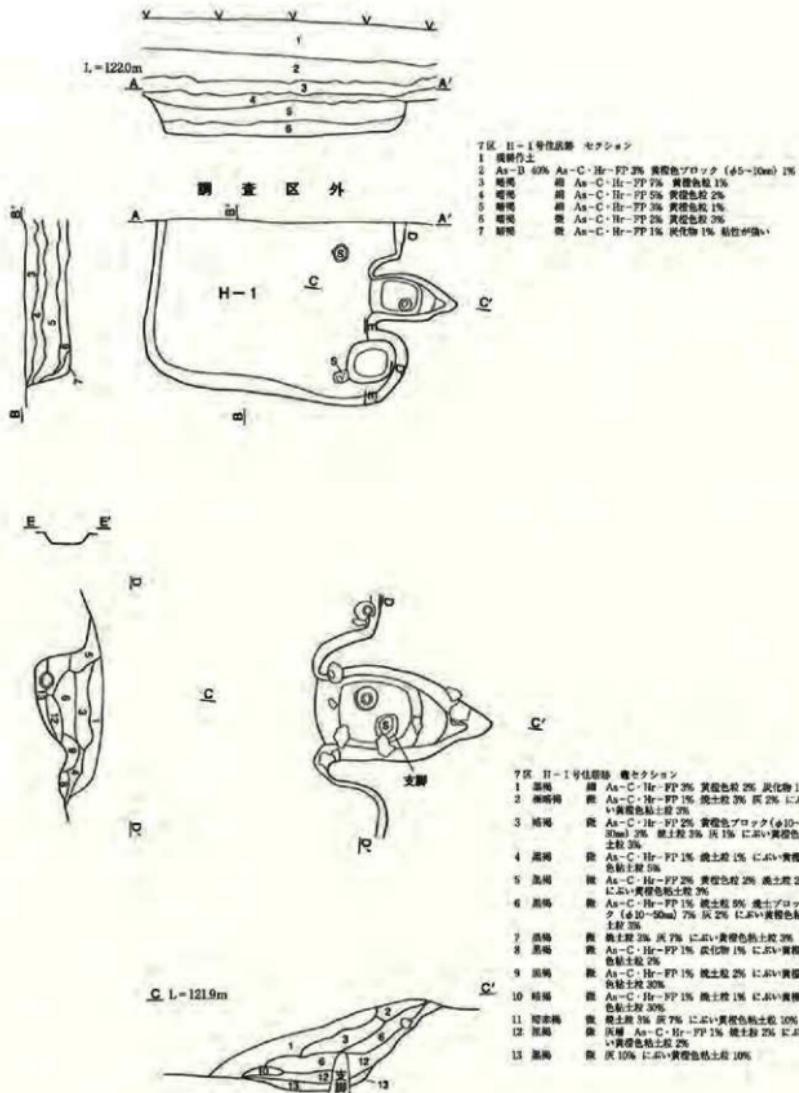


Fig 46 7区H-1号住宅跡

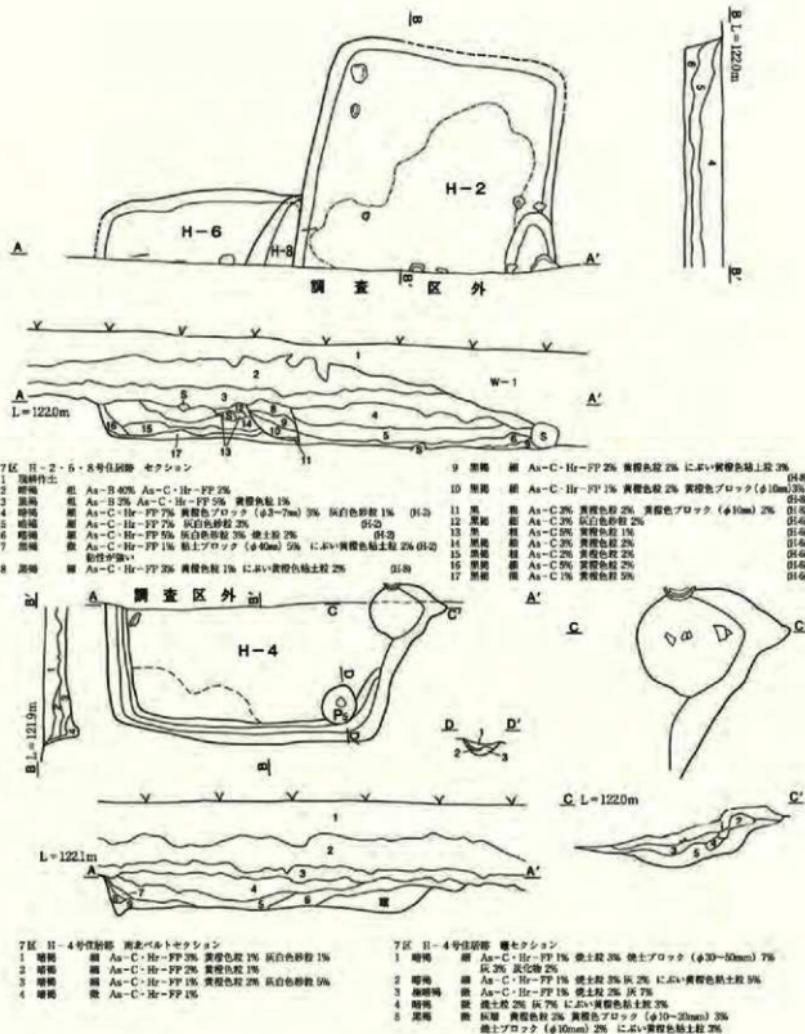


Fig47 7区H-2・4・6・8号住居跡

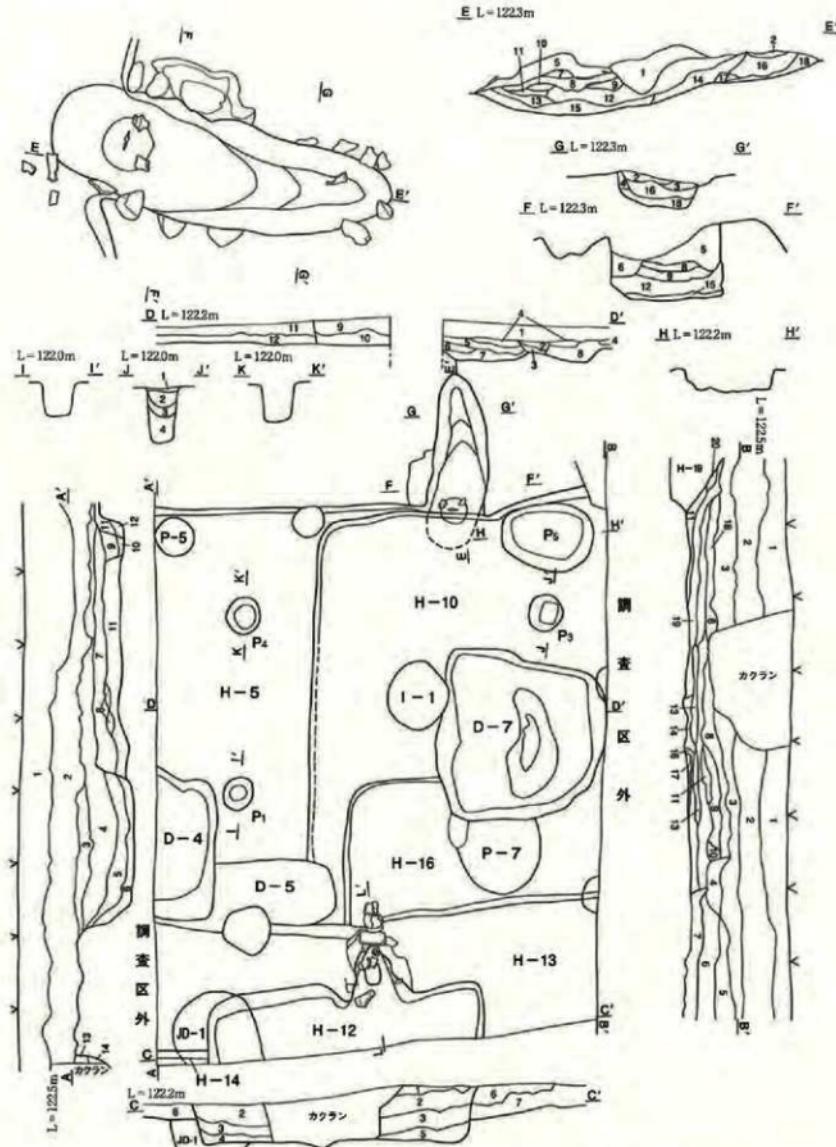


Fig.48 7区H-5・10・12～14・16号住居跡、D-3・4号土坑、P-1・3～5号ピット

7区 H-5・10号住居跡、D-3号土坑	
1 壁面	壁 As-C-Hr-PP 2% 黄褐色粘土 1% 腐化物 2%
2 壁面	壁 As-C-Hr-PP 1% 黄褐色粘土 3%
3 壁面	壁 As-C-Hr-PP 1% 黄褐色粘土 2%
4 壁面	壁 As-C-Hr-PP 1% 黄褐色粘土 2% 黄褐色プロック(φ10mm) 5%
5 壁面	壁 As-C-Hr-PP 2% 黄褐色粘土ブロック(φ10mm) 5%
6 壁面	壁 As-C-Hr-PP 1% 黄褐色粘土 1%
7 壁面	壁 As-C-Hr-PP 1% 黄褐色粘土 10%
8 地面	黄褐色色プロック(φ10-30mm) 5%
9 にじみ黄褐色	壁 As-C-Hr-PP 1% 黄褐色粘土 2% 黄褐色 10%
10 にじみ黄褐色	壁 As-C-Hr-PP 1% 黄褐色粘土 1%
11 にじみ黄褐色	壁 As-C-Hr-PP 2% 黄褐色粘土 1% 黄褐色 1%
12 壁面	壁 As-C-Hr-PP 2% 黄褐色粘土 2% 黄土粒 1% 腐化物 1%

7区 H-5号住居跡、P-セクション	
1 壁面	壁 As-C-Hr-PP 1% 黄褐色粘土 1% 腐化物 1%
2 壁面	壁 織りが非常に強い H-5号住居跡の底面層
3 壁面	壁 As-C-Hr-PP 2% 黄褐色色プロック(φ2-10mm) 1% 黄土粒 1%
4 壁面	壁 As-C-Hr-PP 1% 黄褐色粘土 1% 黄土粒 1%
5 壁面	壁 As-C-Hr-PP 1% 黄褐色粘土 1% 腐化物 1%
6 壁面	壁 As-C-Hr-PP 1% 黄褐色粘土 2% 黄土粒 1% 腐化物 1%
7 壁面	壁 As-C-Hr-PP 1% 黄褐色粘土 1% 黄土粒 1%
8 壁面	壁 As-C-Hr-PP 1% 黄褐色粘土 1% 黄土粒 1%
9 壁面	壁 As-C-Hr-PP 1% 黄褐色粘土 1% 黄土粒 1%
10 壁面	壁 As-C-Hr-PP 1% 黄褐色粘土 1% 黄土粒 1%
11 壁面	壁 As-C-Hr-PP 1% 黄褐色粘土 1% 黄土粒 1%
12 壁面	壁 As-C-Hr-PP 1% 黄褐色粘土 1% 黄土粒 1%
13 壁面	壁 As-C-Hr-PP 1% 黄褐色粘土 1% 黄土粒 1%
14 壁面	壁 As-C-Hr-PP 1% 黄褐色粘土 1% 黄土粒 1%
15 にじみ黄褐色	壁 As-C-Hr-PP 1% 黄褐色粘土 1% 黄土粒 1%
16 にじみ黄褐色	壁 As-C-Hr-PP 1% 黄褐色粘土 1% 黄土粒 1%
17 にじみ黄褐色	壁 As-C-Hr-PP 1% 黄褐色粘土 1%
18 壁	壁 As-C-Hr-PP 1% 黄褐色粘土 1%

7区 H-5号住居跡、P-セクション	
1 壁面	壁 As-C-Hr-PP 1% 黄褐色粘土 1% 腐化物 1%
2 壁面	壁 織りが非常に強い H-5号住居跡の底面層
3 壁面	壁 As-C-Hr-PP 2% 黄褐色色プロック(φ2-10mm) 1% 黄土粒 1%
4 壁面	壁 As-C-Hr-PP 1% 黄褐色粘土 1% 黄土粒 1%
5 壁面	壁 As-C-Hr-PP 1% 黄褐色粘土 1% 腐化物 1%
6 壁面	壁 As-C-Hr-PP 1% 黄褐色粘土 2% 黄土粒 1% 腐化物 1%
7 壁面	壁 As-C-Hr-PP 1% 黄褐色粘土 1% 腐化物 1%
8 壁面	壁 As-C-Hr-PP 1% 黄褐色粘土 1% 黄土粒 1%
9 壁面	壁 As-C-Hr-PP 1% 黄褐色粘土 1% 黄土粒 1%
10 壁面	壁 As-C-Hr-PP 1% 黄褐色粘土 1% 黄土粒 1%
11 壁面	壁 As-C-Hr-PP 1% 黄褐色粘土 1% 黄土粒 1%
12 壁面	壁 As-C-Hr-PP 1% 黄褐色粘土 1% 黄土粒 1%
13 壁面	壁 As-C-Hr-PP 1% 黄褐色粘土 1% 黄土粒 1%
14 壁面	壁 As-C-Hr-PP 1% 黄褐色粘土 1% 黄土粒 1%
15 にじみ黄褐色	壁 As-C-Hr-PP 1% 黄褐色粘土 1% 黄土粒 1%
16 にじみ黄褐色	壁 As-C-Hr-PP 1% 黄褐色粘土 1% 黄土粒 1%
17 にじみ黄褐色	壁 As-C-Hr-PP 1% 黄褐色粘土 1%
18 壁	壁 As-C-Hr-PP 1% 黄褐色粘土 1%

7区 H-5・14号住居跡、D-4号土坑	
1 壁面作土	壁 As-B 40% As-C-Hr-PP 2%
2 壁面	壁 As-C-Hr-PP 2% 黄褐色粘土 2%
3 平坦	壁 As-C-Hr-PP 1% 黄褐色粘土 1% 腐化物 1%
4 壁面	壁 As-C-Hr-PP 2% 黄褐色色プロック(φ10-20mm) 3%
5 壁面	壁 As-C-Hr-PP 1% 黄褐色色プロック(φ10mm) 3%
6 壁面	壁 As-C-Hr-PP 1% 黄褐色粘土 1% 腐化物 1%
7 にじみ黄褐色	壁 As-C-Hr-PP 1% 黄褐色粘土 1% 腐化物 1%
8 にじみ黄褐色	壁 As-C-Hr-PP 1% 黄褐色粘土 1% 黄土粒 1%
9 壁面	壁 As-C-Hr-PP 2% 黄褐色粘土 1% 黄土粒 1%
10 壁面	壁 As-C-Hr-PP 1% 黄褐色粘土 1%
11 壁面	壁 As-C-Hr-PP 2% 黄褐色粘土 2% 黄土粒 1%
12 壁面	壁 As-C-Hr-PP 1% 黄褐色粘土 1% 腐化物 1%
13 壁面	壁 As-C-Hr-PP 1% 黄褐色粘土 1% 黄土粒 1%
14 壁面	壁 As-C-Hr-PP 1% 黄褐色粘土 1% 黄土粒 1%

7区 H-10・13・16号住居跡 D-3号土坑 断面セクション	
1 壁面作土	壁 As-B 40% As-C-Hr-PP 2%
2 壁面	壁 As-C-Hr-PP 2% 黄褐色粘土 2%
3 にじみ黄褐色	壁 As-C-Hr-PP 1% 黄褐色粘土 1%
4 壁面	壁 As-C-Hr-PP 1% 黄褐色粘土 1% 黄土粒 1%
5 壁面	壁 As-C-Hr-PP 1% 黄褐色粘土 1% 腐化物 1%
6 にじみ黄褐色	壁 As-C-Hr-PP 1% 黄褐色粘土 1% 腐化物 1% にじみ黄褐色粘土 1%
7 壁面	壁 As-C-Hr-PP 1% 黄褐色粘土 1% 腐化物 1% にじみ黄褐色粘土 1%
8 壁面	壁 As-C-Hr-PP 1% 黄褐色粘土 1% 黄土粒 1%
9 壁面	壁 As-C-Hr-PP 1% 黄褐色粘土 1% 黄土粒 1%
10 壁面	壁 As-C-Hr-PP 1% 黄褐色粘土 1% 黄土粒 1%
11 壁面	壁 As-C-Hr-PP 1% 黄褐色粘土 1% 黄土粒 1%
12 壁面	壁 As-C-Hr-PP 1% 黄褐色粘土 1% 黄土粒 1%
13 壁面	壁 As-C-Hr-PP 1% 黄褐色粘土 1% 黄土粒 1%
14 壁面	壁 As-C-Hr-PP 1% 黄褐色粘土 1% 黄土粒 1%
15 壁面	壁 As-C-Hr-PP 1% 黄褐色粘土 1% 黄土粒 1%
16 赤鉄分	壁 黄褐色粘土 1% 赤鉄分
17 にじみ黄褐色	壁 黄褐色粘土 1% 赤鉄分
18 赤鉄分	壁 黄褐色粘土 1% 赤鉄分
19 黒泥	壁 As-C-Hr-PP 1% 黄褐色粘土 1% 黄土粒 1% 黄土粒 1% 赤鉄分 1% 黑泥部分
20 壁面	壁 As-C-Hr-PP 1% 黄褐色粘土 1% 黄土粒 1% 黑泥部分
21 黒泥	壁 黑泥 黄褐色粘土 1% 黄土粒 1% 黄土粒 1% 黑泥部分

7区 H-12・13・14号住居跡 セクション

1 壁面	壁 As-A 20% 黄褐色色 2%
2 壁面	壁 As-C-Hr-PP 5% 黄褐色色プロック(φ10-40mm) 5% 腐化物 1%
3 壁面	壁 As-C-Hr-PP 5% 黄褐色色プロック(φ10-40mm) 7% 黄土粒 1%
4 壁面	壁 As-C-Hr-PP 1% 黄褐色色プロック(φ10mm) 2%
5 壁面	壁 As-C-Hr-PP 1% 黄褐色色プロック(φ20-40mm) 2%
6 壁面	壁 As-C-Hr-PP 1% 黄褐色色 1%
7 にじみ黄褐色	壁 As-C-Hr-PP 1% 黄褐色色 1% にじみ黄褐色粘土 1%
8 黒泥	壁 As-C-Hr-PP 1% 黄褐色色 3%

7区 H-12号住居跡 セクション

1 壁面	壁 As-C-Hr-PP 3%
2 壁面	壁 As-C-Hr-PP 2%
3 壁面	壁 As-C-Hr-PP 1% 黄褐色色 1%
4 壁面	壁 As-C-Hr-PP 1% 黄褐色色プロック(φ10mm) 2%

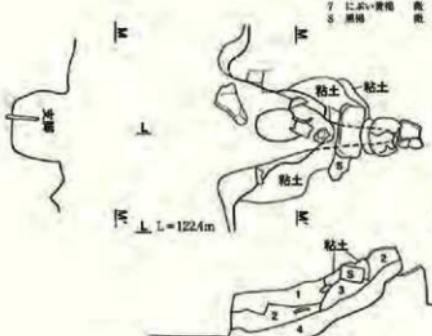
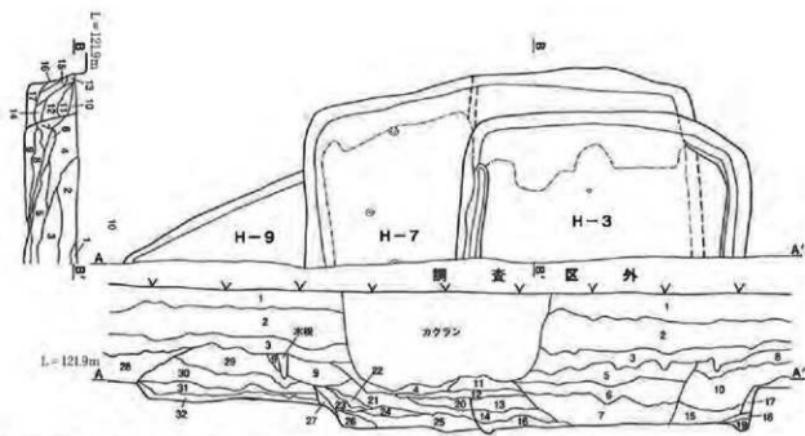


Fig.48 7区 H-5・10・12-14・16号住居跡、D-3・4号土坑、P-1・3-5号ビット



7区 H-3・7号付属南北ベルトセクション

- | | | | | |
|----|----|--|---------|----|
| 1 | 鳳島 | 鳳 \rightarrow C - H \rightarrow F% 鳳島地盤 2% | 鳳島地盤 2% | |
| 2 | 鳴島 | 鳴 \rightarrow C - H \rightarrow F% 鳴島地盤 2% | 鳴島地盤 2% | |
| 3 | 沼島 | 沼 \rightarrow C - H \rightarrow F% 沼島地盤 2% | 沼島地盤 2% | |
| 4 | 鳴門 | 鳴 \rightarrow C - H \rightarrow F% 鳴門地盤 2% | 鳴門地盤 2% | |
| 5 | 鳴門 | 鳴 \rightarrow C - H \rightarrow F% 鳴門地盤 2% | 鳴門地盤 2% | 管理 |
| 6 | 鳴門 | 鳴 \rightarrow C - H \rightarrow F% 鳴門地盤 2% | 鳴門地盤 2% | 管理 |
| 7 | 鳴門 | 鳴 \rightarrow C - H \rightarrow F% 鳴門地盤 2% | 鳴門地盤 2% | 管理 |
| 8 | 鳴門 | 鳴 \rightarrow C - H \rightarrow F% 鳴門地盤 2% | 鳴門地盤 2% | 管理 |
| 9 | 鳴門 | 鳴 \rightarrow C - H \rightarrow F% 鳴門地盤 2% | 鳴門地盤 2% | 管理 |
| 10 | 鳴門 | 鳴 \rightarrow C - H \rightarrow F% 鳴門地盤 2% | 鳴門地盤 2% | 管理 |
| 11 | 鳴門 | 鳴 \rightarrow C - H \rightarrow F% 鳴門地盤 2% | 鳴門地盤 2% | 管理 |
| 12 | 鳴門 | 鳴 \rightarrow C - H \rightarrow F% 鳴門地盤 2% | 鳴門地盤 2% | 管理 |
| 13 | 鳴門 | 鳴 \rightarrow C - H \rightarrow F% 鳴門地盤 2% | 鳴門地盤 2% | 管理 |
| 14 | 鳴門 | 鳴 \rightarrow C - H \rightarrow F% 鳴門地盤 2% | 鳴門地盤 2% | 管理 |
| 15 | 鳴門 | 鳴 \rightarrow C - H \rightarrow F% 鳴門地盤 2% | 鳴門地盤 2% | 管理 |
| 16 | 鳴門 | 鳴 \rightarrow C - H \rightarrow F% 鳴門地盤 2% | 鳴門地盤 2% | 管理 |
| 17 | 鳴門 | 鳴 \rightarrow C - H \rightarrow F% 鳴門地盤 2% | 鳴門地盤 2% | 管理 |

7区 8-3-ア-9・11号往期跡 南側セクション

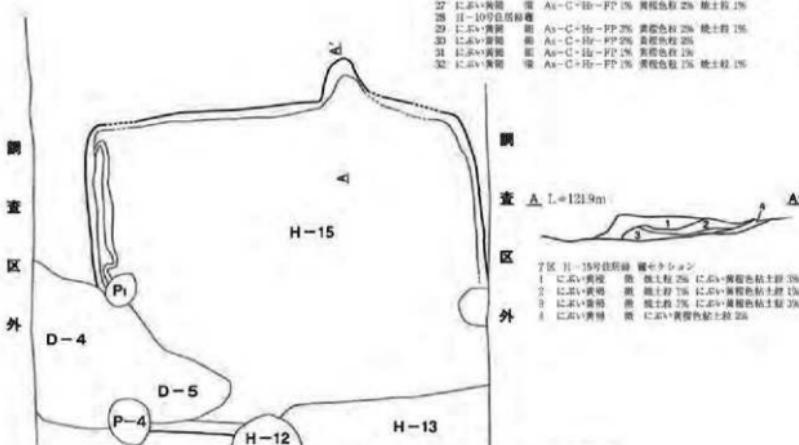


Fig.49 7区H=3·7·9·11·15号住居跡、D=4·5号土塁

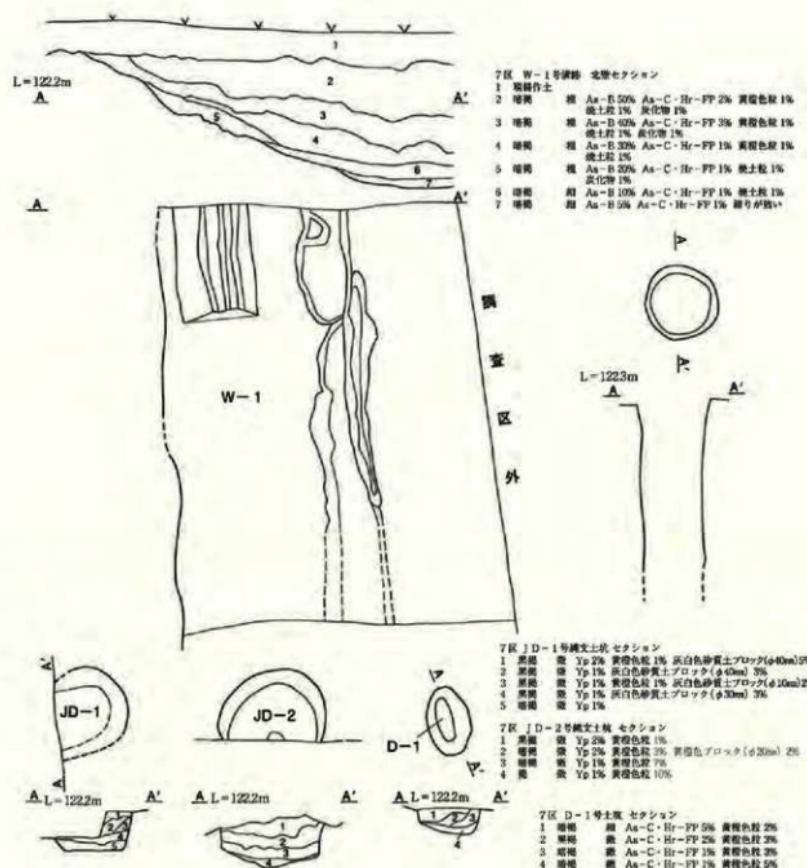
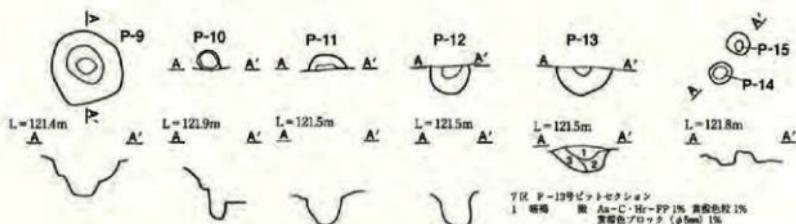
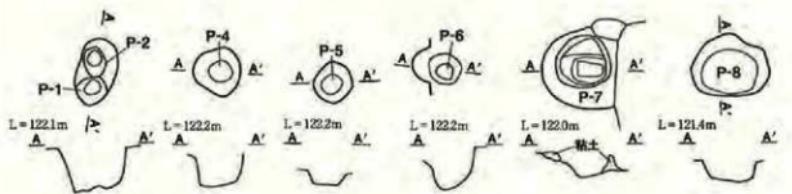


Fig.50 7区W-1溝跡、JD-1・2号土坑、D-1～7号土坑



7区 H-12号ビットセクション
 1 砂場 植 As-C-Hr-PP 1% 黄褐色粒 1%
 黄褐色ブロック (φ5mm) 1%
 2 砂場 表 As-C-Hr-PP 1% 黄褐色粒 7%
 3 砂場 底 As-C-Hr-PP 1% 黄褐色粒 1% 粘土粒 1%

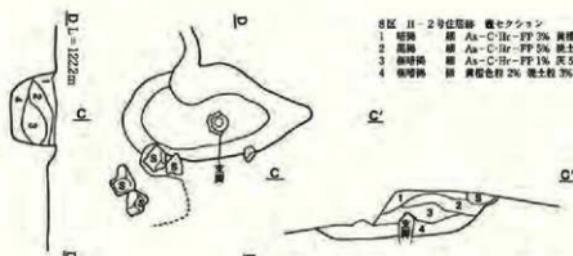
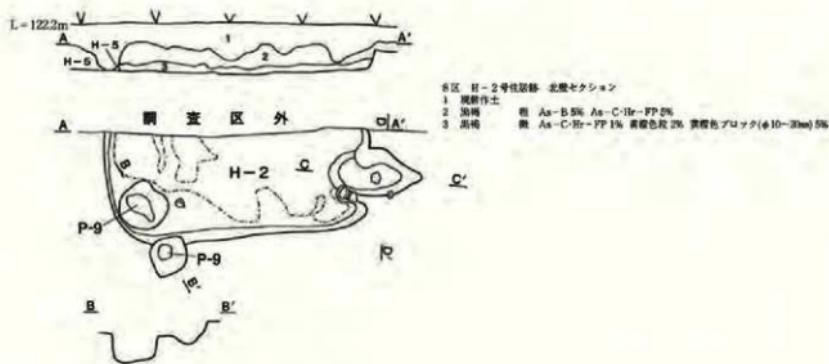


Fig.51 7区P-1~15号ビット、8区H-2号住居跡、P-5・6号ビット

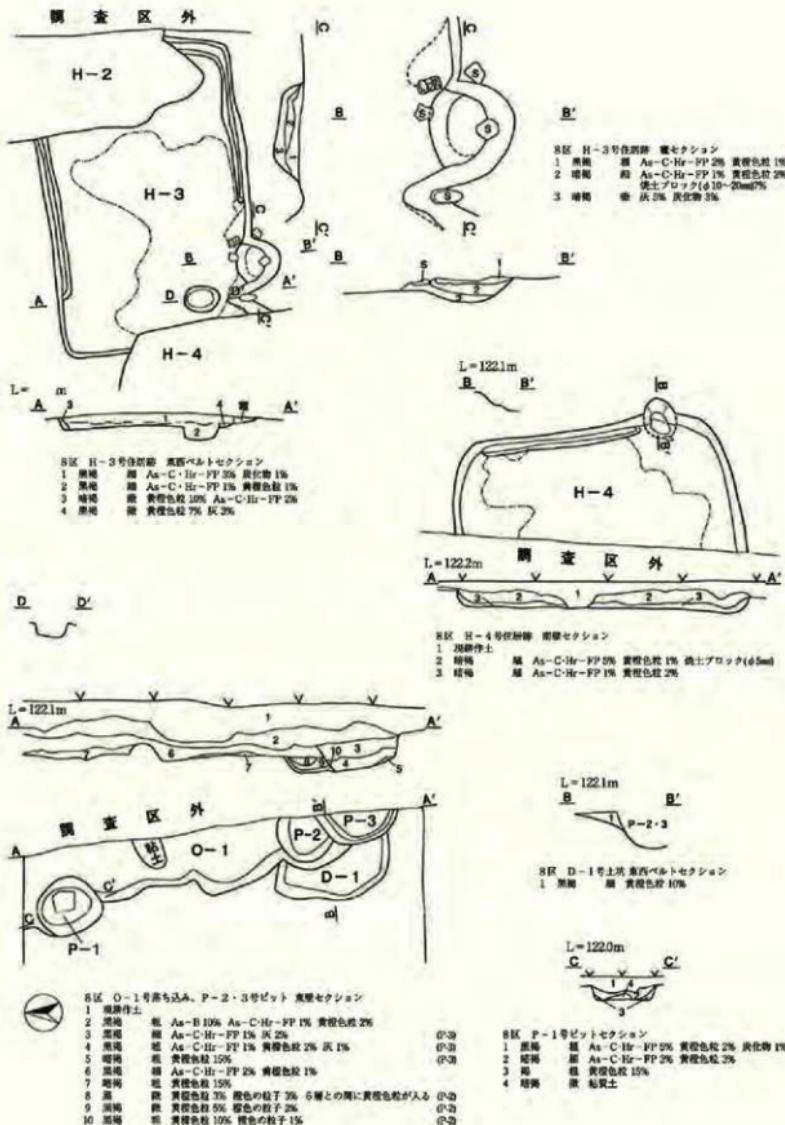
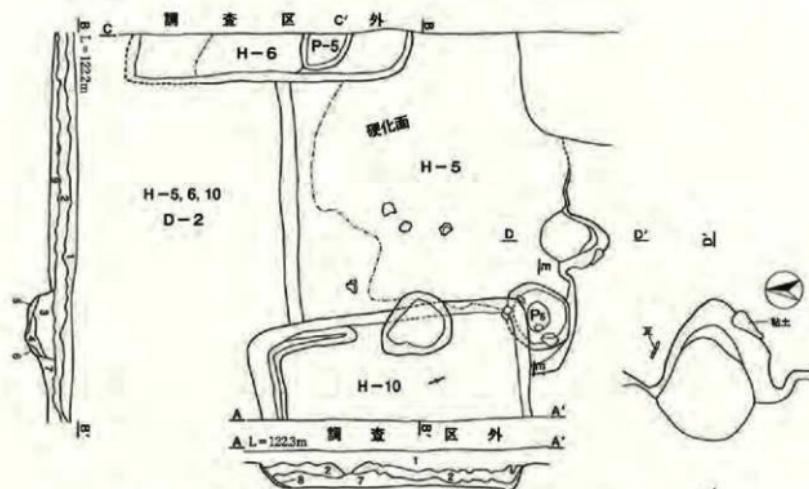


Fig.52 8区H-3・4号住居跡、D-1号土坑、O-1号落ちこみ、P-1～3号ビット

8区 H-5・6号住居跡 北壁セクション			
1 廃場			
2 黒泥	板	As-B 5% As-C-Hr-PP 5%	
3 黒泥	板	As-C-Hr-PP 5% 黄褐色粒 3% 黄褐色ブロック(φ10mm) 3%	014
4 黒泥	板	As-C-Hr-PP 5% 黄褐色粒 2% 沢土粒 5% 灰 5%	014
5 黒泥	板	As-C-Hr-PP 5% 黄褐色粒 15% やや粘り気を持つ	014
6 黒泥	板	As-C-Hr-PP 5% 黄褐色粒 3% 沢土粒 1% 灰 5%	014
7 塙跡	板	As-C-Hr-PP 5% 黄褐色粒 3%	014
8 黒泥	板	As-C-Hr-PP 5% 黄褐色粒 7%	014
9 黒泥	板	As-B 3% As-C-Hr-PP 5% 黄褐色粒 2%	014
10 黒泥	板	As-C-Hr-PP 1% 黄褐色粒 2% 灰化物 1% にぶい褐色粘土 30%	014
11 黒泥	板	As-C-Hr-PP 1% 黄褐色粒 2% 灰化物 1% にぶい褐色粘土 30%	014



8区 H-5・10号住居跡 D-2号土坑 セクション	
1 黒泥	板 As-B 5% As-C-Hr-PP 5%
2 黒泥	板 As-B 5% As-C-Hr-PP 5% 黄褐色粒 2%
3 黒泥	板 As-C-Hr-PP 5% 黄褐色粒 2% 黄褐色粒 2%
4 黑泥	板 As-C-Hr-PP 5% 黄褐色粒 3% 黄褐色粒 3% 灰化物 2%
5 塙跡	板 As-C-Hr-PP 5% 黄褐色粒 2%
6 塙跡	板 As-C-Hr-PP 5% 黄褐色粒 2%
7 塙跡	板 As-C-Hr-PP 5% 黄褐色粒 2%
8 塙跡	板 As-C-Hr-PP 5% 黄褐色粒 2%
9 黒泥	板 As-C-Hr-PP 1% 黄褐色粒 2% 灰化物 1% にぶい褐色粘土 30%



8区 H-5号住居跡 P-2号貯蔵穴 セクション
1 土 壤 沈土ブロック(φ5-10mm) 2%
2 黒泥 板 As-C-Hr-PP 1% 黄褐色粒 7% 灰化物 16% 鉛灰岩 2%



8区 H-5号住居跡 藏セクション	
1 廃場	板 As-C-Hr-PP 3% 黄褐色粒 1% 沢土粒 2%
2 廃場	板 As-C-Hr-PP 1% 黄褐色粒 1% 沢土粒 3%
3 廃場	板 黄褐色粒 1% 沢土粒 3% 灰 2%
4 黒泥	板 沢土粒 5% 灰 5%

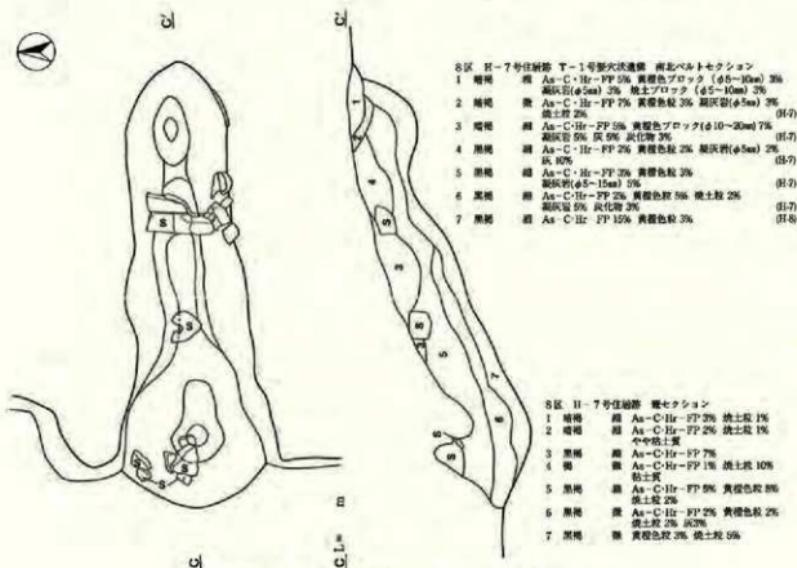
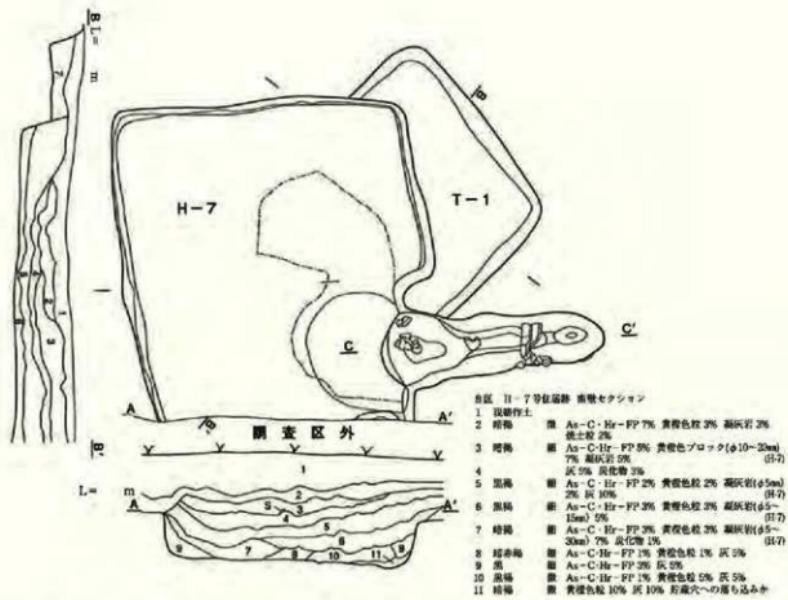


Fig54 8区H-7号住居跡、T-1号竪穴状遺構

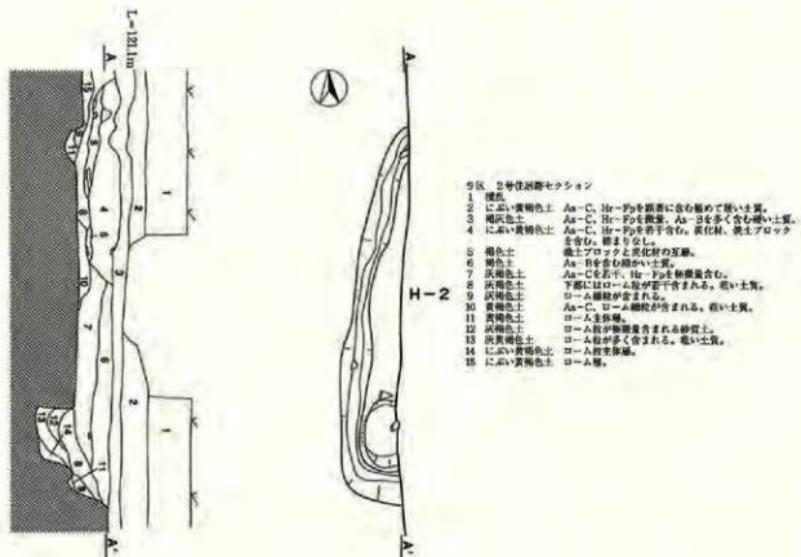
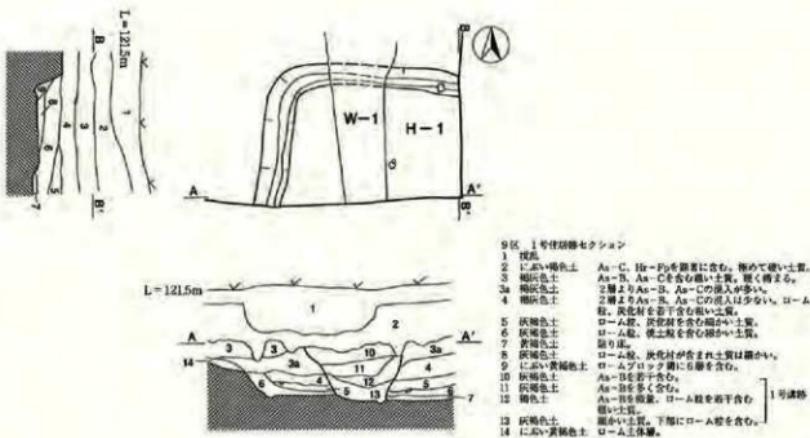


Fig.55 9区H-1・2号住居跡

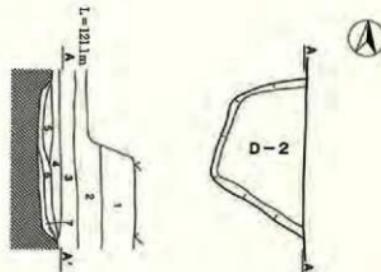
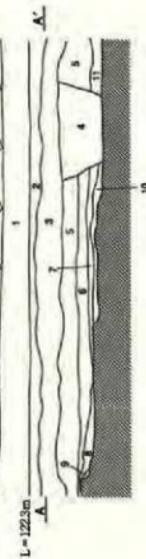
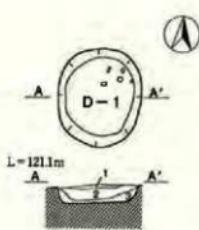
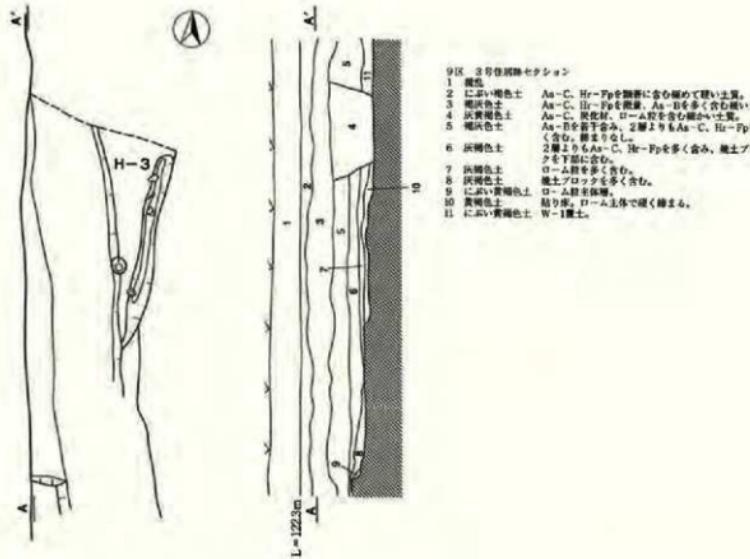
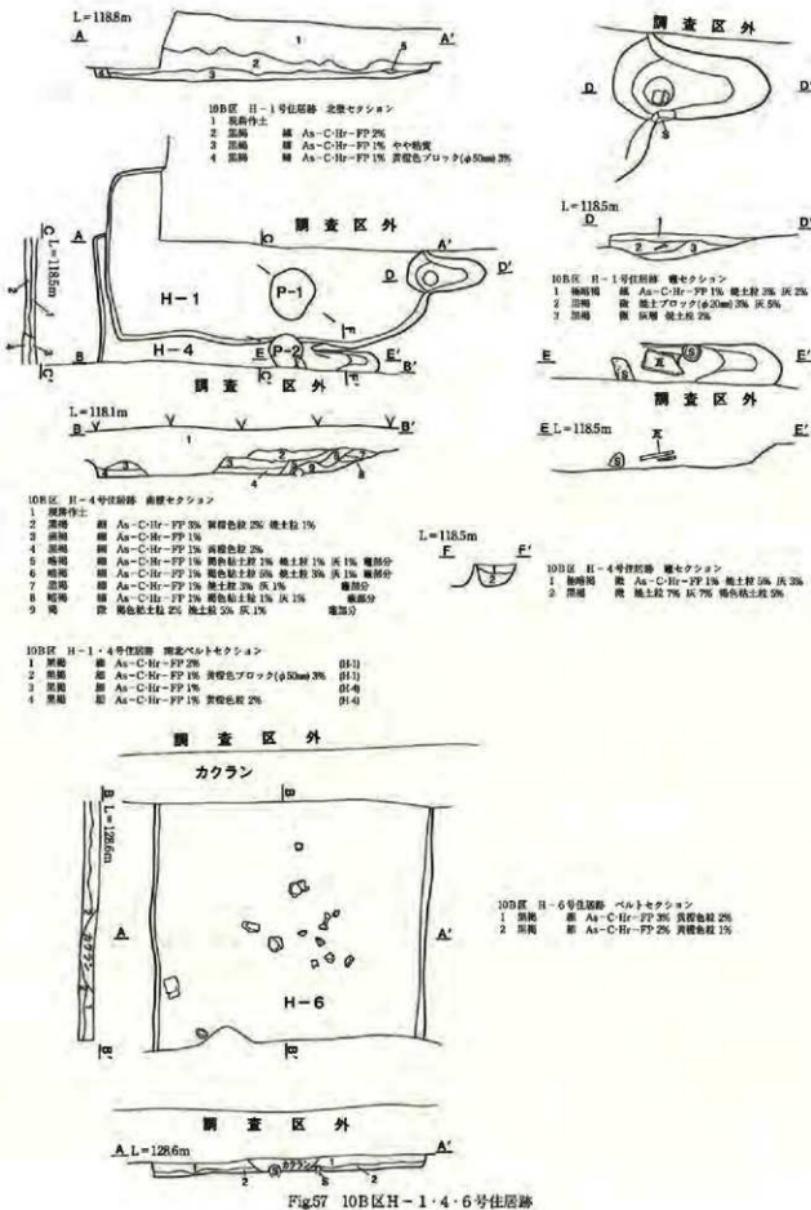


Fig.56 9区H-3号住居跡・D-1・2号土坑



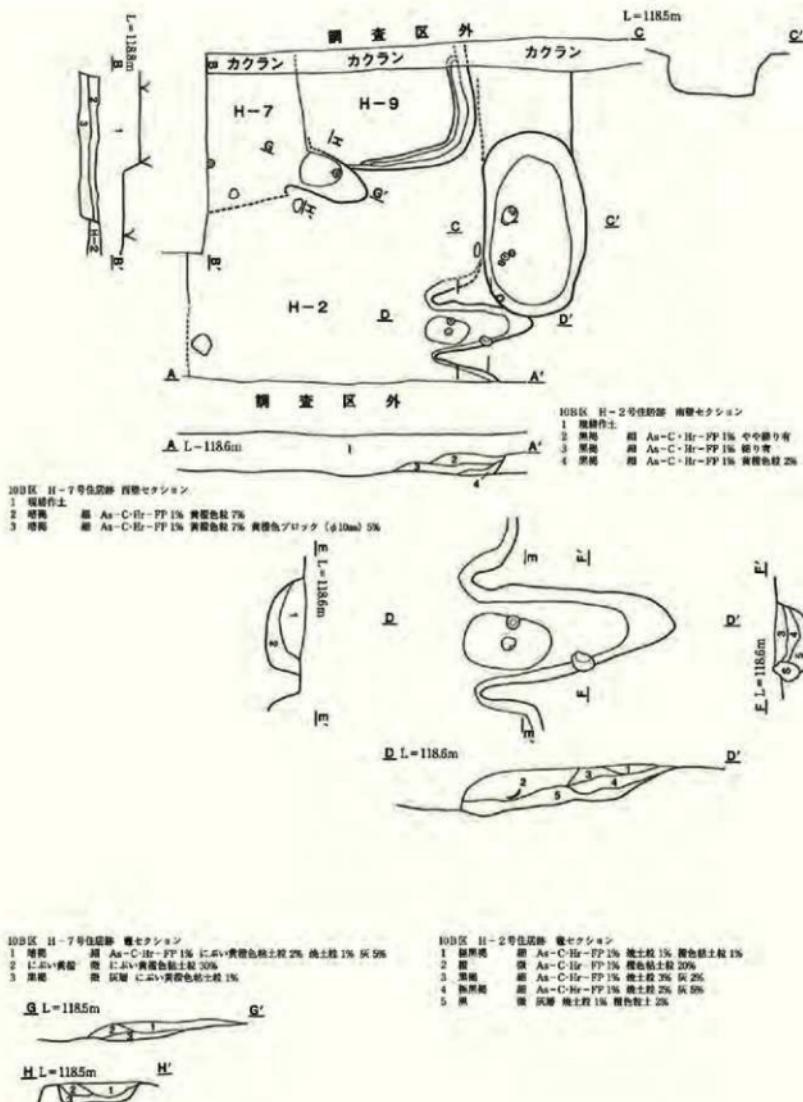


Fig.58 10B区且-2·7号生根茎、DB=1 粒土块茎

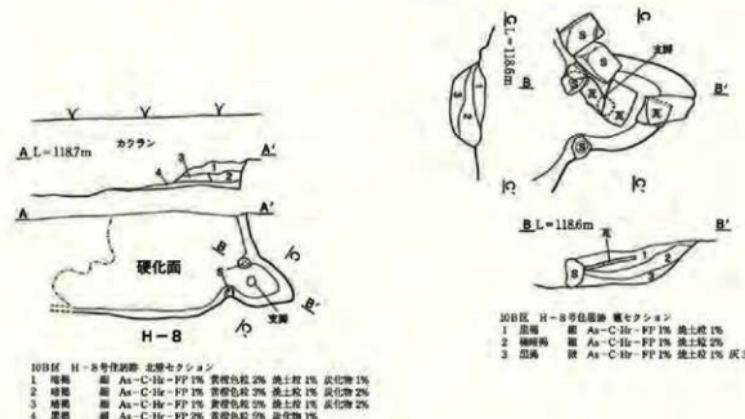
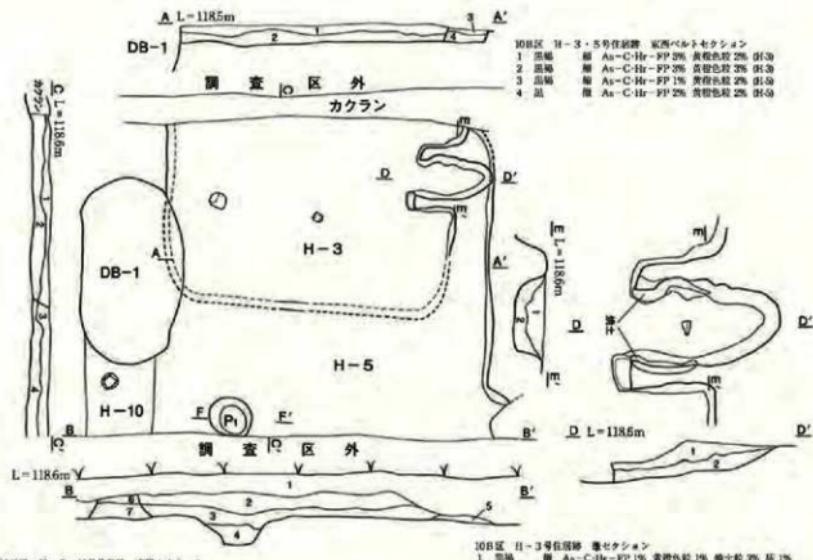
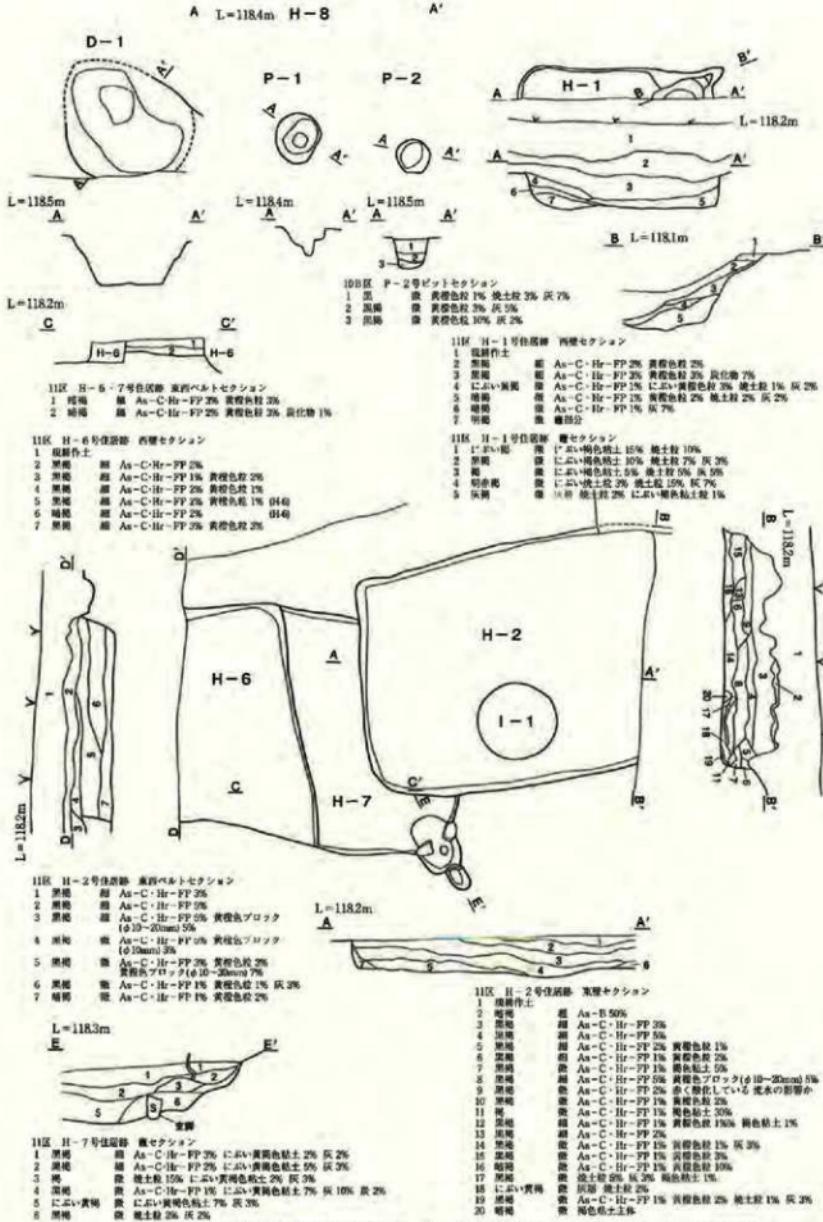
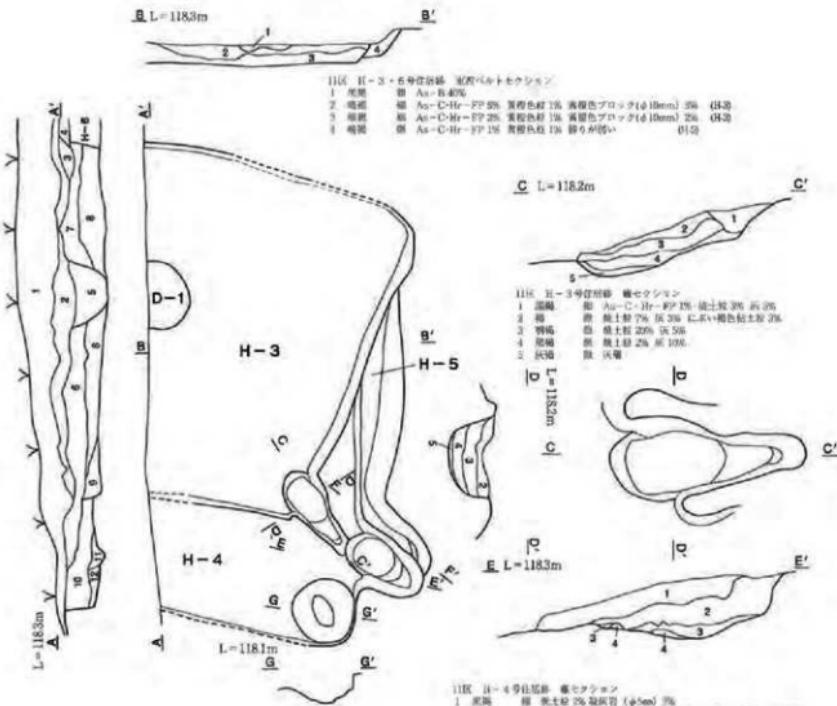


Fig.59 10B区H-3・5・8・10号住居跡





11区 H - 3・4号住居跡、西壁セクション
1 黑褐色
2 黑褐色
3 黑褐色
4 黑褐色
5 D - 1号土坑
6 黑褐色
7 黑褐色
8 黑褐色
9 黑褐色
10 黑褐色
11 黑褐色
12 黑褐色

種 As-C-Hr-PP 25% 黑褐色ブロック(φ10mm) 25% (BL3)
種 As-C-Hr-PP 25% 黑褐色ブロック 3%
種 As-C-Hr-PP 1% 黑褐色ブロック(φ10mm) 25% (BL3)
種 As-C-Hr-PP 1% 黑褐色ブロック(φ10mm) 25% (BL3)

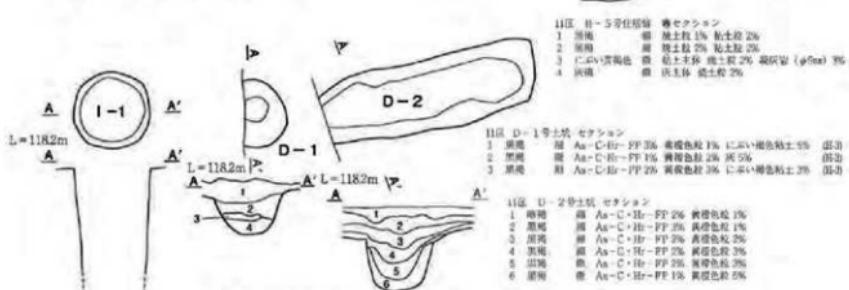


Fig61 11区 H - 3～5号住居跡、D - 1・2号土坑、I - 1号井戸跡

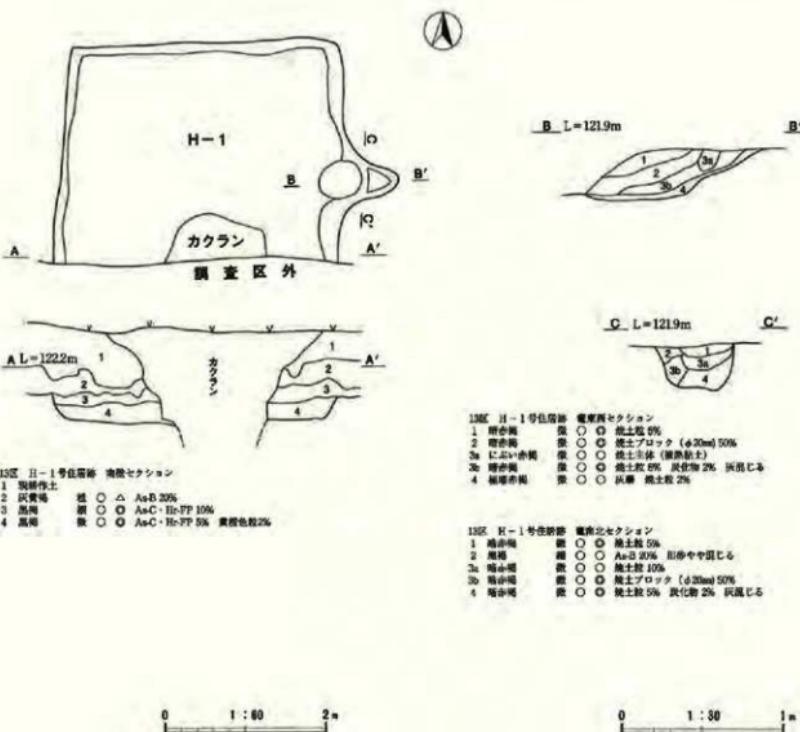


Fig 62 13区H-1骨住居跡

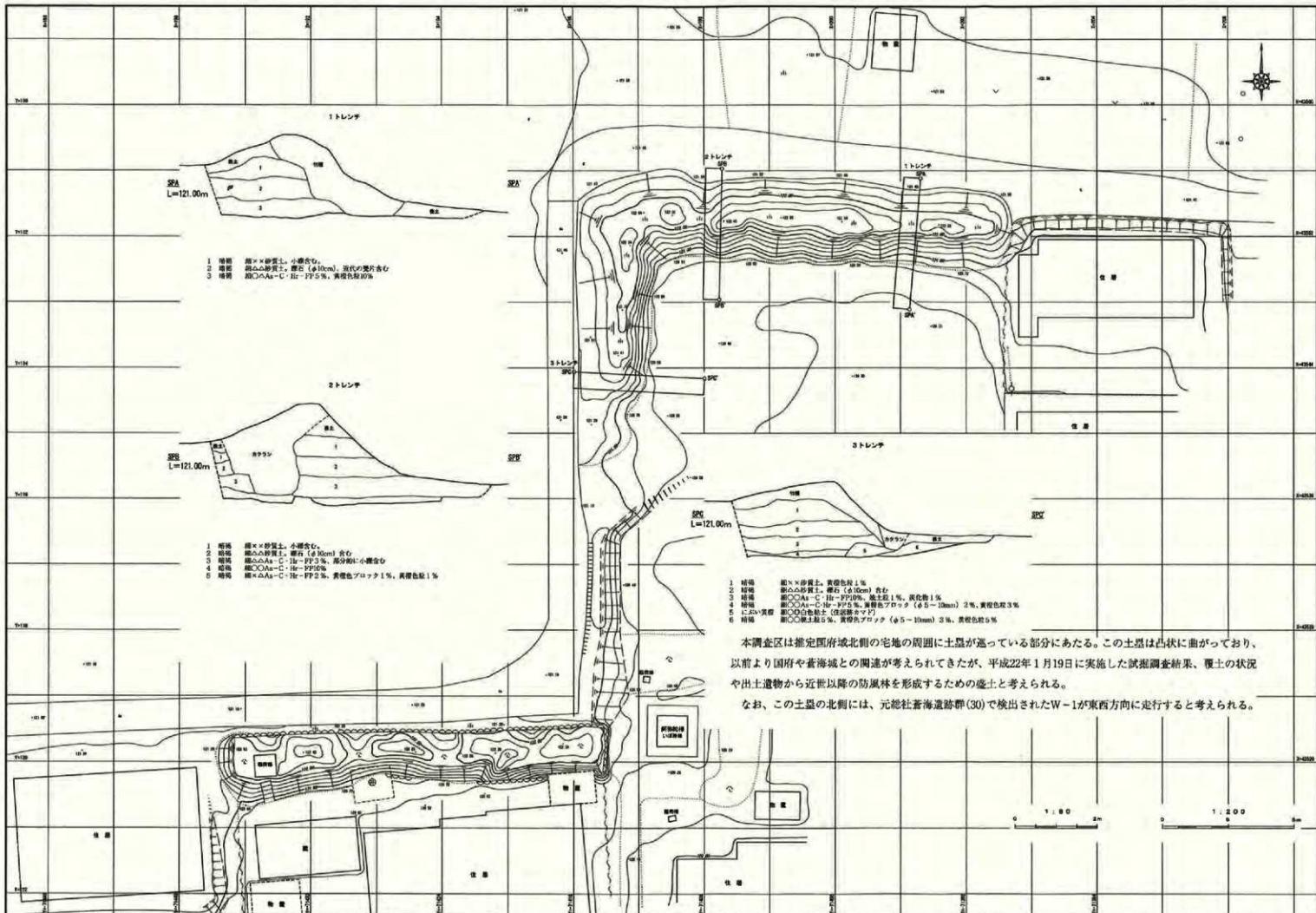


Fig.63 葛海城の土壘として考えられていた盛り土

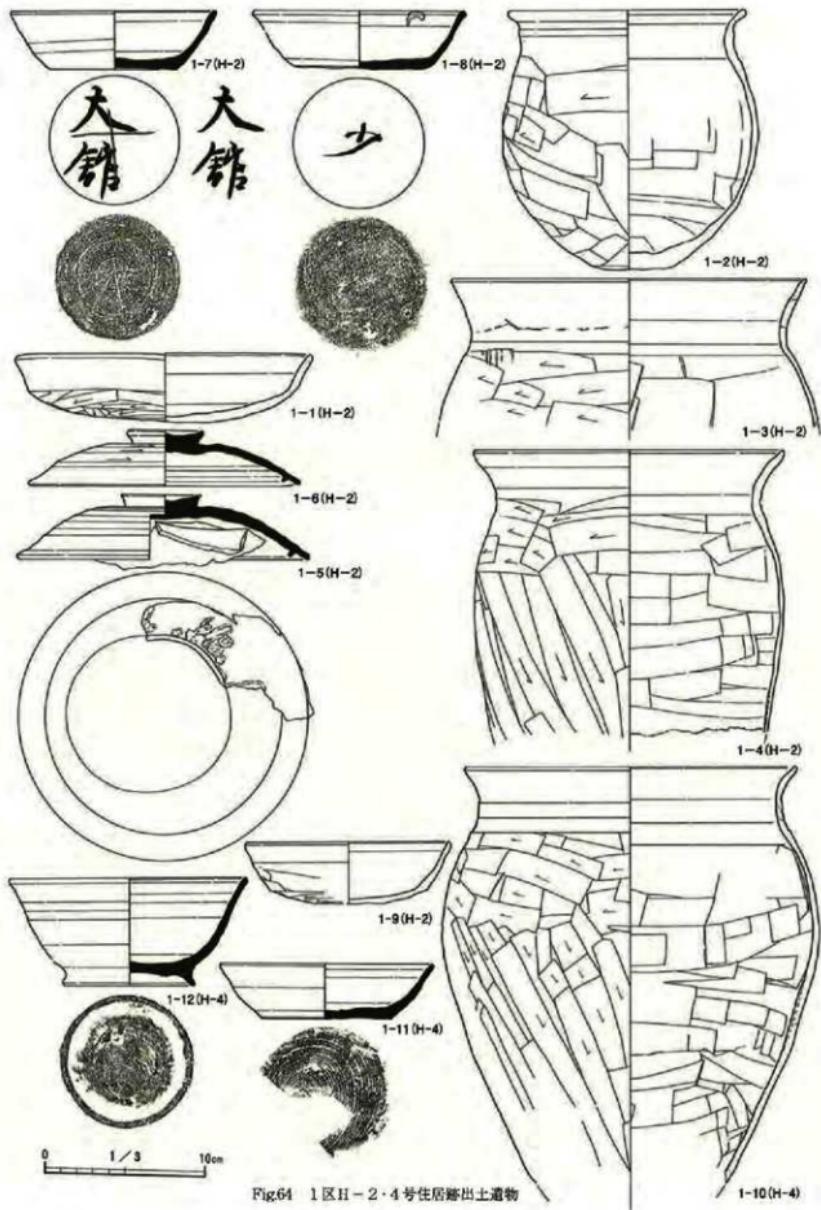


Fig.64 1区H-2・4号住居跡出土遺物

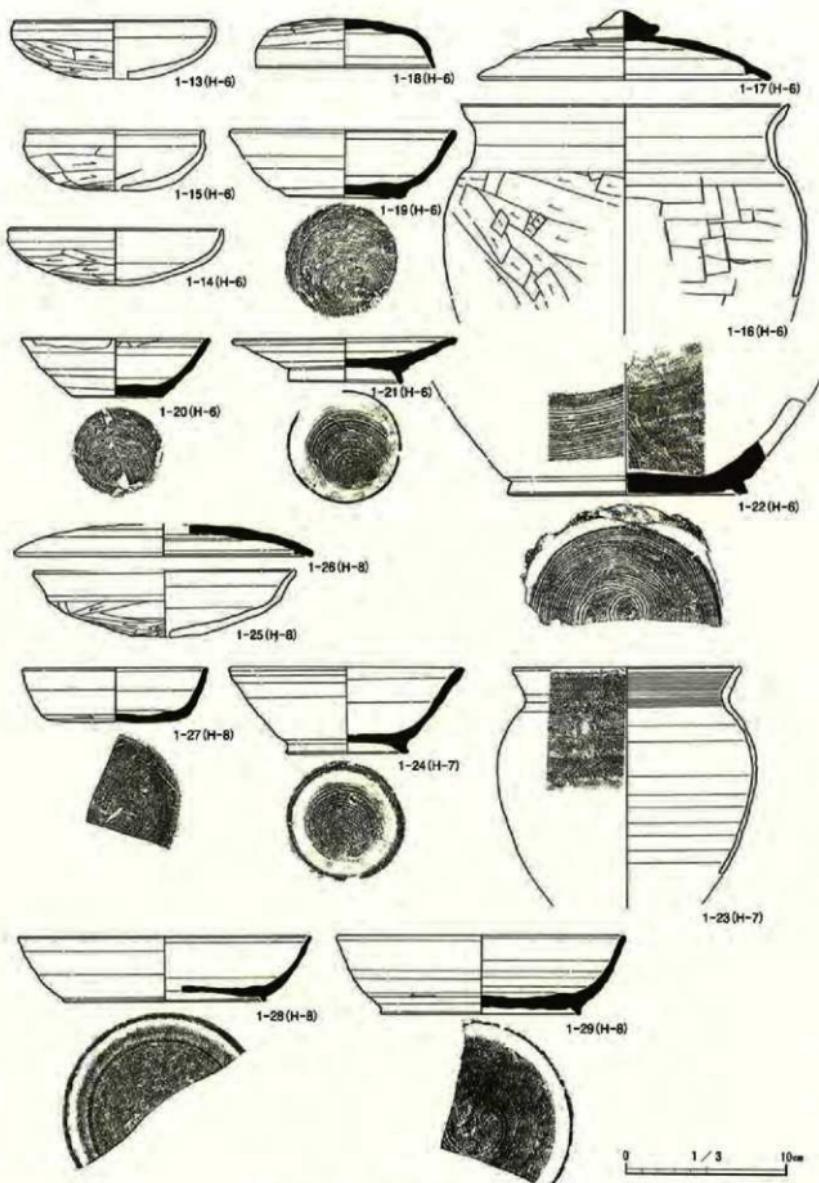


Fig.65 1区H-6～8号住居跡出土遺物

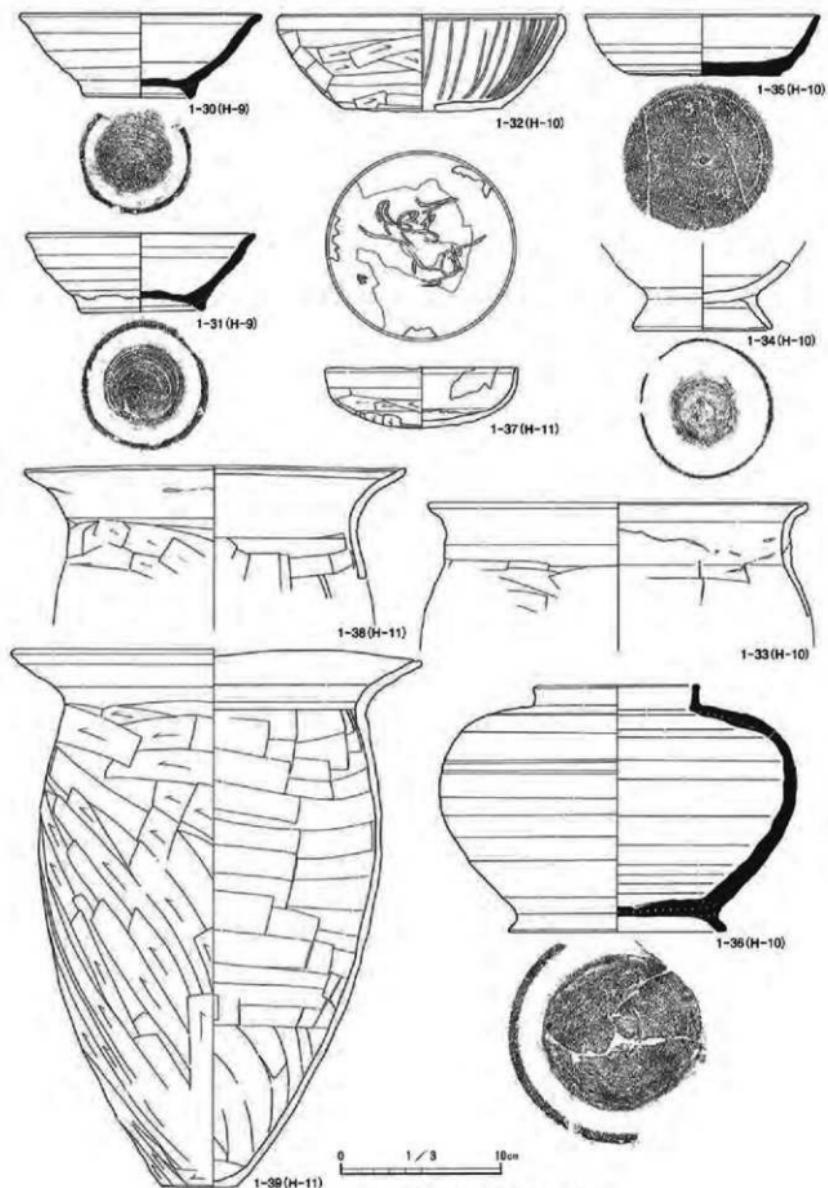


Fig.66 1区H-9~11号住居跡出土遺物

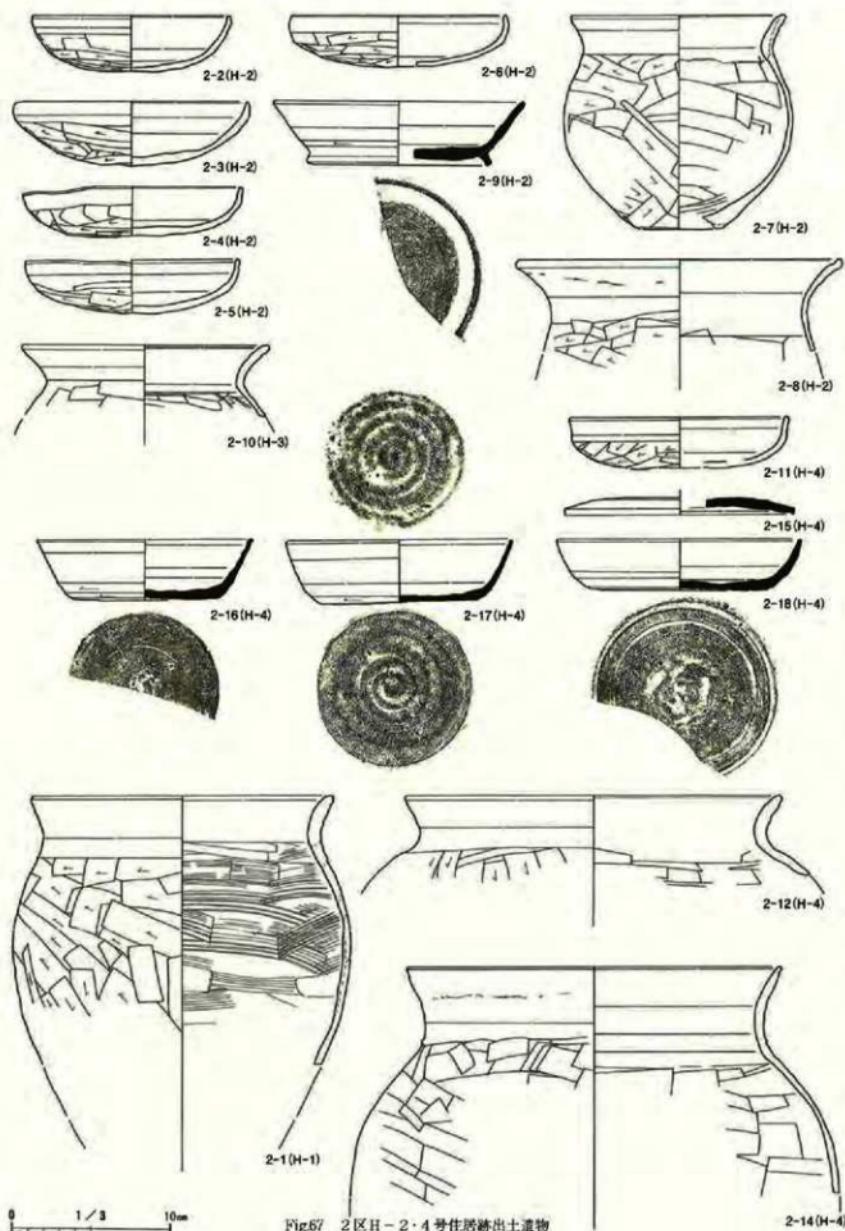


Fig. 67 2 IX H - 2・4号住居跡出土遺物

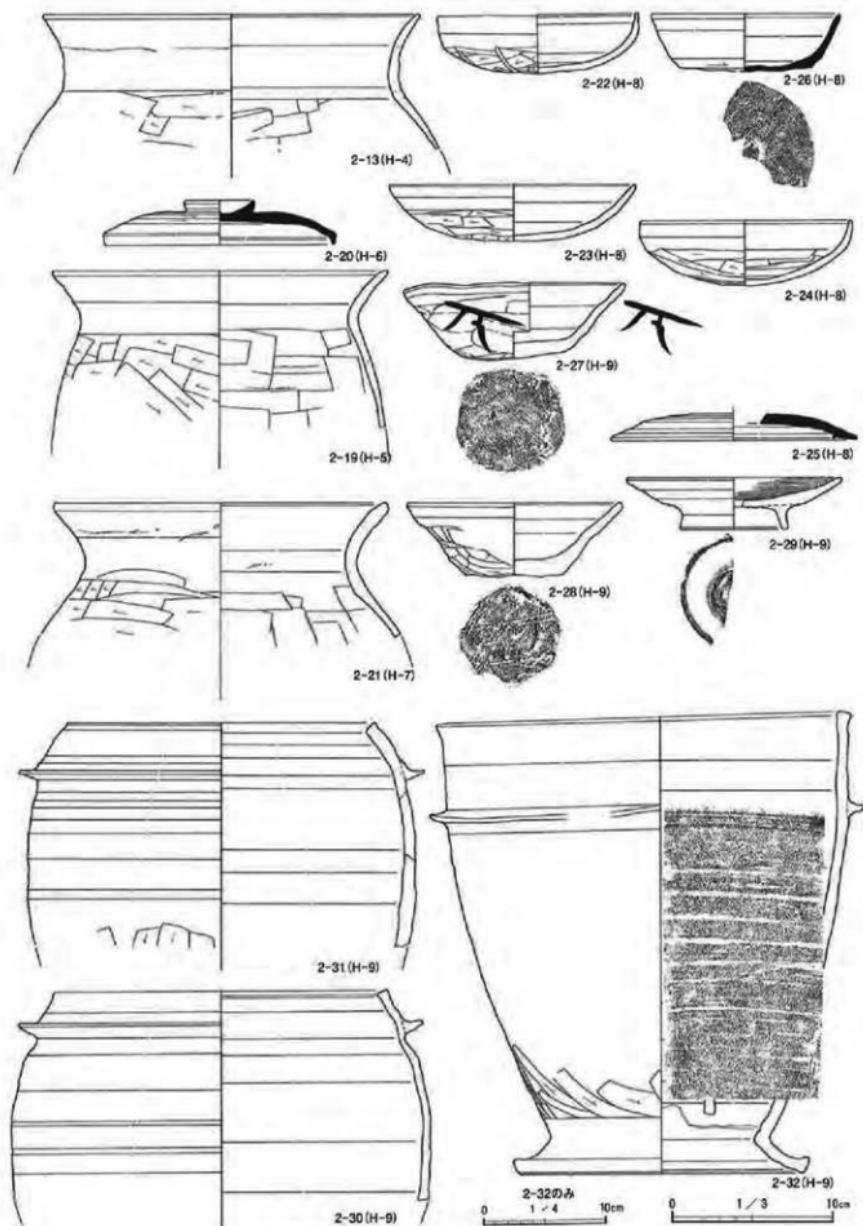


Fig.68 2区H-4~9号住居跡出土遺物

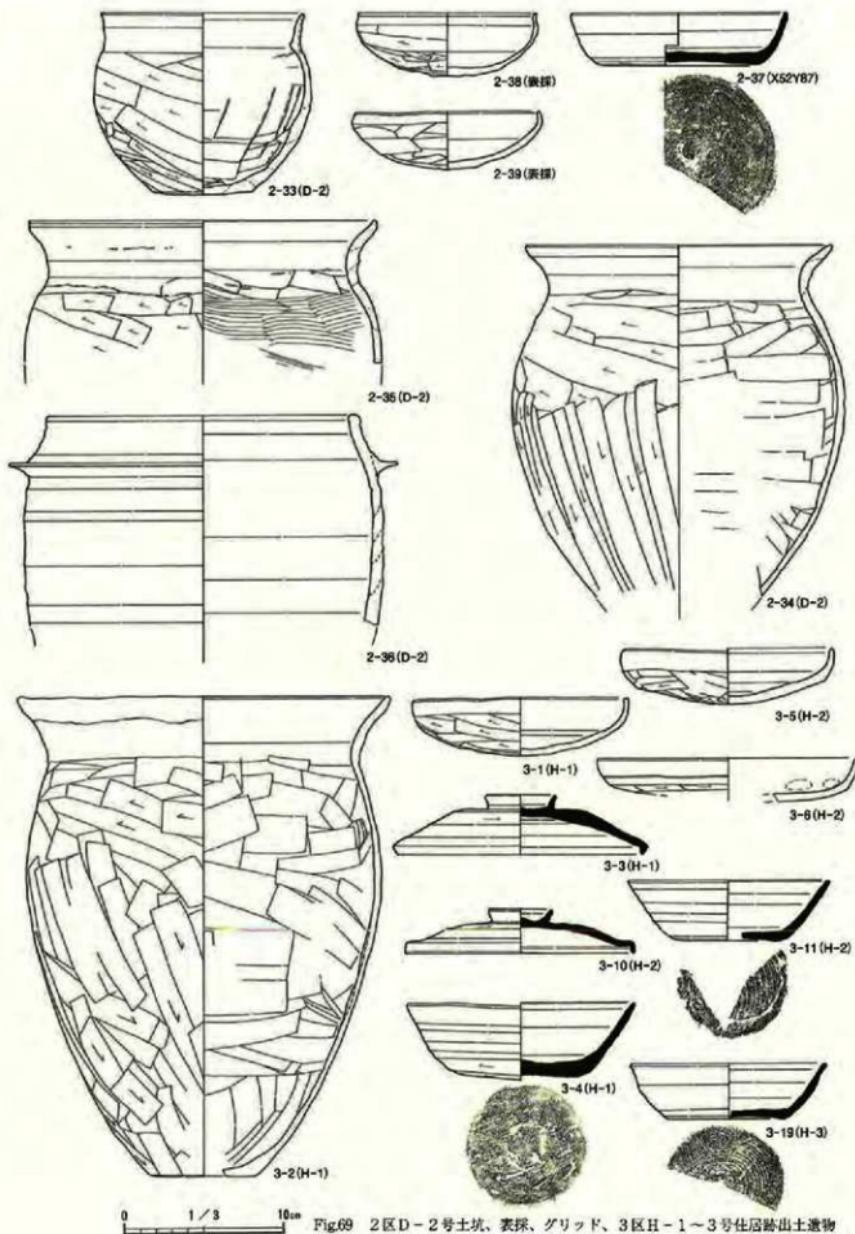


Fig.69 2区D-2号土坑、表探、グリッド、3区H-1~3号住居跡出土遺物

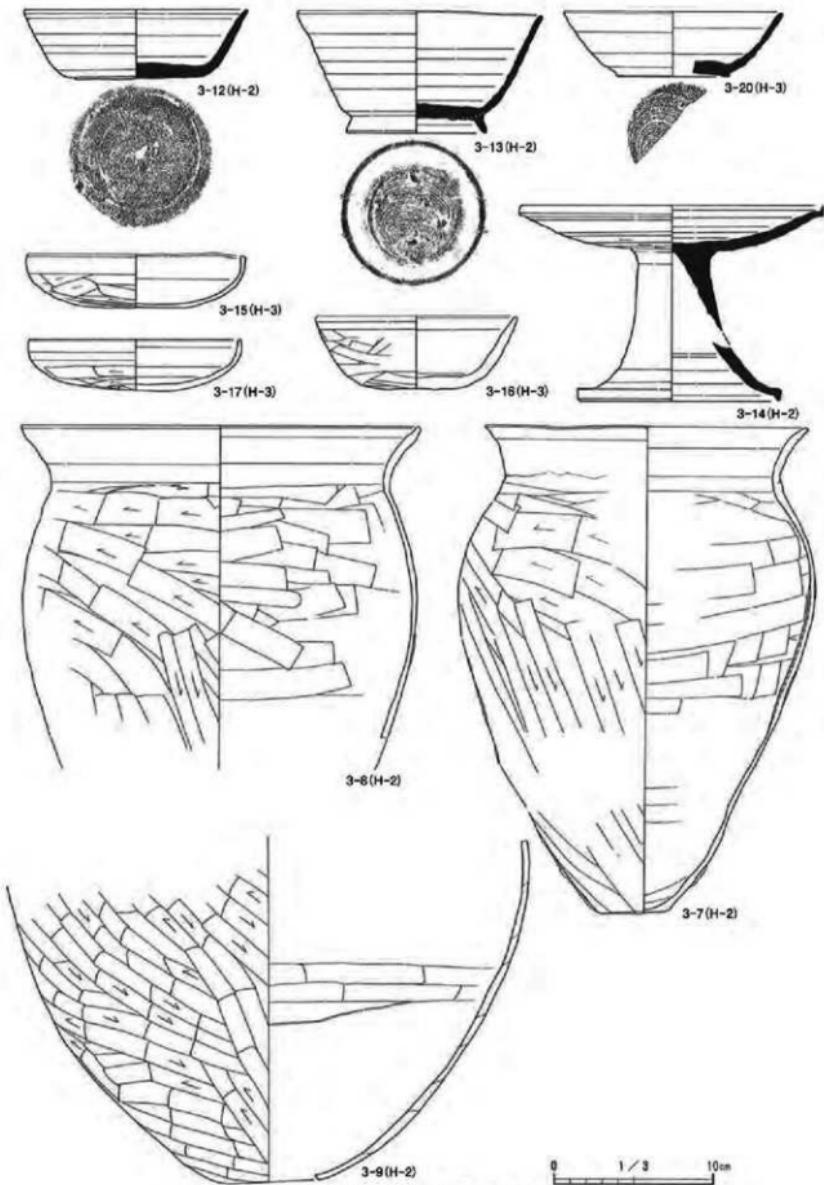


Fig.70 3区H-2・3号住居跡出土遺物

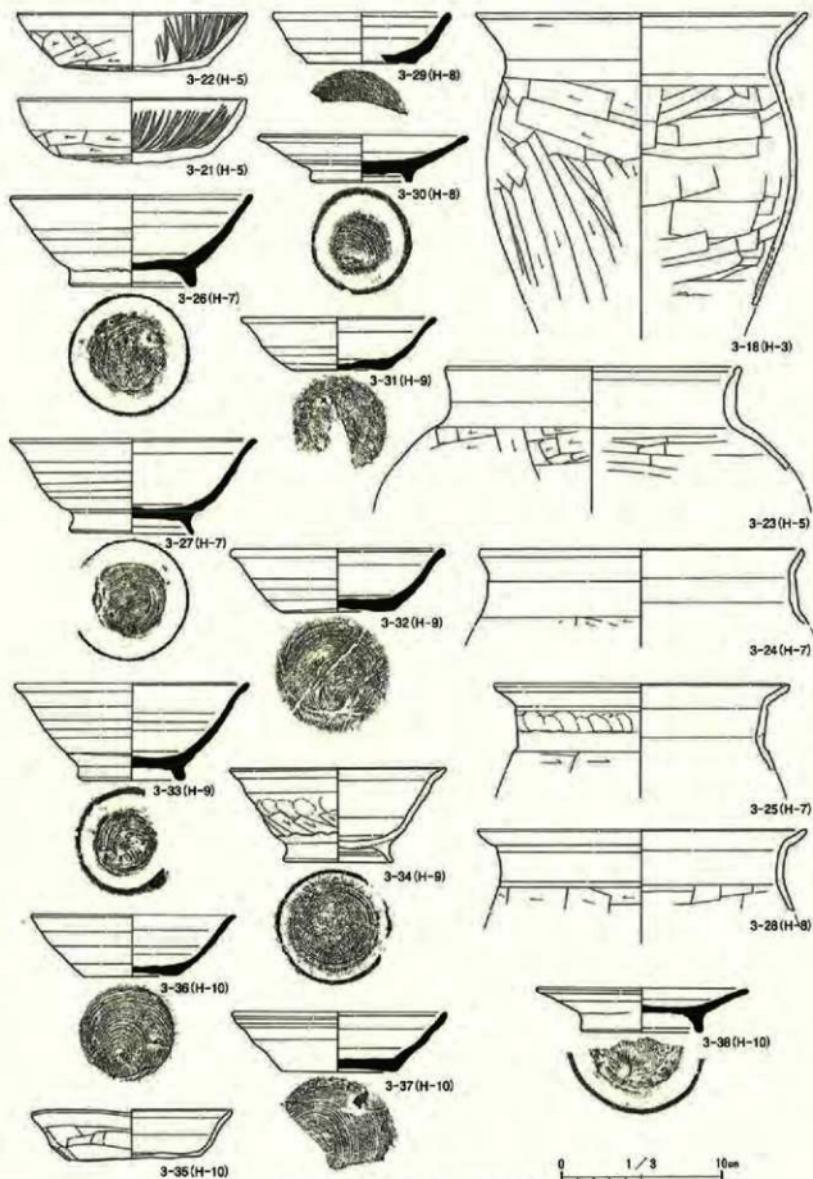


Fig.71 3区H-3・5・7～10号出土遺物

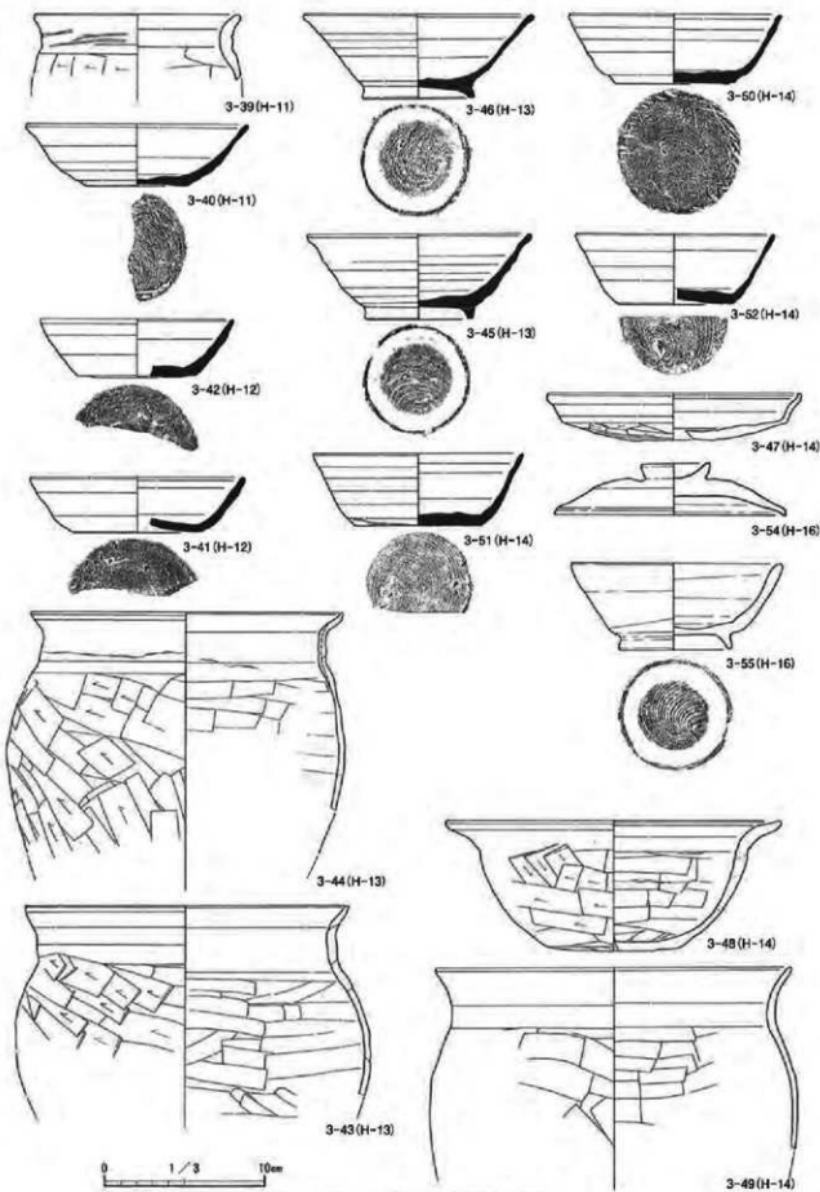


Fig.72 3区H-11~14·16号住居跡出土遺物

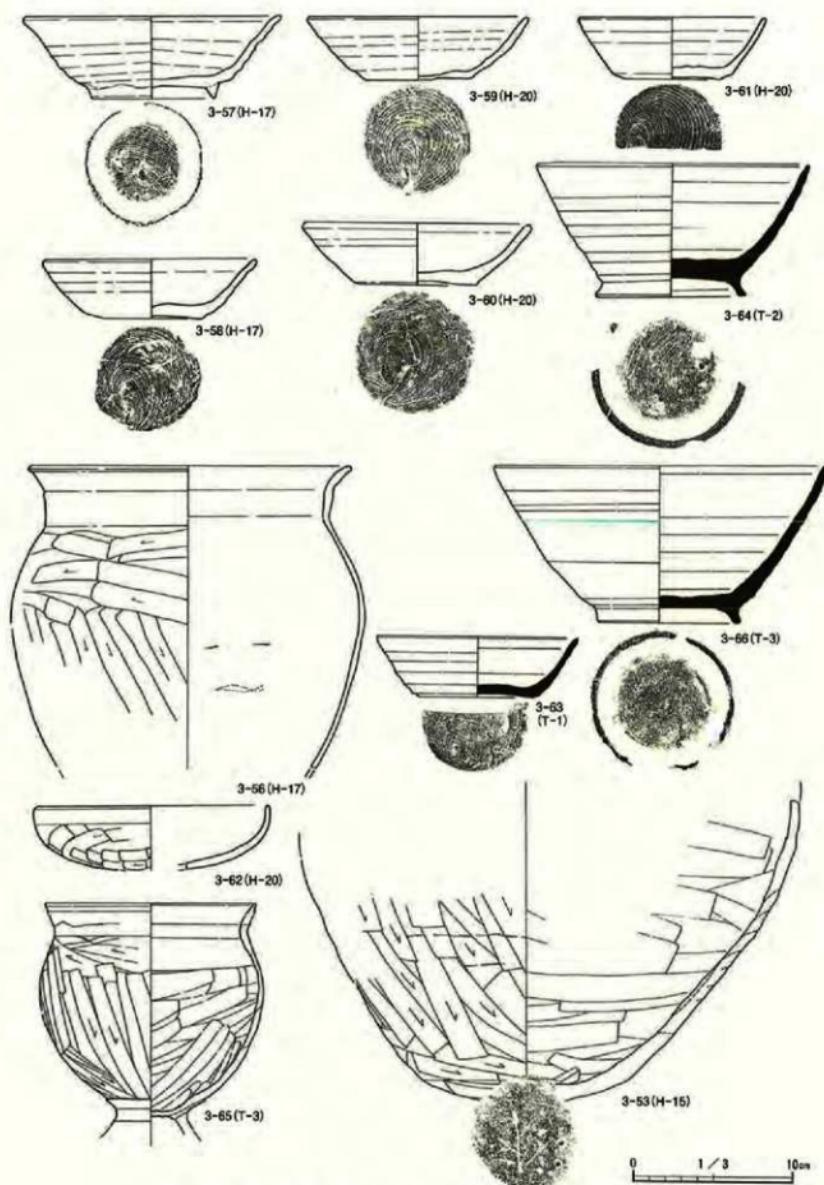


Fig.73 3区H-15·17·20·23号住居跡、T-1~3号竖穴状遺構出土遺物

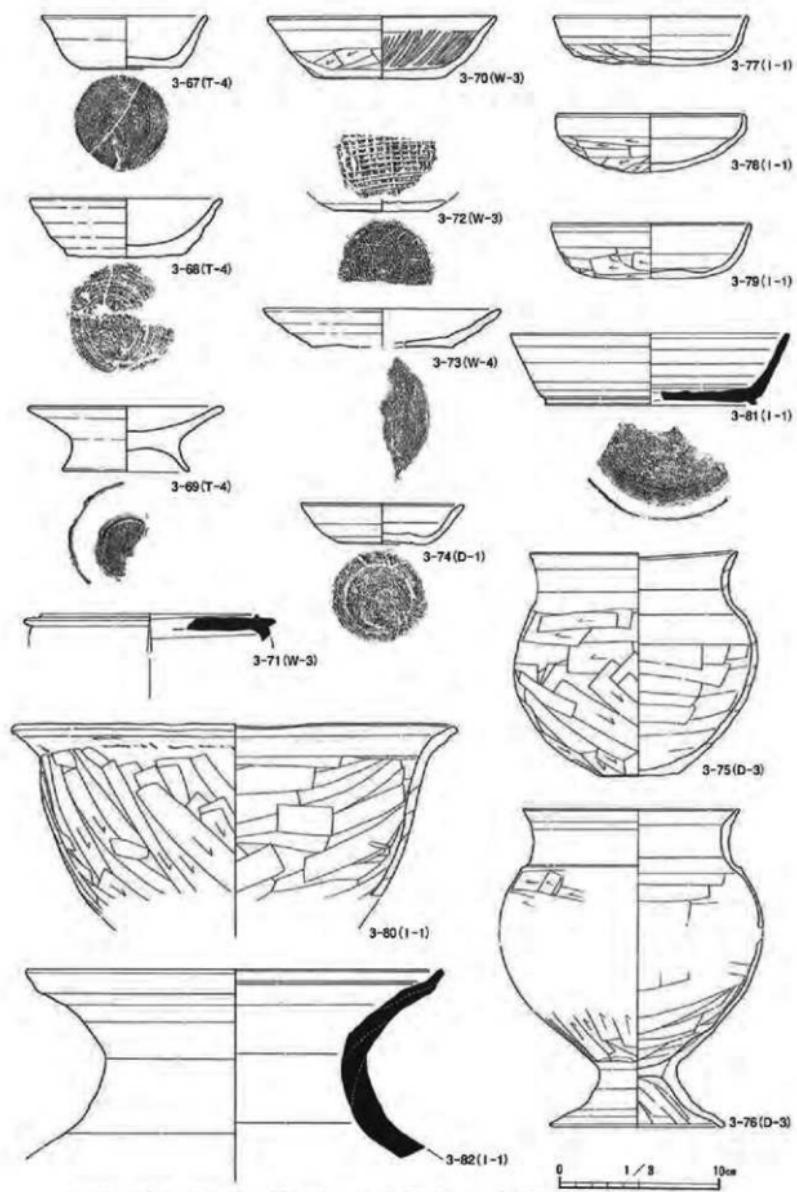


Fig.74 3区T-4号竖穴状遗構、W-3・4号溝跡、D-1・3号土坑、I-1号井戸跡出土遺物

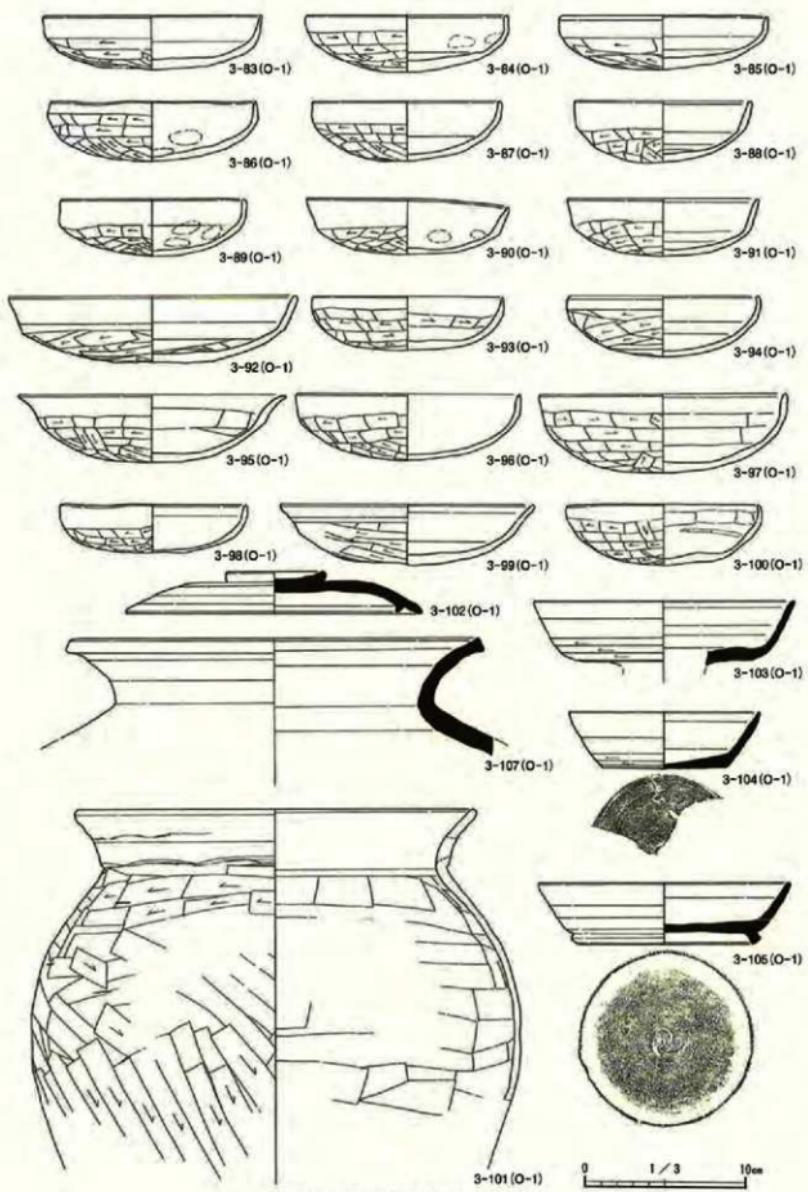
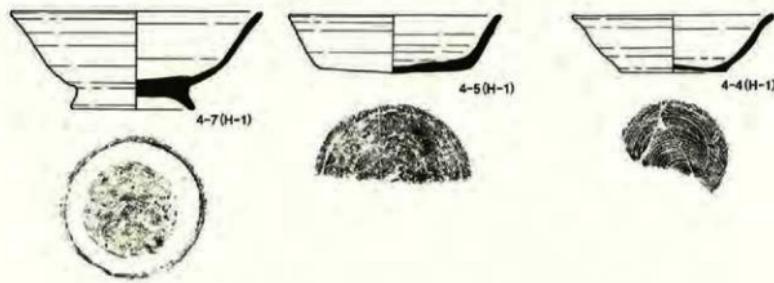
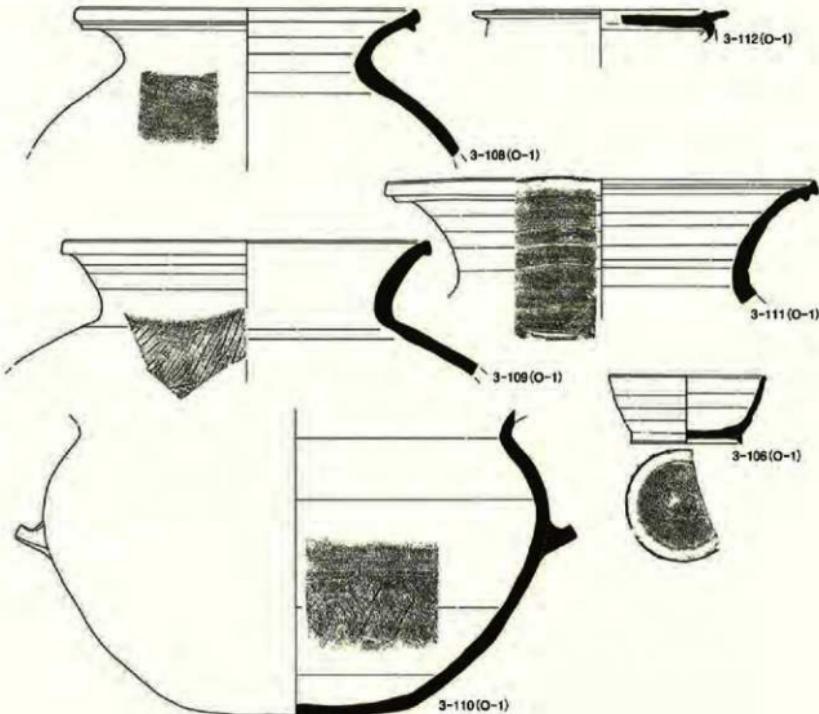


Fig.75 3区O-1号落込み出土遺物



0 1 / 3 10cm

Fig.76 3区O-1号落ち込み、4区H-1号住居跡出土遺物

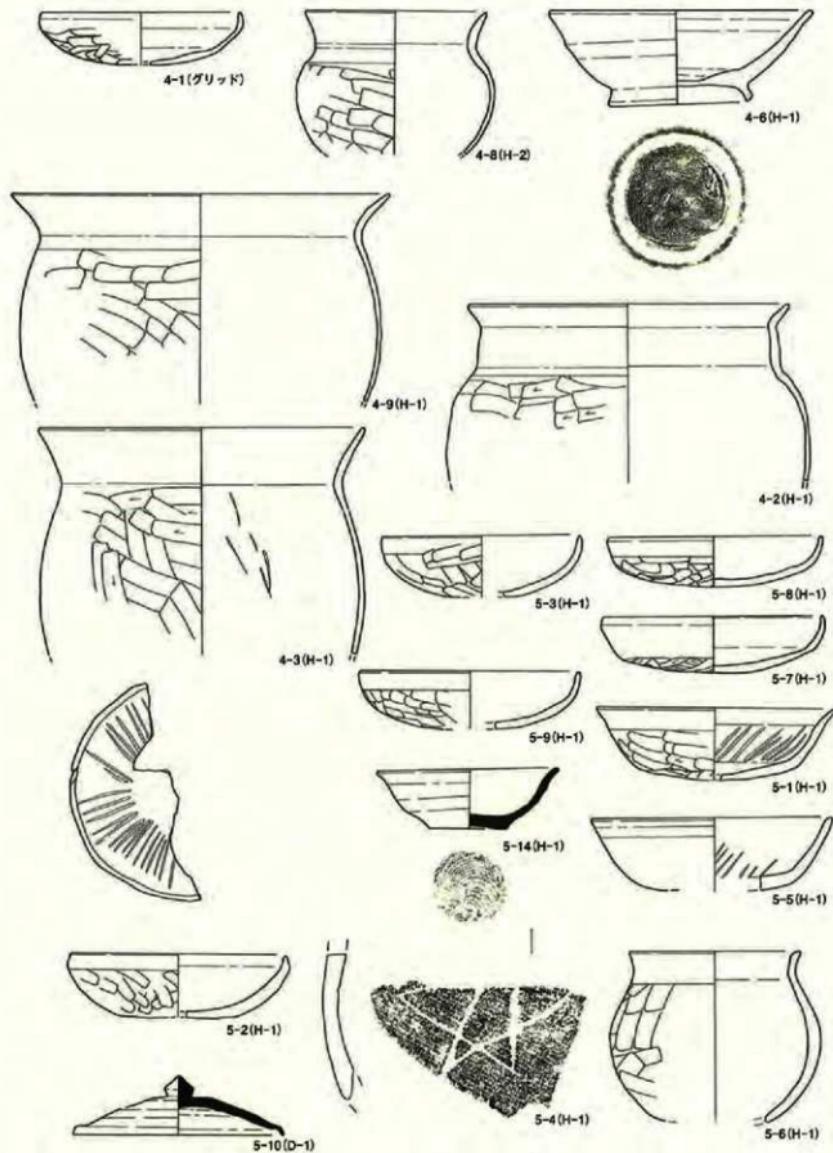


Fig.77 4区H-1・2号住居跡、グリッド、5区H-1・5区、W-3号溝跡出土遺物

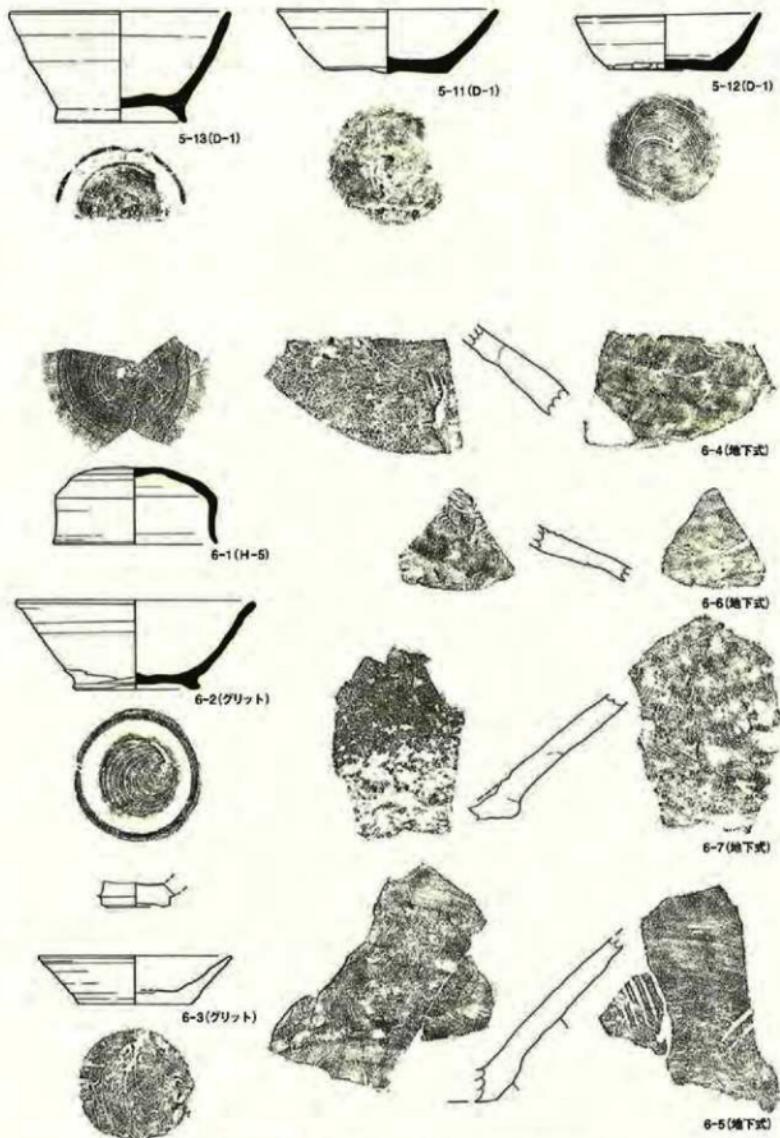


Fig.78 5区D-1号土坑、6区P-1号ピット、地下式土坑出土遺物

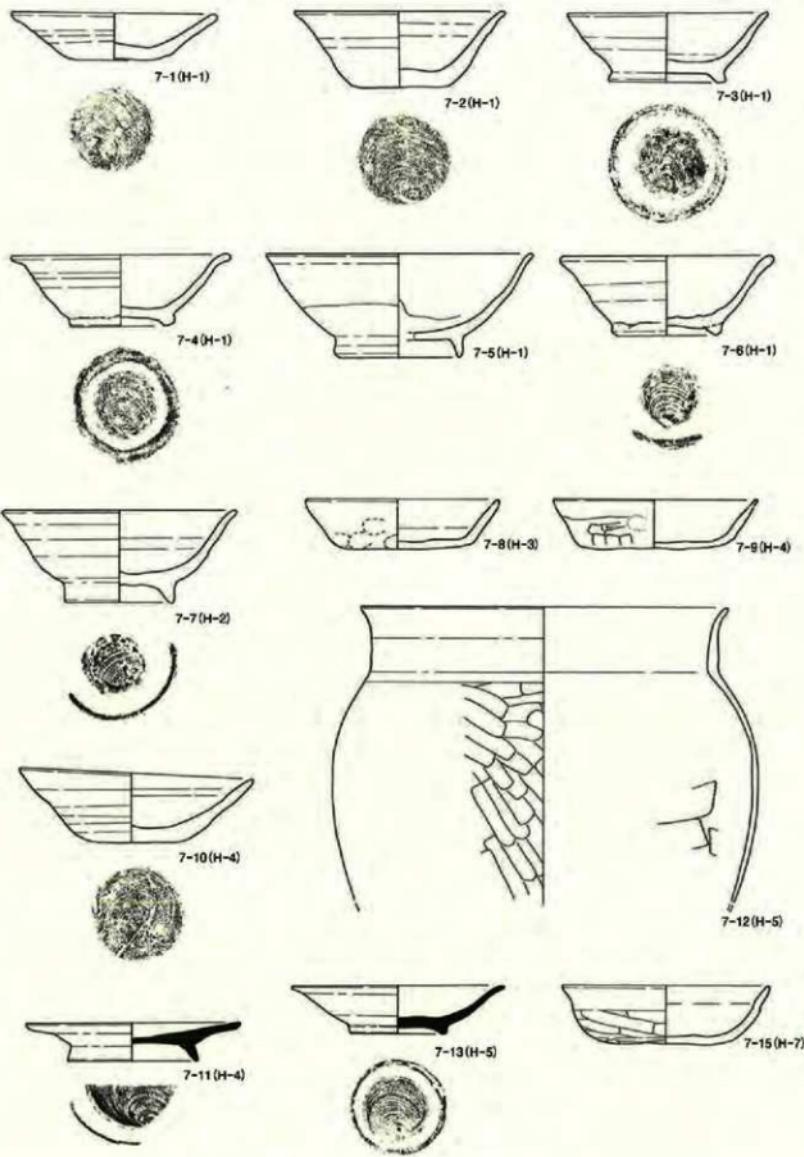


Fig.79 7区H-1~5・7区出土遺物

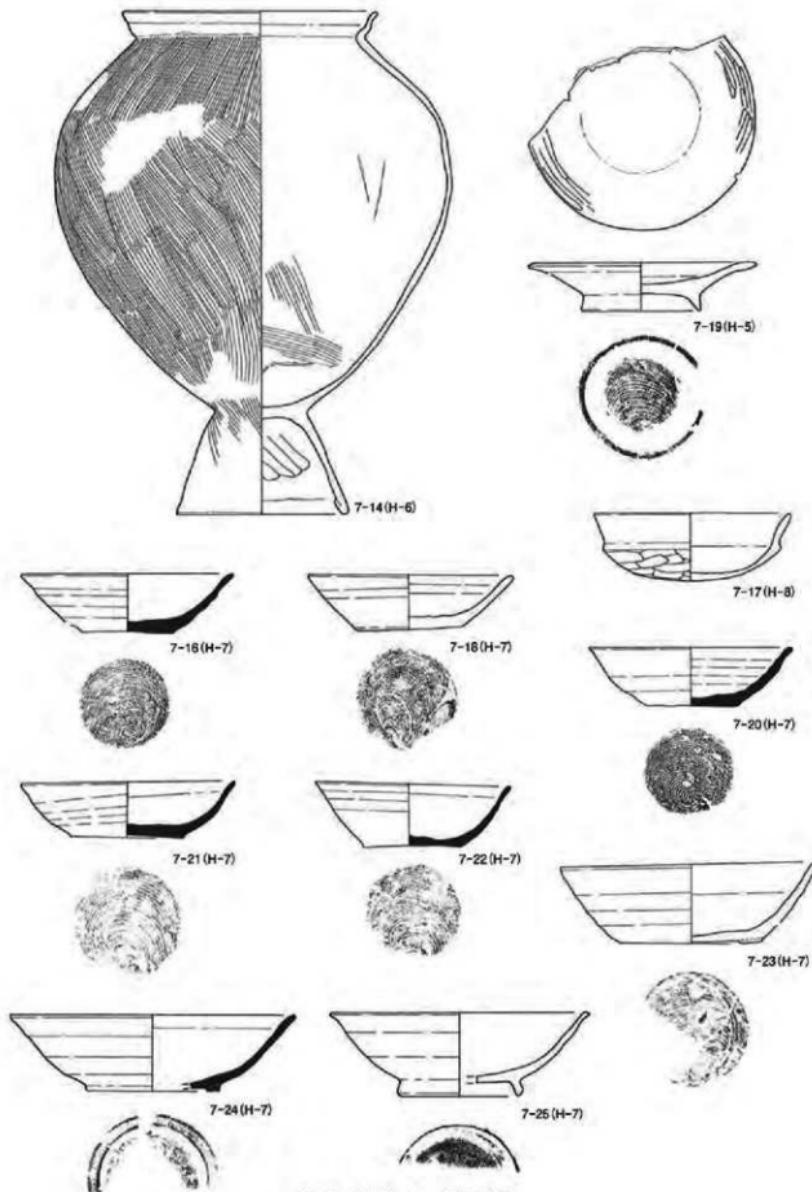


Fig.80 7区H-6~11出土遺物

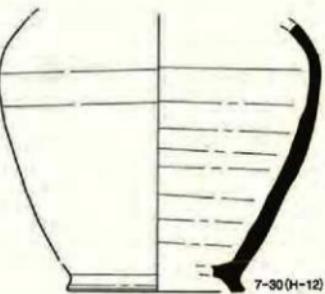
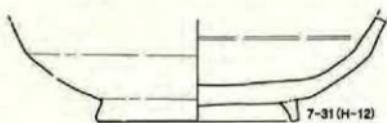
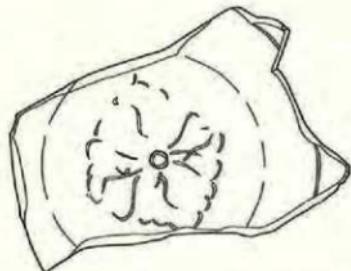
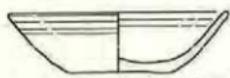
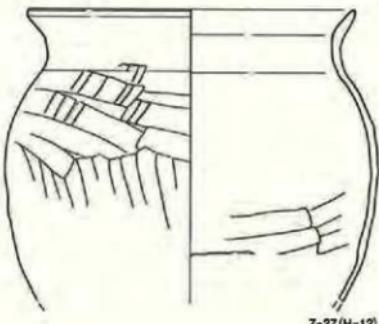
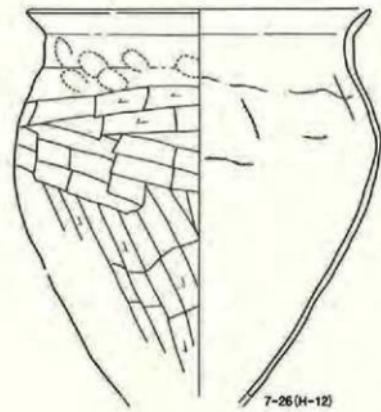


Fig.81 7区H-12、P-4号ピット出土遺物

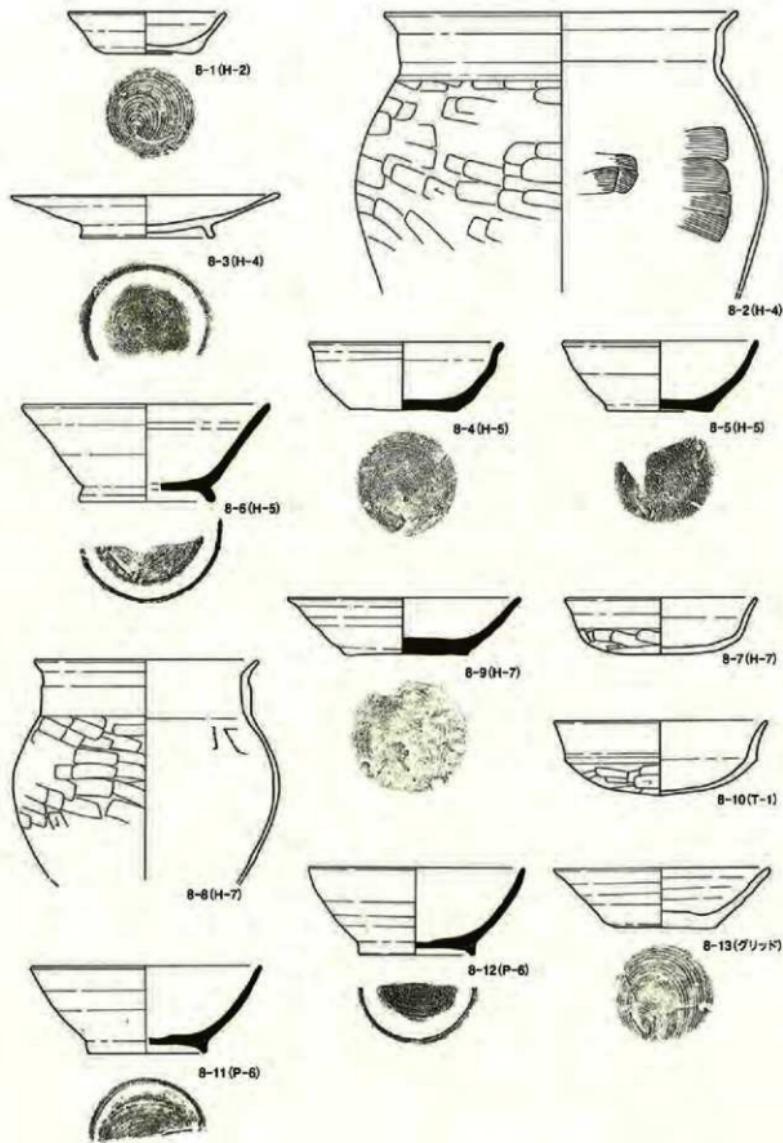


Fig.82 8区H-2・4・5・7、T-1号竪穴状遺構、P-6号ピット、グリッド出土遺物

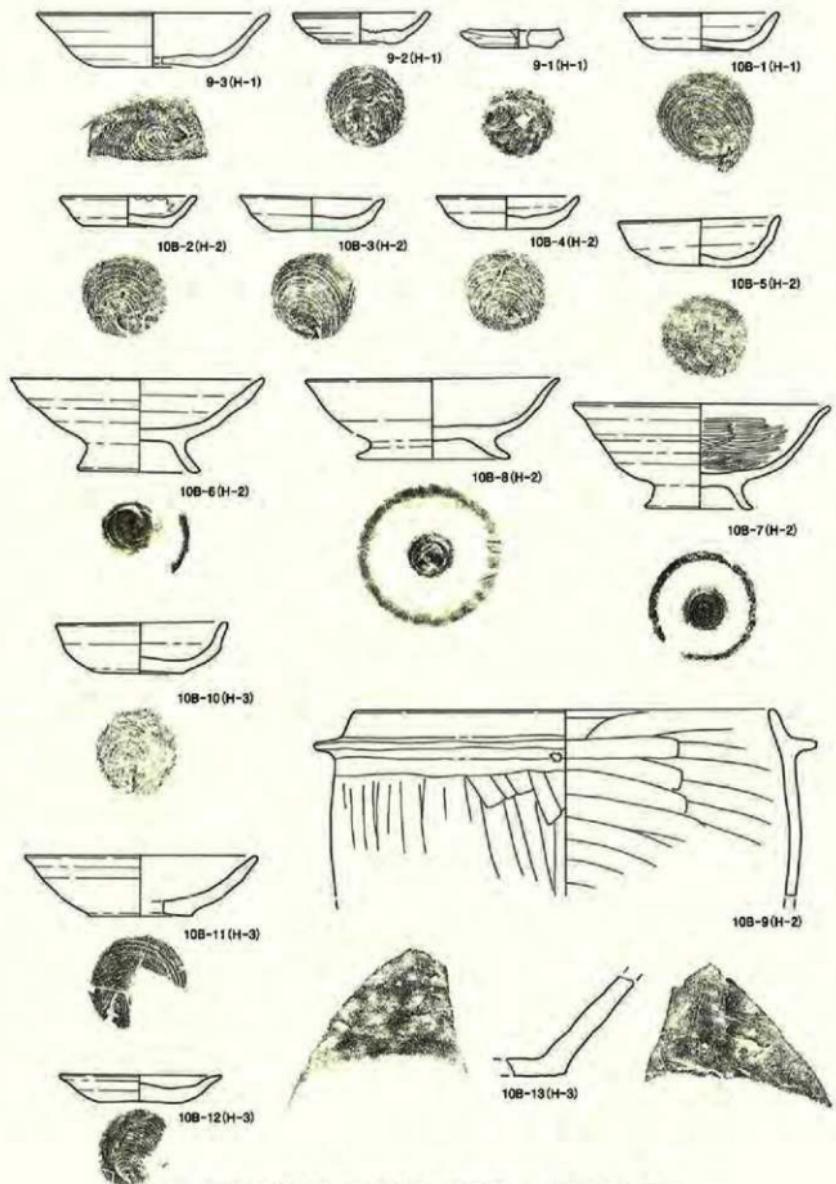


Fig.83 9区H-1号住居跡、W-1号講跡、10B区H-2・3号住居跡出土遺物

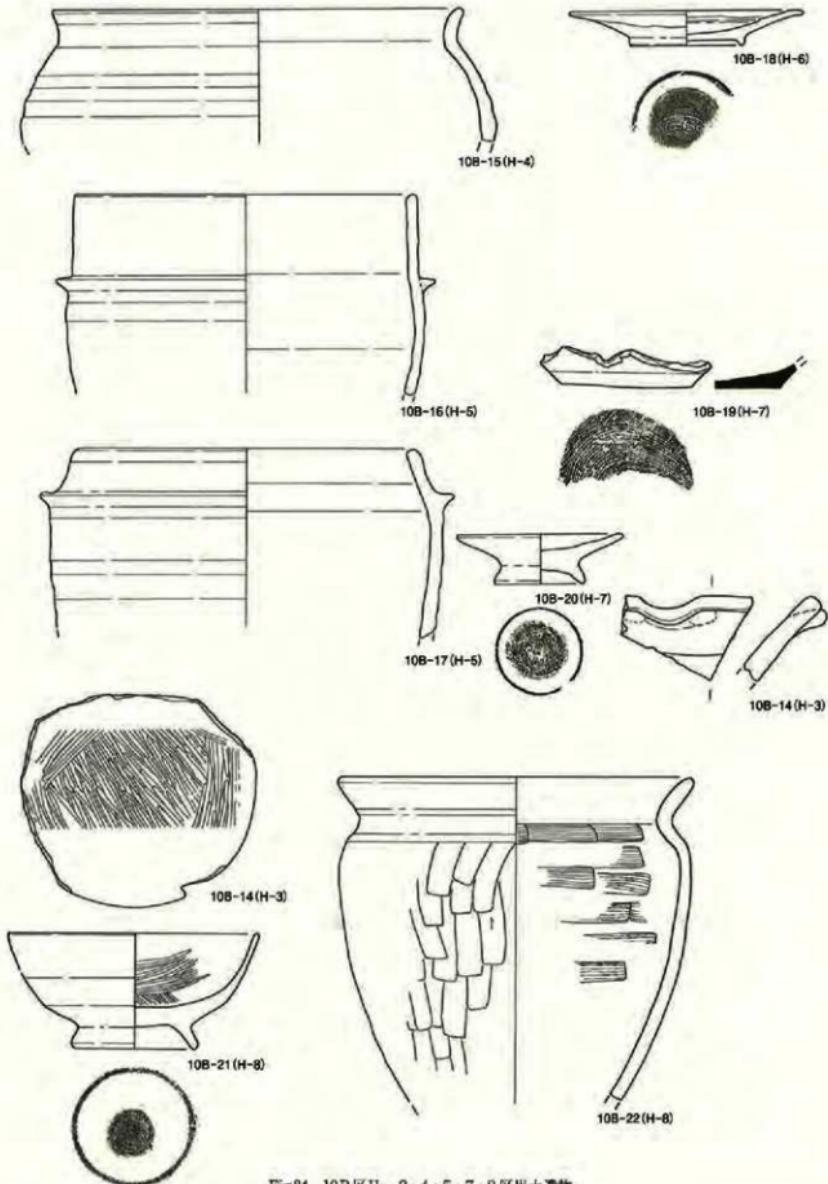


Fig.84 10B KH - 2·4·5·7·8区出土遺物

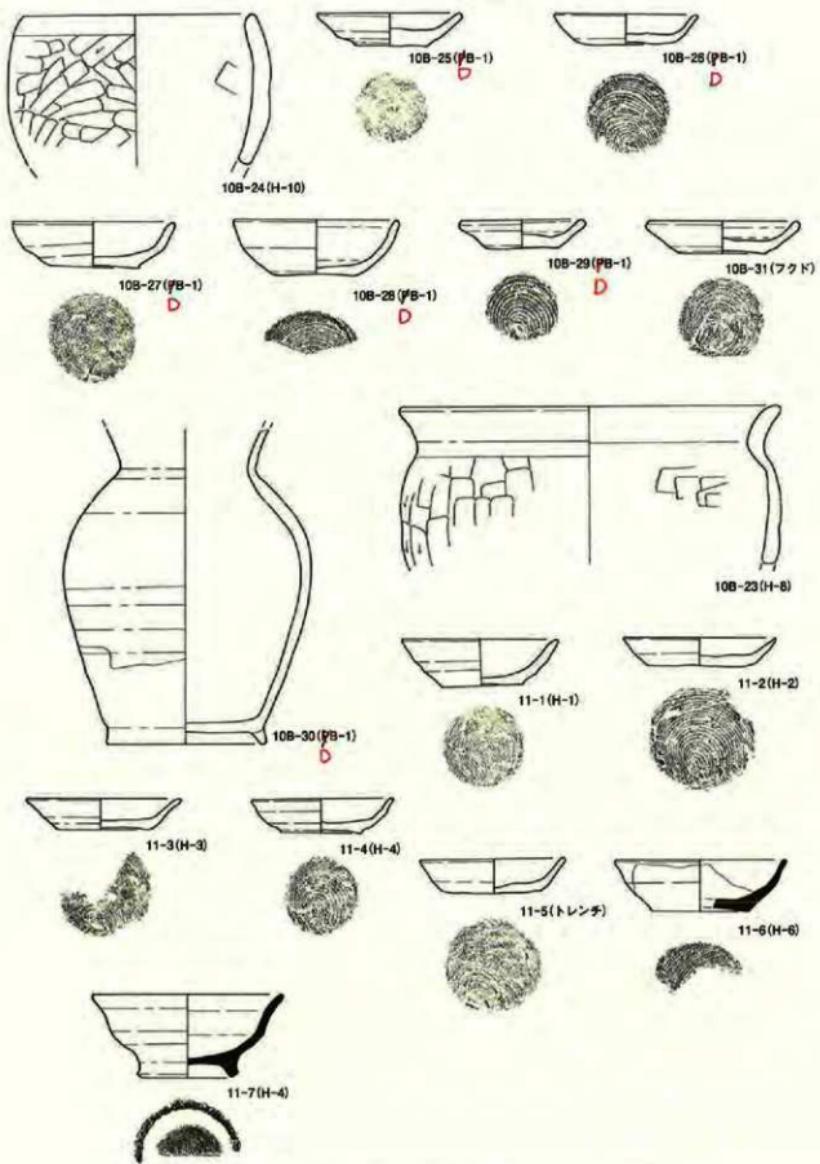


Fig.85 10B区H-5・6・8・10区、DB-1号土坑墓、11区H-2～4・7区出土遺物

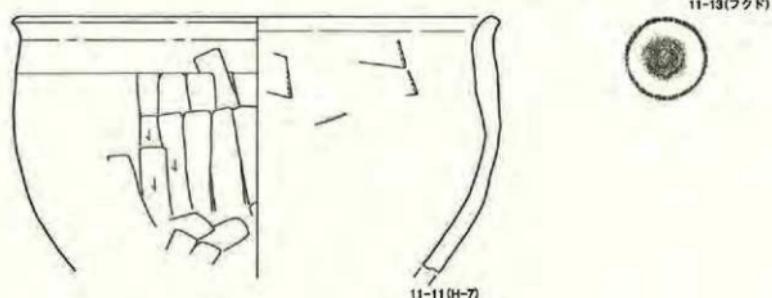
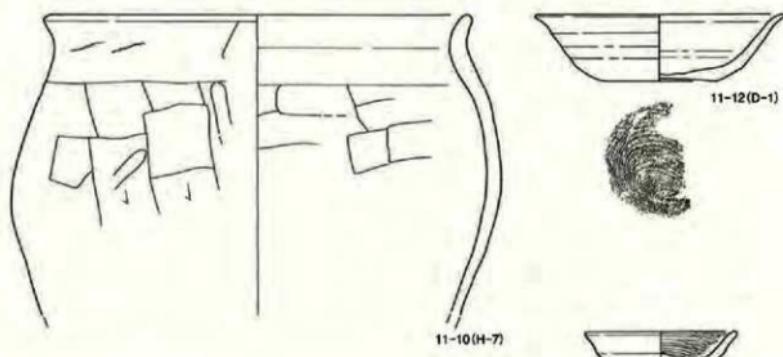
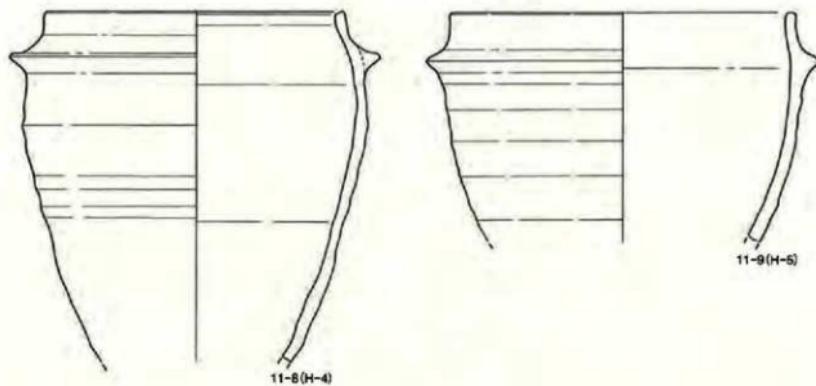


Fig.86 11区H-4・5・7・11-12区、グリッド出土遺物

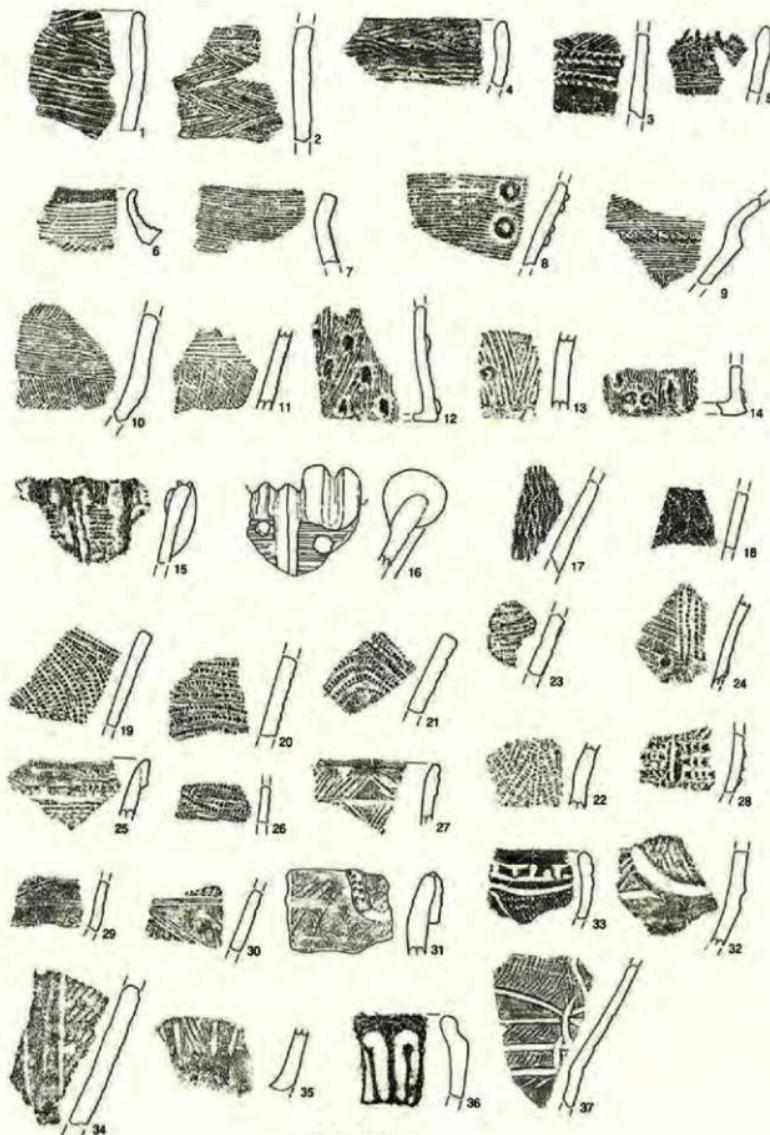


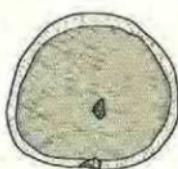
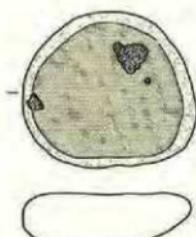
Fig.87 繪文土器



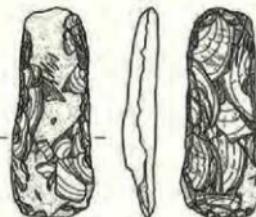
3-石1(H-5)



3-石2(H-9)



3-石3(H-9)



3-石4(H-14)



3-石9(W-5)



3-石8(W-3)



3-石5(H-14)

3-石1,3-石10のみ

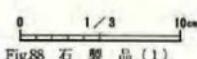
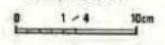
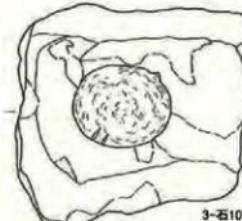
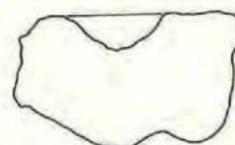


Fig.88 石 製 品 (1)



3-石10
(O-1)



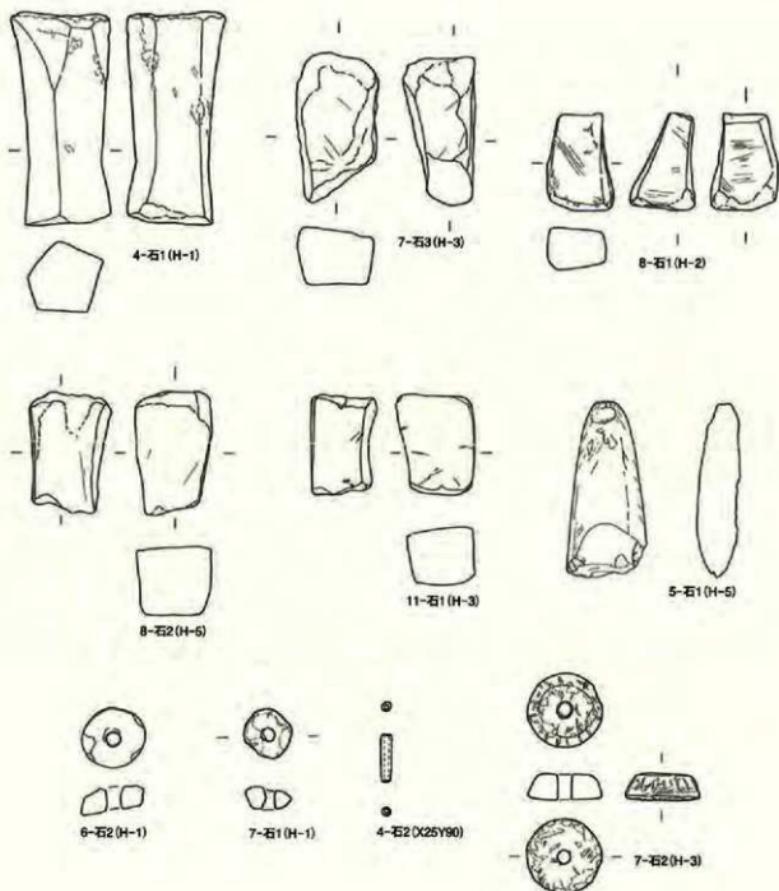


Fig.89 石製品(2)

0 1/3 10mm

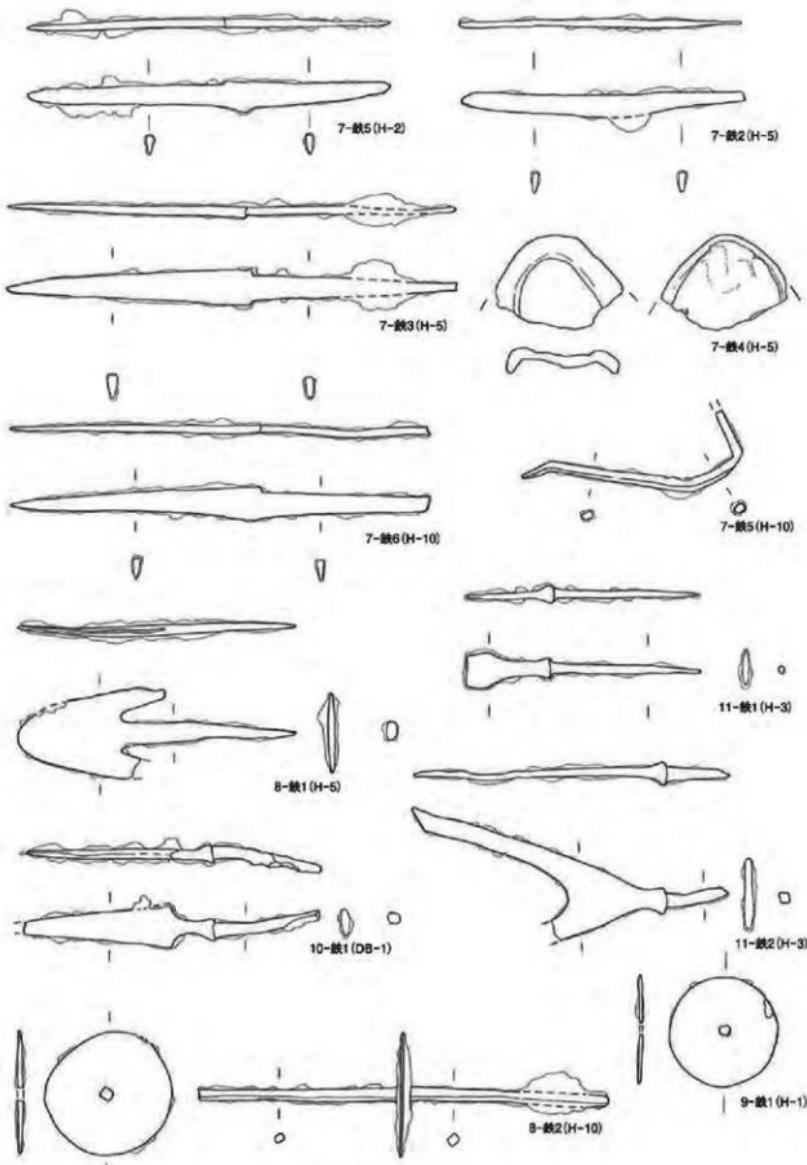


Fig.90 鉄 製 品 (1)

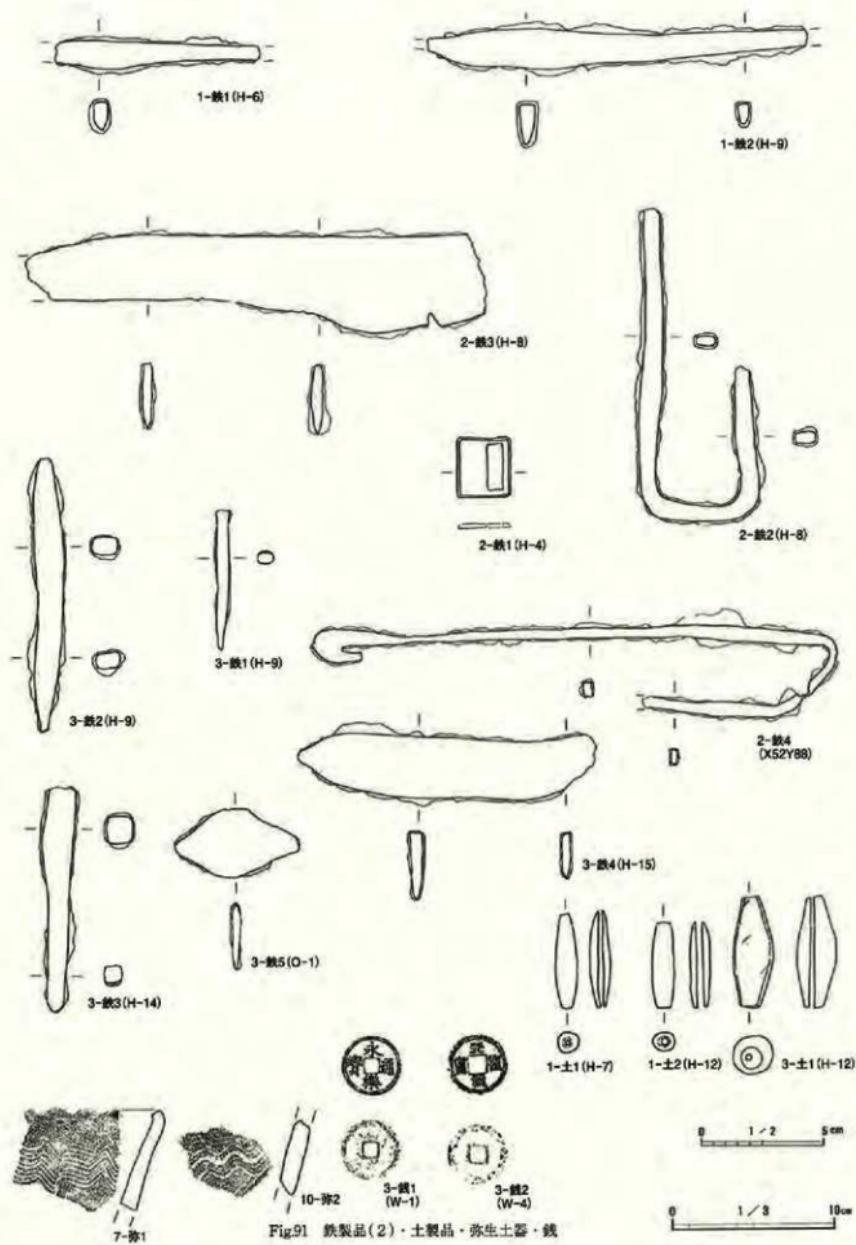
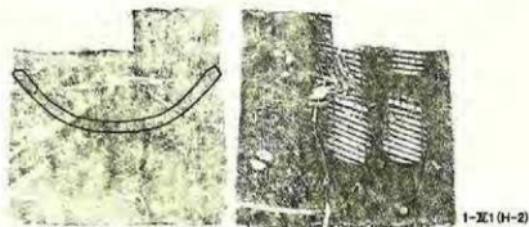
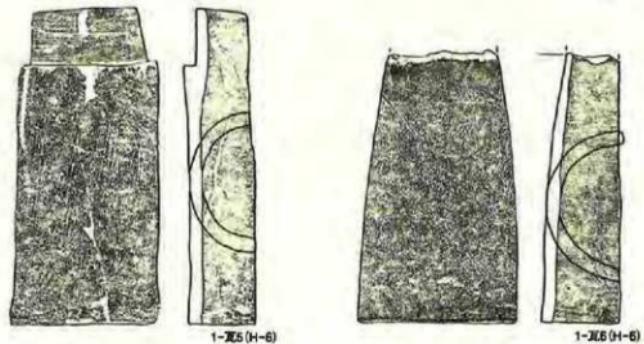
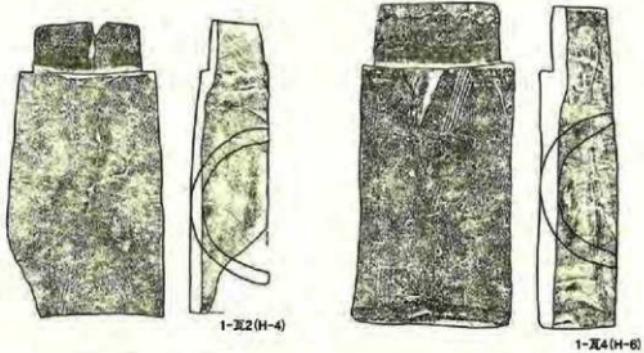
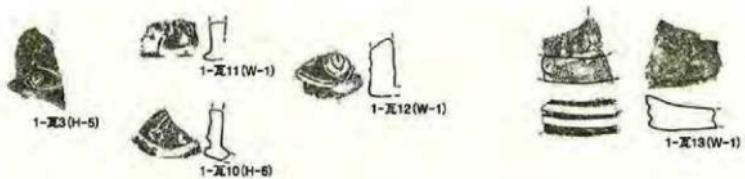


Fig. 91 鉄製品(2)・土製品・陶器



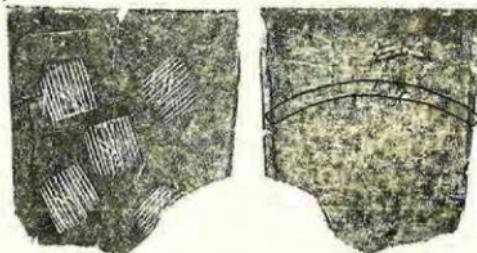
0 1 2 3 20cm

Fig.92 X (1)

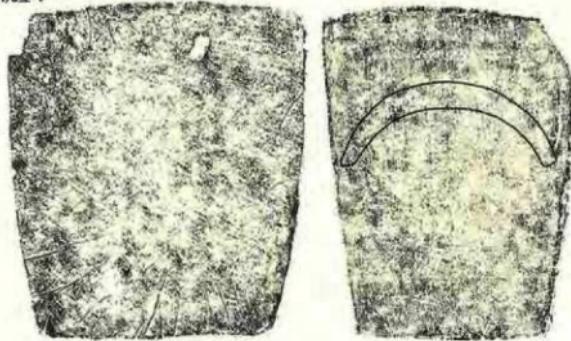
0 1 2 3 4 5 6
20cm

Fig. 93 H (2)

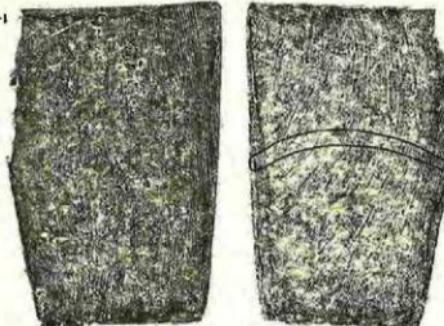
1-Kg(H-6)



1-Kg(H-6)



(S-H) 2-E-1



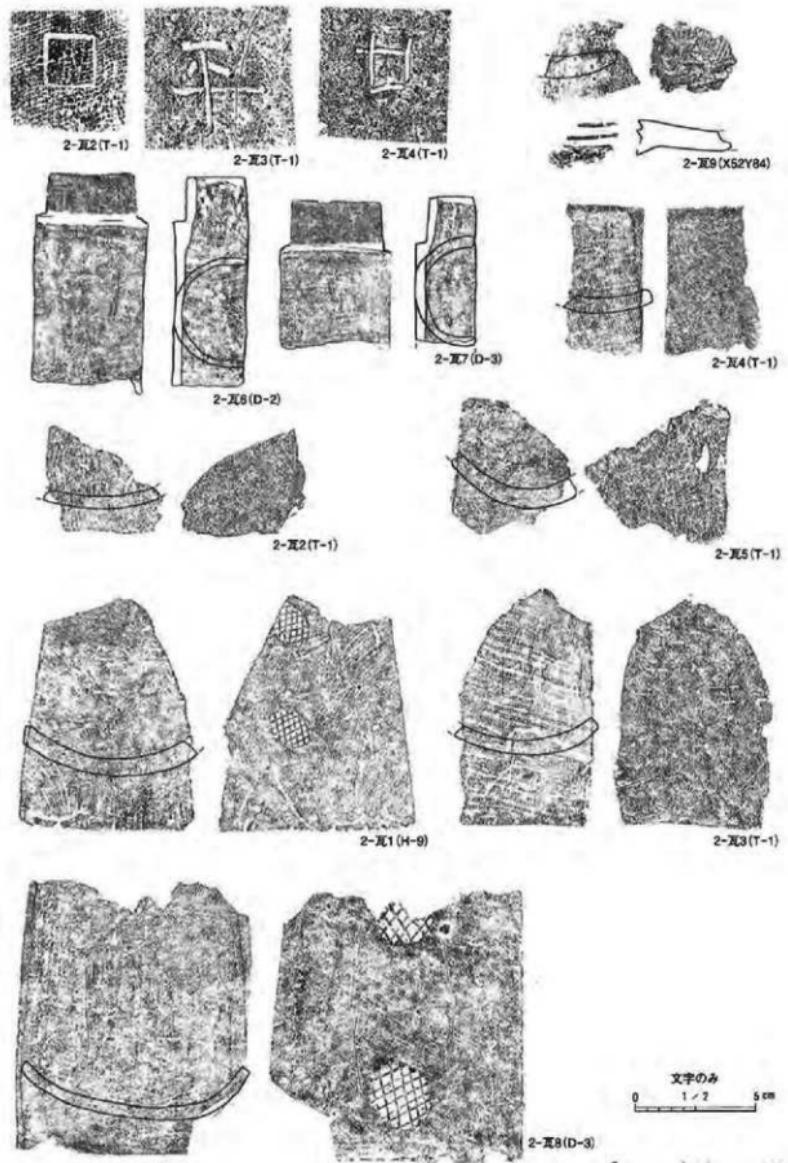


Fig.94 瓦 (3)

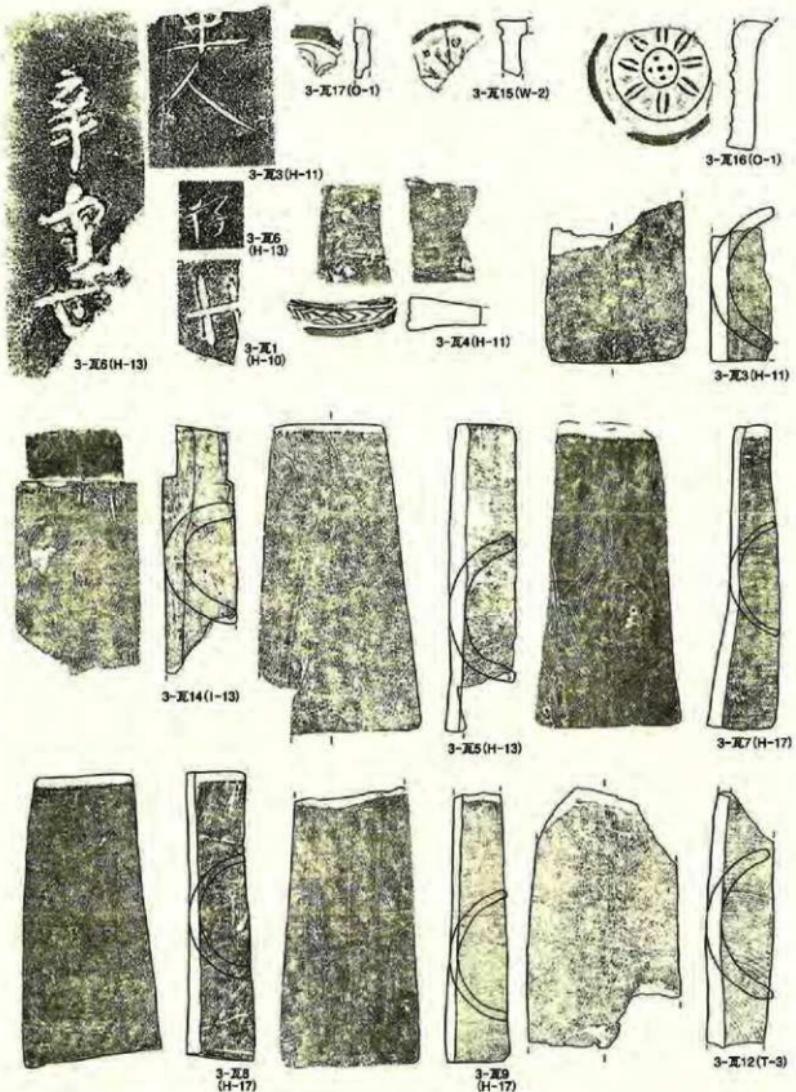


Fig.95 瓦 (4)

0 文字のみ 1~2 5 cm 0 1~6 20 cm

Fig. 96. 3c (5)



3-XI(H-10)



3-XI(H-17)



3-XI(H-17)



3-XI(H-13)



3-XI(H-10)

3-XI(3-T-3)



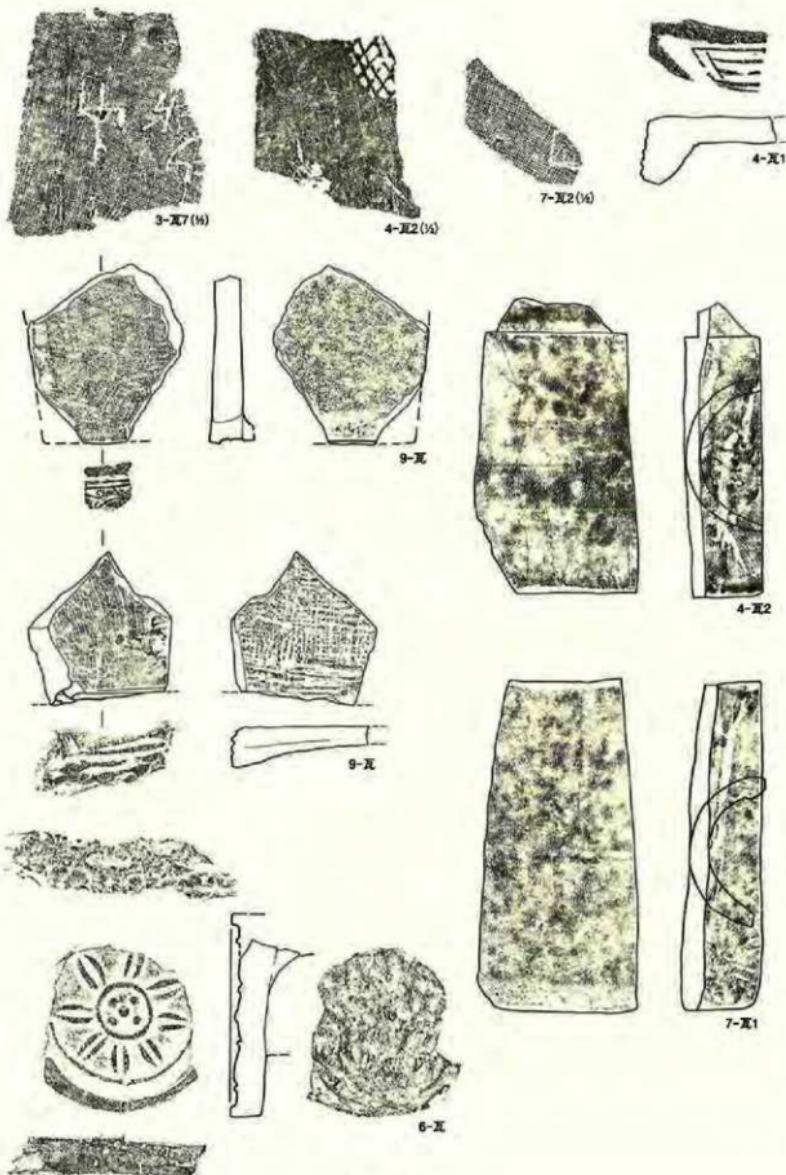
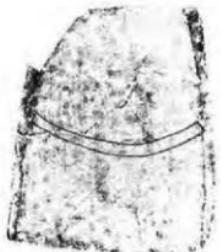


Fig.97 H (6)



108-Z1



108-Z2



108-Z3

Fig98 E (7)



1区 調査区全景（南から）



1区 H-1号住居跡全景(西から)



1区 H-2号住居跡 遺物出土状況（西から）



1区 H-2・3号住居跡全景（南から）



1区 H-2号住居跡全景（西から）



1区 H-4号住居跡全景（西から）



1区 H-4号住居竈全景（西から）



1区 H-5号住居跡全景（西から）



1区 H-5号住居竈全景（西から）



1区 H-6号住居跡瓦出土状況（南から）



1区 H-6号住居跡全景（西から）



1区 H-6号住居跡全景（西から）



1区 H-6号住居跡竈全景（西から）



1区 H-8・12号住居跡全景(全景)



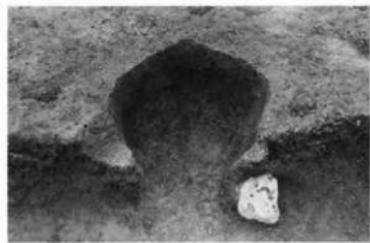
1区 H-8号住居跡(西から)



1区 H-9号住居跡遺物出土状況(西から)



1区 H-9号住居跡全景(西から)



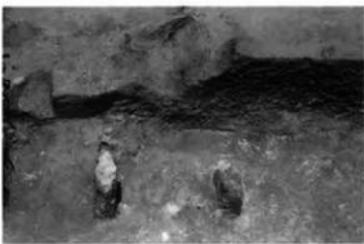
1区 H-9号住居跡全景(西から)



1区 H-10号住居跡全景(西から)



1区 H-11号住居跡全景(南から)



1区 H-11号住居跡全景(南から)



2区 H-1号住居跡全景（西から）



2区 H-2号住居跡遺物出土状況（西から）



2区 H-2号住居跡全景（西から）



2区 H-2号住居跡遺物出土状況（西から）



2区 H-3号住居跡全景（西から）



2区 H-3号住居跡遺物出土状況（西から）



2区 H-4号住居跡全景（西から）



2区 H-4号住居跡遺物出土状況（西から）



2区 H-6号住居跡全景（北から）



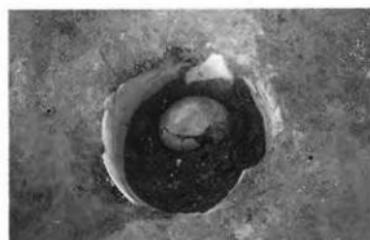
2区 H-9号住居跡出土状況（東から）



2区 H-9号住居跡、T-1号型穴状遺構出土状況（南から）



2区 H-9号住居跡、T-1号型穴状遺構出土状況（北から）



3区 H-1号住居跡埋設土器出土状況（南から）



3区 H-1号住居跡全景（西から）



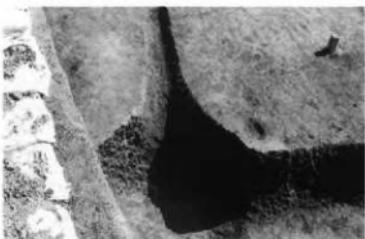
3区 H-2号住居跡全景（西から）



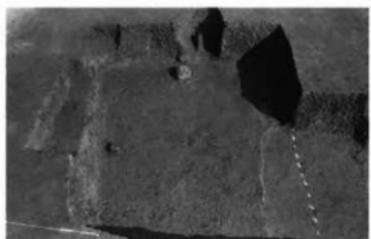
3区 H-2号住居跡全窓（西から）



3区 H-3号住居跡全景（西から）



3区 H-3号住居跡遺全景（西から）



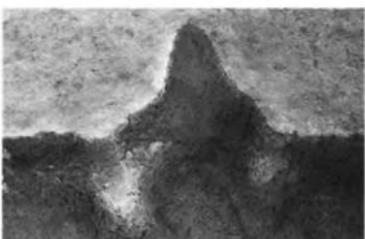
3区 H-5号住居跡全景（西から）



3区 H-5号住居跡遺全景（西から）



3区 H-6号住居跡全景（西から）



3区 H-6号住居跡遺全景（西から）



3区 H-7号住居跡全景（西から）



3区 H-7号住居跡遺全景（西から）



3区 H-8号住居跡全景(西から)



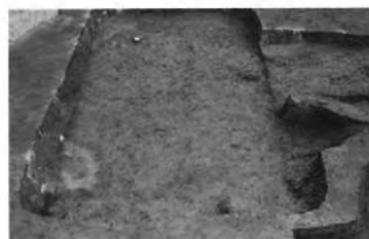
3区 H-8号住居跡跡全景(西から)



3区 H-9号住居跡全景(西から)



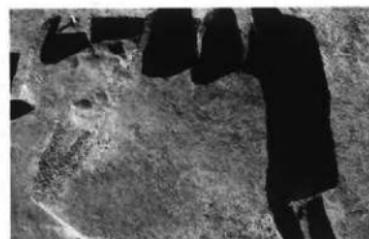
3区 H-9号住居跡跡全景(西から)



3区 H-9・10号住居跡全景(西から)



3区 H-10号住居跡跡全景(西から)



3区 H-11号住居跡跡全景(西から)



3区 H-11号住居跡跡全景(西から)



3区 H-12号住居跡全景(西から)



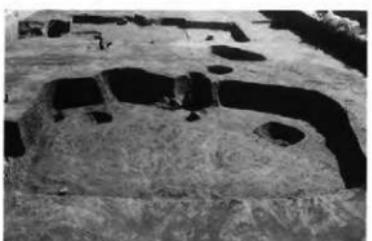
3区 H-12号住居跡全景(西から)



3区 H-13号住居跡遺物出土状況1(東から)



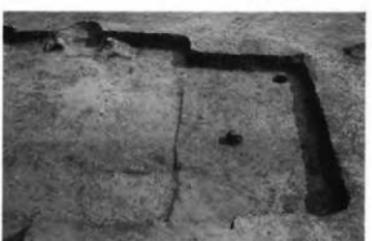
3区 H-13号住居跡全景(西から)



3区 H-14号住居跡全景(西から)



3区 H-14号住居跡全景(西から)



3区 H-15号住居跡全景(西から)



3区 DB-2号土坑墓全景(南から)



3区 T-3号竪穴状遺構遺物出土状況（南から）



3区 T-3号竪穴状遺構全景（西から）



3区 W-1号溝跡全景（北から）



3区 W-2号溝跡全景（北から）



3区 調査区中央部全景（北から）



3区 W - 5号溝跡全景（北から）



3区 I - 1井戸跡全景（北から）



3区 O - 1号落ち込み全景（南東から）



3区 O - 1号落ち込み全景（北西から）



3区 西調査区全景（南から）



3区 H-16号住居跡遺物出土状況（西から）



3区 H-16号住居跡全景（西から）



3区 H-16号住居跡遺物全景（西から）

3区 H-16号住居跡P₅遺物出土状況（南から）

3区 H-17号住居跡全景（南から）



3区 H-17号住居跡周辺遺物出土状況（西から）



3区 H-17号住居跡遺物全景（西から）

3区 H-17号住居跡P₅遺物出土状況（西から）



3区 H-18・20号住居跡全景（南から）



3区 H-20号住居跡周辺遺物出土状況（西から）



3区 H-19号住居跡全景（西から）



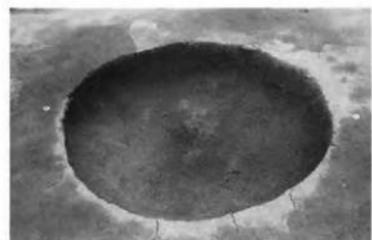
3区 H-21・22号住居跡全景（南から）



3区 H-23・24号住居跡全景（南から）



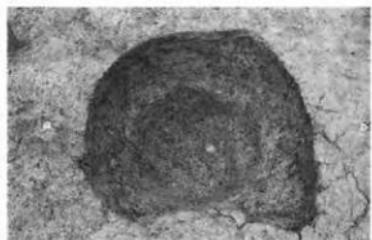
3区 T-4・5号堅穴状遺構全景（北から）



3区 D-4号土坑全景（南から）



3区 D-5号土坑全景（北から）



3区 D - 6号土坑全景（西から）



3区 D - 7号土坑全景（北から）



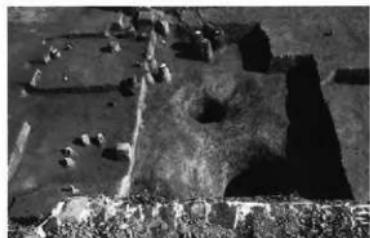
3区 D - 8号土坑全景（北から）



3区 DB - 3号土坑全景（北から）



4区 調査区全景（西から）



4区 H-1号住居跡遺物出土状況（西から）



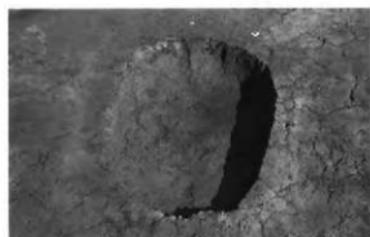
4区 H-2号住居跡全景（南から）



4区 H-2号住居跡全景(西から)



4区 H-3号住居跡、
D-4・5・6号土坑全景（南から）



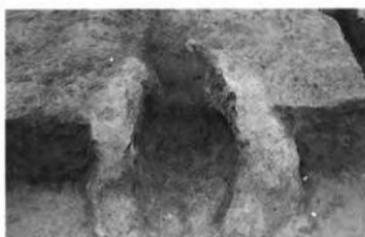
4区 D-1号土坑全景（西から）



4区 D-2・3号土坑全景（西から）



5区 H-1号住居跡全景(西から)



5区 H-1号住居跡全景（西から）



5区 調査区全景（南西から）



5区 H-2・4号住居跡、W-5号溝全景（北から）



5区 H-3号住居跡、D-1号土坑全景（北から）



5区 D-1号土坑遺物出土状況（北から）



5区 H-5号住居跡全景（南西から）



6区 全景（西から）



6区 H-1全景（南から）



6区 H-4全景（南から）



6区 T-2全景（南から）



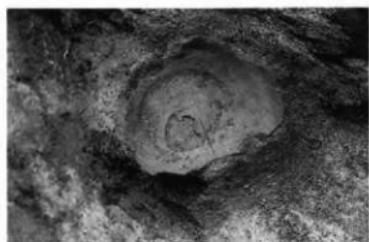
6区 T-1全景（南から）



6区 地下式土坑（東から）



6区 地下式土坑甃出土状況（北から）



6区 地下式土坑遺物出土状況（南から）



6区 W-1・W-2・W-3併走状況（東から）



6区 W-1・W-3全景（北から）



6区 W-2全景（南から）



6区 W-2石岸（東から）



6区 W-2調査状況



7区 調査区全景（西から）



7区 H-1号住居跡全景（西から）



7区 H-1号住居跡竈周辺遺物出土状況（西から）



7区 H-1号住居跡竈全景（西から）



7区 H-2・6・8号住居跡全景(東から)



7区 H-6号住居跡出土状況（北から）



7区 H-3・7・9・11号住居跡全景（東から）



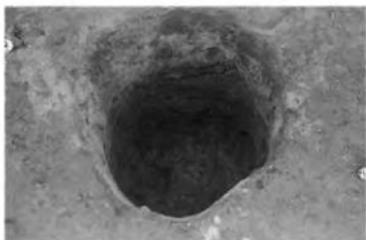
7区 H-4号住居跡全景（西から）



7区 H-5・10号住居跡全景（西から）



7区 H-5号住居跡全景（西から）

7区 H-5号住居跡P₁遺物出土状況（北から）7区 H-5号住居跡P₁遺物出土状況近影（北から）

7区 H-5号住居跡緑釉陶器出土状況（南から）



7区 H-12号住居跡全景（西から）



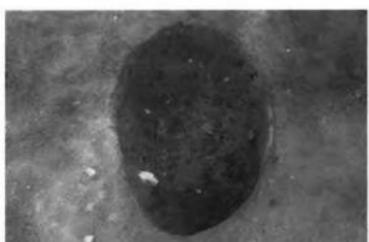
7区 H-12号住居跡全景（西から）



7区 H-12号住居跡竪道部石組み（西から）



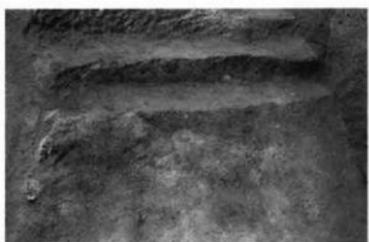
7区 H-12号住居跡竪道部設置堀断面（南から）



7区 D-1号土坑全景（南から）



7区 W-1号溝跡全景（東から）



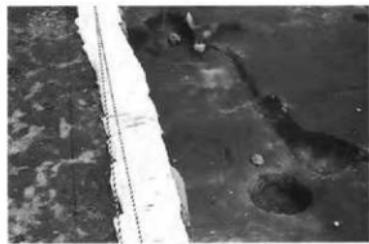
7区 W-1号溝跡階状部分全景（東から）



7区 I-1号井戸跡全景（東から）



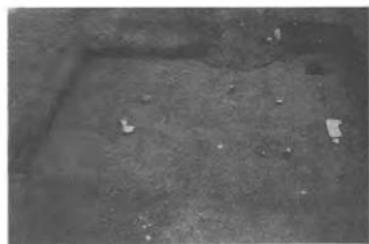
8区 調査区全景（西から）



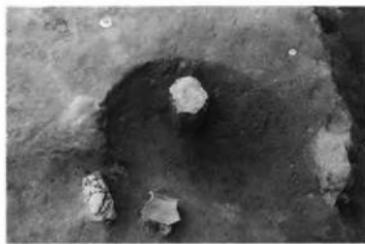
8区 H-2号住居跡全景（西から）



7区 H-1号住居跡竪全景（西から）



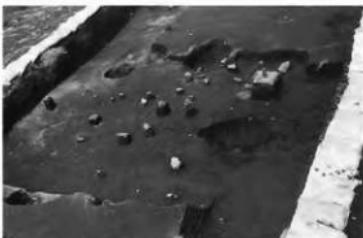
8区 H-3号住居跡全景（南東から）



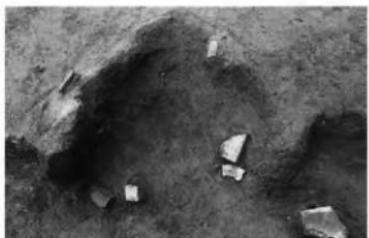
8区 H-3号住居跡竪全景（西から）



8区 H-4号住居跡全景（北から）



8区 H-5・10号住居跡全景（南西から）



8区 H-5号住居跡全景（西から）



8区 H-10号住居跡鐵製錘車出土状況（西から）



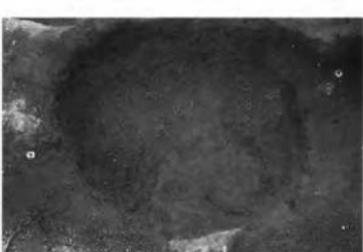
8区 H-6・7号住居跡、
T-1号竪穴状遺構全景（西から）



8区 H-7号住居跡全景（西から）



8区 O-1号落ち込み全景（南から）



8区 P-1号ピット全景（東から）



9区 全景（南から）



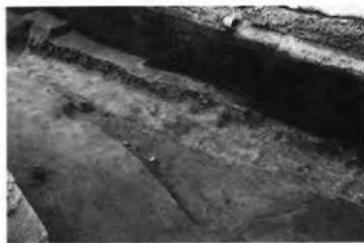
9区 R-1・R-2全景（南から）



9区 H-1全景（北から）



9区 W-1・H-2号全景（南から）



9区 H-3全景（南東から）



9区 W-1全景（南から）



9区 W-1遺物出土状況（西から）



10A・B区 調査区全景（東から）



10B区 H-1号住居跡全景（西から）



10B区 H-1号住居跡遺全景（西から）



10B区 H-2号住居跡全景（西から）



10B区 H-3号住居跡
竈周辺遺物出土状況全景（西から）



10B 区 H - 2号住居跡遺全景（西から）



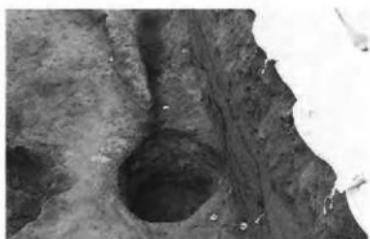
10B 区 H - 3号住居跡全景（西から）



10B 区 H - 3号住居跡遺全景（西から）



10B 区 H - 4号住居跡全景（西から）



10B 区 H - 4号住居跡遺全景（西から）



10B 区 H - 5・10号住居跡全景（西から）



10B 区 H - 10号住居跡遺物出土状況（西から）



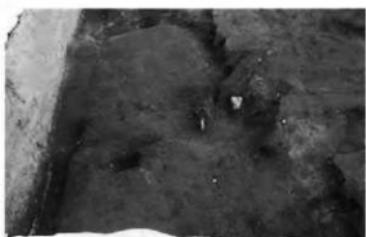
10B 区 H - 6・8号住居跡全景（南から）



10B 区 H - 8 号住居跡遺物出土状況（北西から）



10B 区 H - 8 号住居跡遺物全景（北西から）



10B 区 H - 7・9 号住居跡全景（西から）



10B 区 DB - 1 号土坑墓全景（北から）



10B 区 DB - 1 号土坑墓遺物出土状況（東から）



10B 区 DB - 1 号土坑墓壺出土状況（南から）



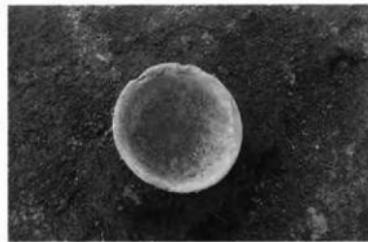
11 区 H - 1 号住居跡全景（北から）



11 区 H - 2 号住居跡全景（西から）



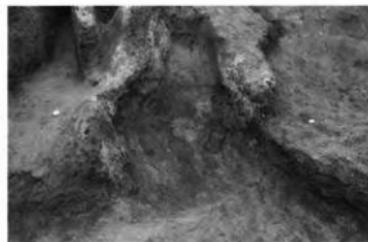
11区 調査区全景（北から）



11区 H-2号住居跡遺物出土状況（東から）



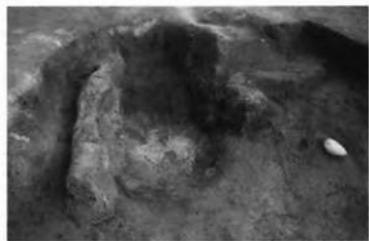
11区 H-3号住居跡全景（西から）



11区 H-3号住居跡遺物出土状況（北西から）



11区 H-4・5号住居跡全景（北西から）



11区 H-4・5号住居跡竈全景（北西から）



11区 H-6・7号住居跡全景（北から）



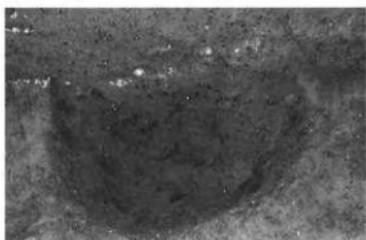
11区 H-7号住居跡竈周辺遺物出土状況（北西から）



11区 H-7号住居跡竈全景（北西から）



11区 H-7号住居跡竈火道部設置部近影（北西から）



11区 D-1号土坑全景（東から）



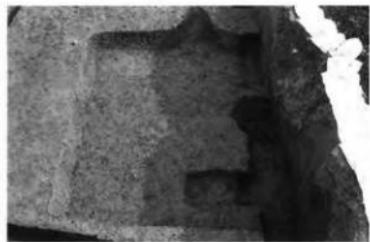
11区 D-2号土坑全景（北から）



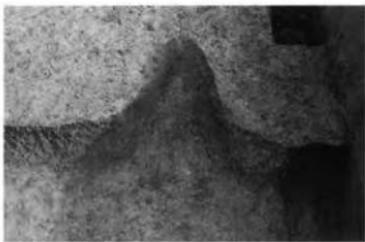
11区 I-1号井戸跡全景（東から）



13区 調査区全景（西から）



13区 H-1号住居跡全景（西から）



13区 H-1号住居跡窓全景(西から)



蒼海城の土壘として考えられていた盛土（東から）



蒼海城の土壘として考えられていた盛土（南西から）



1-2



1-7



1-8



1-3



1-1



1-4



1-5



1-6



1-9



1-12



1-13



1-14



1-15



1-18



1-19



1-20



1-10



PL.32







3-8



3-18



3-26



3-27



3-30



3-32



3-33



3-34



3-35



3-45



3-36



3-47



3-52



3-44



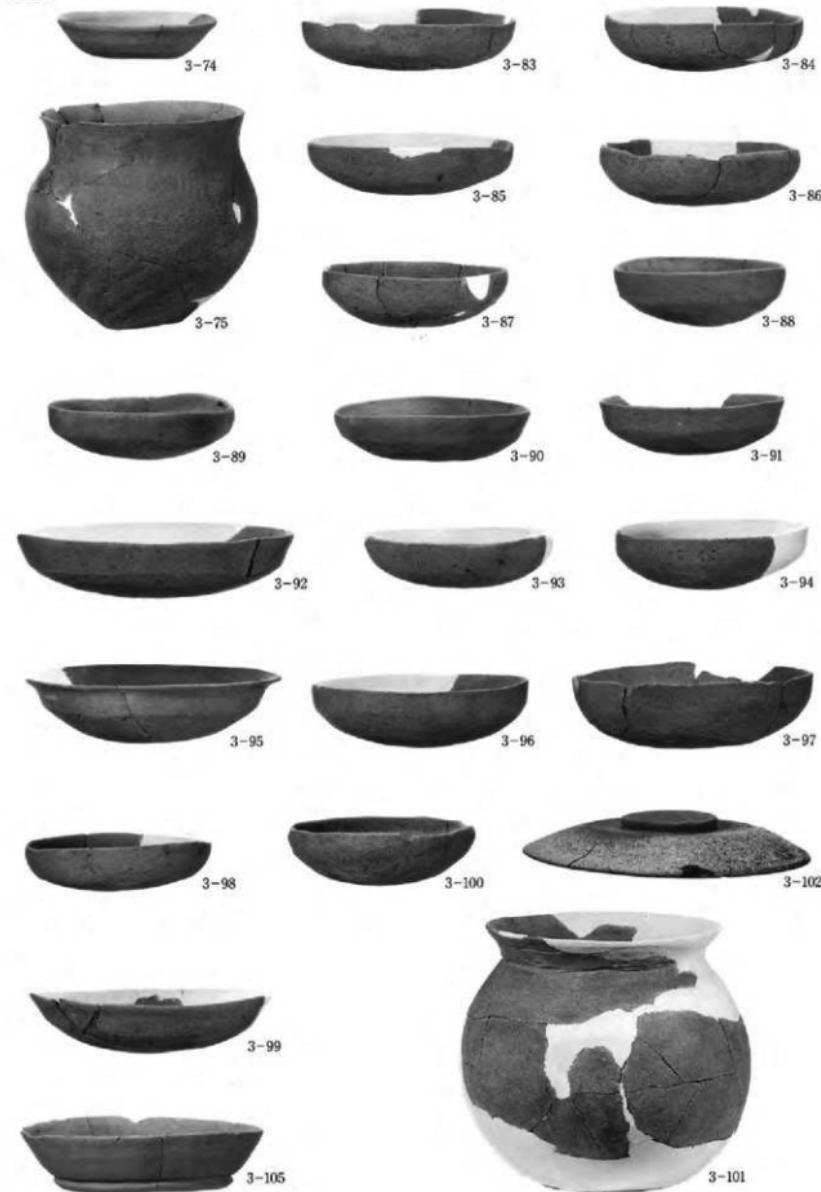
3-43

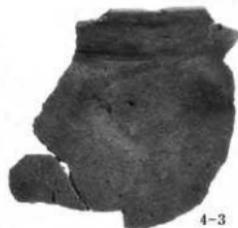


3-68

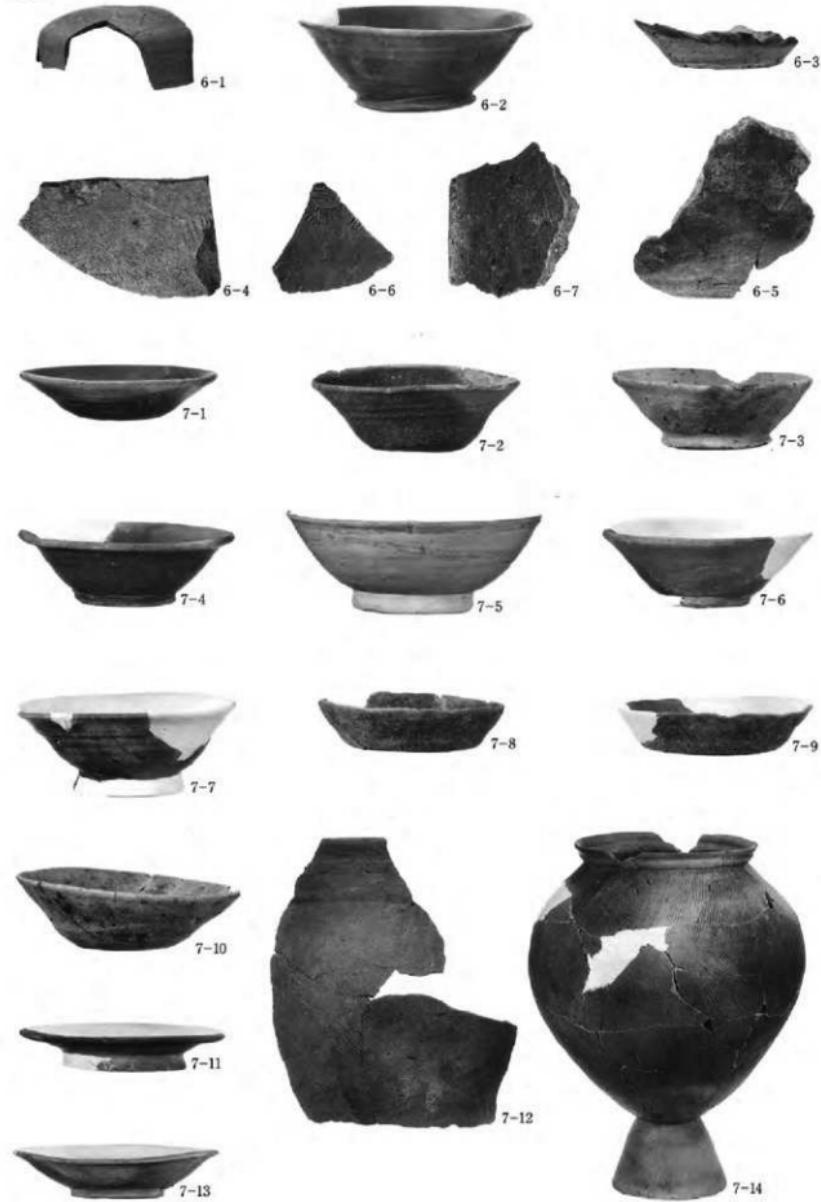


PL.36





PL.38





7-21



8-9



8-10



7-22



8-3



8-11



8-12



8-6



7-26



7-23



7-24



7-25



7-28



7-29



7-30



7-27



7-31



7-32

PL.40



8-1



8-3



8-2



8-4



8-5



8-6



8-7



8-8



8-9



8-10



8-11



8-12



8-13



9-3



9-2



9-1



10B-1



10B-2



10B-3



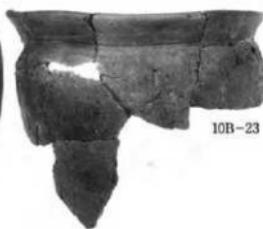
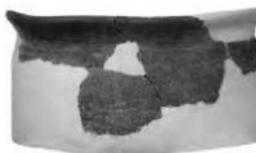
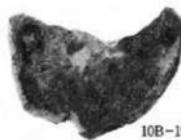
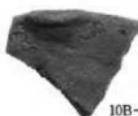
10B-4



10B-5



10B-6



PL.42



10B-25



10B-26



10B-27



10B-28



10B-29



10B-31



11-1



11-2



11-3



11-4



11-5



11-6



11-7



11-8



11-9



11-10



11-11



11-13



11-12



PL.44



6-KL1



6-KL1



9-KL1



9-KL1



1-KL2



1-KL2



1-K4



1-K4



1-K5



1-K5



1-K6



1-K6

PL.46



1-JL7



1-JL7



1-JL9



1-JL9



3-JL7



3-JL7



3-JL8



3-JL8



3-JL9



3-JL9



3-JL10



3-JL10

PL.48



3-K11



3-K11



4-K2



4-K2



7-K1



7-K1



10B-JL1



10B-JL1



10B-JL2



10B-JL2



10B-JL3



10B-JL3



繩文土器



石製品(1)



石製品(2)・土製品・鉄製品

抄
録

フリガナ	モトソウジャオウミイセキグン(26)
書名	元總社蒼海遺跡群(26)
調書名	前橋都市計画事業元總社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	山下歳信・阿久澤真一・並木勝洋・福田貴之・清水亮介
編集機関	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
編集機関所在地	〒371-0018 群馬県前橋市三俣町二丁目10-2
発行年月日	西暦2010年3月19日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		位置(日本測地系)		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
モトソウジャオウミイセキグン 元總社蒼海遺跡群 (26)	前橋市元總社町 1802-1ほか	10201	21A130 -26	36° 23' 27"	139° 01' 53"	20090518 ~ 20091225	約4,058m ²	前橋都市計画 事業元總社蒼 海土地区画整 理事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
元總社蒼海遺跡群(26)	集落跡	古墳時代 奈良・平安時代 中世	竪穴住居跡9軒 竪穴住居跡90軒、竪穴状造 構9軒、溝跡16条、土坑38基 溝跡2条、土壤窓3基	土師器、須恵器、他 土師器、須恵器、鉄製品、石製品、瓦 鉄製品、石製品	

元総社蒼海遺跡群 (26)

2010年3月14日 印刷
2010年3月19日 発行

編集発行 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
前橋市三俣町二丁目10-2
TEL 027-231-9531
印刷所 上海印刷工業株式会社
